

東大阪市
男女共同参画に関する市民意識調査
<結果報告書>

平成 26 年（2014 年） 9 月

東 大 阪 市

は じ め に

本市では社会を構成するすべての人々が性別に関係なく対等な一員として認め合い、仕事、家庭、地域など、あらゆる分野において平等に参画する機会を有し、喜びも責任もわかちあう男女共同参画社会の実現をめざして、平成 23 年に「第 3 次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい ^{はばたき} 翔 プラン～」を策定しました。

この計画は本市の男女共同参画政策の指針を示すものであり、平成 23 年度を初年度として、計画の期間を 10 年間、目標年度を平成 32 年度としています。長期計画であるプランの実行性を保ち、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくため、この度プランの見直しを行うこととし、その基礎資料とするため、市民意識調査を実施いたしました。

今回の調査から見えてきた本市の特性や市民ニーズ、新たな課題を考慮し、市民の皆様の声を十分に反映したより効果的な計画となるよう努めてまいります。

結びに、本調査にご協力していただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年（2014 年）9 月

東大阪市長 野 田 義 和

目 次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査概要	2
3. 報告書の見方	3
4. 標本誤差	4
5. 回答者の属性	5
6. 主な調査結果	15
II 調査結果	19
1. 仕事について	20
2. 日常生活や子育てについて	51
3. 男女の地位に関する意識について	71
4. 地域活動や健康、老後の暮らしについて	82
5. 人権の尊重について	104
6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について	113
III 調査結果からみえてくるもの	119
1. 男女共同参画に向けた意識形成	120
2. 男女が共に活躍できる環境づくり	120
3. 男女が共に自立し、安心して暮らせる生活支援	124
4. あらゆる暴力の根絶	125
IV 自由意見のまとめ	127
V 調査票	133

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画社会に関する意識と実態を知ることにより、「第3次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい ^{はばたき} 翔 プラン～」の見直しに関して、社会情勢の変化に対応し地域に根差したものになるよう基礎資料を得ることを目的として実施します。

2. 調査概要

- ・調査地域：東大阪市全域
- ・調査対象：市内在住の満18歳以上の男女
- ・抽出数：3,000人（男性1,500人、女性1,500人）
- ・抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- ・調査期間：平成26年6月16日（月）～7月7日（月）
- ・調査方法：郵送配布・回収
- ・調査項目：1. 回答者について
2. 仕事について
3. 日常生活や子育てについて
4. 男女の地位に関する意識について
5. 地域活動や健康、老後の暮らしについて
6. 人権の尊重について
7. 男女共同参画社会の形成に関する意識について
その他

・回収状況

	全体	女性	男性	その他	不明・無回答
標本数	3,000	1,500	1,500	—	—
有効回収数	1,117	645	459	1	12
有効回収率	37.2%	43.0%	30.6%	—	—

3. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効回収数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「不明・無回答」とは、回答が示されていない、または、回答の判別が困難なものです。
- グラフ及び表のN数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- 「前回調査」は「東大阪市男女共同参画に関する意識調査報告書」（平成22年3月）を資料としています。

4. 標本誤差

本調査では、18 歳以上の市民の皆さんから調査対象を抽出するという標本調査の方法を用いています。そのため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じる場合があります。95%の確率で標本誤差を求めるには下記の式で求められます。

$$E = 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

E：標本誤差

N：母集団の大きさ（全体：422,049 女性：217,561 男性：204,488）

※H26年6月末現在の18歳以上人口

n：標本の大きさ（全体：1,117 女性：645 男性：459）

P：回答の比率

表により、女性の回答者 645 人の場合、例えばある設問について、その設問の「A」という選択肢を回答した人の割合が70%であったとき、標本誤差は±3.5%となります。その結果、東大阪市在住の18歳以上の女性全体で「A」という選択肢を回答する人の割合は66.5%（70%－3.5%）～73.5%（70%＋3.5%）であると推定することができます。ただし、信頼度は95%であるため、その推定が誤りである確率は5%です。

なお、n（回答者数）が極端に少ない場合は、その集計結果は参考までにとどめ、分析は行わないものとします。

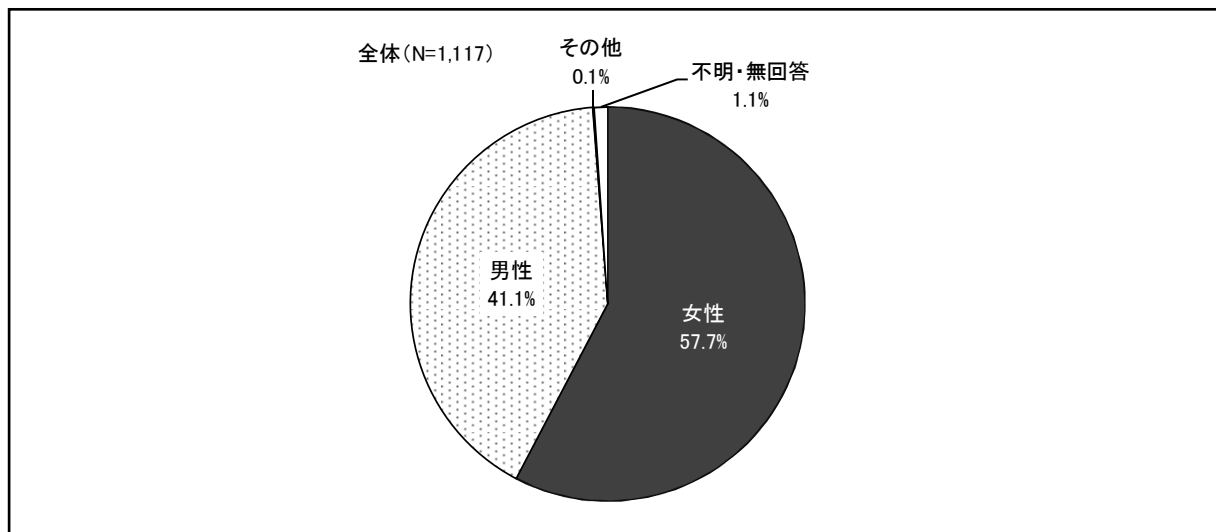
主要な標本における比率の標本誤差 E（信頼度 95%レベル）

	n数	P(%)									
		5.0% または 95.0%	10.0% または 90.0%	15.0% または 85.0%	20.0% または 80.0%	25.0% または 75.0%	30.0% または 70.0%	35.0% または 65.0%	40.0% または 60.0%	45.0% または 55.0%	50.0% または 50.0%
全 体	1,117	±1.3	±1.8	±2.1	±2.3	±2.5	±2.7	±2.8	±2.9	±2.9	±2.9
女 性	645	±1.7	±2.3	±2.8	±3.1	±3.3	±3.5	±3.7	±3.8	±3.8	±3.9
男 性	459	±2.0	±2.7	±3.3	±3.7	±4.0	±4.2	±4.4	±4.5	±4.5	±4.6

5. 回答者の属性

問1 あなたの性別は。(○は1つ)

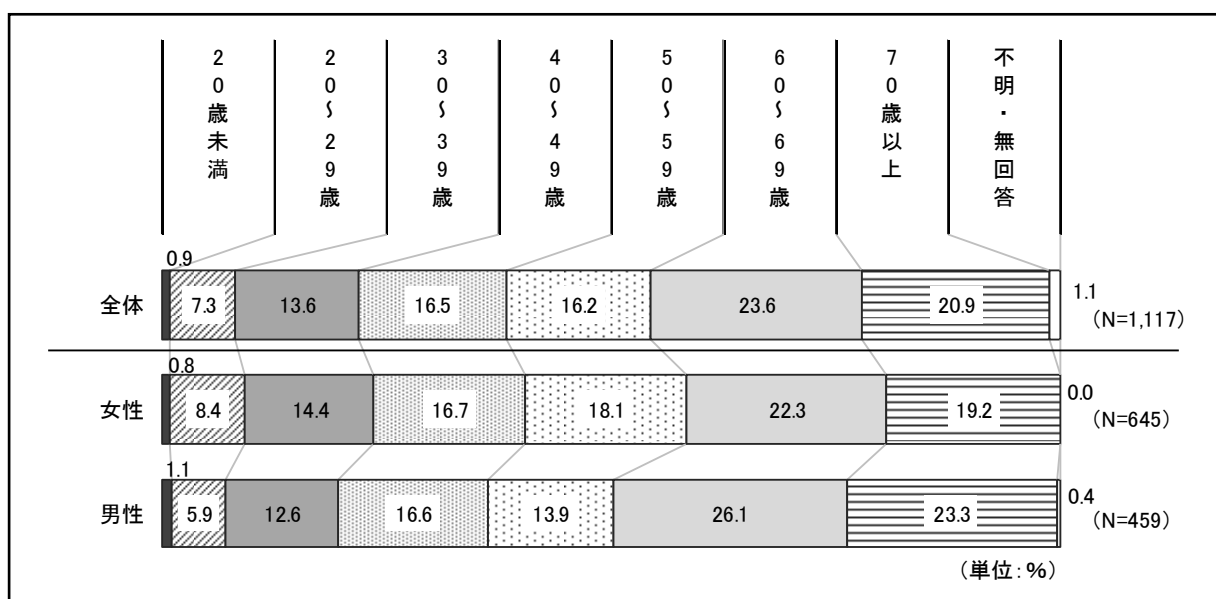
「女性」は57.7%、「男性」は41.1%と、女性の方が16.6%高くなっています。



問2 あなたの年齢は。(○は1つ)

全体では、「60～69 歳」が最も高く、次いで「70 歳以上」が高くなっており、この二つの世代で4割以上となっています。

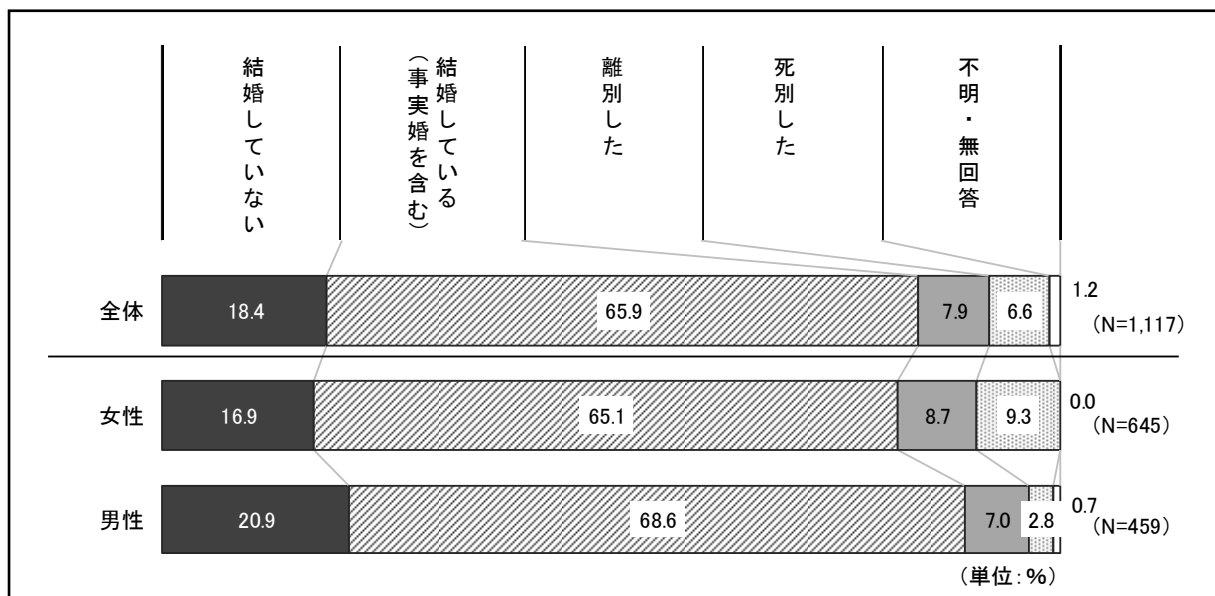
男女別にみると、同様の傾向となっていますが、男性の方が60 歳以上の世代の比率がやや高くなっています。



問3 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。（○は1つ）

全体では、「結婚している（事実婚を含む）」が65.9%、「結婚していない」が18.4%、「離別した」が7.9%、「死別した」が6.6%となっています。

性別・年齢別にみると、男女とも30歳未満では「結婚していない」の占める割合が高く、69歳以下の年代で、女性より男性の未婚率が高くなっています。また、女性の70歳以上で「死別した」が高くなっています。



性別・年齢別

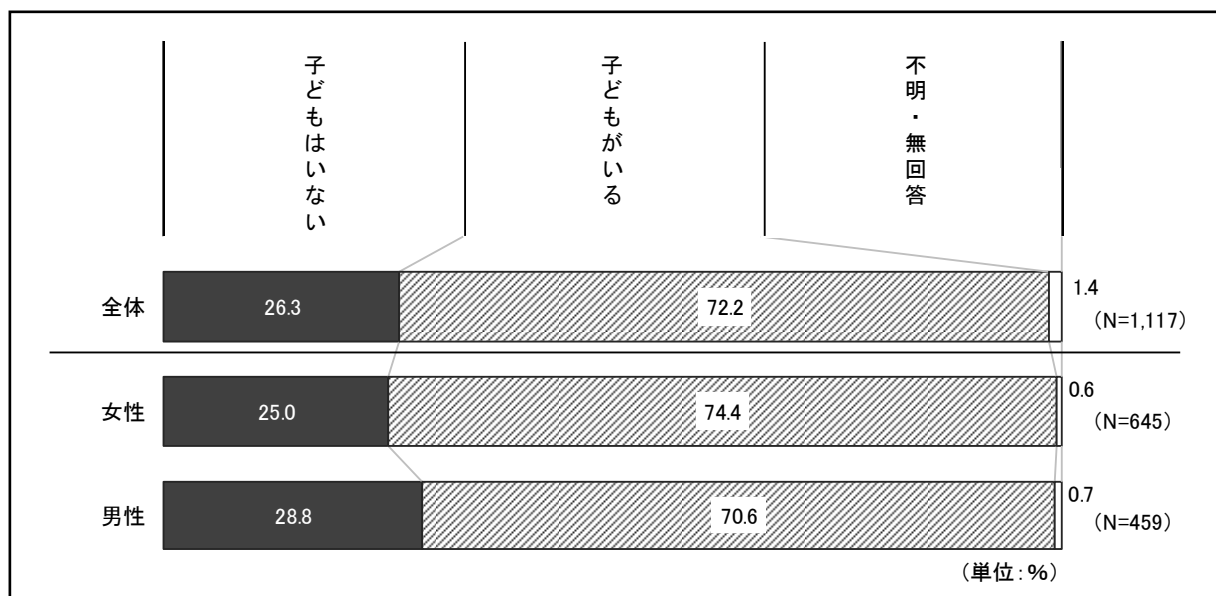
		対象者数 (人)	結婚 してい ない	結 婚 してい る (事 実 婚 を含 む)	離 別 し た	死 別 し た	不 明 ・ 無 回 答
女性	30歳未満	59	74.6	25.4	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	93	24.7	71.0	4.3	0.0	0.0
	40～49歳	108	13.9	73.1	12.0	0.9	0.0
	50～59歳	117	6.0	79.5	11.1	3.4	0.0
	60～69歳	144	6.3	71.5	12.5	9.7	0.0
	70歳以上	124	8.9	51.6	6.5	33.1	0.0
男性	30歳未満	32	84.4	12.5	3.1	0.0	0.0
	30～39歳	58	39.7	56.9	3.4	0.0	0.0
	40～49歳	76	30.3	65.8	3.9	0.0	0.0
	50～59歳	64	15.6	76.6	6.3	1.6	0.0
	60～69歳	120	8.3	74.2	14.2	3.3	0.0
	70歳以上	107	2.8	84.1	4.7	7.5	0.9

(単位: %)

問4 あなたは、お子さんがいますか。(〇は1つ)

全体では、「子どもがいる」が72.2%となっており、女性の方がやや割合が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女とも年代が上がるほど「子どもがいる」割合が高くなる傾向にあります。



性別・年齢別

		対象者数 (人)	子ども はいない	子ども がいる	不明・ 無回答
女性	30歳未満	59	83.1	16.9	0.0
	30～39歳	93	37.6	61.3	1.1
	40～49歳	108	24.1	75.9	0.0
	50～59歳	117	17.1	82.9	0.0
	60～69歳	144	10.4	88.9	0.7
	70歳以上	124	12.9	85.5	1.6
男性	30歳未満	32	93.8	6.3	0.0
	30～39歳	58	51.7	46.6	1.7
	40～49歳	76	39.5	60.5	0.0
	50～59歳	64	25.0	75.0	0.0
	60～69歳	120	15.0	85.0	0.0
	70歳以上	107	7.5	92.5	0.0

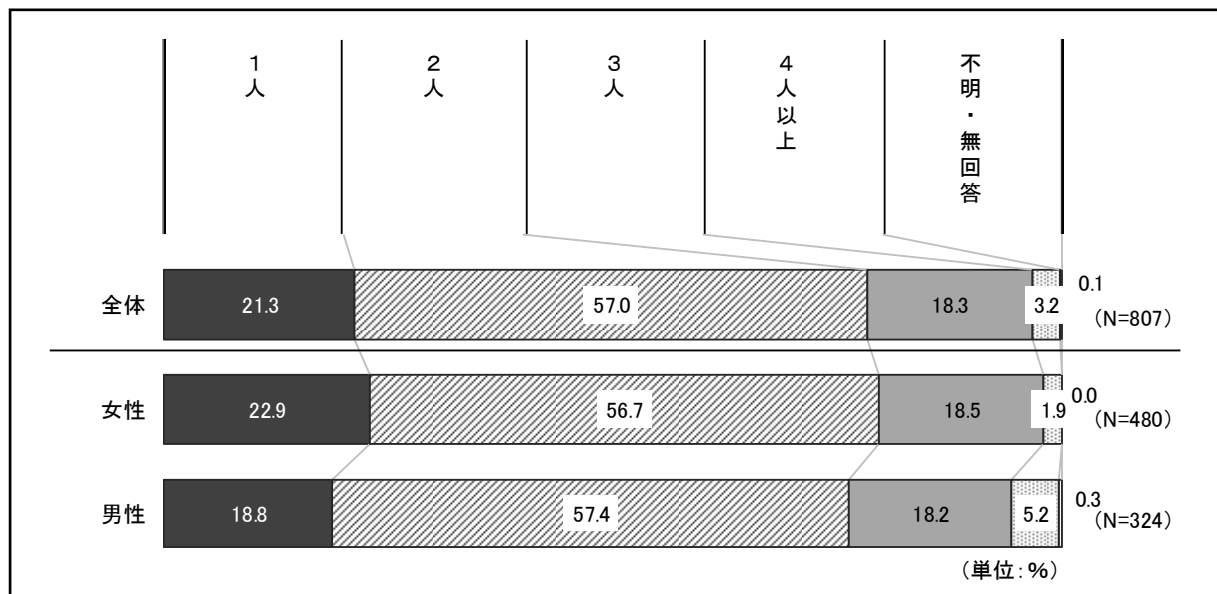
(単位: %)

問4で「子どもがいる」と回答された方

問4-1 何人の子どものがいますか。(〇は1つ)

全体では、「2人」が57.0%となっており、3人以上の多子家庭は21.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男女とも30歳未満では「1人」が最も高く、30歳以上では「2人」が最も高くなっています。



性別・年齢別

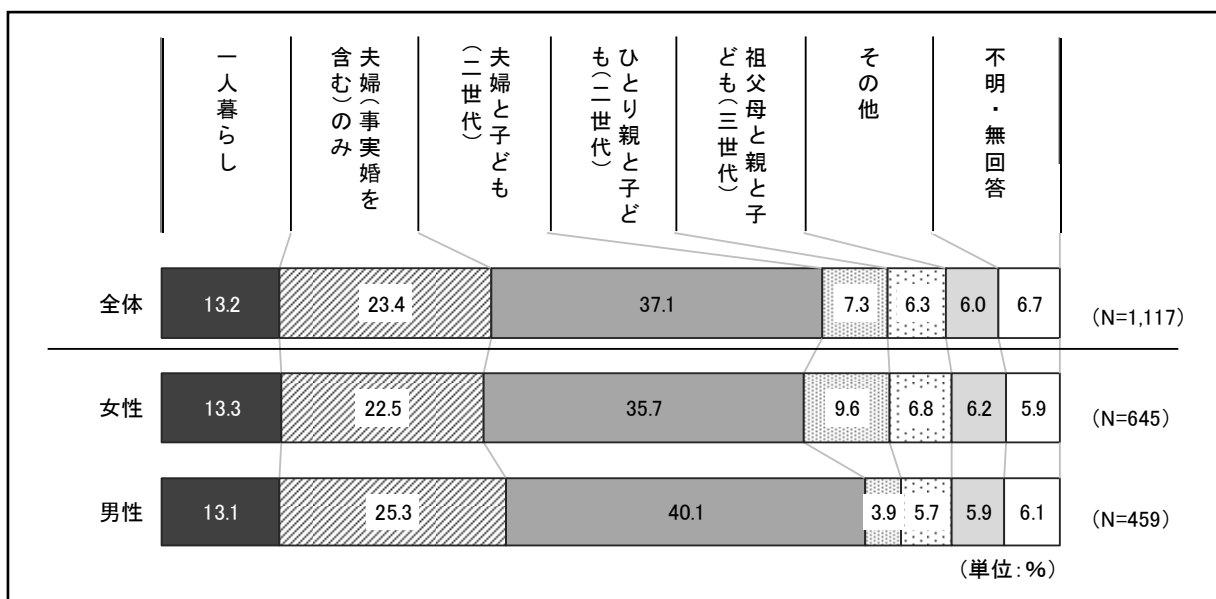
		対象者数(人)	1人	2人	3人	4人以上	不明・無回答
女性	30歳未満	10	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	57	40.4	52.6	7.0	0.0	0.0
	40～49歳	82	24.4	50.0	22.0	3.7	0.0
	50～59歳	97	20.6	54.6	22.7	2.1	0.0
	60～69歳	128	17.2	66.4	15.6	0.8	0.0
	70歳以上	106	17.0	56.6	23.6	2.8	0.0
男性	30歳未満	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	27	37.0	51.9	11.1	0.0	0.0
	40～49歳	46	28.3	60.9	8.7	2.2	0.0
	50～59歳	48	8.3	56.3	20.8	12.5	2.1
	60～69歳	102	19.6	52.9	22.5	4.9	0.0
	70歳以上	99	12.1	63.6	19.2	5.1	0.0

(単位: %)

問5 あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「夫婦と子ども(二世帯)」が37.1%と最も高く、次いで「夫婦(事実婚を含む)のみ」、「一人暮らし」が続いており、男女別にみると、女性の方が「ひとり親と子ども(二世帯)」が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに60歳未満では「夫婦と子ども(二世帯)」が4割前半から5割後半と高くなっていますが、60歳以上では「夫婦(事実婚を含む)のみ」が増加しており、年代が上がるほど世帯規模が縮小する傾向にあります。また、女性では70歳以上で「一人暮らし」が32.3%と男性に比べて高くなっています。



性別・年齢別

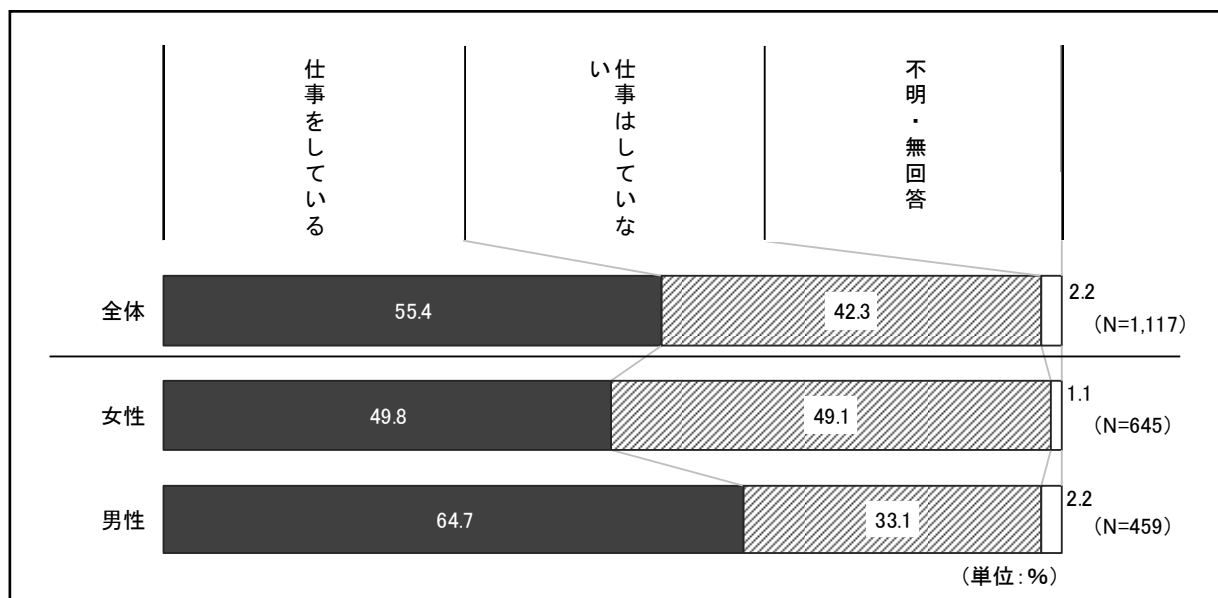
		対象者数(人)	一人暮らし	夫婦(事実婚を含む)のみ	夫婦と子ども(二世帯)	ひとり親と子ども(二世帯)	祖父母と親と子ども(三世帯)	その他	不明・無回答
女性	30歳未満	59	10.2	3.4	42.4	8.5	8.5	5.1	22.0
	30～39歳	93	7.5	10.8	52.7	5.4	7.5	5.4	10.8
	40～49歳	108	2.8	8.3	50.9	13.0	15.7	6.5	2.8
	50～59歳	117	6.0	17.9	45.3	10.3	10.3	6.8	3.4
	60～69歳	144	16.0	37.5	24.3	11.8	0.7	6.3	3.5
	70歳以上	124	32.3	39.5	10.5	7.3	1.6	6.5	2.4
男性	30歳未満	32	3.1	6.3	46.9	6.3	9.4	3.1	25.0
	30～39歳	58	17.2	10.3	44.8	0.0	3.4	13.8	10.3
	40～49歳	76	10.5	7.9	56.6	6.6	6.6	6.6	5.3
	50～59歳	64	10.9	14.1	54.7	6.3	6.3	4.7	3.1
	60～69歳	120	16.7	32.5	29.2	5.0	7.5	6.7	2.5
	70歳以上	107	13.1	50.5	28.0	0.9	2.8	1.9	2.8

(単位: %)

問6 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(○は1つ)

全体では、「仕事をしている」が55.4%、「仕事はしていない」が42.3%となっており、男性の方が女性より「仕事をしている」割合が14.9ポイント高くなっています。

性別・年齢別にみると、すべての年代で女性より男性の就労率が高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数 (人)	仕事をしている	仕事はしていない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	67.8	30.5	1.7
	30～39歳	93	69.9	28.0	2.2
	40～49歳	108	73.1	26.9	0.0
	50～59歳	117	63.2	36.8	0.0
	60～69歳	144	34.7	64.6	0.7
	70歳以上	124	10.5	87.1	2.4
男性	30歳未満	32	71.9	25.0	3.1
	30～39歳	58	89.7	3.4	6.9
	40～49歳	76	92.1	6.6	1.3
	50～59歳	64	89.1	9.4	1.6
	60～69歳	120	56.7	42.5	0.8
	70歳以上	107	25.2	73.8	0.9

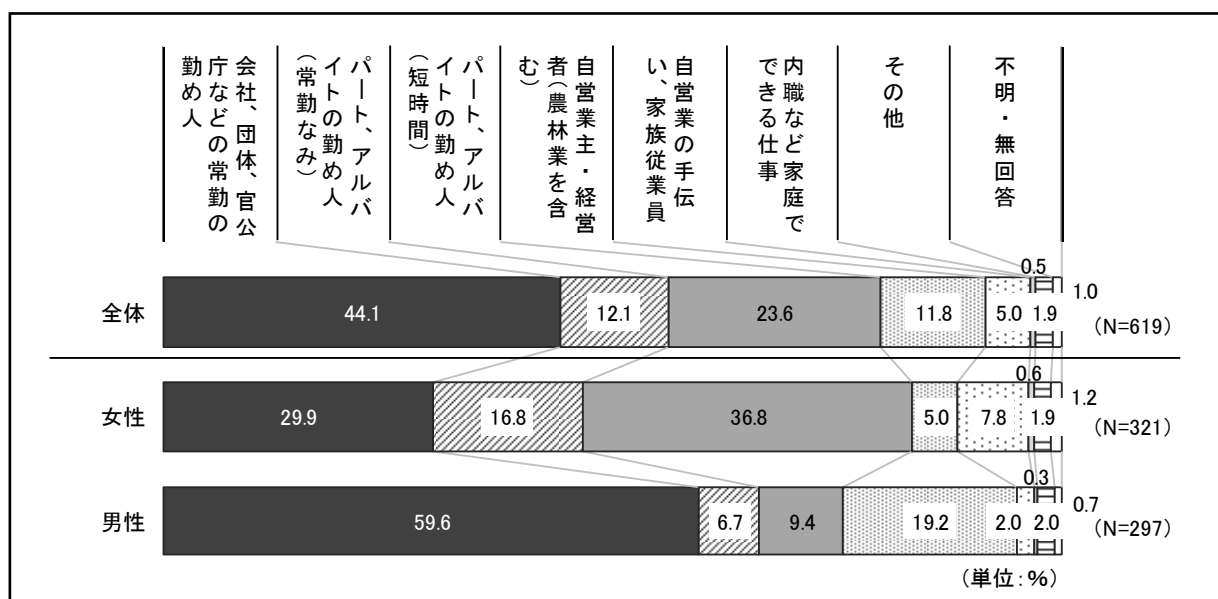
(単位: %)

問6で「仕事をしている」と回答された方

問6-1 それは、どのような働き方ですか。(〇は1つ)

全体では、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が44.1%と最も高くなっています。男女別にみると、女性では「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」が36.8%、男性では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が59.6%とそれぞれ最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、女性では「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」の割合は年代が上がるほど減少するのに対し、[パート、アルバイトの勤め人]（「パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）」と「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」の合計）の割合は30歳未満から70歳未満にかけて増加する傾向にあります。一方、男性では30歳以上60歳未満では[パート、アルバイトの勤め人]はわずかであるものの、30歳未満、60歳以上では2割後半から3割前半とやや増加しています。



性別・年齢別

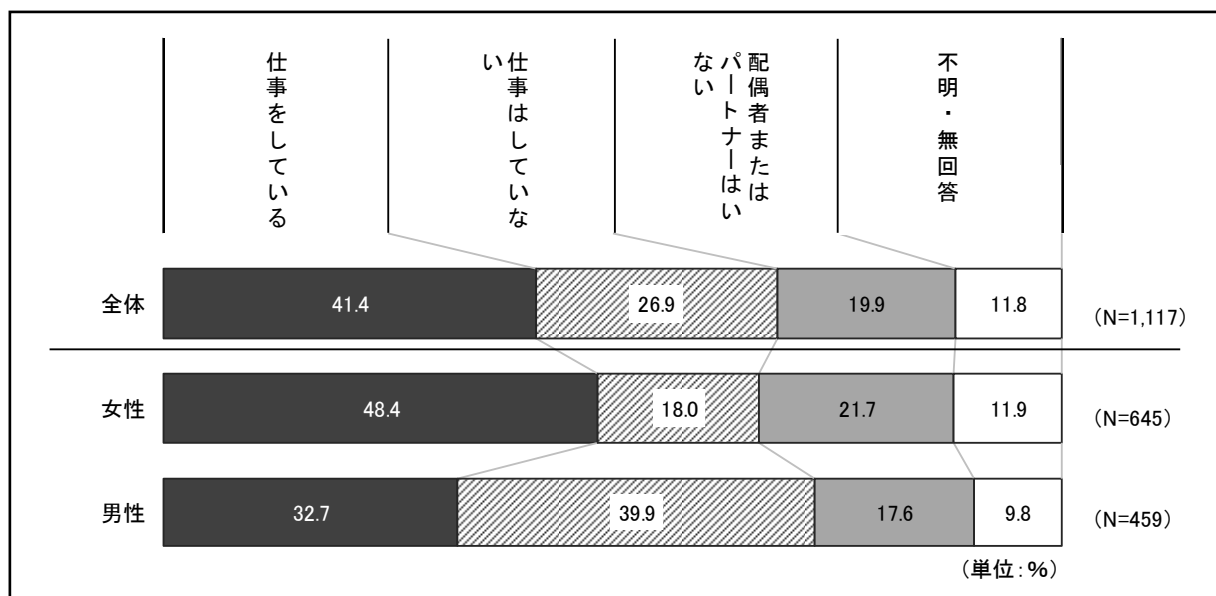
		対象者数（人）	会社、団体、官公庁などの勤め人の割合	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）の割合	パート、アルバイトの勤め人（短時間）の割合	自営業の勤め人（農林業を含む）の割合	自営業の手伝い、家族従業員の割合	内職など家庭でできる仕事の割合	その他の割合	不明・無回答の割合
女性	30歳未満	40	57.5	20.0	17.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	30～39歳	65	38.5	18.5	29.2	6.2	3.1	1.5	3.1	0.0
	40～49歳	79	30.4	12.7	46.8	1.3	6.3	1.3	1.3	0.0
	50～59歳	74	25.7	17.6	35.1	6.8	12.2	0.0	1.4	1.4
	60～69歳	50	10.0	18.0	52.0	10.0	6.0	0.0	4.0	0.0
	70歳以上	13	0.0	15.4	23.1	7.7	46.2	0.0	0.0	7.7
男性	30歳未満	23	65.2	4.3	21.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7
	30～39歳	52	76.9	3.8	1.9	11.5	3.8	0.0	1.9	0.0
	40～49歳	70	78.6	4.3	2.9	8.6	2.9	0.0	2.9	0.0
	50～59歳	57	68.4	3.5	3.5	24.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	60～69歳	68	33.8	13.2	19.1	32.4	1.5	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	27	18.5	11.1	18.5	33.3	3.7	3.7	11.1	0.0

(単位: %)

問7 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つ)

全体では、「仕事をしている」が41.4%、「仕事はしていない」が26.9%となっています。

性別・年齢別にみると、女性の30歳以上60歳未満で「仕事をしている」が6割後半と、男性の同じ年齢層に比べて高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数(人)	仕事をしている	仕事はしていない	配偶者またはパートナーは いない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	32.2	3.4	45.8	18.6
	30～39歳	93	68.8	1.1	21.5	8.6
	40～49歳	108	68.5	0.9	21.3	9.3
	50～59歳	117	67.5	10.3	16.2	6.0
	60～69歳	144	39.6	33.3	18.8	8.3
	70歳以上	124	15.3	41.9	19.4	23.4
男性	30歳未満	32	18.8	6.3	56.3	18.8
	30～39歳	58	31.0	34.5	25.9	8.6
	40～49歳	76	47.4	26.3	21.1	5.3
	50～59歳	64	45.3	35.9	17.2	1.6
	60～69歳	120	36.7	40.8	7.5	15.0
	70歳以上	107	15.9	64.5	11.2	8.4

(単位: %)

問7で「仕事をしている」と回答された方

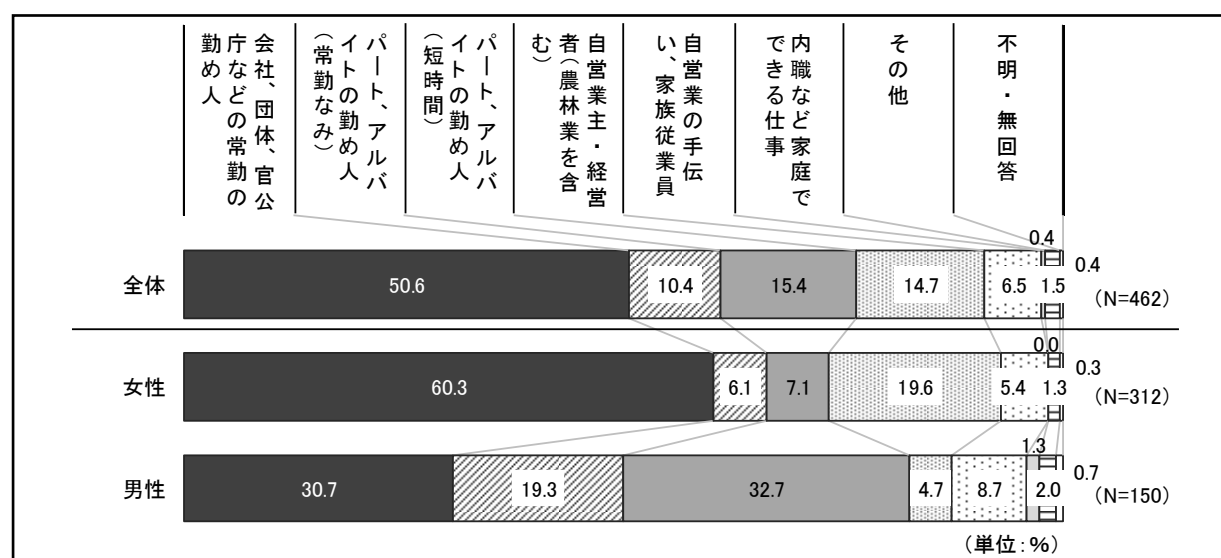
問7-1 あなたの配偶者またはパートナーの働き方は次のどれにあたりますか。

(○は1つ)

「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」の割合が全体では50.6%と半数を占めていますが、女性では60.3%、男性では30.7%と29.6ポイント女性の方が高くなっています。

性別・年齢別でみると、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」は男女ともに年代が上がるほど減少する傾向にあります。

本人および配偶者等の就業状況をみると、常勤の勤め人の回答者について配偶者等が同じ「常勤の勤め人」であるのは、女性では38.5%、男性では19.2%と女性の方が高くなっています。また、片働き家庭の状況は、女性回答者が無職で配偶者が働いている割合は35.6%、男性回答者が無職で配偶者が働いている割合は12.6%と、片働き家庭では女性が無職である場合が多くなっています。

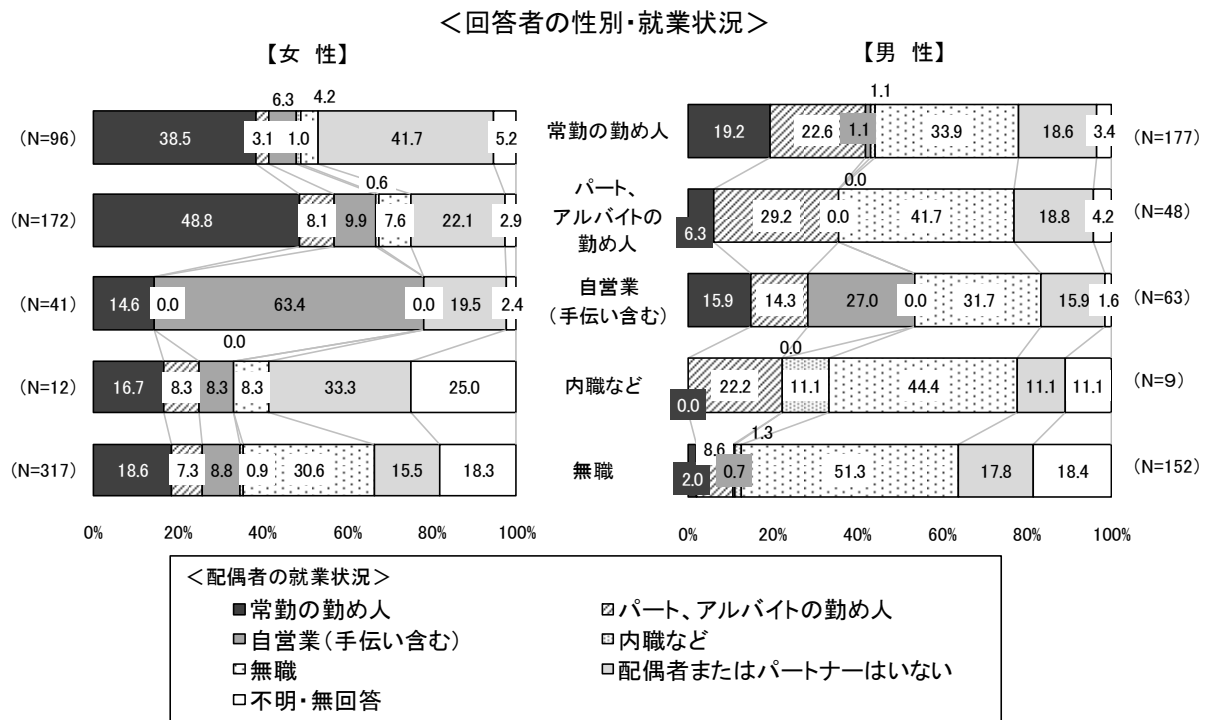


性別・年齢別

		対象者数（人）	会社、団体、官公庁などの勤め人	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	自営業主・経営者（農林業を含む）	自営業の手伝い、家族従業員	内職など家庭でできる仕事	その他	不明・無回答
女性	30歳未満	19	84.2	10.5	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	64	82.8	1.6	1.6	12.5	1.6	0.0	0.0	0.0
	40～49歳	74	75.7	0.0	2.7	14.9	5.4	0.0	1.4	0.0
	50～59歳	79	53.2	5.1	2.5	29.1	6.3	0.0	2.5	1.3
	60～69歳	57	31.6	21.1	19.3	19.3	8.8	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	19	15.8	0.0	26.3	42.1	10.5	0.0	5.3	0.0
男性	30歳未満	6	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	18	50.0	11.1	16.7	0.0	11.1	5.6	5.6	0.0
	40～49歳	36	25.0	27.8	41.7	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0
	50～59歳	29	37.9	13.8	37.9	0.0	10.3	0.0	0.0	0.0
	60～69歳	44	22.7	22.7	34.1	4.5	11.4	0.0	2.3	2.3
	70歳以上	17	11.8	11.8	29.4	29.4	11.8	0.0	5.9	0.0

(単位: %)

[参考] 回答者および配偶者等の就業状況（問6＋問6－1と問7＋問7－1のクロス集計）



選択肢は以下のように分類しています。

常勤の勤め人 …会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人

パート、アルバイトの勤め人 …パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）、パート、アルバイトの勤め人（短時間）

自営業（手伝い含む） …自営業主・経営者（農林業を含む）、自営業の手伝い、家族従業員

内職など …内職など家庭でできる仕事、その他、仕事をしている（無回答）

無職 …仕事はしていない

6. 主な調査結果

問内容	調査結果
仕事について	
過 当たり労働時間(問8)	・約半分が週当たりの労働時間は 40 時間未満 ・男性の週 60 時間以上働く長時間労働者は 15.2% (女性は 2.5%) ・男性の 40 歳代では4分の1が長時間労働をしている ・常勤の勤め人では男女ともに4分の3が週 40 時間以上働いている
年間収入(問9)	・女性の収入は 200 万円未満が 60.7% ・平成 21 年度調査時と同様、男女の収入差は大きい ・男性の 70 歳未満では年代が上がるほど収入が増加傾向にあるが、女性は年代が上がるほど 200 万円未満の割合が増加している ・同じ就労形態でも女性の収入の方が低い
仕事のストレス(問 10)	・職場の人間関係でストレスを抱えている人が多い ・育児や介護のストレスは女性の方が多い ・常勤の勤め人では他の就業形態より人間関係や就労時間、休みがとれないことなど、抱えるストレスが多い
職場での対応や評価における性差(問 11)	・『管理職への登用』『昇進・昇格』『賃金』は全体で男性優遇感が高くなっている ・『育児・介護休業などの取得に関して』は全体で女性優遇感が高くなっている ・男性自身、育児・介護休業以外の職場のあらゆる対応や評価について男性優遇であると感じている ・女性自身、採用の仕方や数については男性より女性が優遇されていると感じている
離職・転職の状況および理由(問 12、問 12-1)	・女性の方が離職・転職経験のある人が多い ・30 歳未満で離職・転職経験のある人は女性で 55.0%、男性で 21.7%と、女性の方が若い時に離職・転職を経験している ・非正規雇用者の方が離職・転職経験のある人が多い ・女性の離職・転職理由は「結婚」「社内の人間関係の不和」「出産」となっている ・男性の離職・転職理由は「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」となっている
仕事をしていない理由(問 13)	・男性では「定年退職した」が 40.8%、「健康上の問題がある」が 22.4%となっている ・「家事や子育てをしている」との理由は女性のみが回答している
今後の就労意向および不安(問 14、問 14-1)	・女性の就労意向が男性に比べて高い ・若い年代の就労意向が高い ・今後、仕事につく上で「年齢制限」「自分の健康状態や体力」に不安を感じている人が多い ・「家事、子育て、介護との両立ができるか」という不安は男女ともに前回調査より増加している
男女が仕事と生活の調和を図るために必要と思うこと(問 15)	・仕事と生活の調和を図るため、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」「保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が特に求められている ・女性では「家族や配偶者(パートナー)の理解・協力」、男性では「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」もそれぞれ高い
ダイバーシティ推進への考え方(問 16)	・全体では「進めたほうがよい」が約6割となっている ・全体では「わからない」が 11.2%、「不明・無回答」が 13.9%と、ダイバーシティの推進について4分の1の人の考え方が示されていない

	問内容	調査結果
日常生活や子育てについて		
	日常生活における考え方 (問 17)	・子育てや家庭の経済面に関する固定的な性別役割分担意識は強い ・育児や介護、管理職については「どちらともいえないと思う」の割合が高い
	平日の生活時間 (問 18)	・「家事・育児・介護など」は女性の方が長く、「仕事・通勤あるいは学業・通学」は男性の方が長く、時間差が大きい ・「家事・育児・介護など」は女性で約5時間、男性で2時間となっており、女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と特に長い
	暮らし方の希望と現実 (問 19 問 20)	・希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが現実では、女性は家庭生活、男性は仕事をそれぞれ優先している ・男性の方が希望と現実の暮らし方が合致している人が多い
	育児休業・介護休業の取得状況 (問 21)	・育児休業、介護休業ともに男性より女性の取得者が多く、男性はわずかである
	望ましいと思う女性の生き方と実際の生き方 (問 22)	・女性が望む生き方は「再就職型」が26.0%、実際の生き方は「就労継続型」が18.3%と高い ・結婚・子育てと就労についての希望と現実が合致している人は少ない
	子どもの将来像として望む生き方 (問 23)	・女の子には「人間性豊かな生活をする」「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことが望まれている ・男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている
	婚外子についての考え方 (問 24)	・婚外子に「抵抗がある」人は全体で58.1% ・「わからない」との回答も全体で1割おり、他の年代と比較して60歳以上で高くなっている
	男女平等を進めるために重要な小・中学校の取り組み (問 25)	・男女平等を進める小・中学校の取り組みは進路指導を重視している ・男性の30歳未満でメディア・リテラシー教育を重視する人が多くなっている
男女の地位に関する意識について		
	男女の地位の平等感 (問 26)	・男女で「平等である」の割合が5割以上なのは『学校教育の場』となっている ・「男性が優遇」が最も高いのは『職場（賃金や待遇など）では』となっている ・全国と比較して『家庭生活の場では』の「平等である」割合が特に下回っている
	固定的な性別役割分担意識について (問 27、問 27-1、問 27-2)	・固定的な性別役割分担意識について、「同感する」より「同感しない」ほうが高い ・「同感する」割合は前々回調査以降、減少している ・70歳以上では「同感しない」より「同感する」ほうが高い ・「同感である」と思う理由は「男女で違う役割を感じるから」が最も高い ・「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」は女性では年代が上がるほど高くなる ・「同感しない」と思う理由は、全体で「社会の風潮・慣習としてそう感じると感じるから」が44.4%、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が38.4% ・年代が上がるほど「社会の風潮・慣習としてそう感じると感じるから」が増加する傾向にあり、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」は年齢が若いほど増加する傾向にある

問内容	調査結果
地域活動や健康、老後の暮らしについて	
防災・災害復興対策における性別への配慮(問28、問28-1)	・約8割が性別に配慮した防災・災害復興対策の「必要がある」と考えている ・避難所の設備や運営、災害時の救援医療体制の必要性が高い
生活の中でのストレス(問29)	・『老後の生活（経済や健康）』『経済的なことで』に強いストレスを感じている ・『子どものことで』『家事の負担』はすべての年代で女性の方が強いストレスを感じている
地域活動への参加状況および参加していない理由(問30、問30-1)	・『地域における趣味・スポーツ・学習の活動』への参加意向が高い ・『民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』への参加意向が低い ・参加したくない理由は「人間関係がわずらわしいから」「あまり関心がないから」となっている ・「あまり関心がないから」は女性の30歳未満で特に高く、男性でも50歳未満で他の年代に比べて高い
希望する介護者(問31)	・女性は「施設での介護」「ヘルパーなどの介護従事者」などの専門機関での介護を望んでいる ・男性は約半数が「妻」の介護を望んでいる
老後の生活の不安の内容(問32)	・老後の生活の不安要素は「経済的にやっていけるか」「健康で過ごせるか」となっている
老後にやりたいこと(問33)	・老後にやりたいことは、男女ともに「趣味の活動」「旅行」となっている
「男もつらい」と感じるものの有無および内容(問34、問34-1)	・過半数の男性が「男もつらい」と感じており、他の年代と比較して60歳未満では約7割と高くなっている ・「仕事の責任が大きい、仕事ができたり前だと言われる」が28.9%と高く、30歳以上60歳未満に多い ・30歳未満では「なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が高い
女性の心とからだの健康を保つために必要な取り組み(問35)	・『女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談』を「よく知っている」のは37.2% ・『リフレッシュできるような場の提供』は「知らない」が73.0%と認知度が低くなっている
人権の尊重について	
女性の人権が尊重されていないと感じる内容(問36)	・性犯罪やセクシュアル・ハラスメント等の女性の人権に対する認識は高くても半数程度で、「特にない」と考える人も1割程度おり、認識は高くない ・女性より男性の認識が低い
配偶者やパートナー、恋人からの暴力経験と対応(問37、問37-1)	・暴力の被害経験は男性より女性で多い ・『平手で打つ』などの身体的暴力や『大声でどなったり、物を壊したりする』などの精神的暴力が多い ・加害経験者は40歳未満では男性より女性、40歳以上では女性より男性が多い。 ・暴力行為後に「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」が女性で39.2%、男性で58.7%と高い ・「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は男性より女性の方が高い ・「相談するほどの事ではないと思った」が男女ともに高くなっているが、女性では、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すればやっていけるといった」の割合が男性より高い
男女共同参画社会の形成に関する意識について	
「男女共同参画」を推進するために参加したい活動(問38)	・「男女共同参画」の推進活動への参加について、約半数は「特にない・わからない」となっている ・「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」がともに1割前半
法律や言葉、市の取り組みの認知度(問39)	・『ドメスティック・バイオレンス（DV）』『男女雇用機会均等法』『育児・介護休業法』の認識が比較的高い ・前回調査より男女共同参画に関する法律や言葉、東大阪市の取り組みが浸透しはじめている

II 調査結果

1. 仕事について

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

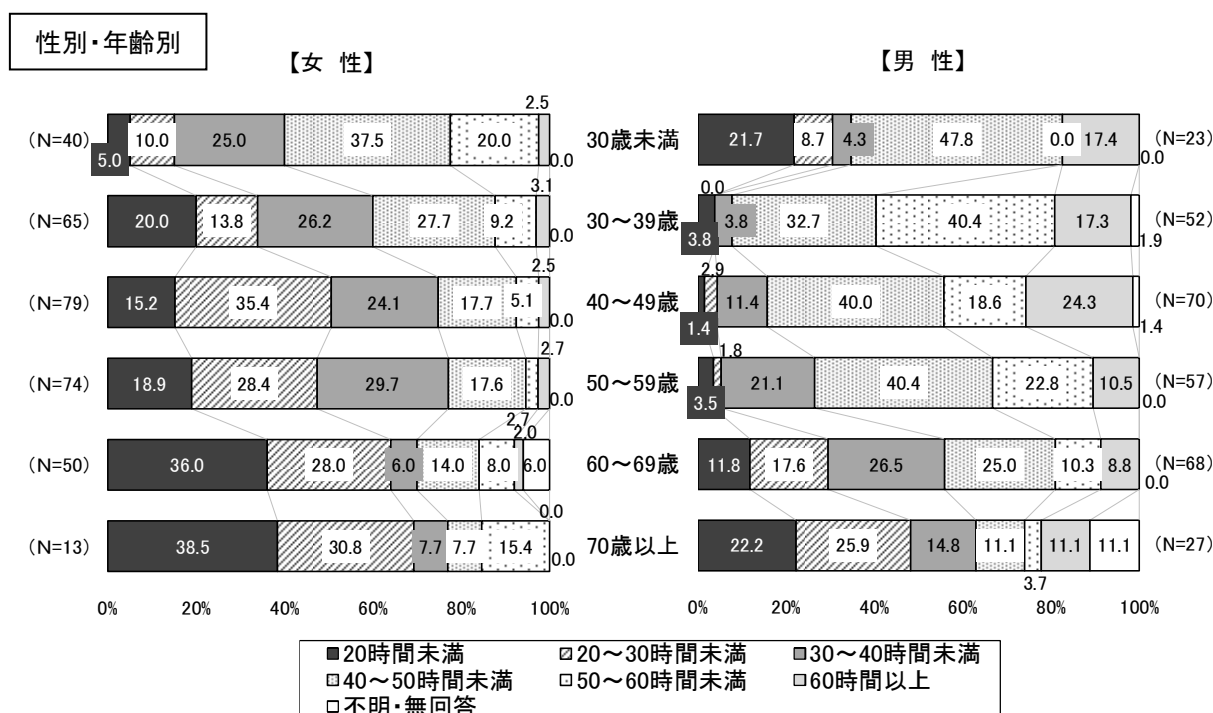
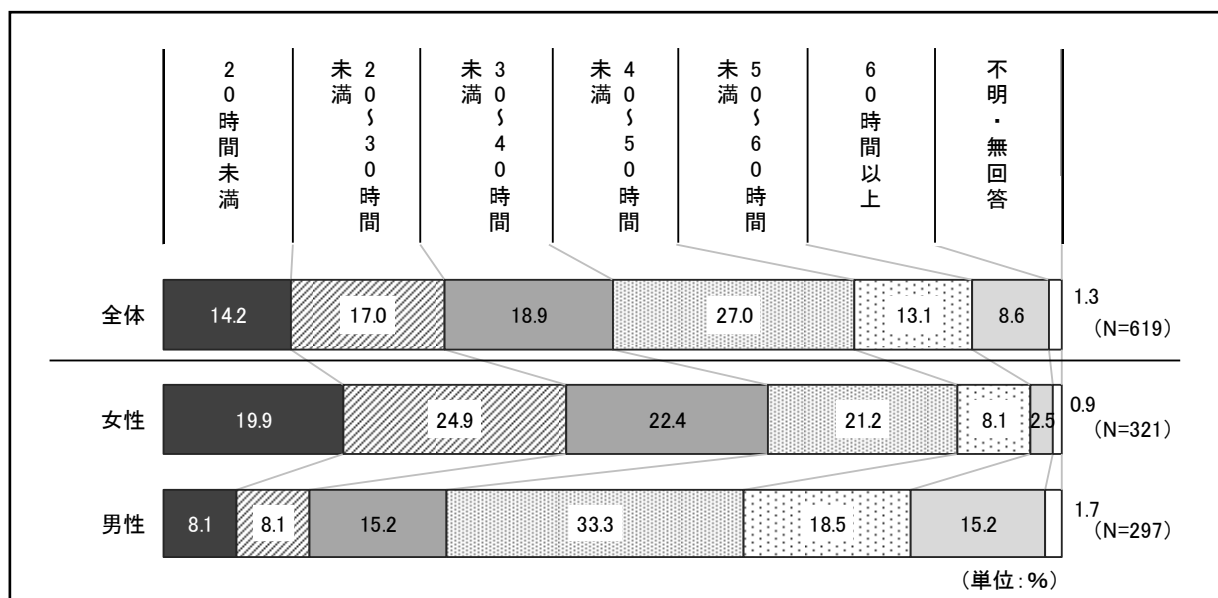
問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。(残業時間も含みます)
(○は1つ)

■男性の週60時間以上働く長時間労働者は15.2%

全体では、40時間未満(法定労働時間、一部規模・業種を除く)は50.1%となっており、女性では67.2%、男性では31.4%となっています。

性別・年齢別にみると、女性では40歳未満で、男性では60歳未満で40時間以上の割合が高く、特に男性の40～49歳では「60時間以上」が24.3%と長時間労働が多くなっています。

性別・就業形態別にみると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人では40時間以上の割合が女性で75.0%、男性で83.0%と、男女ともに大半を占めています。



性別・年齢別

		対象者数 (人)	2 0 時 間 未 満	2 0 時 間 未 満 3 0	3 0 時 間 未 満 4 0	4 0 時 間 未 満 5 0	5 0 時 間 未 満 6 0	6 0 時 間 以 上	不 明 ・ 無 回 答
女 性	30歳未満	40	5.0	10.0	25.0	37.5	20.0	2.5	0.0
	30～39歳	65	20.0	13.8	26.2	27.7	9.2	3.1	0.0
	40～49歳	79	15.2	35.4	24.1	17.7	5.1	2.5	0.0
	50～59歳	74	18.9	28.4	29.7	17.6	2.7	2.7	0.0
	60～69歳	50	36.0	28.0	6.0	14.0	8.0	2.0	6.0
	70歳以上	13	38.5	30.8	7.7	7.7	15.4	0.0	0.0
男 性	30歳未満	23	21.7	8.7	4.3	47.8	0.0	17.4	0.0
	30～39歳	52	3.8	0.0	3.8	32.7	40.4	17.3	1.9
	40～49歳	70	1.4	2.9	11.4	40.0	18.6	24.3	1.4
	50～59歳	57	3.5	1.8	21.1	40.4	22.8	10.5	0.0
	60～69歳	68	11.8	17.6	26.5	25.0	10.3	8.8	0.0
	70歳以上	27	22.2	25.9	14.8	11.1	3.7	11.1	11.1

(単位: %)

性別・就業形態別

		対象者数 (人)	2 0 時 間 未 満	2 0 時 間 未 満 3 0	3 0 時 間 未 満 4 0	4 0 時 間 未 満 5 0	5 0 時 間 未 満 6 0	6 0 時 間 以 上	不 明 ・ 無 回 答
女 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	0.0	0.0	24.0	55.2	14.6	5.2	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	7.4	16.7	57.4	14.8	1.9	0.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	118	38.1	50.8	7.6	2.5	0.0	0.0	0.8
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	18.8	18.8	12.5	12.5	31.3	6.3	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	25	24.0	24.0	20.0	8.0	16.0	8.0	0.0
男 性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	0.6	0.6	14.7	42.4	23.7	16.9	1.1
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	20	5.0	15.0	15.0	40.0	20.0	5.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	28	35.7	39.3	17.9	3.6	0.0	0.0	3.6
	自営業主・経営者(農林業を含む)	57	17.5	8.8	19.3	19.3	14.0	19.3	1.8
	自営業の手伝い、家族従業員	6	16.7	0.0	0.0	33.3	16.7	33.3	0.0

(単位: %)

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、おおよそいくらでしたか。（〇は1つ）

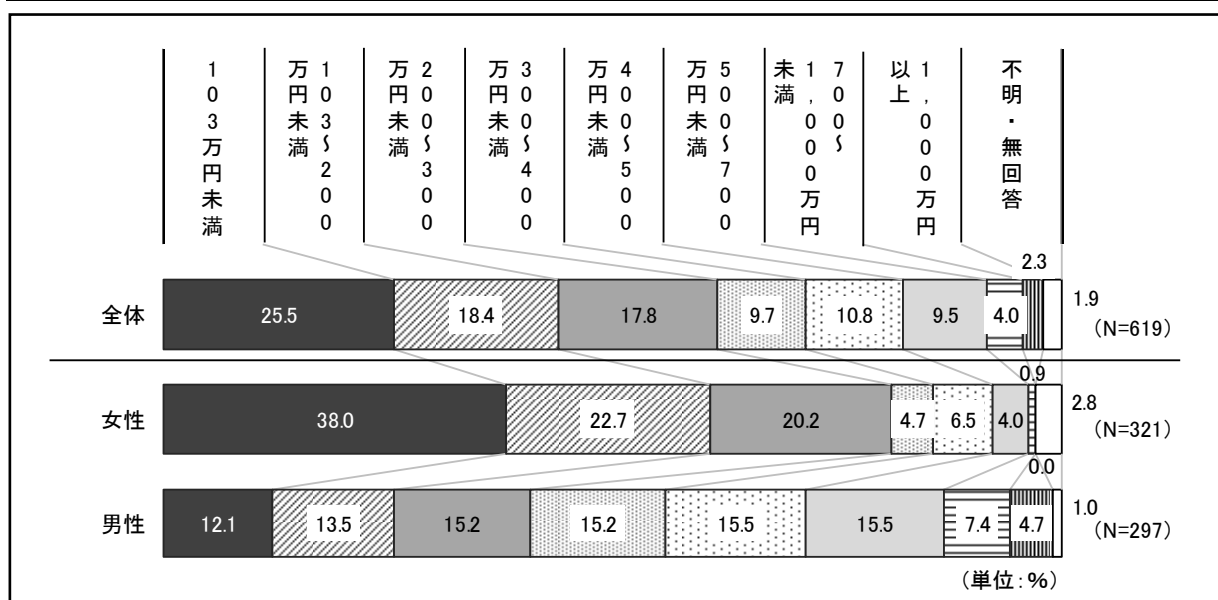
■女性の収入は200万円未満が60.7%。同じ就労形態でも女性の収入の方が低い。

全体では、「103万円未満」が25.5%と高く、女性でも同様の項目が38.0%と高くなっていますが、男性では「200～300万円未満」「300～400万円未満」「400～500万円未満」「500～700万円未満」がそれぞれ1割半ばと、各層に分散しています。

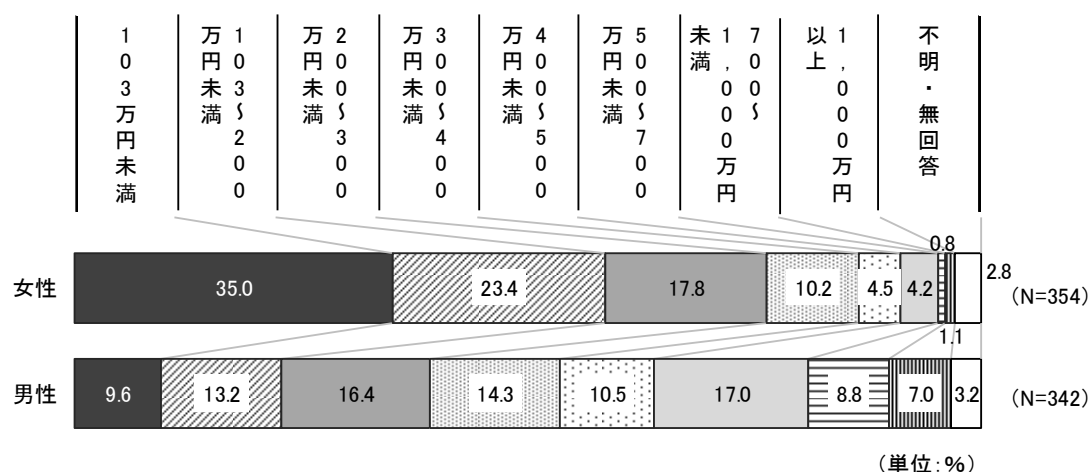
前回調査とも同様の傾向となっています。

性別・年齢別にみると、女性では200万円未満の割合は、年代が上がるほど高くなっています。一方、男性では、200万円未満は30歳未満で56.5%と女性より高くなっているものの、30～39歳では「400～500万円未満」、40～49歳では「300～400万円未満」「500～700万円未満」、50～59歳では「500～700万円未満」がそれぞれ高くなっており、30歳以上60歳未満では年代が上がるほど年収が高くなる傾向にあります。

性別・就業形態別にみると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人で300万円未満の割合は、女性で53.1%と半数を超えているのに対し、男性では23.8%と、女性の収入が低くなっています。



前回調査(平成21年度)



性別・年齢別

		対象者数 (人)	103万円未満	10万円03未満	20万円03未満	30万円04未満	40万円05未満	50万円07未満	170万円未満	100万円以上	不明・無回答
女性	30歳未満	40	20.0	25.0	30.0	15.0	5.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	30～39歳	65	27.7	20.0	30.8	4.6	13.8	1.5	0.0	0.0	1.5
	40～49歳	79	45.6	20.3	16.5	2.5	7.6	5.1	0.0	0.0	2.5
	50～59歳	74	41.9	23.0	13.5	4.1	4.1	9.5	4.1	0.0	—
	60～69歳	50	46.0	26.0	18.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	70歳以上	13	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7
男性	30歳未満	23	39.1	17.4	30.4	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	4.3
	30～39歳	52	5.8	7.7	17.3	17.3	36.5	13.5	0.0	1.9	0.0
	40～49歳	70	2.9	2.9	11.4	27.1	14.3	27.1	11.4	2.9	0.0
	50～59歳	57	5.3	3.5	10.5	12.3	15.8	24.6	17.5	10.5	0.0
	60～69歳	68	13.2	29.4	20.6	11.8	8.8	7.4	2.9	5.9	0.0
	70歳以上	27	37.0	29.6	3.7	3.7	7.4	0.0	7.4	3.7	7.4

(単位: %)

性別・就業形態別

		対象者数 (人)	103万円未満	10万円03未満	20万円03未満	30万円04未満	40万円05未満	50万円07未満	170万円未満	100万円以上	不明・無回答
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	2.1	10.4	40.6	15.6	17.7	10.4	2.1	0.0	1.0
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	54	24.1	48.1	24.1	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	118	74.6	21.2	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	自営業主・経営者(農林業を含む)	16	31.3	31.3	6.3	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3
	自営業の手伝い、家族従業員	25	36.0	24.0	16.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	12.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	3.4	5.1	15.3	16.4	20.3	23.7	10.2	5.1	0.6
	パート、アルバイトの勤め人(常勤なみ)	20	10.0	40.0	35.0	10.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート、アルバイトの勤め人(短時間)	28	71.4	21.4	3.6	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業主・経営者(農林業を含む)	57	8.8	21.1	14.0	21.1	12.3	7.0	7.0	8.8	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	6	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0

(単位: %)

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。

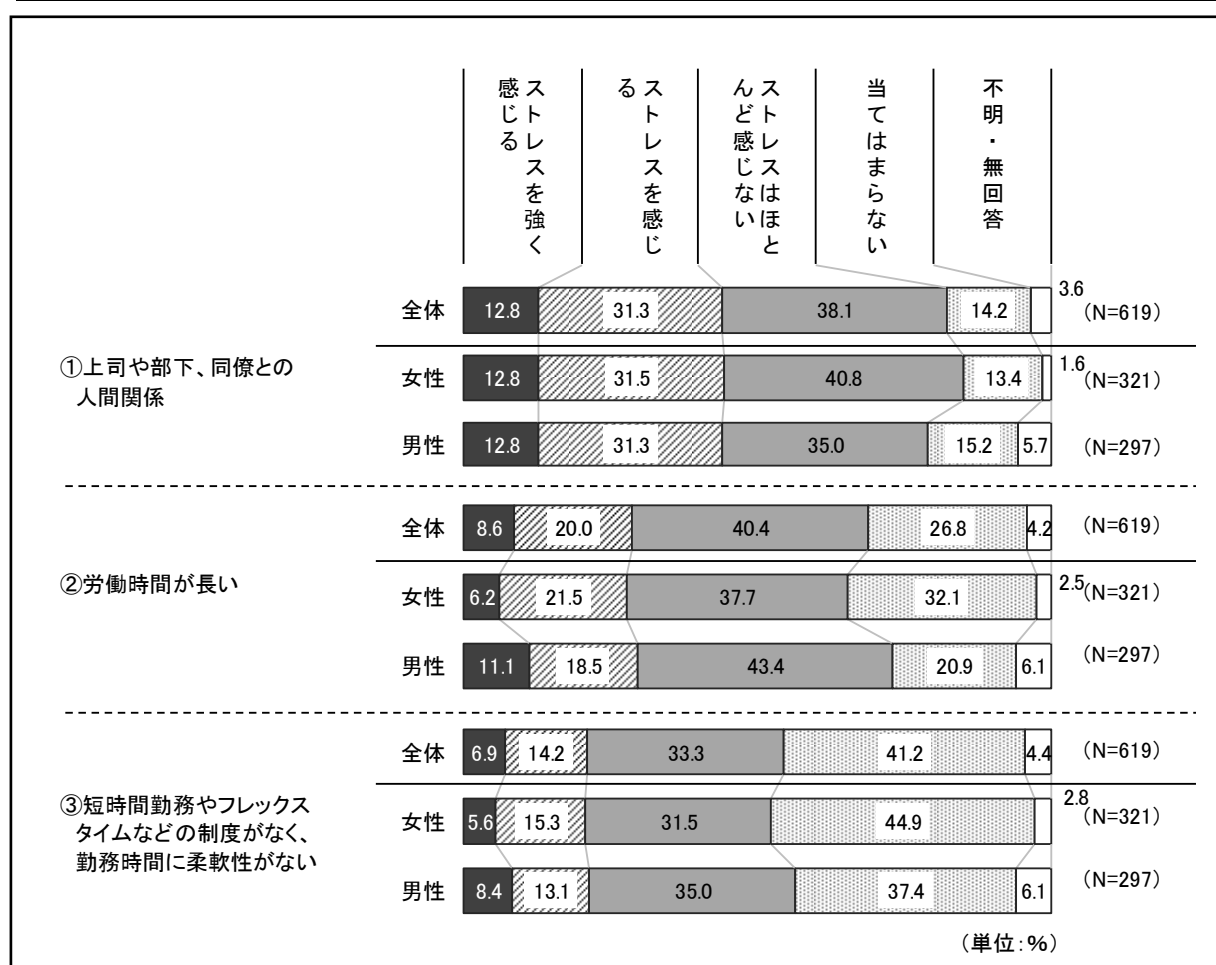
（①～⑨の項目ごとに〇は1つつつ）

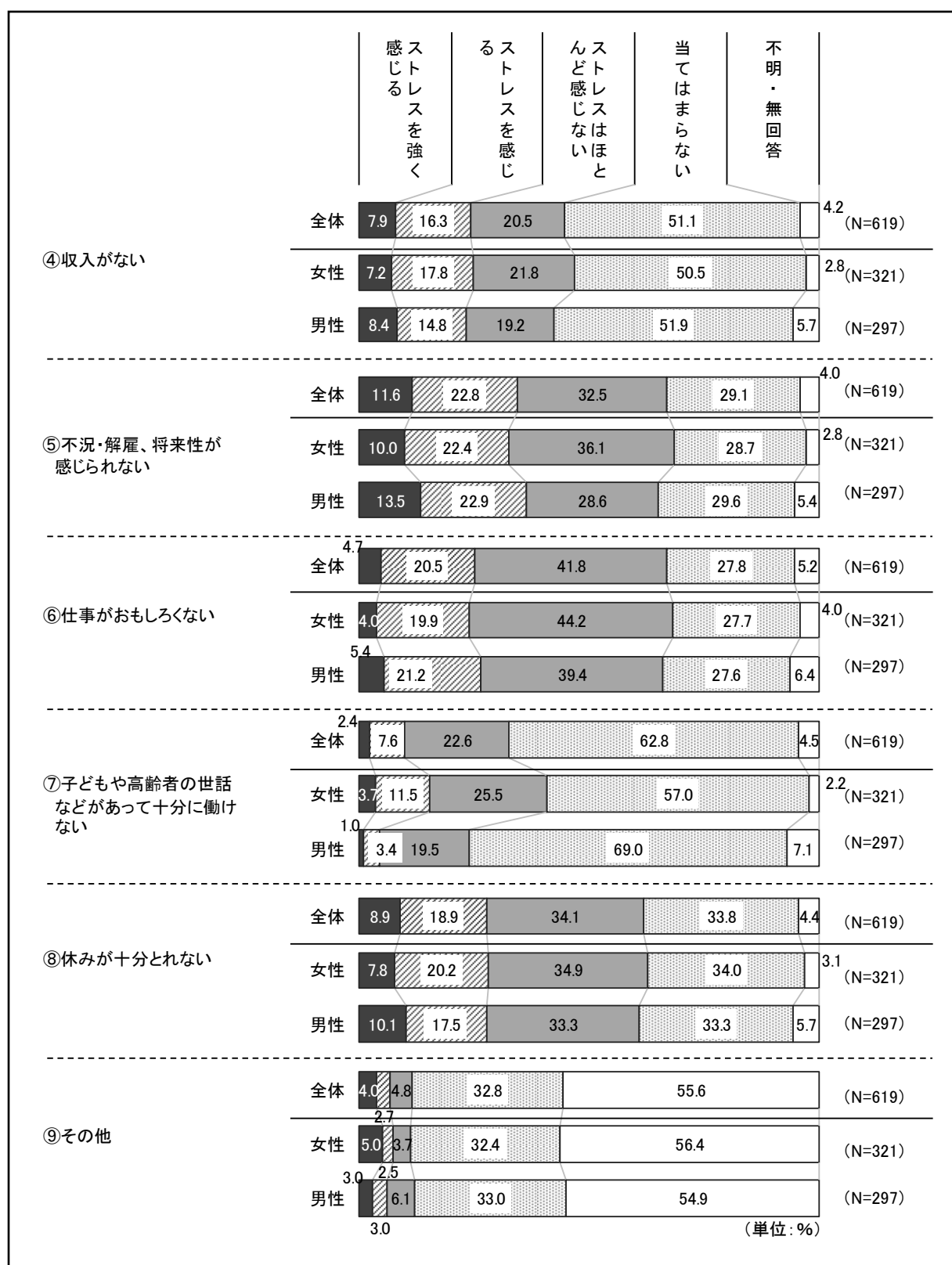
■職場の人間関係でストレスを抱えている人が多い。育児や介護のストレスの方が多い。

男女ともに「ストレスを感じる」（「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」の合計）が最も高いのは『①上司や部下、同僚との人間関係』、次いで『⑤不況・解雇、将来性が感じられない』『②労働時間が長い』となっています。また、『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』で「ストレスを感じる」のは、女性で15.2%、男性で4.4%と女性の方が10.8ポイント高くなっています。

性別・年齢別の状況をストレス強度係数により分析すると、「ストレスを感じる」割合の高い『①上司や部下、同僚との人間関係』『⑤不況・解雇、将来性が感じられない』『②労働時間が長い』それぞれで男性では30～39歳の数値が高くなっています。また、『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』では、女性の30歳以上60歳未満で他の年代より数値が高くなっています。

性別・就業形態別の状況をストレス強度係数により分析すると、会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人では、男女ともに『④収入がない』『⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない』以外の項目で数値が100以上と、他の就業形態に比べ高い項目が多くなっています。





性別・年齢別 ストレス強度係数

仕事に関して、どのようなことにストレス（不安や悩み）を感じているか、ストレスの強さを属性別で一覧するために、対象とする「働いている女性、男性」について、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観します。

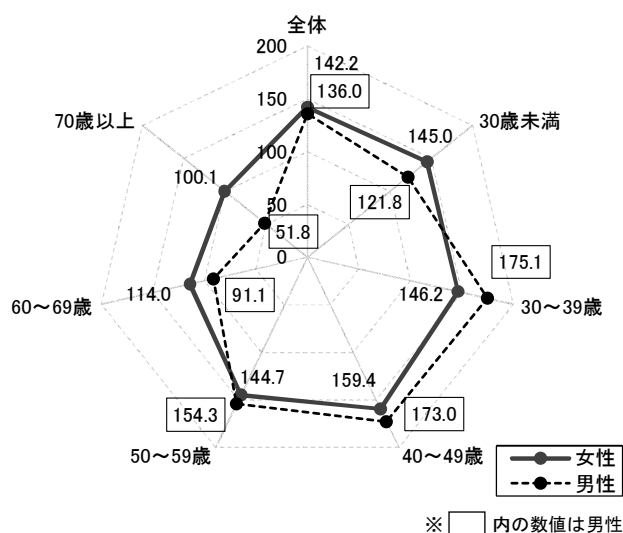
■ストレス強度係数

仕事に関して感じているストレスの強さを本報告書では、『ストレス強度係数』で表しています。

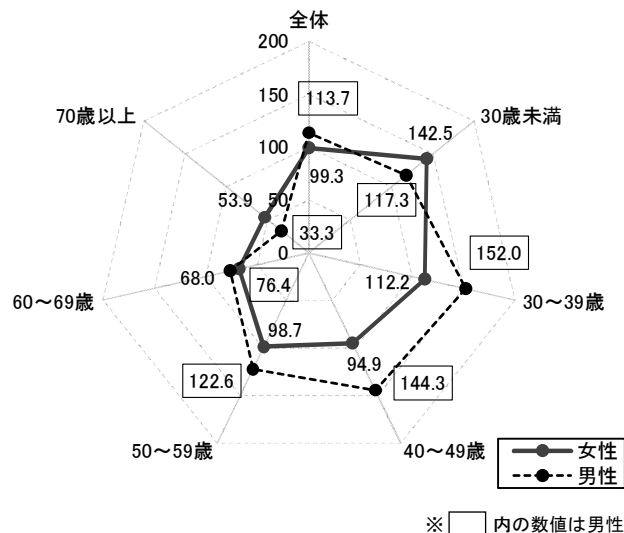
ストレス強度係数の計算方法

「ストレスを強く感じる」割合（％）	× 3	} 合計値を 『ストレス強度係数』 とする
「ストレスを感じる」割合（％）	× 2	
「ストレスはほとんど感じない」割合（％）	× 1	

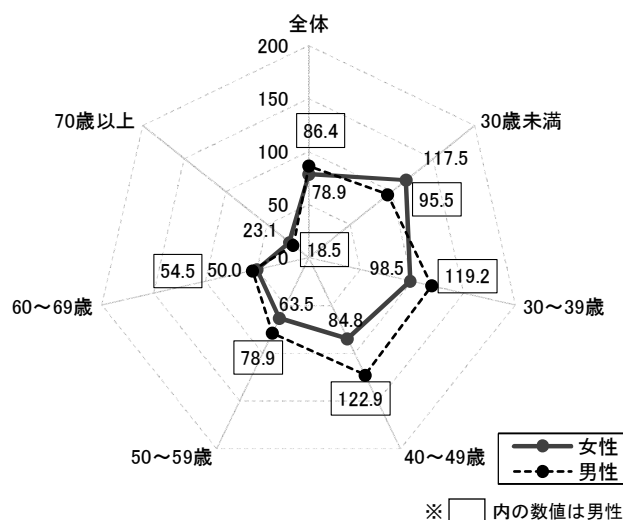
①上司や部下、同僚との人間関係



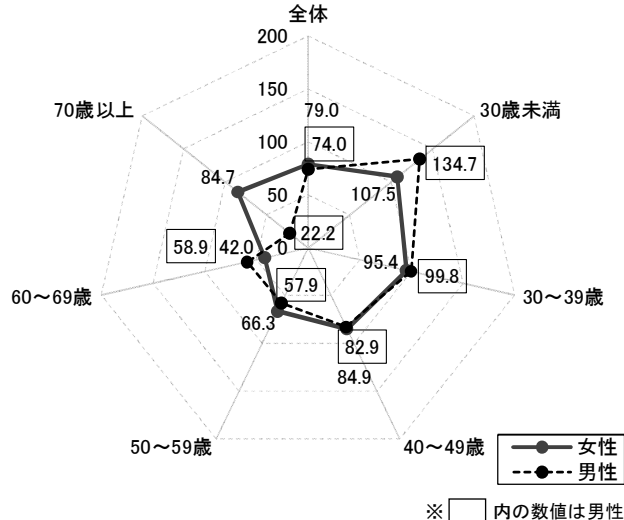
②労働時間が長い



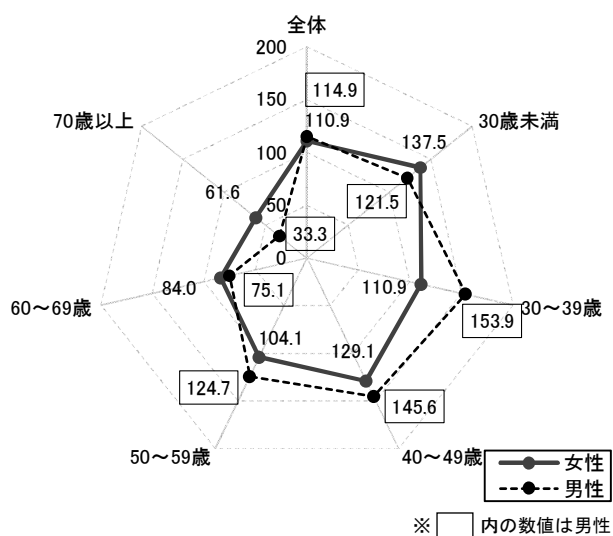
③短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない



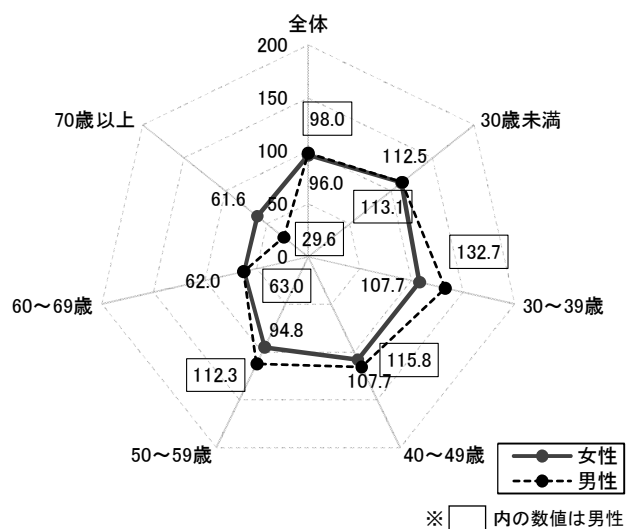
④収入がない



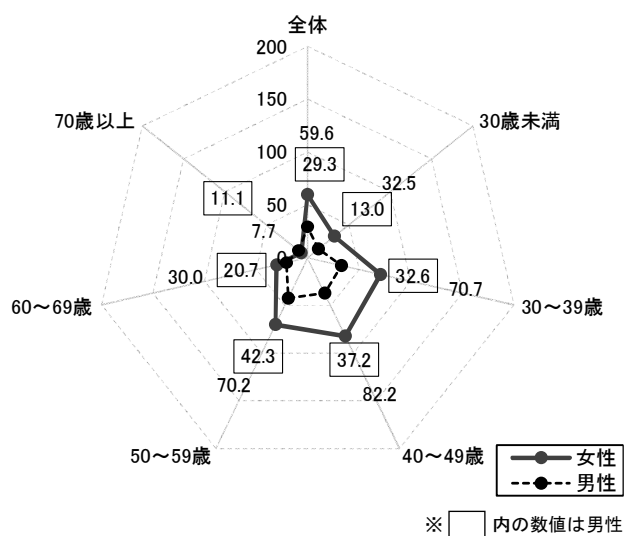
⑤不況・解雇、将来性が感じられない



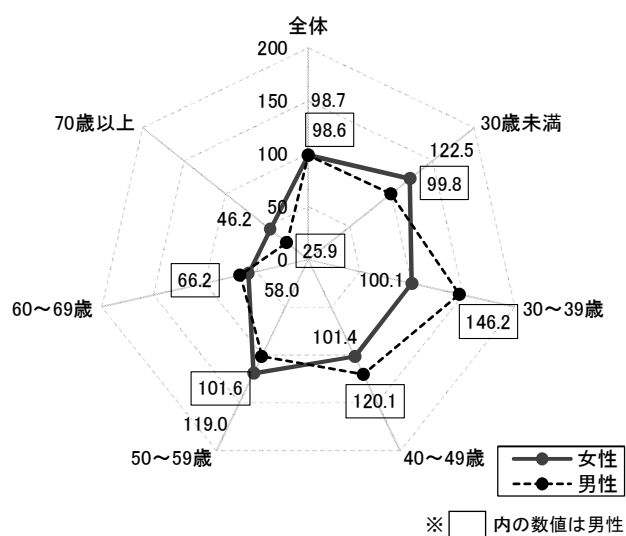
⑥仕事がおもしろくない



⑦子どもや高齢者の世話などがあって十分に働けない



⑧休みが十分とれない



性別・就業形態別 ストレス強度係数

		対象者数（人）	上司や部下、同僚との人間関係	労働時間が長い	短時間勤務やフレックスタイムなどの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない	収入がない	不況・解雇、将来性が感じられない	仕事がおもしろくない	子どもや高齢者の世話などがある	休みが十分とれない
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	180.1	152.1	120.9	82.5	119.0	115.8	65.8	146.9
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	150.0	111.1	94.4	103.8	138.9	100.2	57.5	103.7
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	143.3	58.4	52.5	65.3	94.9	95.6	57.5	60.9
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	93.8	112.8	62.8	112.5	137.8	81.5	81.3	150.3
	自営業の手伝い、家族従業員	25	44.0	60.0	28.0	56.0	92.0	48.0	32.0	60.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	163.7	139.7	104.9	78.1	124.8	114.0	35.1	112.2
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	130.0	100.0	80.0	60.0	125.0	80.0	5.0	70.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	103.7	39.2	57.2	75.0	64.2	71.5	10.7	46.4
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	72.0	77.1	50.8	68.5	101.7	68.4	31.5	91.2
	自営業の手伝い、家族従業員	6	100.2	133.5	66.7	66.7	100.2	66.7	33.3	99.9

（単位：％）

問6で、現在回答者自身が「仕事をしている」と回答された方

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると思いますか。

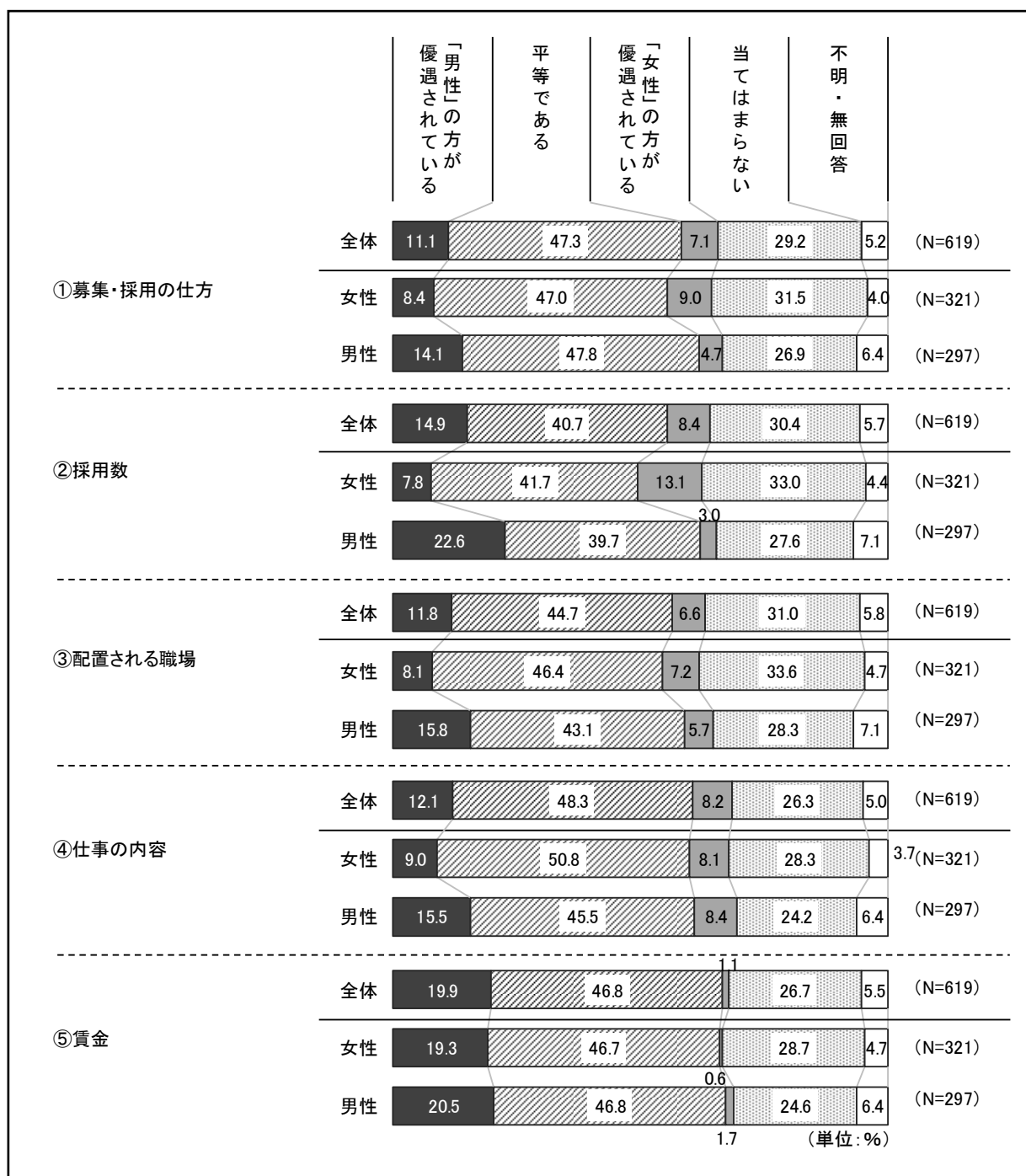
あなたの実感に近いものを選んで番号に○をつけてください。

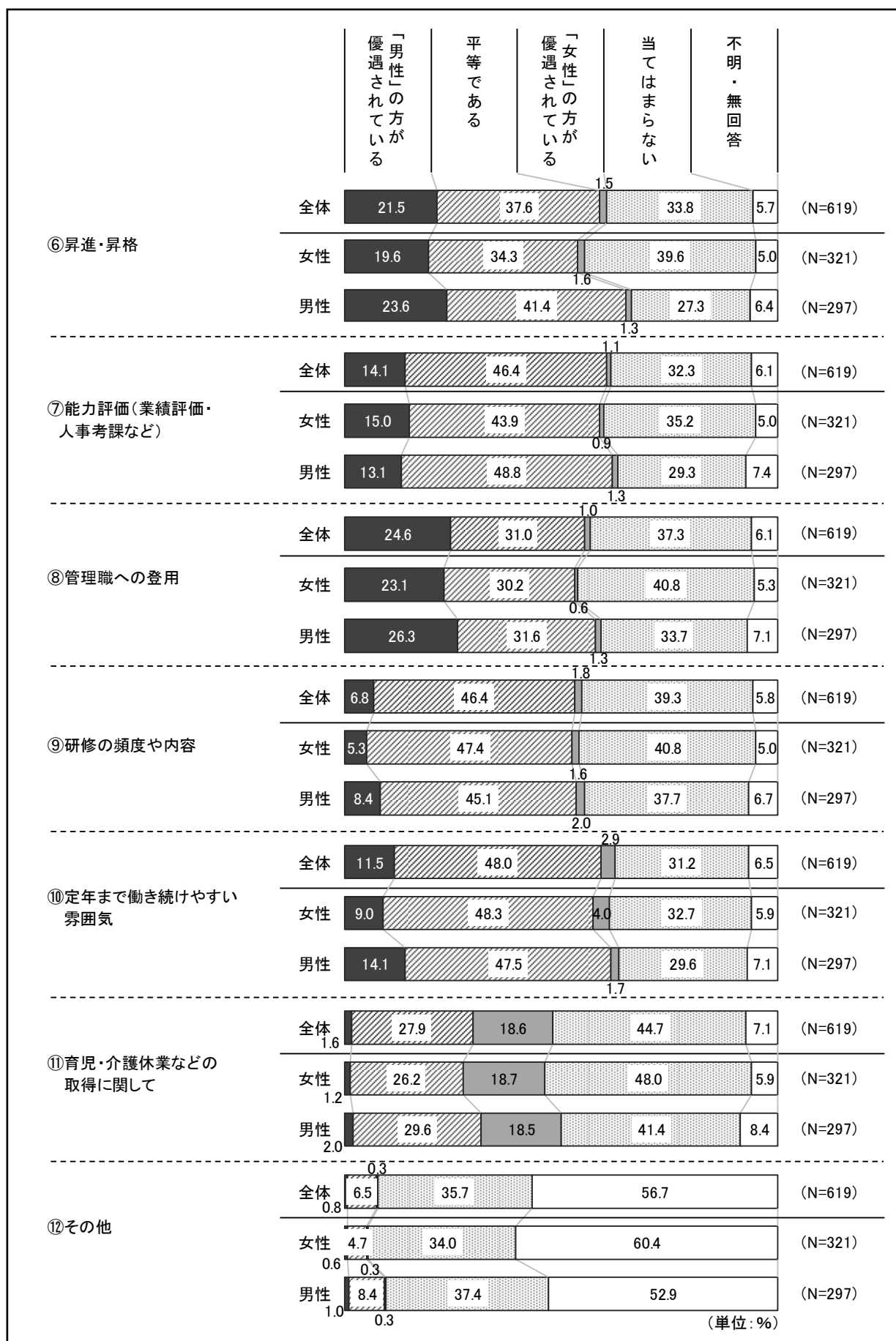
(①～⑫の項目ごとに○は1つつつ)

■『⑧管理職への登用』『⑥昇進・昇格』『⑤賃金』は全体で男性優遇感が高くなっている。

『⑪育児・介護休業などの取得に関して』は全体で女性優遇感が高くなっている。

全体、男性では、『⑪育児・介護休業などの取得に関して』以外のすべての項目で「女性」の方が優遇されている」より「男性」の方が優遇されている」が高くなっており、特に『⑧管理職への登用』では差が大きくなっています。一方、女性では、『①募集・採用の仕方』『②採用数』『⑪育児・介護休業などの取得に関して』については、「男性」の方が優遇されている」より「女性」の方が優遇されている」が高く、女性優遇感が高くなっています。





性別・就業形態別

【「男性」の方が優遇されている】の割合

		対象者数（人）	①募集・採用の仕方	②採用数	③配置される職場	④仕事の内容	⑤賃金	⑥昇進・昇格	⑦能力評価（業績評価・人事考課など）	⑧管理職への登用	⑨研修の頻度や内容	⑩定年まで働き続けやすい雰囲気	⑪育児・介護休業などの取得に関して
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	11.5	9.4	13.5	12.5	29.2	35.4	27.1	39.6	8.3	17.7	1.0
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	13.0	13.0	11.1	14.8	29.6	27.8	20.4	27.8	9.3	13.0	1.9
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	5.1	5.1	5.1	6.8	11.9	10.2	8.5	16.9	2.5	4.2	1.7
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	6.3	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自営業の手伝い、家族従業員	25	8.0	8.0	4.0	4.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	0.0	0.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	20.3	32.2	22.6	20.9	26.0	31.6	16.9	37.3	11.9	19.2	2.3
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	20.0	10.0	15.0	5.0	0.0	5.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	7.1	14.3	7.1	10.7	14.3	14.3	7.1	17.9	0.0	17.9	0.0
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	3.5	5.3	5.3	7.0	15.8	7.0	7.0	5.3	5.3	3.5	1.8
	自営業の手伝い、家族従業員	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（単位：％）

問 12 これまでに離職もしくは転職をしたことがありますか。(○は1つ)

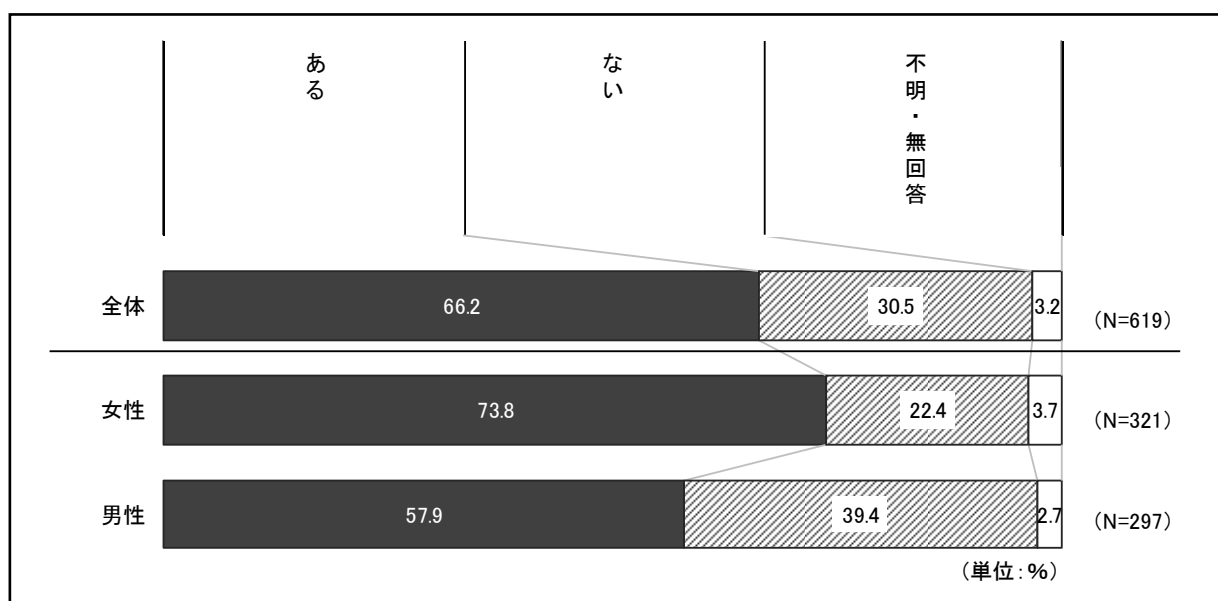
■女性の方が離職・転職経験のある人が多い。

非正規雇用者の方が離職・転職経験のある人が多い。

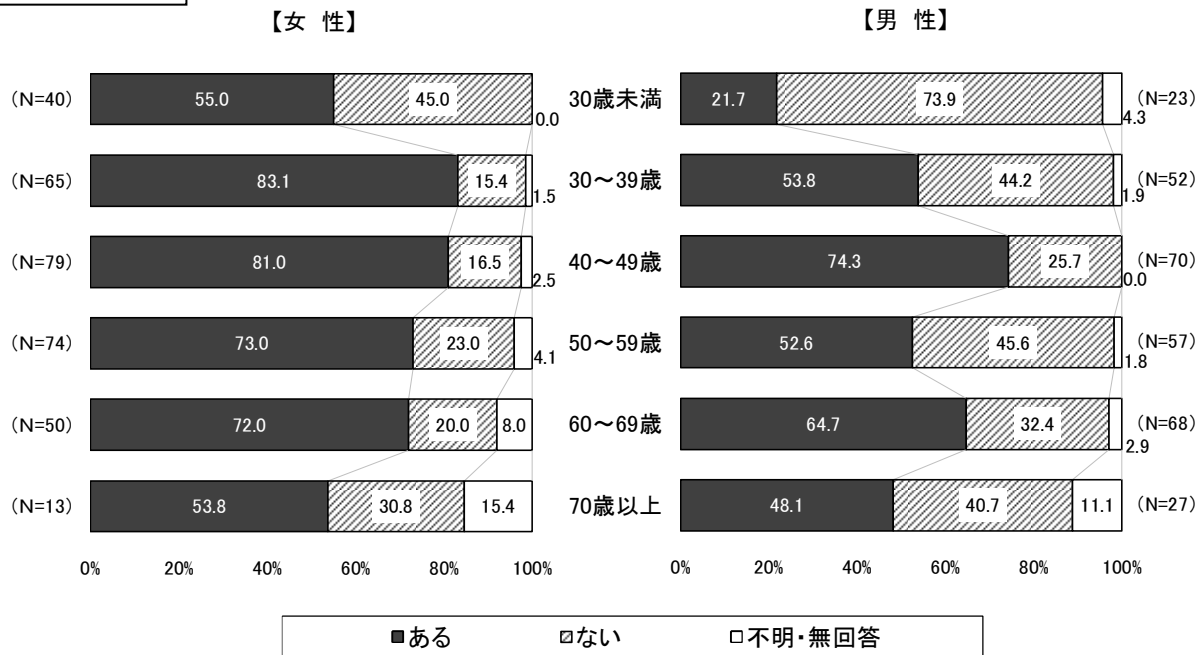
全体では、「ある」が 66.2%となっており、女性では 73.8%、男性では 57.9%と女性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、「ある」が高いのは、女性では 30～39 歳、男性では 40～49 歳となっています。

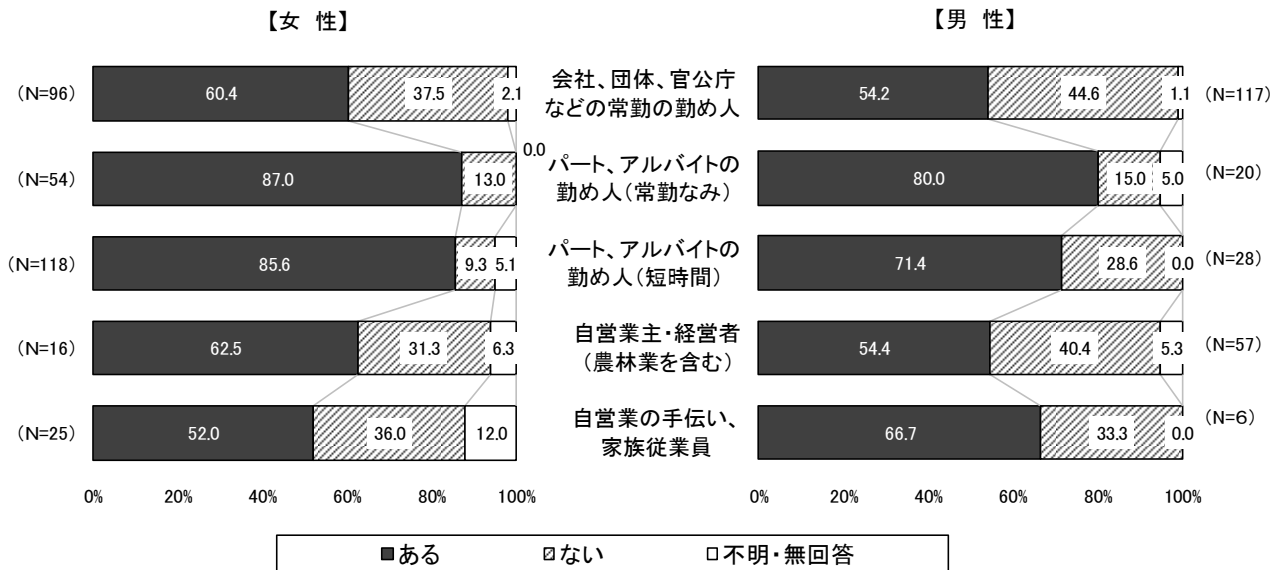
性別・就業形態別にみると、「ある」が高いのは男女ともに「パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）」「パート、アルバイトの勤め人（短時間）」と、非正規雇用者で高くなっています。



性別・年齢別



性別・就業形態別



問 12 で「ある」と回答された方

問 12-1 離職・転職をしたのは、どのような理由からですか。

(あてはまるもの3つまでに○)

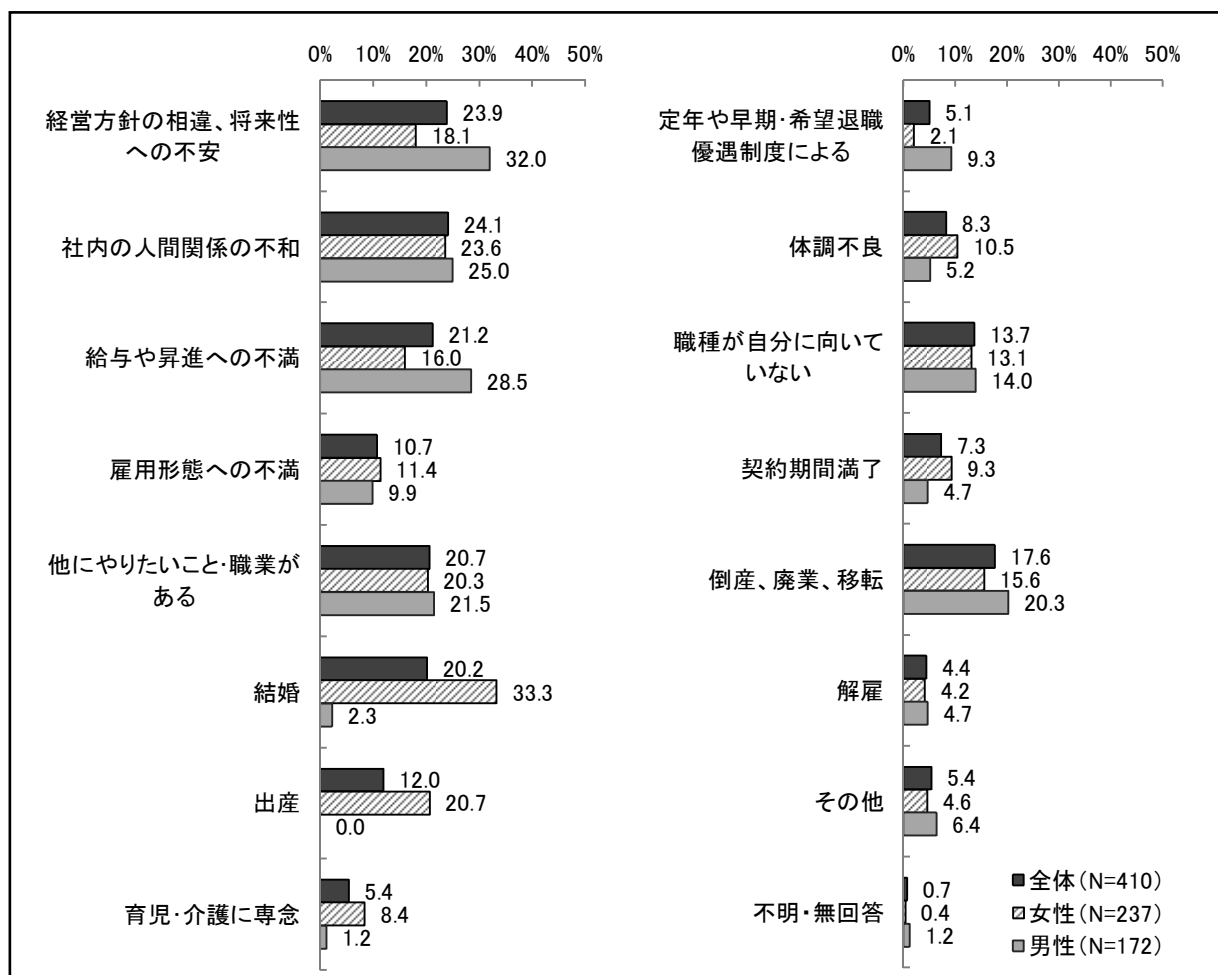
■女性の離職・転職理由は「結婚」「社内の人間関係の不和」「出産」となっている。

男性の離職・転職理由は「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」となっている。

全体では、「社内の人間関係の不和」に次いで「経営方針の相違、将来性への不安」が高くなっていますが、男女で傾向が異なり、女性では「結婚」に次いで「社内の人間関係の不和」、男性では「経営方針の相違、将来性への不安」に次いで「給与や昇進への不満」となっています。

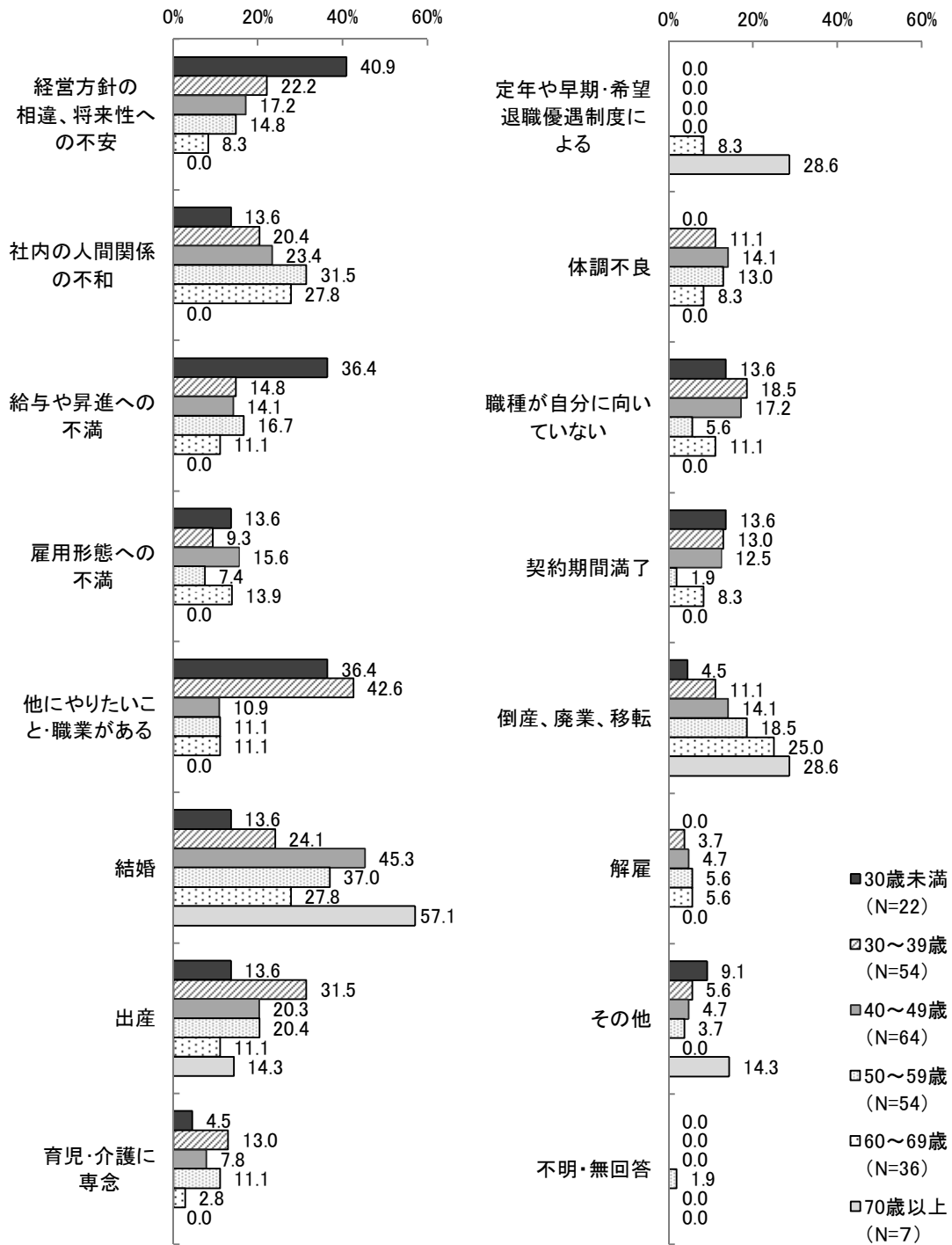
性別・年齢別にみると、女性の40歳以上では「結婚」が高くなっています。また、男性の30歳以上60歳未満では「経営方針の相違、将来性への不安」「給与や昇進への不満」が上位2位となっていますが、60歳以上では「倒産、廃業、移転」に次いで「定年や早期・希望退職優遇制度による」が高くなっています。

結婚の有無別にみると、女性の未婚（結婚していない）「他にやりたいこと・職業がある」「経営方針の相違、将来性への不安」が上位2位であるのに対し、既婚（結婚している（事実婚を含む））では「結婚」「出産」が上位2位となっています。

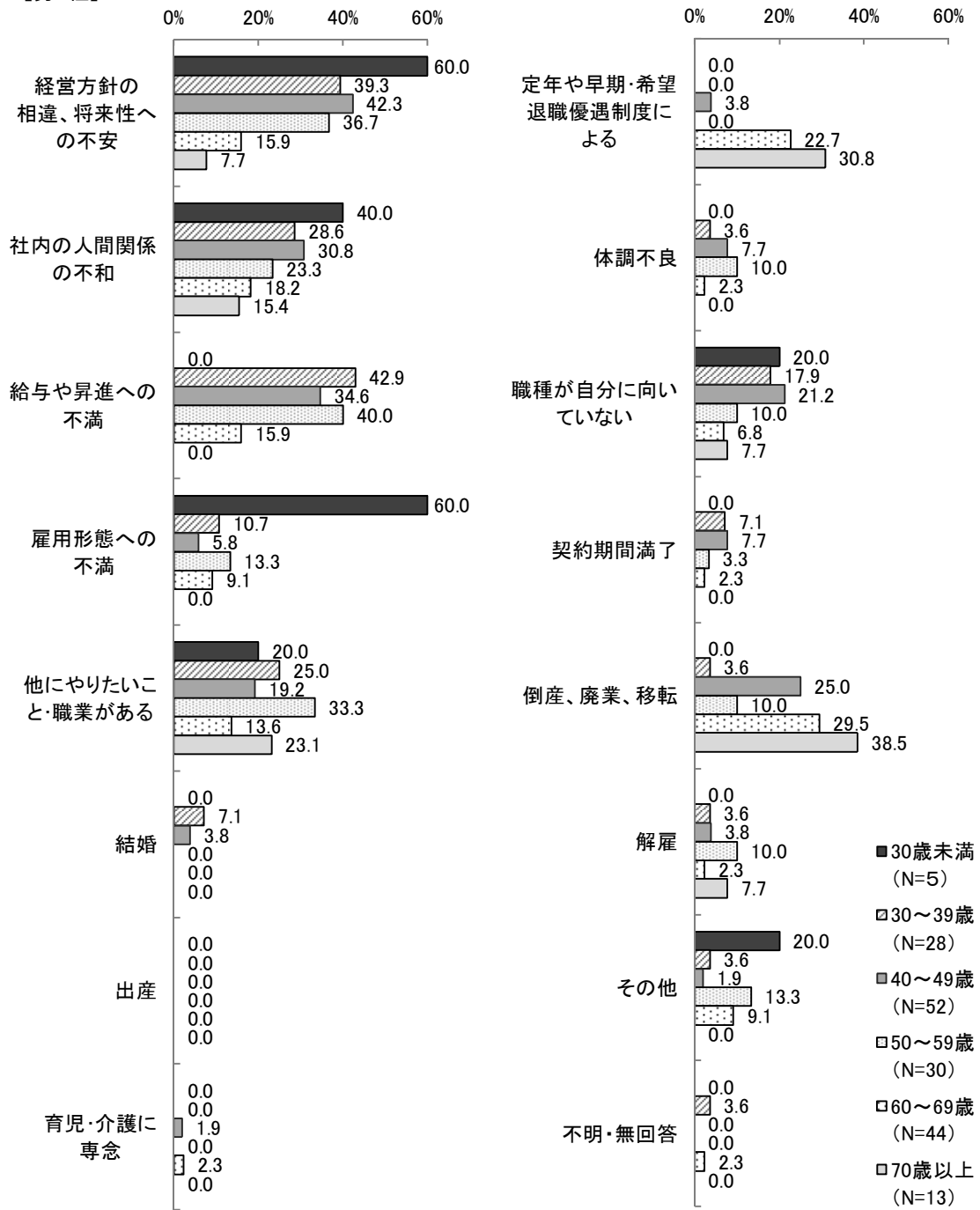


性別・年齢別

【女 性】

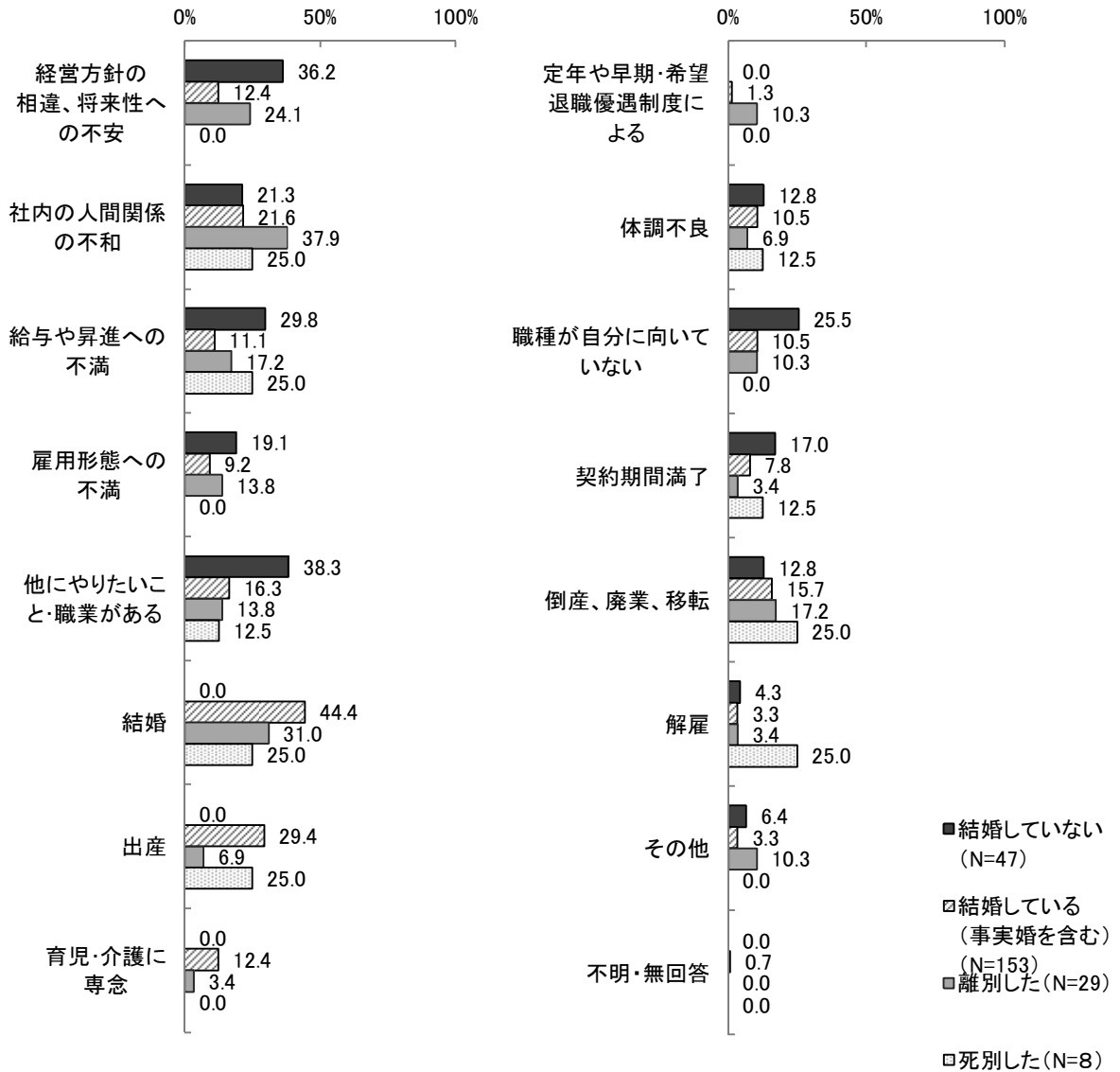


【男 性】

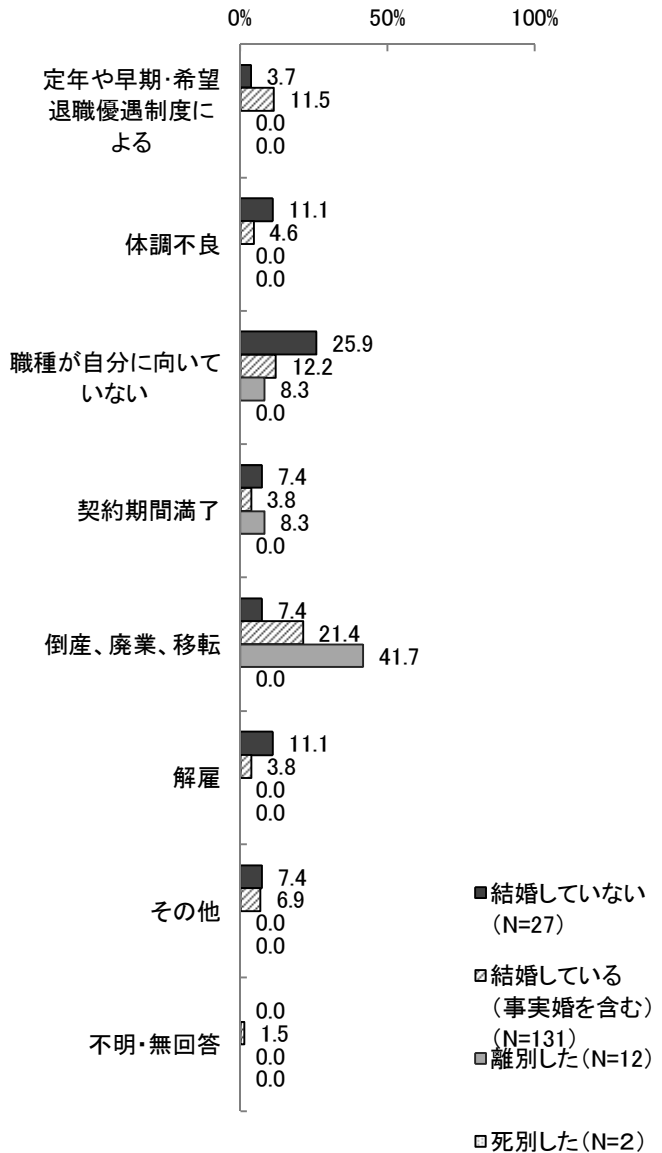
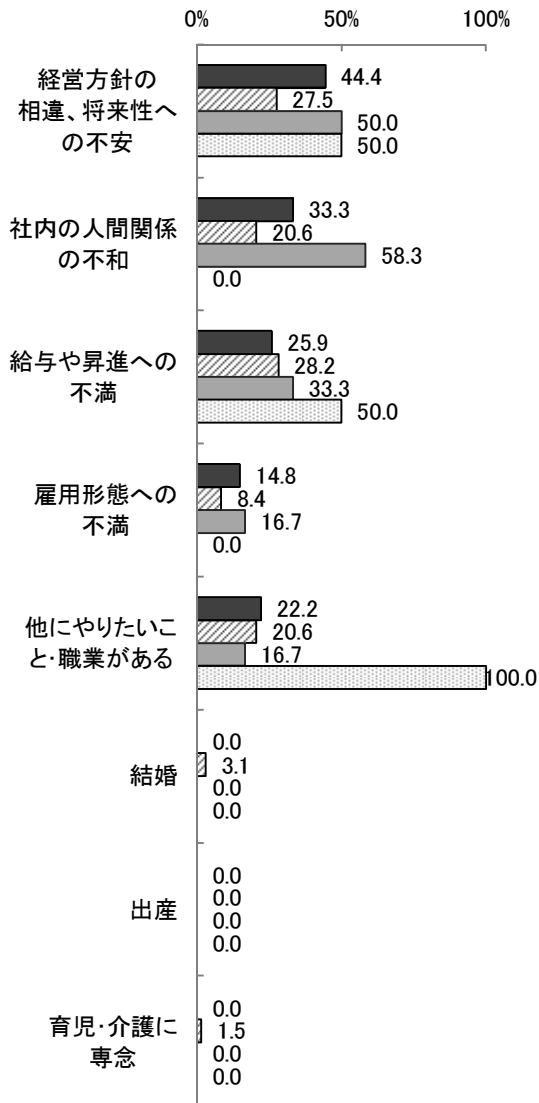


性別・結婚の有無別(問3)

【女 性】



【男 性】



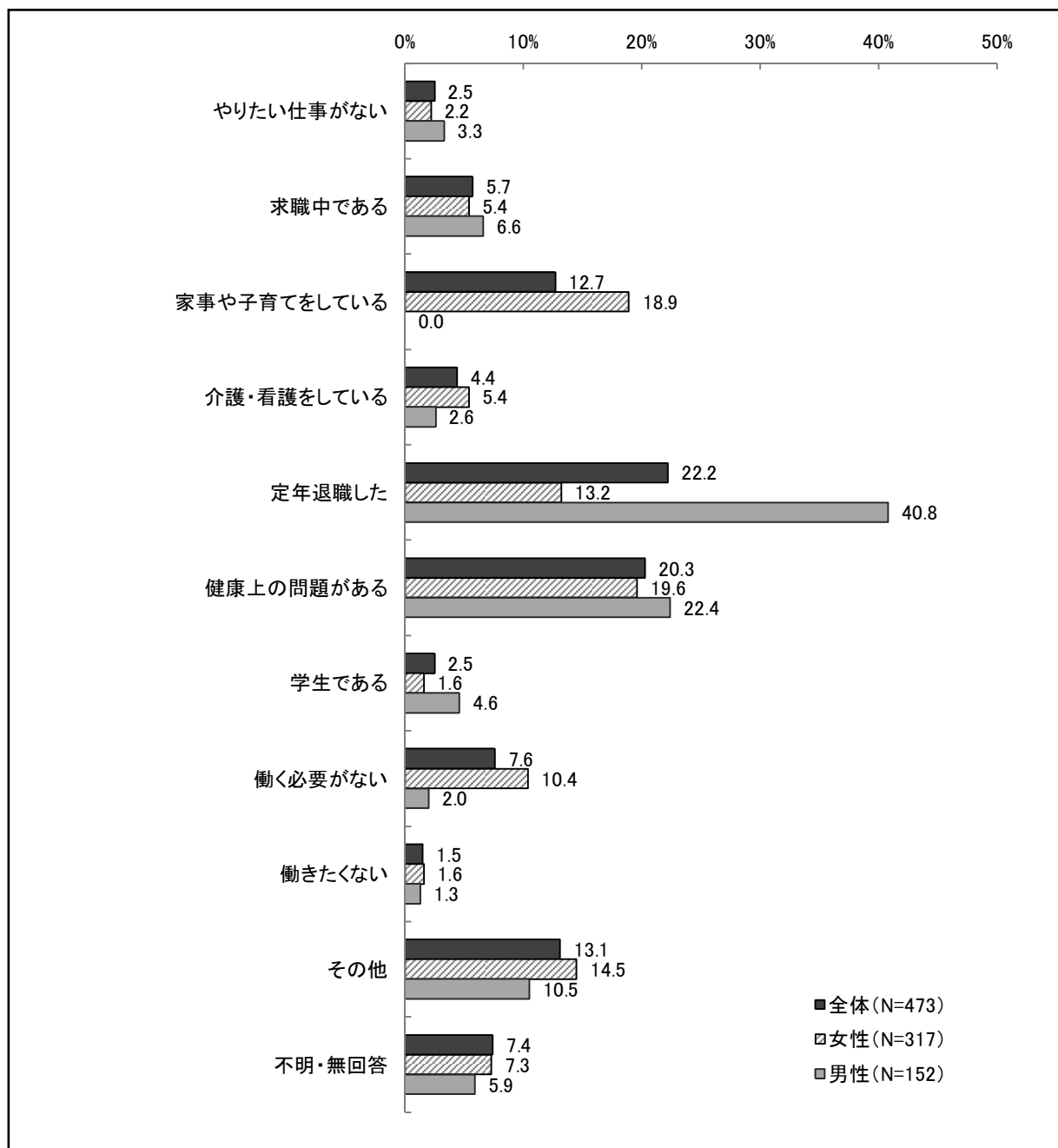
問6で、現在あなた自身が「仕事はしていない」と回答された方

問13 あなたが仕事をしていないのはどうしてですか。(〇は1つ)

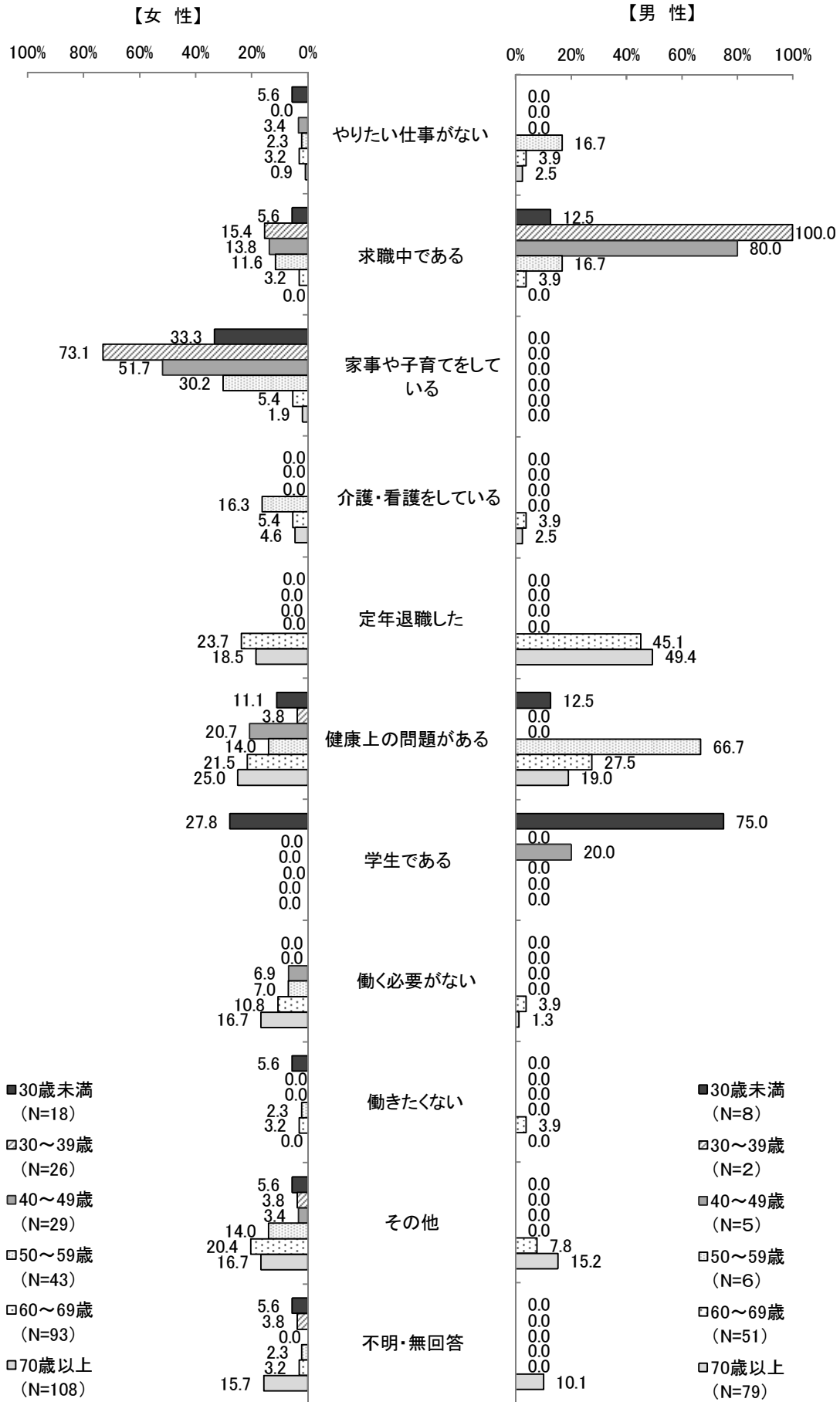
■男性では「定年退職した」が40.8%、「健康上の問題がある」が22.4%となっている。

「家事や子育てをしている」との理由は女性のみが回答している。

全体では、「定年退職した」に次いで「健康上の問題がある」が高くなっています。「定年退職した」では女性に比べ男性の方が、「家事や子育てをしている」では男性に比べ女性の方がそれぞれ特に高くなっており、「家事や子育てをしている」について男性の回答はありませんでした。



性別・年齢別



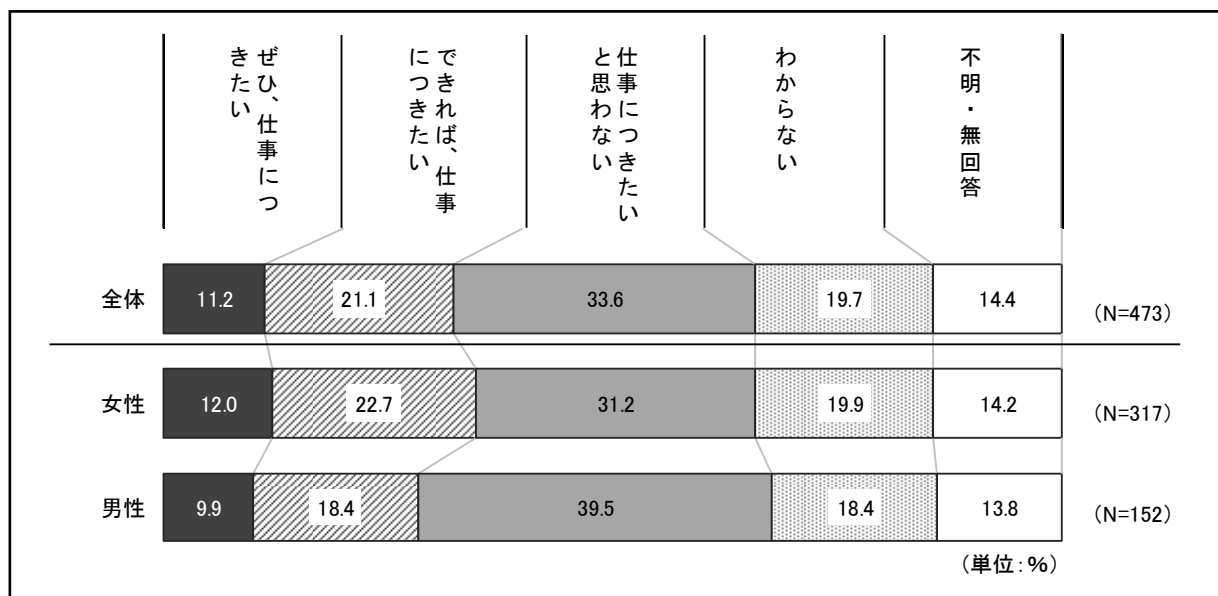
問6で、現在あなた自身が「仕事はしていない」と回答された方

問14 あなたは、今後、収入を得る仕事につきたいと思いますか。(○は1つ)

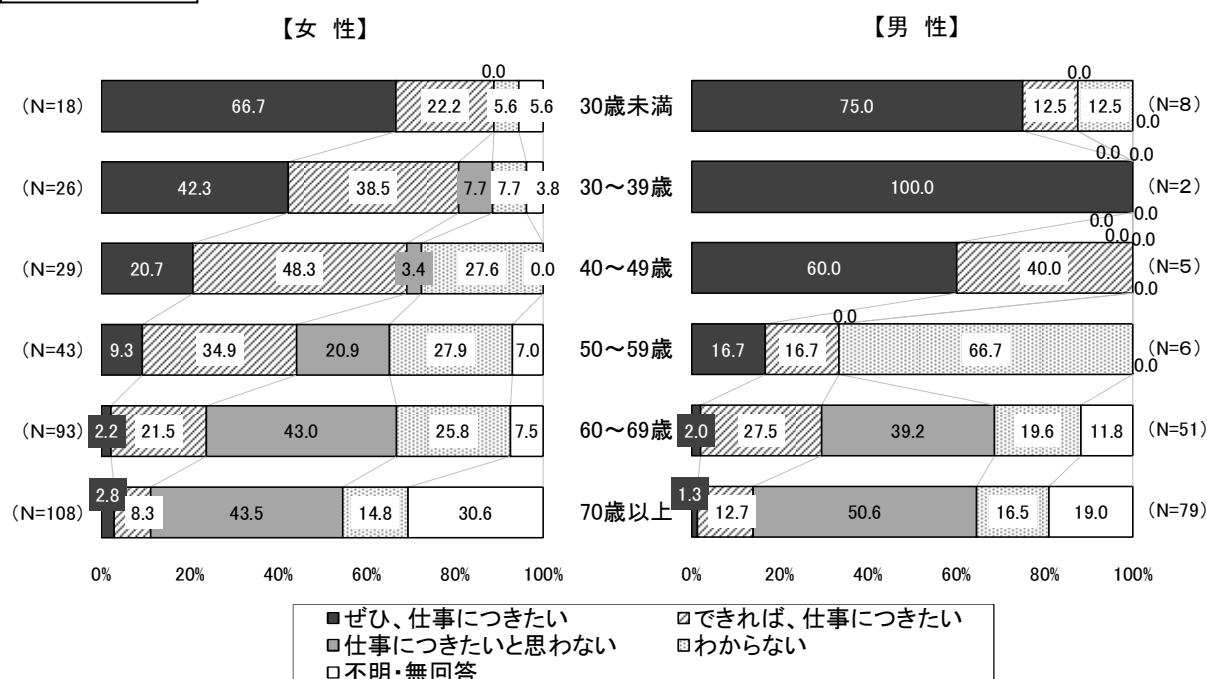
■女性の就労意向が男性に比べて高い。

全体では、[仕事につきたい] (「ぜひ、仕事につきたい」と「できれば、仕事につきたい」の合計) は32.3%となっており、女性は34.7%、男性は28.3%と女性の方が高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢が若い方が[仕事につきたい] が高い傾向にあり、特に男性の50歳未満では「ぜひ、仕事につきたい」が6割以上と就労意向が高くなっています。



性別・年齢別



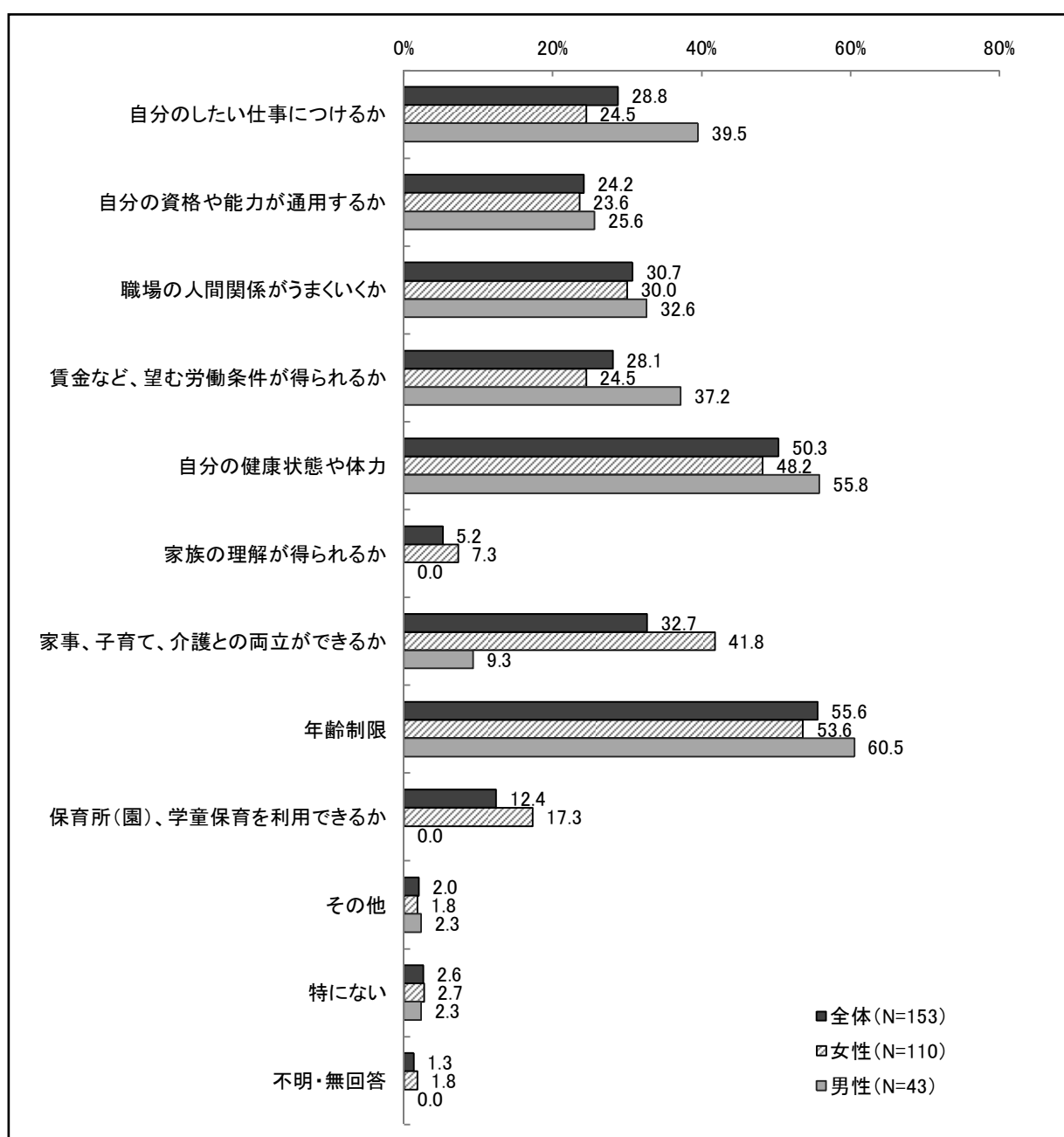
問 14 で「ぜひ、仕事につきたい」もしくは「できれば仕事につきたい」と回答された方
 問 14-1 あなたは、今後、仕事につく上で何か困ったことや不安がありますか。
 (〇はいくつでも)

■今後、仕事につく上で「年齢制限」「自分の健康状態や体力」に不安を感じている人が多い。

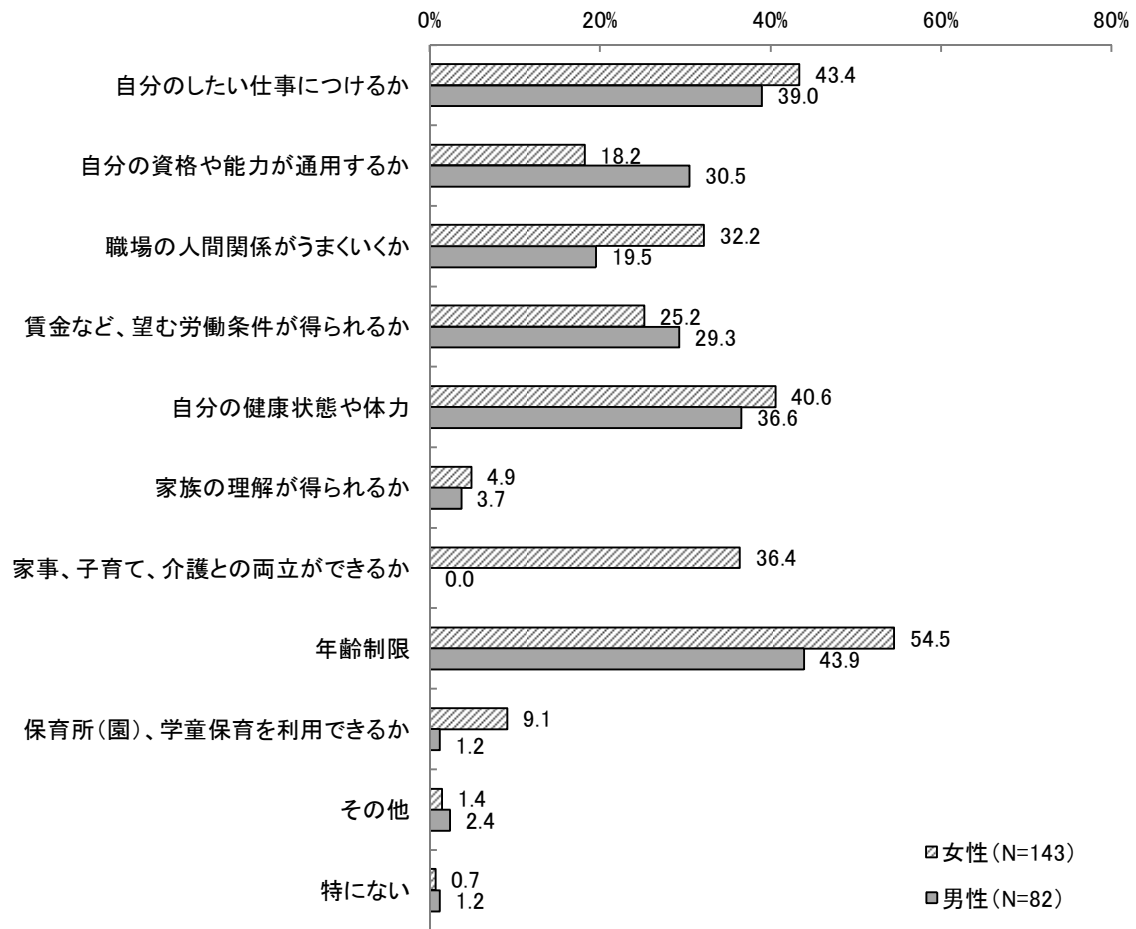
「家事、子育て、介護との両立ができるか」という不安は男女ともに前回調査より増加している。

全体、男女ともに「年齢制限」に次いで「自分の健康状態や体力」が高くなっています。「自分のしたい仕事につけるか」では女性に比べ男性の方が、また「家事、子育て、介護との両立ができるか」では男性に比べ女性の方がそれぞれ特に高くなっています。

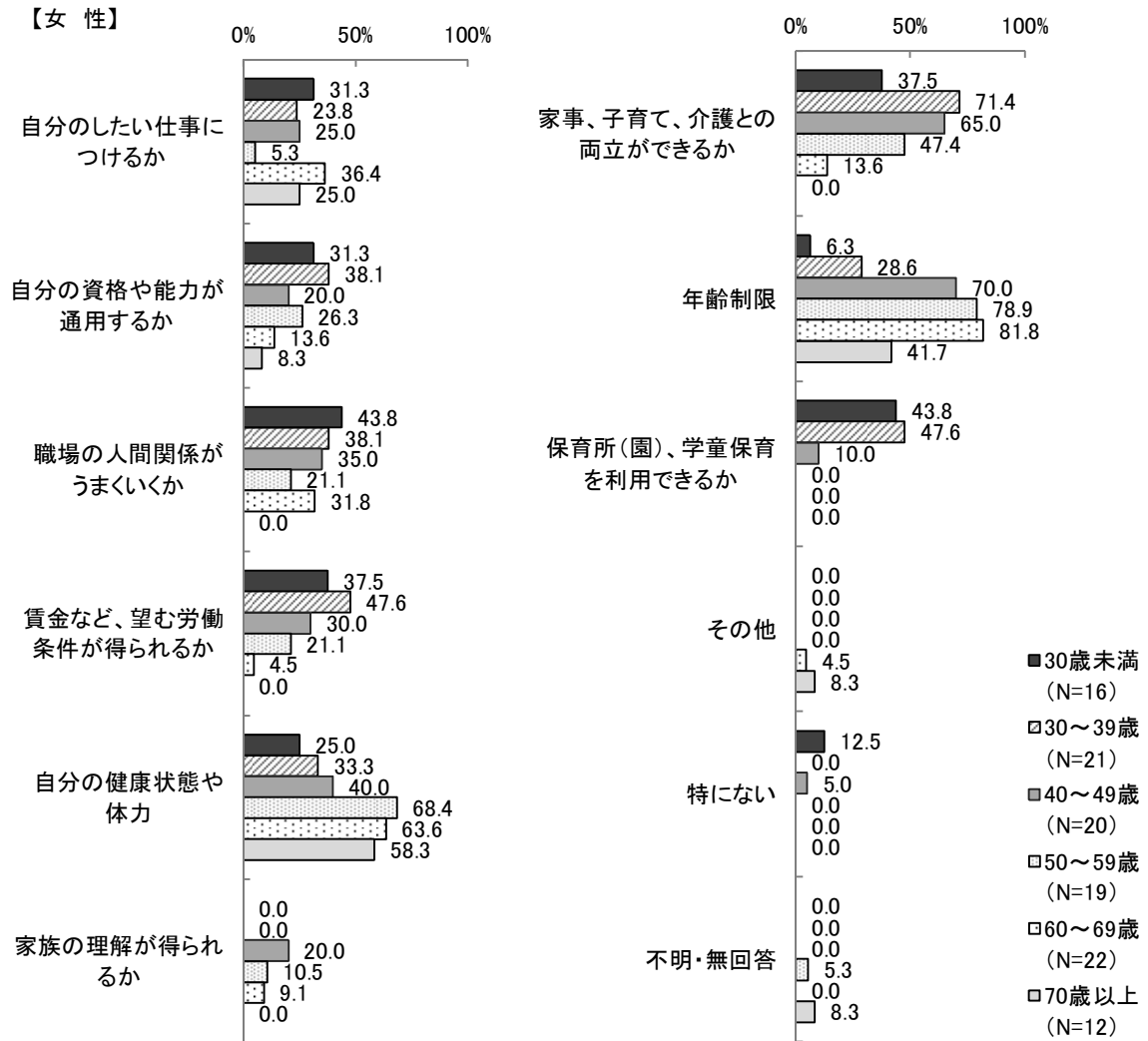
前回調査をみると、男女ともに上位は「年齢制限」ですが、前回調査では第2位は「自分のしたい仕事につけるか」となっており、今回調査では年齢や健康に関する不安要素がより高くなっています。また、「家事、子育て、介護との両立ができるか」は男女ともに今回調査の方が、割合が高くなっています。



前回調査(平成 21 年度)



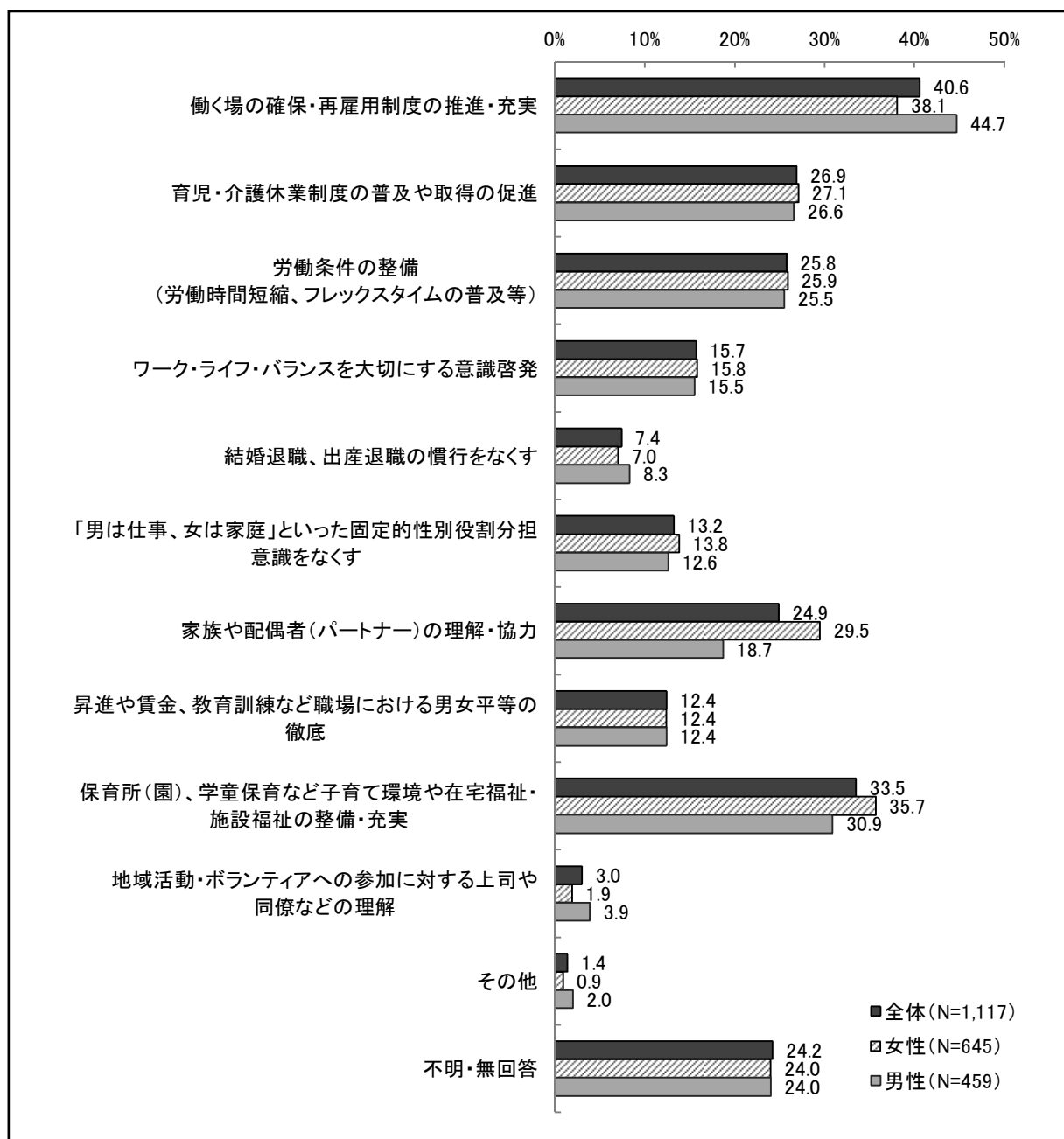
女性・年齢別



問 15 今後、男女がともに仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるもの3つまでに○）

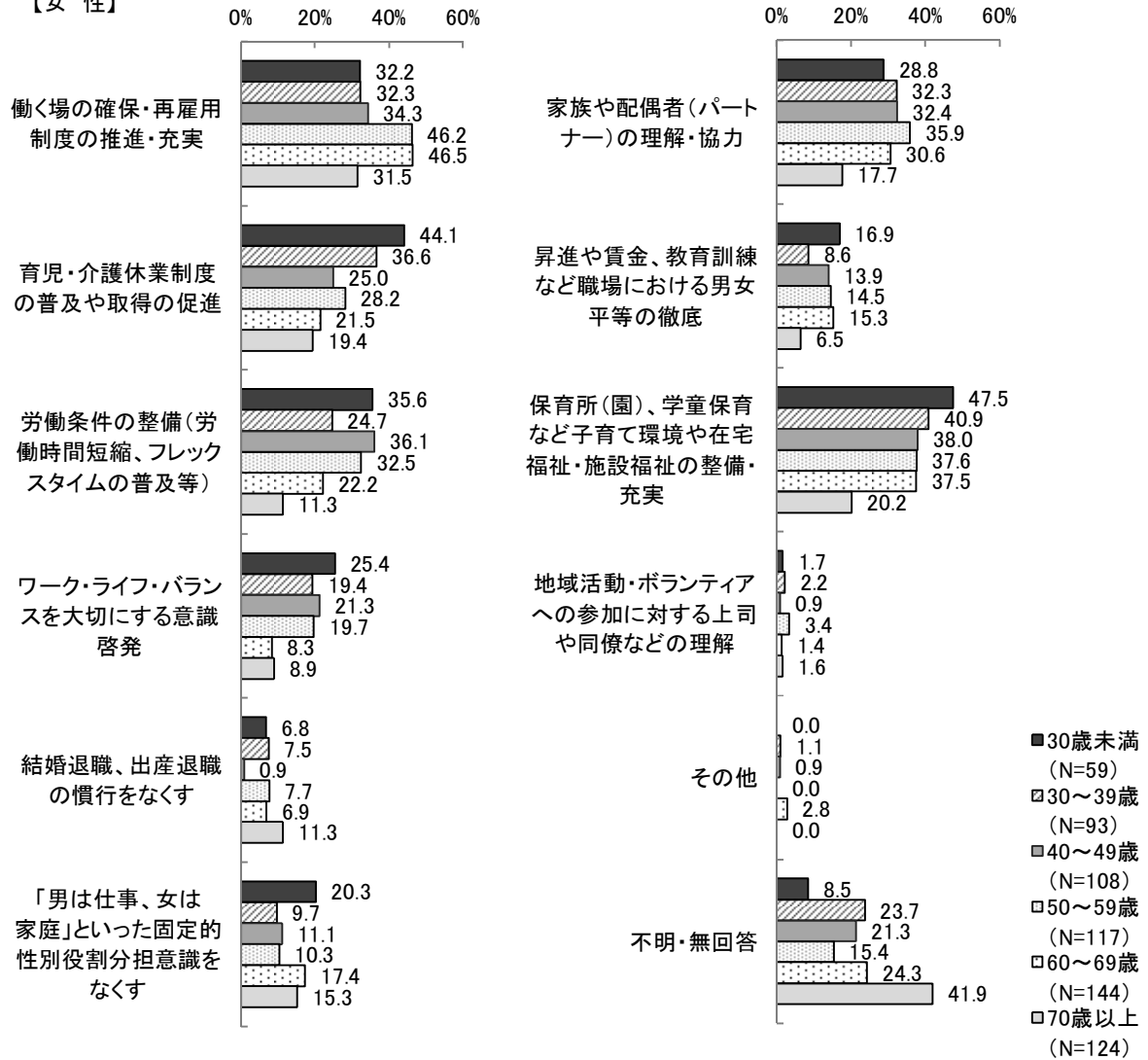
■仕事と生活の調和を図るため、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が特に求められている。

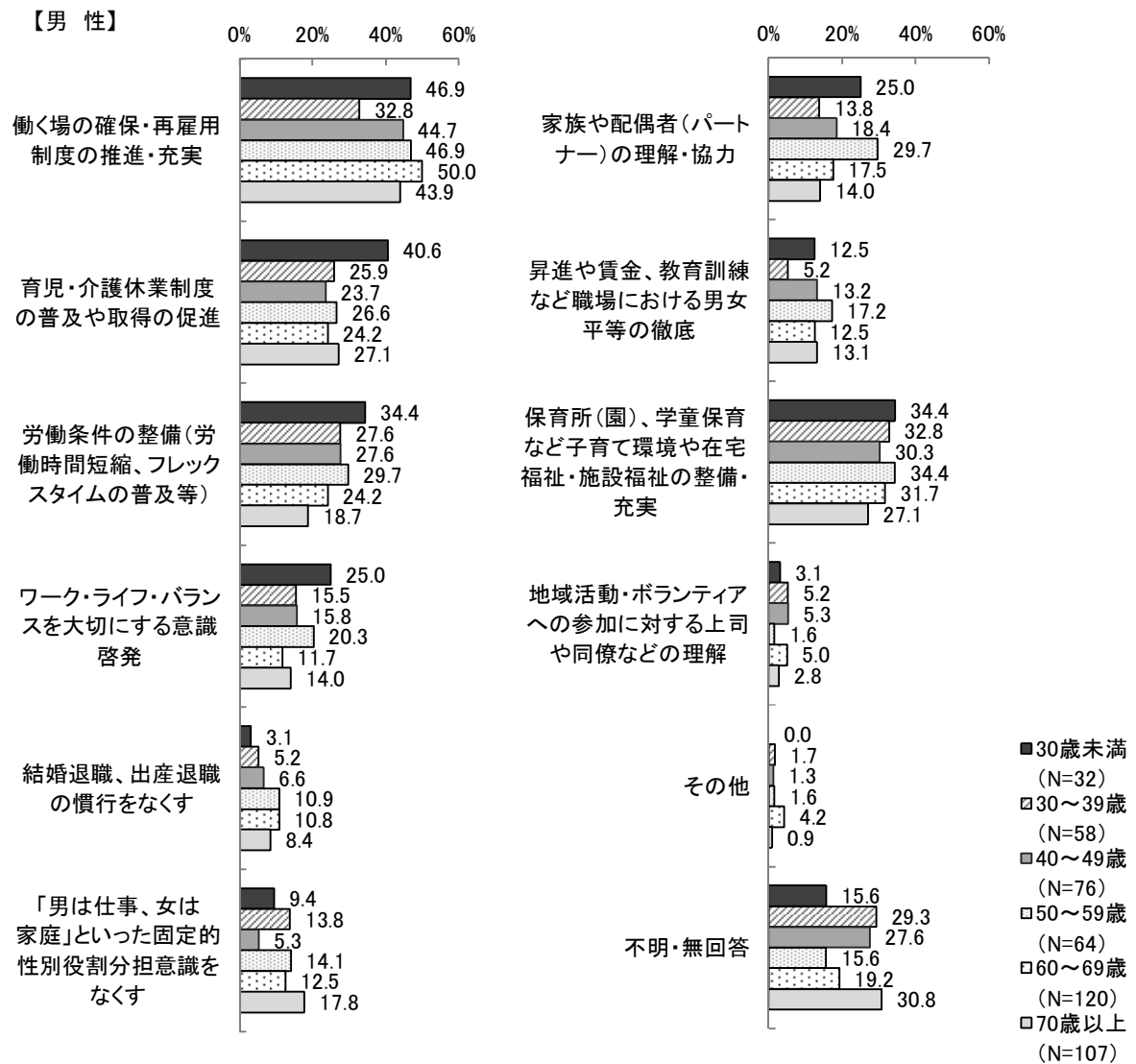
全体、男女ともに「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」次いで「保育所（園）、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実」が高くなっています。また、「家族や配偶者（パートナー）の理解・協力」では男性より女性で、「働く場の確保・再雇用制度の推進・充実」では女性より男性で高くなっており、他の項目より差がやや大きくなっています。



性別・年齢別

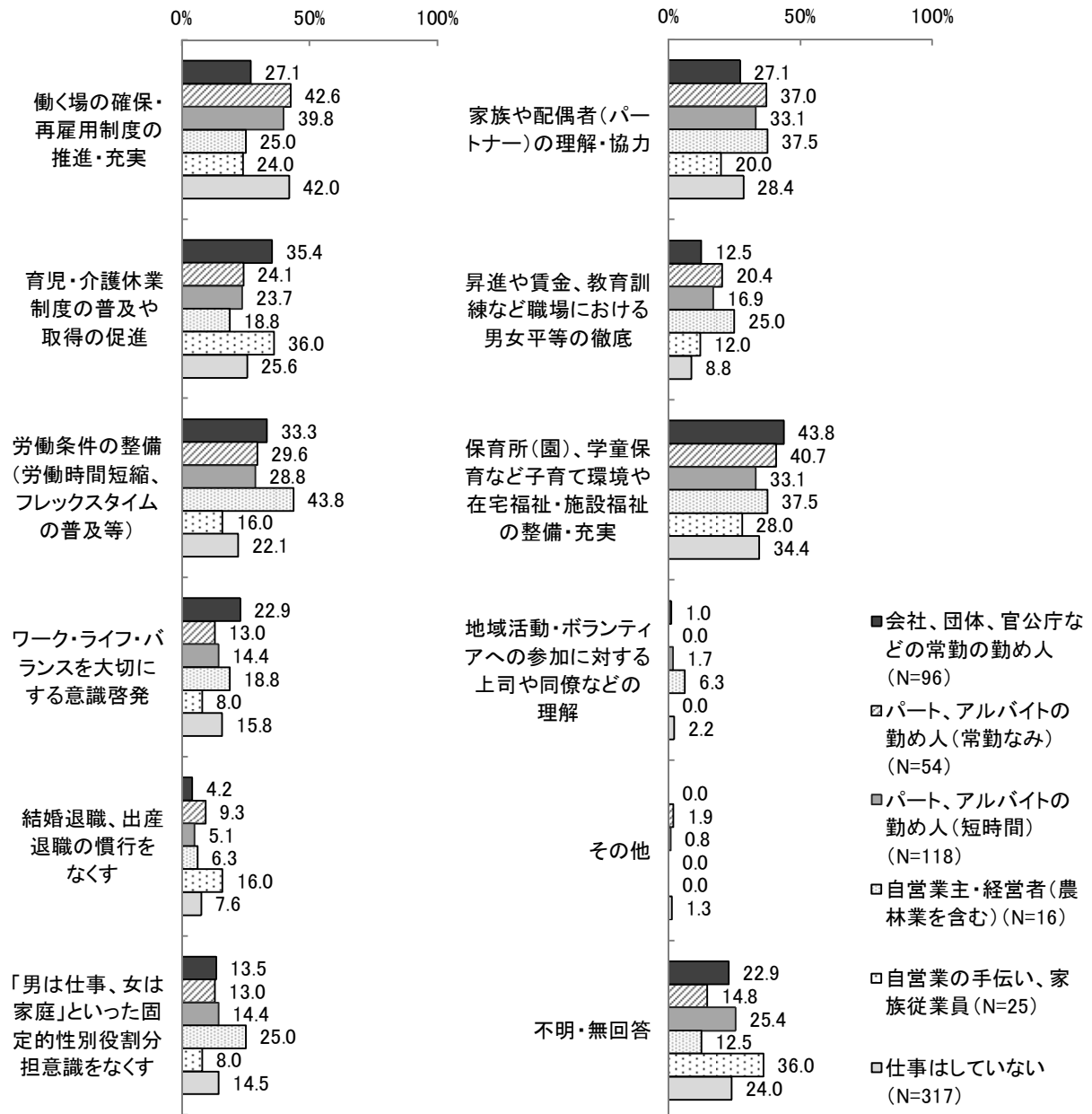
【女 性】



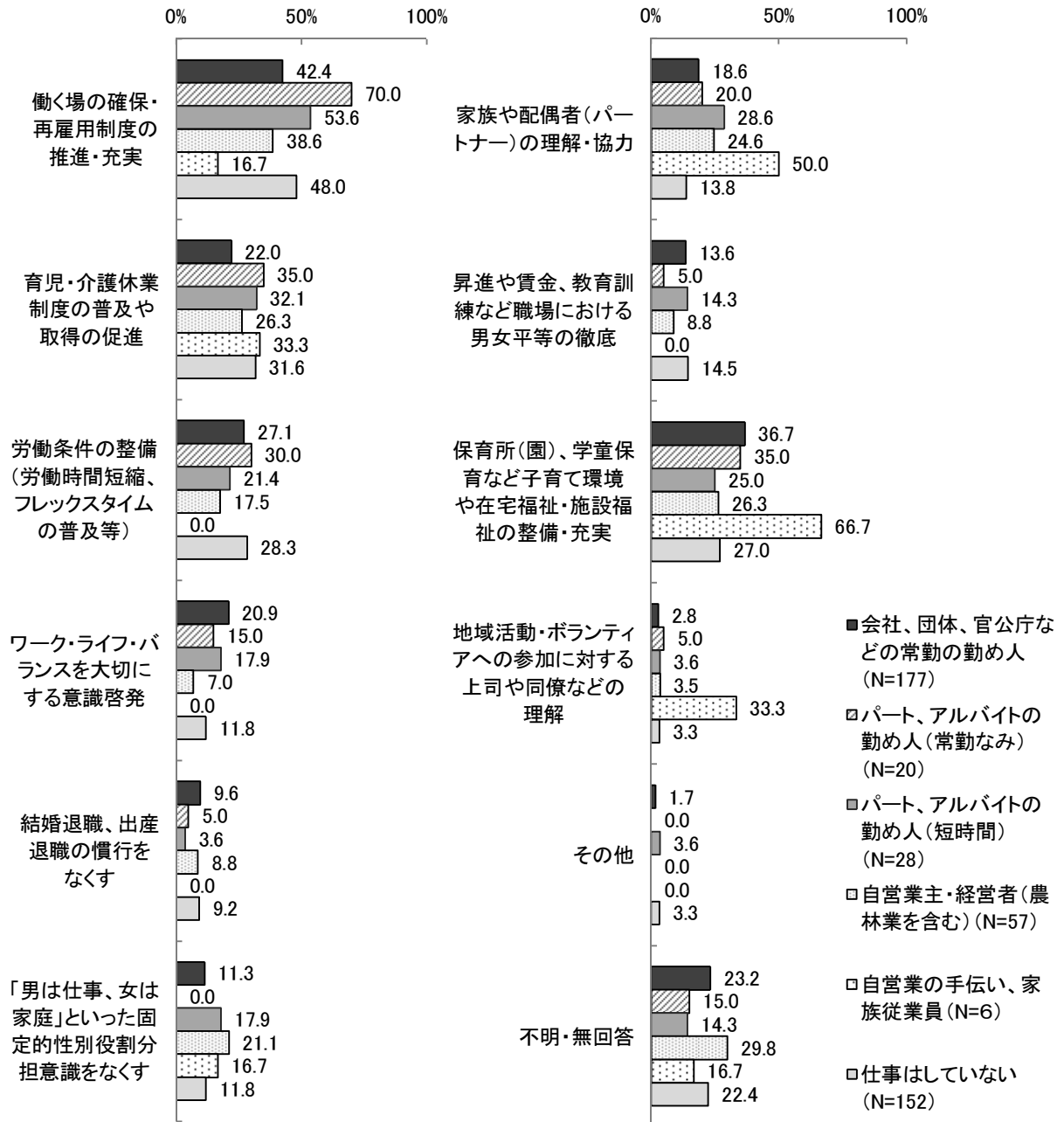


性別・就業形態別

【女 性】



【男 性】



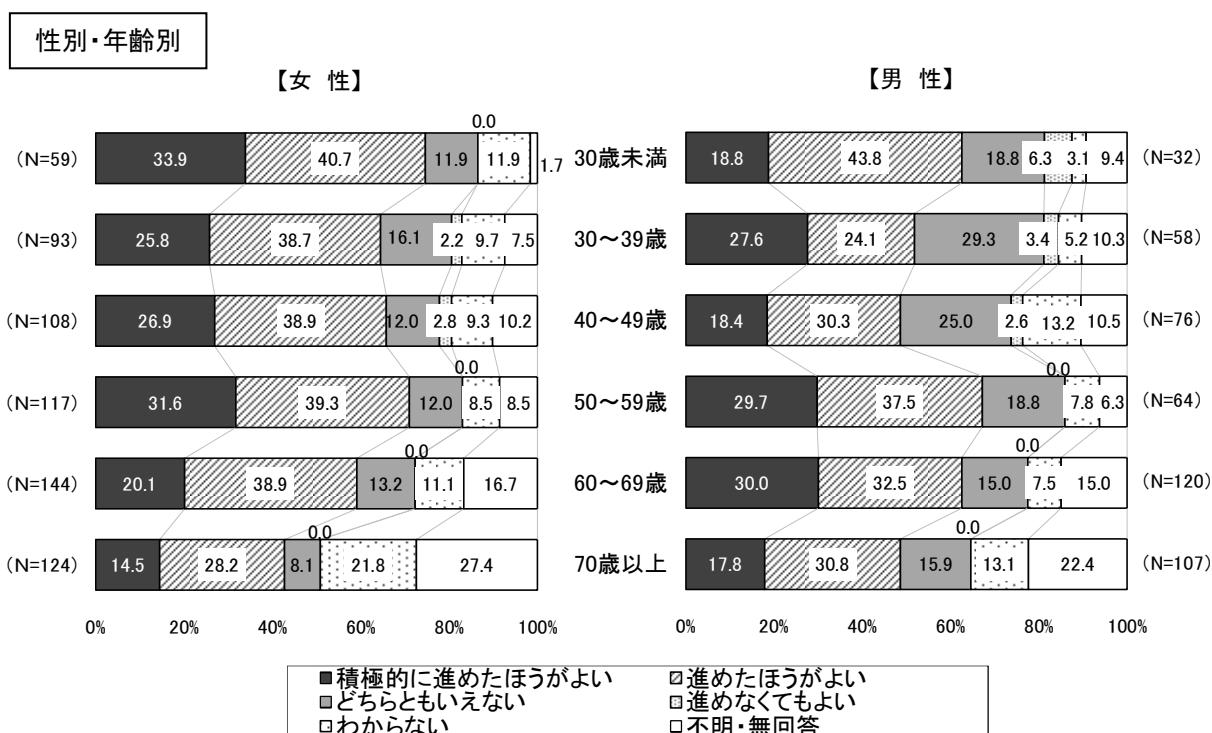
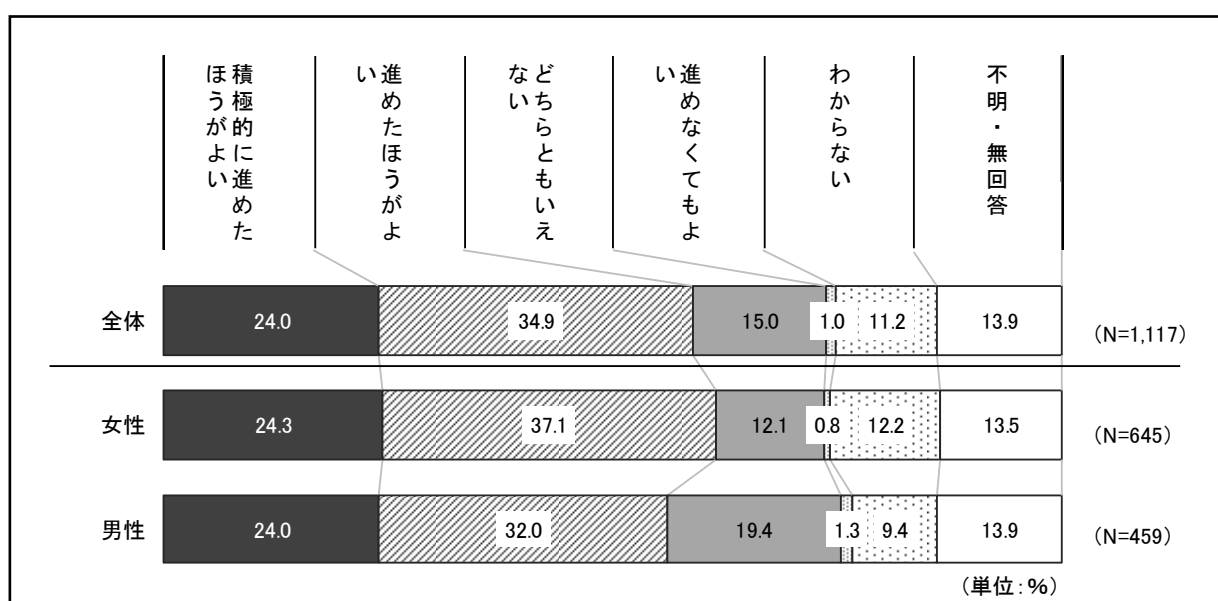
問 16 雇用において性別、価値観、ライフスタイル、セクシュアル・マイノリティ、障害等の多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする考え方をダイバーシティといいます。あなたはこの考え方を推進することをどう思いますか。
(○は1つ)

■全体では「進めたほうがよい」が約6割となっている。

全体では「わからない」が11.2%、「不明・無回答」が13.9%と、ダイバーシティの推進について4分の1の人の考え方が示されていない。

全体では、「進めたほうがよい」(「積極的に進めたほうがよい」と「進めたほうがよい」の合計)は58.9%となっており、女性は61.4%、男性は56.0%となっています。また、「わからない」は全体では11.2%となっています。

性別・年齢別にみると、「進めなくてもよい」割合は、50歳以上では0.0%となっていますが、「わからない」「不明・無回答」の合計は年代が上がるほど高くなっています。



2. 日常生活や子育てについて

問 17 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。
 感じたままをお答えください。(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

■子育てや家庭の経済面に関する固定的な性別役割分担意識は強い。

育児や介護、管理職については「どちらともいえないと思う」の割合が高い。

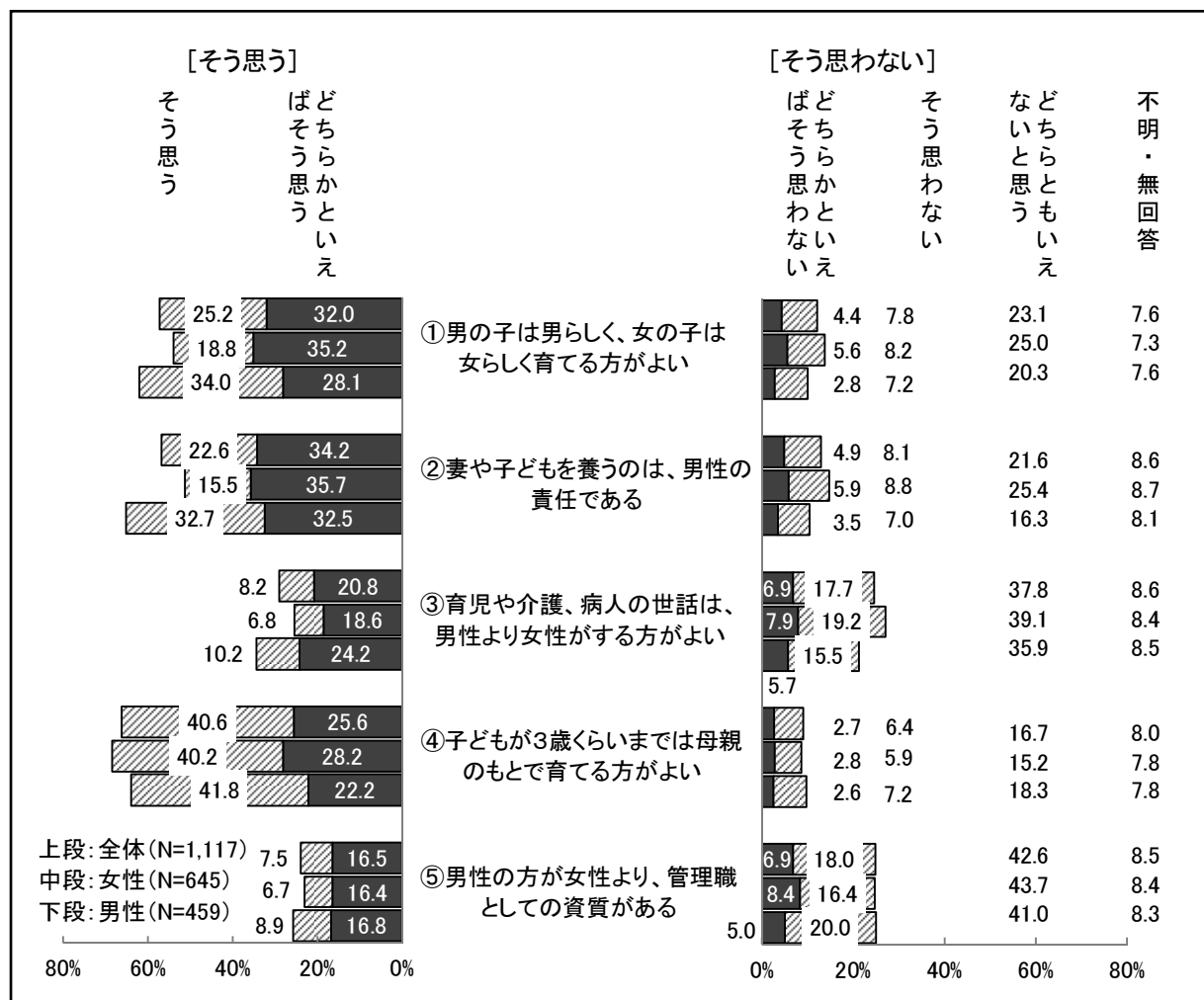
全体、男女ともに『①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』『②妻や子どもを養うのは、男性の責任である』『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では「[そう思う]」の方が「[そう思わない]」より高くなっています。また、『⑤男性の方が女性より、管理職としての資質がある』については、男女ともに「どちらともいえないと思う」が高くなっています。

性別・年齢別の「[そう思う]」の状況みると、『①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい』『③育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい』『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では男女ともに50～59歳の割合が高くなっています。また、『④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい』では30歳未満で男性に比べ女性の方が41.6ポイント高くなっています。

選択肢は以下のように分類しています。

「[そう思う]」 … 「[そう思う]」と「どちらかといえば[そう思う]」の合計

「[そう思わない]」 … 「[そう思わない]」と「どちらかといえば[そう思わない]」の合計

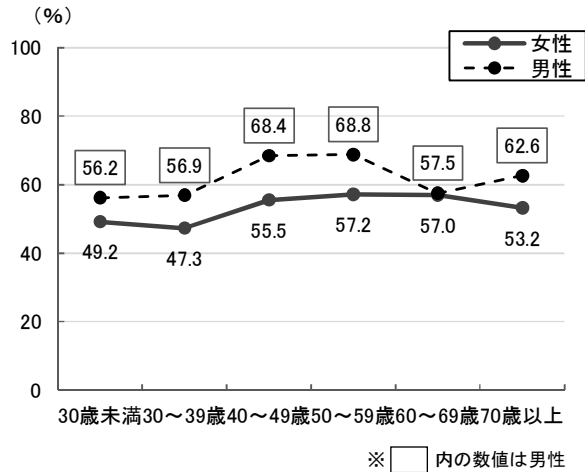


性別・年齢別

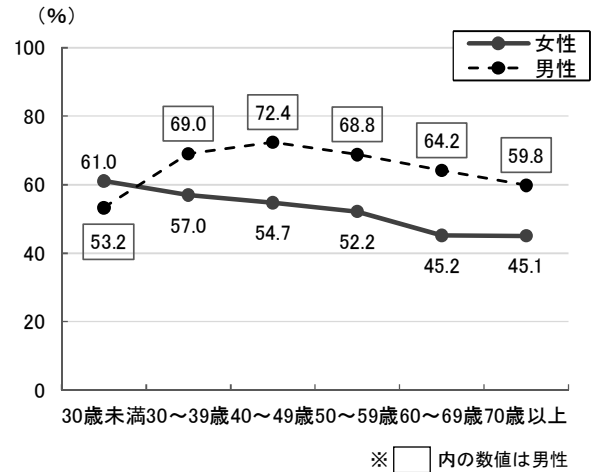
◆ [そう思う]

(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)

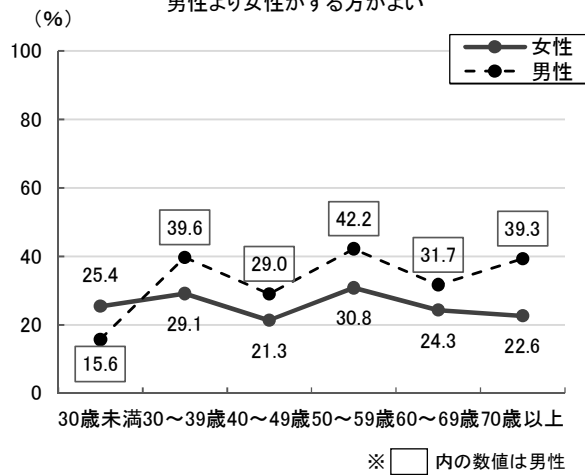
①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい



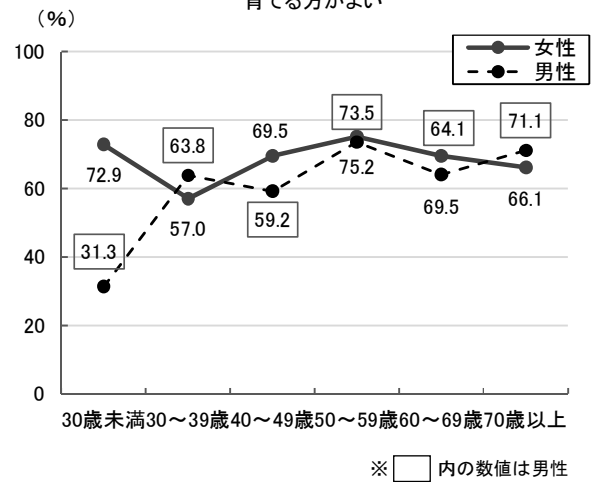
②妻や子どもを養うのは、男性の責任である



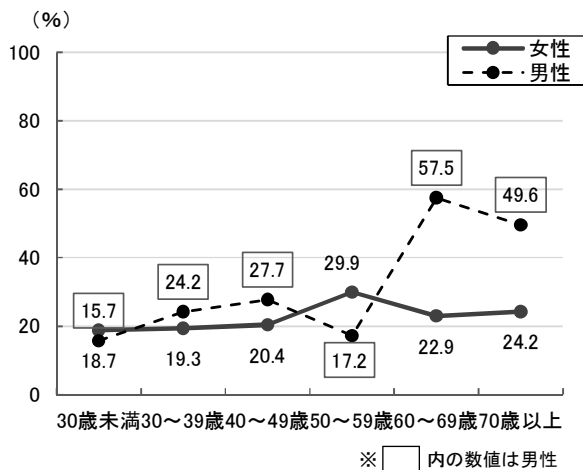
③育児や介護、病人の世話は、男性より女性がする方がよい



④子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい



⑤男性の方が女性より、管理職としての資質がある



問 18 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。

①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

■「家事・育児・介護など」は女性の方が長く、「仕事・通勤あるいは学業・通学」は男性の方が長く、時間差が大きい。

「家事・育児・介護など」は女性で約5時間、男性で2時間となっており、女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と特に長い。

全体で過ごしている時間の長さをみると、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」「①睡眠」「⑤余暇、自由時間」の順となっています。「④家事・育児・介護など」以外のすべての項目で女性より男性で時間が長くなっています。また、男女で時間に差があるものをみると、「④家事・育児・介護など」では女性の方が3時間16分長く、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」では男性の方が2時間19分長くなっています。

前回調査と今回調査で傾向に変化はありませんが、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」「④家事・育児・介護など」は男女ともに、やや短くなっています。

性別・年齢別にみると、「③仕事・通勤あるいは学業・通学」では女性は30歳未満が最も長く年代が上がるほど短くなっており、男性では30～39歳が最も長く40歳以降は年代が上がるほど短くなっています。一方、「④家事・育児・介護など」は、男性ではすべての年代で1時間から2時間程度であるのに対し、女性では4時間から6時間程度と長く、特に女性の30歳以上50歳未満で6時間以上と長くなっています。

	全 体	女 性	男 性
① 睡眠	7時間5分	6時間58分	7時間16分
② 食事、入浴など	2時間34分	2時間6分	2時間17分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	8時間3分	7時間1分	9時間20分
④ 家事・育児・介護など	4時間4分	5時間9分	1時間53分
⑤ 余暇、自由時間	5時間7分	5時間15分	5時間50分
⑥ その他	4時間5分	3時間49分	4時間36分

※この項目の数字は、項目ごとに回答者1人ひとりの時間平均値を出したため、合計すると24時間を超えていることを考慮する必要がある。

前回調査(平成21年度)

	女 性	男 性
① 睡眠	6時間30分	6時間48分
② 食事、入浴など	2時間12分	1時間54分
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学	7時間54分	9時間30分
④ 家事・育児・介護など	5時間24分	2時間12分
⑤ 余暇、自由時間	4時間48分	6時間0分
⑥ その他	3時間36分	4時間30分

性別・年齢別

		対象者数 (人)	睡眠	食事、 入浴など	学 仕事 業・事・通 勤ある いは	家 事・育 児・介 護	余 暇、自 由時間	そ の 他
女 性	30歳未満	59	6時間47分	2時間21分	8時間53分	4時間45分	4時間59分	4時間23分
	30～39歳	93	7時間12分	2時間3分	7時間25分	6時間15分	3時間9分	3時間23分
	40～49歳	108	6時間25分	1時間32分	7時間19分	6時間12分	3時間47分	3時間25分
	50～59歳	117	6時間41分	2時間1分	7時間2分	5時間7分	4時間46分	4時間3分
	60～69歳	144	6時間56分	2時間26分	6時間12分	4時間36分	6時間18分	3時間37分
	70歳以上	124	7時間7分	2時間17分	5時間8分	4時間16分	7時間0分	3時間58分
男 性	30歳未満	32	6時間37分	2時間5分	9時間3分	1時間12分	4時間58分	5時間32分
	30～39歳	58	6時間44分	1時間57分	11時間25分	2時間4分	4時間1分	2時間33分
	40～49歳	76	6時間40分	2時間17分	10時間33分	1時間32分	4時間6分	6時間18分
	50～59歳	64	7時間4分	2時間17分	10時間23分	1時間24分	4時間13分	4時間27分
	60～69歳	120	7時間29分	2時間25分	8時間3分	2時間17分	7時間19分	4時間24分
	70歳以上	107	7時間32分	2時間27分	6時間3分	2時間22分	8時間43分	3時間59分

問 19 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

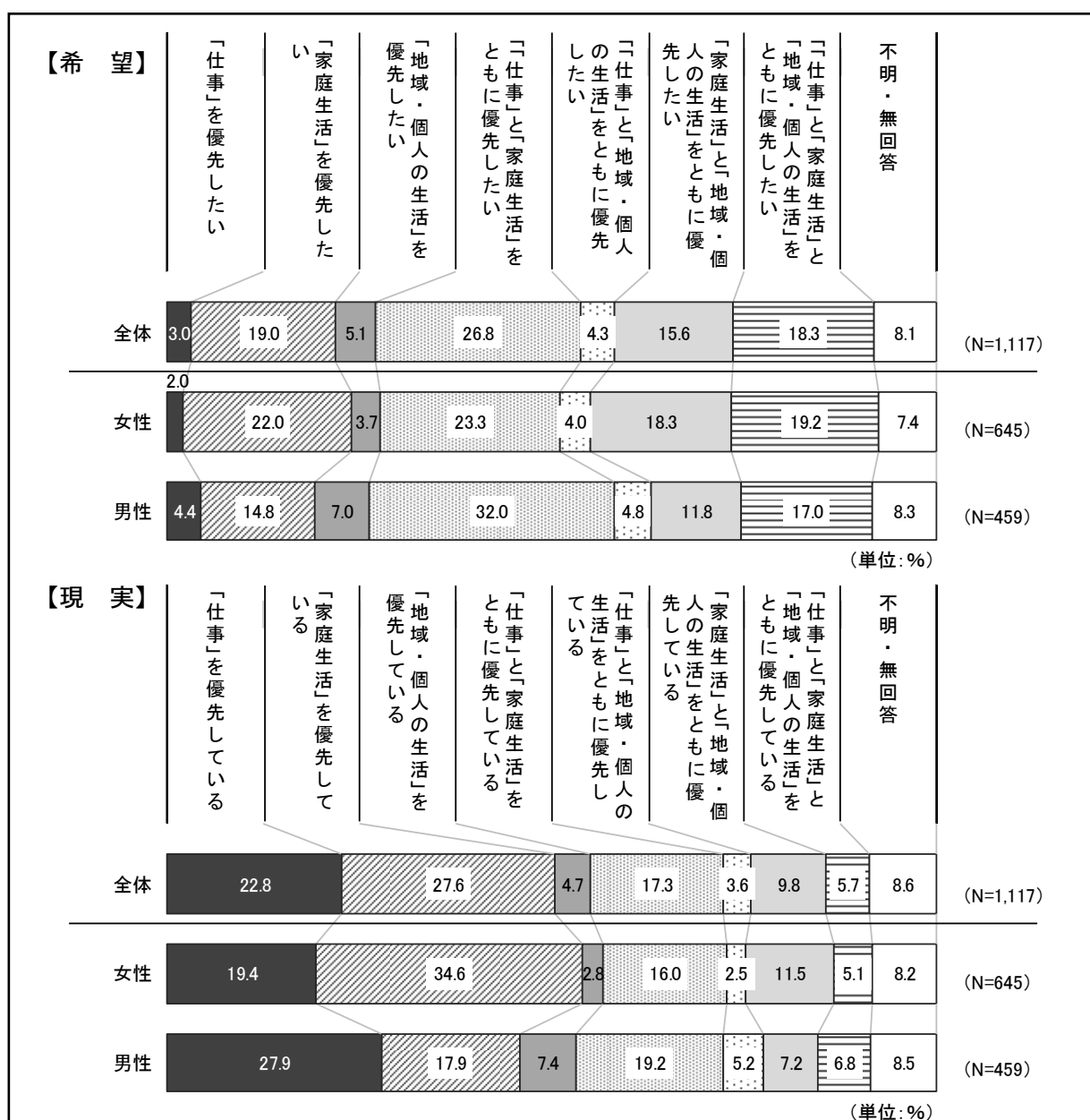
問 20 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

■希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が現実では、女性は家庭生活、男性は仕事をそれぞれ優先している。

男女ともに、希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が高くなっていますが、現実では女性は「家庭生活」を優先している」が、男性は「仕事」を優先している」がそれぞれ高くなっています。

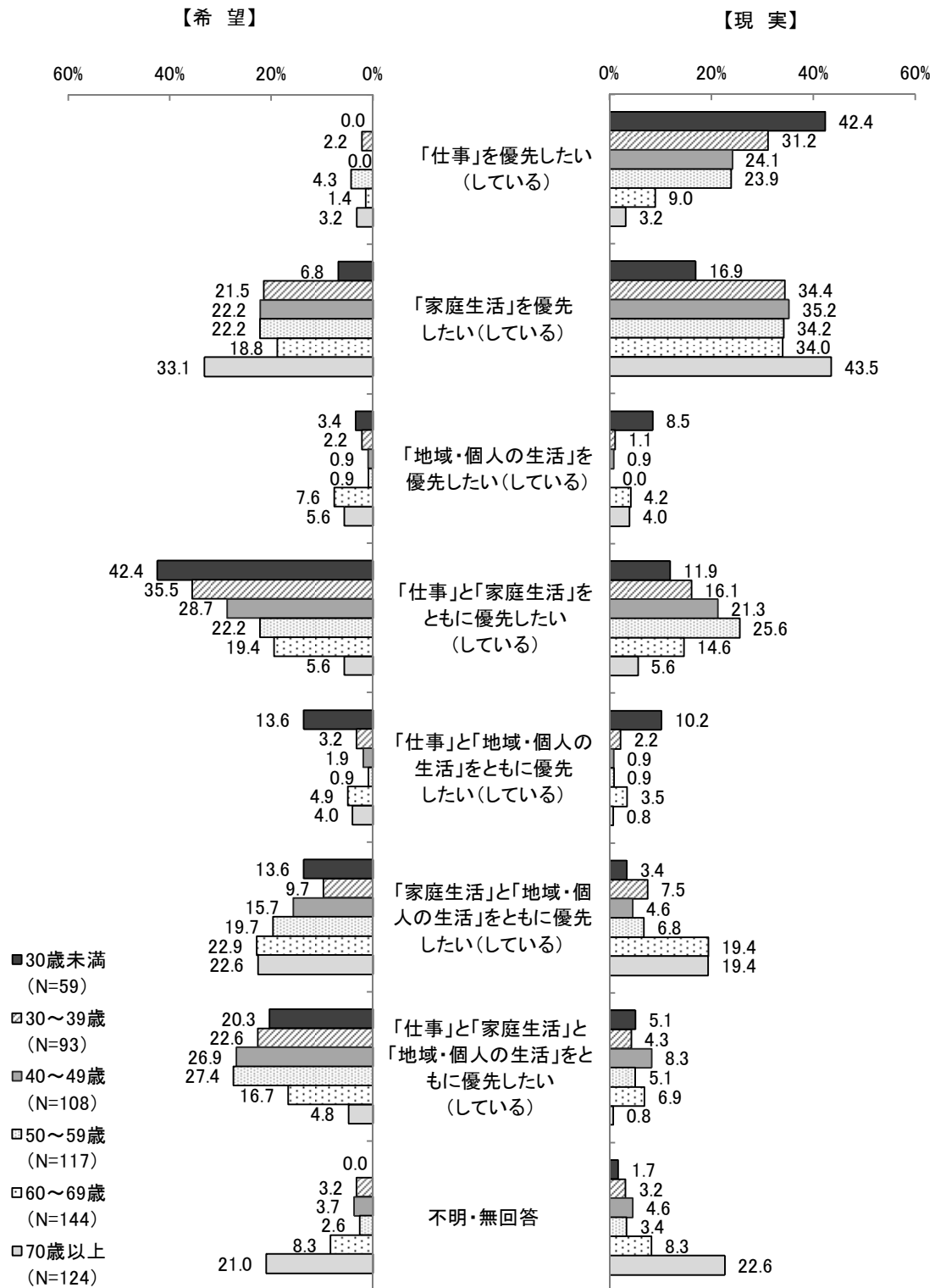
性別・年齢別にみると、男女ともに70歳未満の各年代では、希望と現実の暮らし方にギャップが生じています。

希望と現実の相関関係をみると、希望と現実が合致している人は、すべての暮らし方で女性より男性の割合が高くなっています。

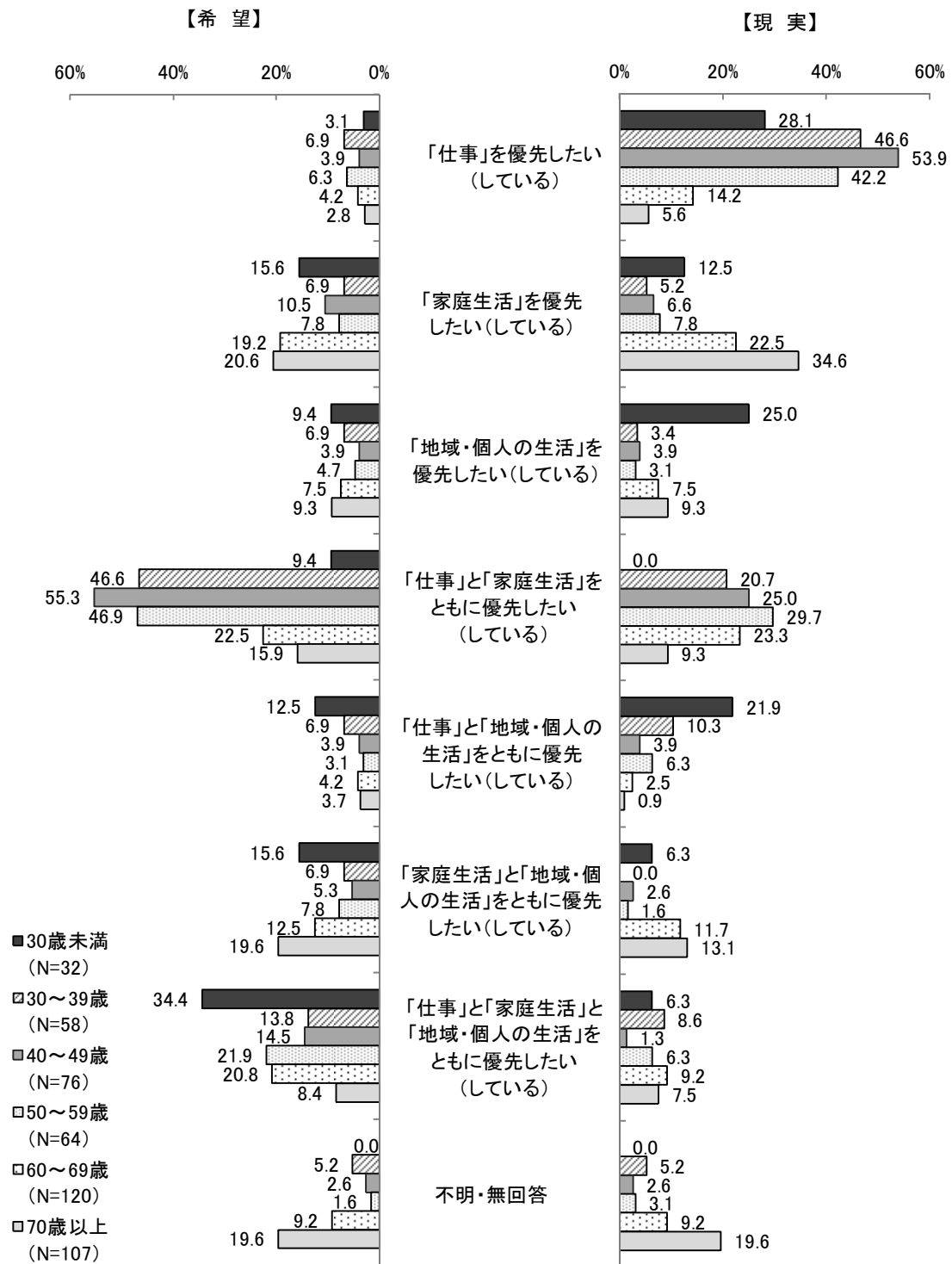


性別・年齢別

女性



男性



希望と現実の相関関係

		現 実							
		対象者数（人）	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
希 望	女 性	「仕事」を優先したい	13	46.2	30.8	0.0	0.0	0.0	7.7
		「家庭生活」を優先したい	142	15.5	69.0	0.7	12.0	0.0	0.0
		「地域・個人の生活」を優先したい	24	16.7	37.5	20.8	0.0	12.5	4.2
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	150	30.7	30.0	0.0	34.0	2.0	2.0
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	26	26.9	15.4	15.4	19.2	3.8	3.8
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	118	7.6	34.7	5.1	5.1	40.7	2.5
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	124	25.0	15.3	1.6	19.4	7.3	12.9
	男 性	「仕事」を優先したい	20	75.0	0.0	0.0	10.0	0.0	5.0
		「家庭生活」を優先したい	68	19.1	72.1	0.0	5.9	0.0	0.0
		「地域・個人の生活」を優先したい	32	12.5	12.5	62.5	3.1	6.3	0.0
		「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	147	47.6	6.1	0.0	42.9	0.0	1.4
		「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	22	9.1	4.5	27.3	13.6	36.4	0.0
		「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	54	16.7	24.1	7.4	3.7	1.9	42.6
		「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	78	19.2	5.1	3.8	16.7	16.7	7.7

(単位: %)

※太枠 ☒ 内の数値は理想と現実が一致している割合

問 21 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。

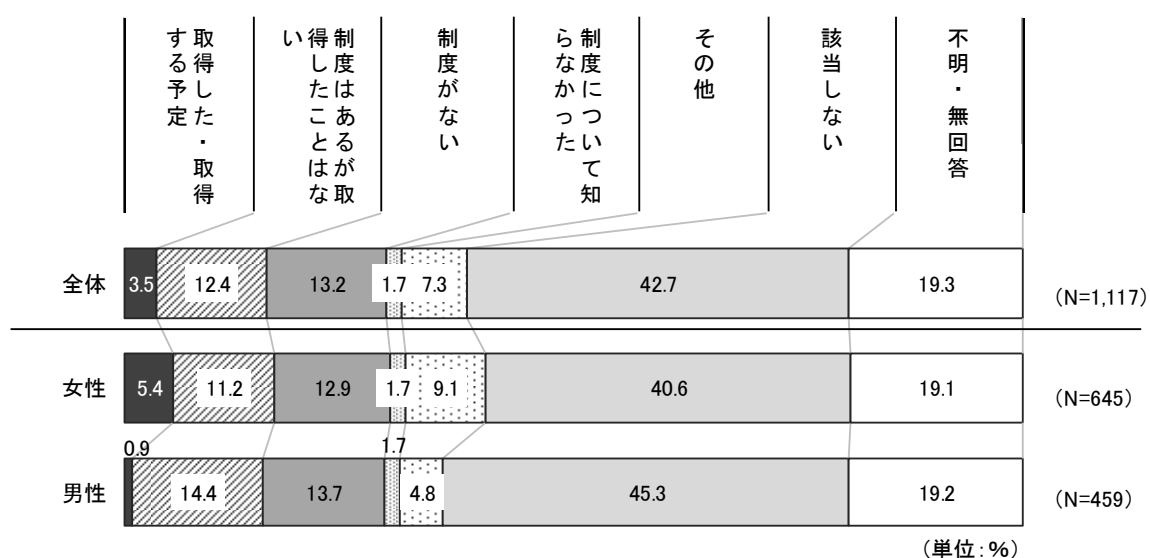
また、今後取得する予定がありますか。(①、②の項目ごとに○は1つずつ)

■育児休業、介護休業ともに男性より女性の取得者が多く、男性はわずかである。

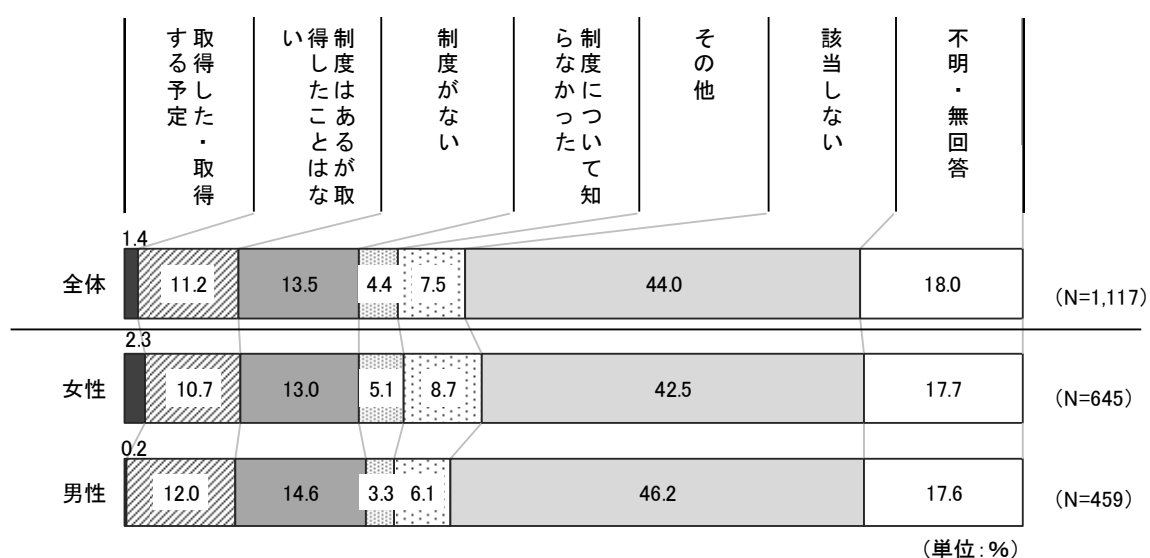
①育児休業について、「取得した・取得する予定」は女性で5.4%、男性で0.9%と女性の方が高くなっており、男性の取得はわずかです。性別・年齢別にみると、「取得した・取得する予定」の割合は男女ともに30～39歳で他の年代より高くなっています。

②介護休業について「取得した・取得する予定」は全体で1.4%と育児休業より取得率が低くなっており、女性で2.3%、男性で0.2%と女性の方が高くなっています。性別・年齢別にみると、「取得した・取得する予定」の割合は女性の50～59歳で他の年代より高くなっています。

【①育児休業】



【②介護休業】



性別・年齢別

【①育児休業】

		対象者数（人）	取得した・予定	取得したことがあるがはない	制度がない	制度について知らなかった	その他	該当しない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	8.5	13.6	5.1	0.0	8.5	64.4	0.0
	30～39歳	93	12.9	21.5	20.4	1.1	8.6	30.1	5.4
	40～49歳	108	7.4	17.6	21.3	0.0	12.0	33.3	8.3
	50～59歳	117	5.1	7.7	14.5	2.6	10.3	51.3	8.5
	60～69歳	144	2.1	7.6	9.7	2.1	13.2	45.8	19.4
	70歳以上	124	0.8	4.0	5.6	3.2	1.6	27.4	57.3
男性	30歳未満	32	0.0	3.1	9.4	0.0	0.0	81.3	6.3
	30～39歳	58	5.2	25.9	17.2	6.9	3.4	36.2	5.2
	40～49歳	76	1.3	26.3	17.1	2.6	3.9	44.7	3.9
	50～59歳	64	0.0	25.0	26.6	0.0	7.8	34.4	6.3
	60～69歳	120	0.0	7.5	9.2	1.7	5.8	55.8	20.0
	70歳以上	107	0.0	3.7	8.4	0.0	3.7	35.5	48.6

（単位：％）

【②介護休業】

		対象者数（人）	取得した・予定	取得したことがあるがはない	制度がない	制度について知らなかった	その他	該当しない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	3.4	10.2	10.2	1.7	6.8	67.8	0.0
	30～39歳	93	1.1	12.9	20.4	2.2	7.5	46.2	9.7
	40～49歳	108	1.9	15.7	17.6	5.6	5.6	45.4	8.3
	50～59歳	117	4.3	13.7	16.2	7.7	13.7	36.8	7.7
	60～69歳	144	1.4	9.0	9.7	4.9	13.9	44.4	16.7
	70歳以上	124	2.4	4.0	5.6	6.5	2.4	28.2	50.8
男性	30歳未満	32	0.0	3.1	9.4	3.1	0.0	78.1	6.3
	30～39歳	58	0.0	19.0	15.5	10.3	1.7	48.3	5.2
	40～49歳	76	1.3	19.7	19.7	5.3	3.9	46.1	3.9
	50～59歳	64	0.0	23.4	23.4	3.1	6.3	39.1	4.7
	60～69歳	120	0.0	6.7	12.5	1.7	10.0	50.8	18.3
	70歳以上	107	0.0	4.7	8.4	0.0	6.5	35.5	44.9

（単位：％）

問 22 あなたは、女性の生き方について、(1) どのような生き方が望ましいと思われますか。(男性もお答えください。)

また、(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)((1)(2) それぞれに○は1つずつ)

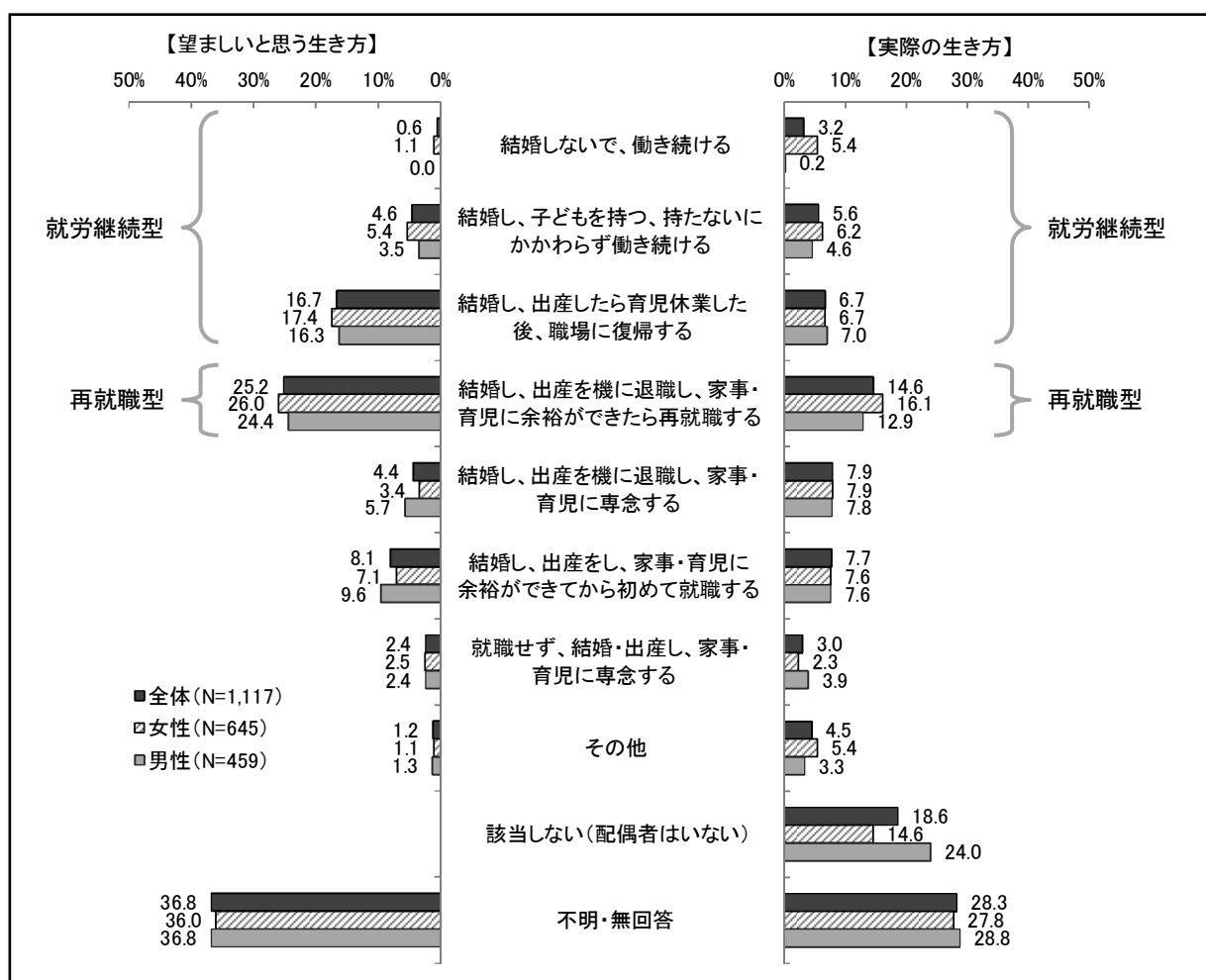
■女性が望む生き方は「再就職型」が26.0%、実際の生き方は「就労継続型」が18.3%と高い。

結婚・子育てと就労についての希望と現実が合致している人は少ない。

望ましいと思う生き方について、全体、男女ともに「再就職型」(「結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再就職する」)が高く、次いで「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」となっています。「就労継続型」(「結婚しないで、働き続ける」と「結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける」と「結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する」の合計)より「再就職型」の方がやや高くなっています。また、実際の生き方については全体、女性では「就労継続型」が高く、男性では「再就職型」が高くなっています。

前回調査をみると、今回調査では「不明・無回答」の割合が高く比較は参考までとなりますが、望ましいと思う生き方については、ほぼ同様の傾向となっています。

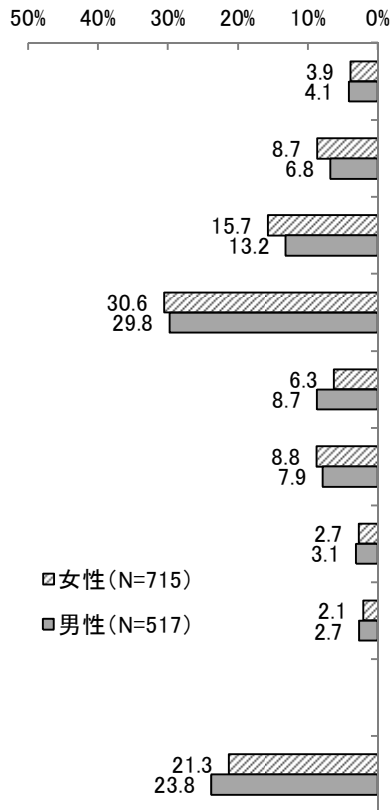
性別・年齢別に望ましいと思う生き方をみると、男女ともにすべての年代で「就労継続型」と「再就職型」が同じ水準で高くなっていますが、女性の30～39歳、男性の50～59歳では他の年代に比べ「就労継続型」が高くなっています。



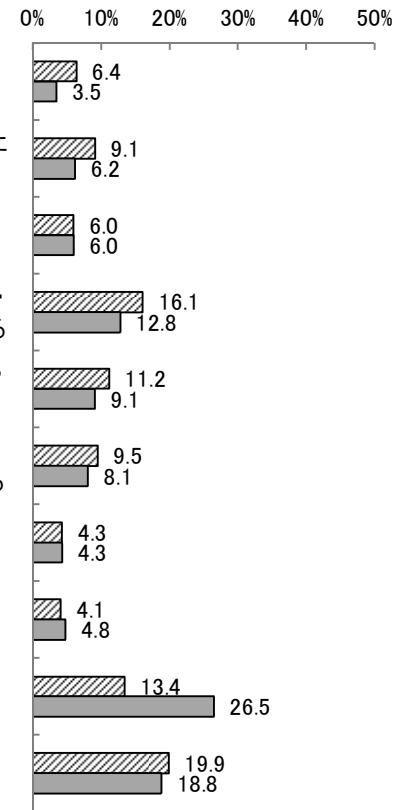
※「該当しない(配偶者はいない)」は「実際の生き方」のみの選択肢

前回調査(平成 21 年度)

【望ましいと思う生き方】



【実際の生き方】

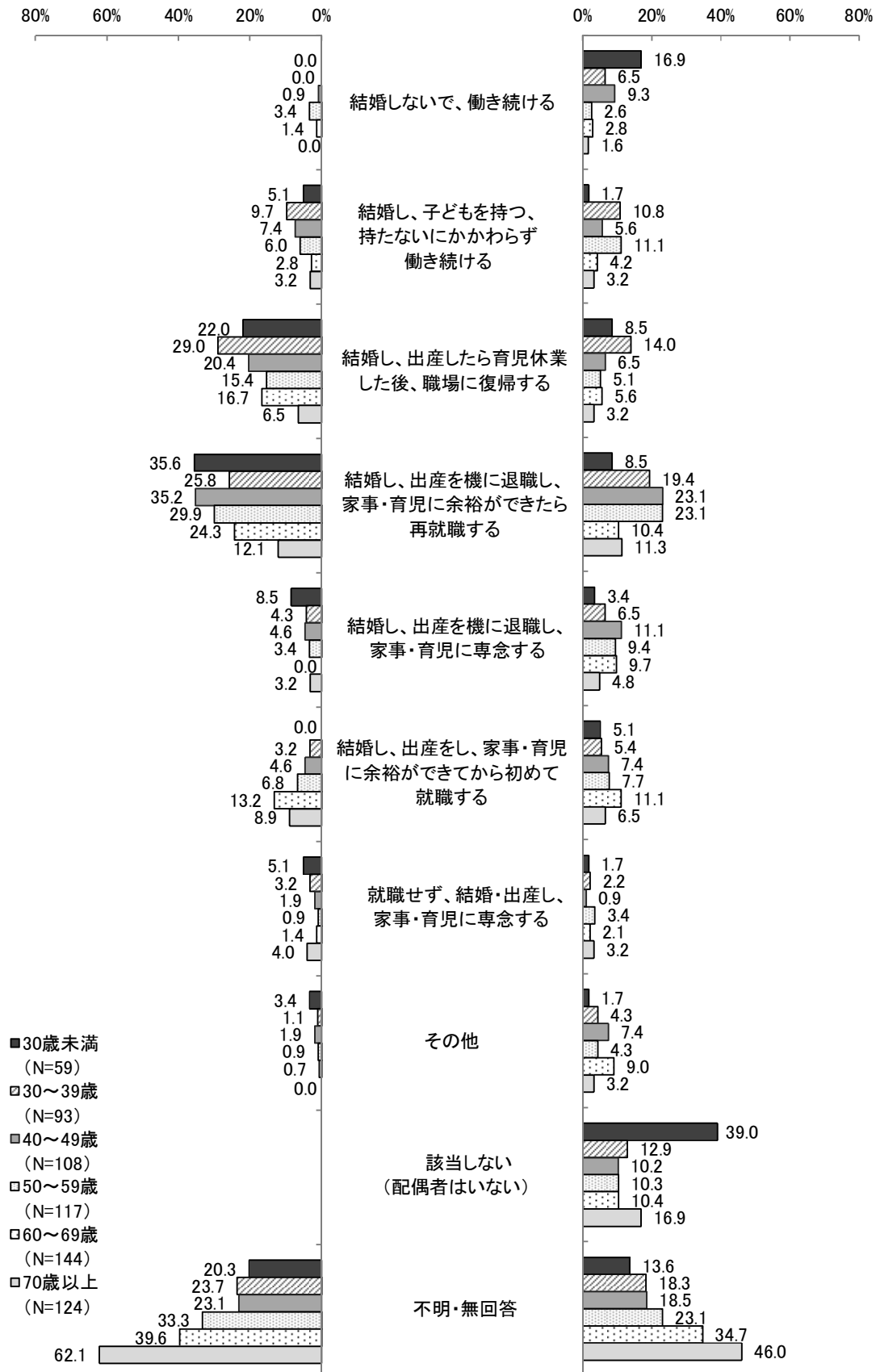


性別・年齢別

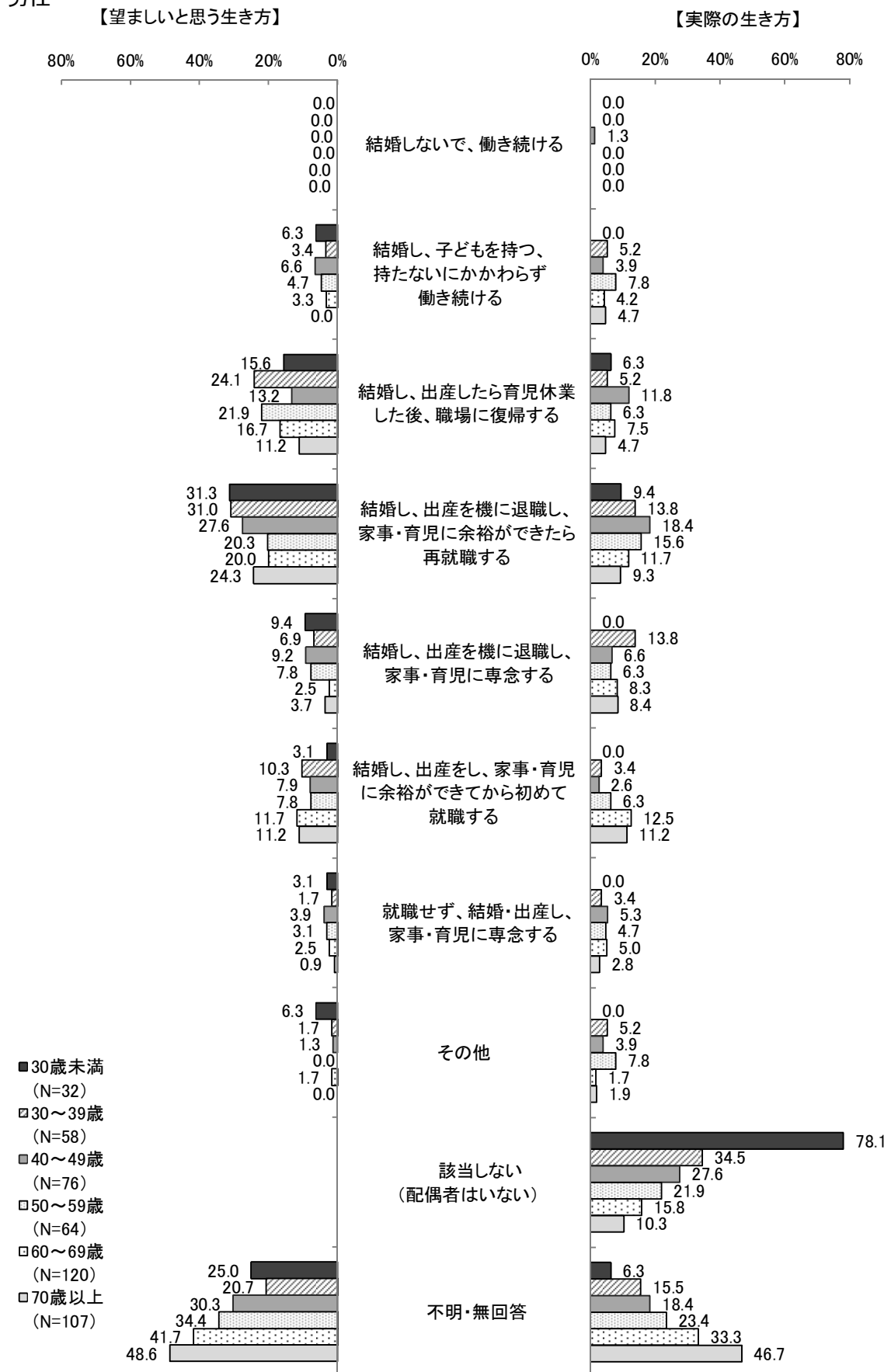
女性

【望ましいと思う生き方】

【実際の生き方】



男性



希望と現実の相関関係

			現 実						
			対象者数（人）	結婚しないで、働き続ける	結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する
希 望	女 性	結婚しないで、働き続ける	7	14.3	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0
		結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	35	11.4	5.7	11.4	17.1	5.7	11.4
		結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	112	11.6	13.4	14.3	21.4	7.1	10.7
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	168	6.0	7.1	4.8	30.4	14.9	7.7
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	22	4.5	4.5	22.7	22.7	9.1	4.5
		結婚し、出産をし、家事・育児に専念する	46	2.2	4.3	4.3	8.7	17.4	19.6
		就職せず、結婚・出産し、家事・育児に専念する	16	6.3	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3
	男 性	結婚しないで、働き続ける	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける	16	6.3	25.0	0.0	18.8	6.3	0.0
		結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する	75	0.0	8.0	18.7	10.7	5.3	12.0
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	112	0.0	2.7	6.3	27.7	16.1	3.6
		結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する	26	0.0	3.8	7.7	30.8	23.1	3.8
		結婚し、出産をし、家事・育児に専念する	44	0.0	4.5	6.8	6.8	11.4	40.9
		就職せず、結婚・出産し、家事・育児に専念する	11	0.0	9.1	18.2	9.1	9.1	18.2

(単位: %)

※太枠 ☐ 内の数値は理想と現実が一致している割合

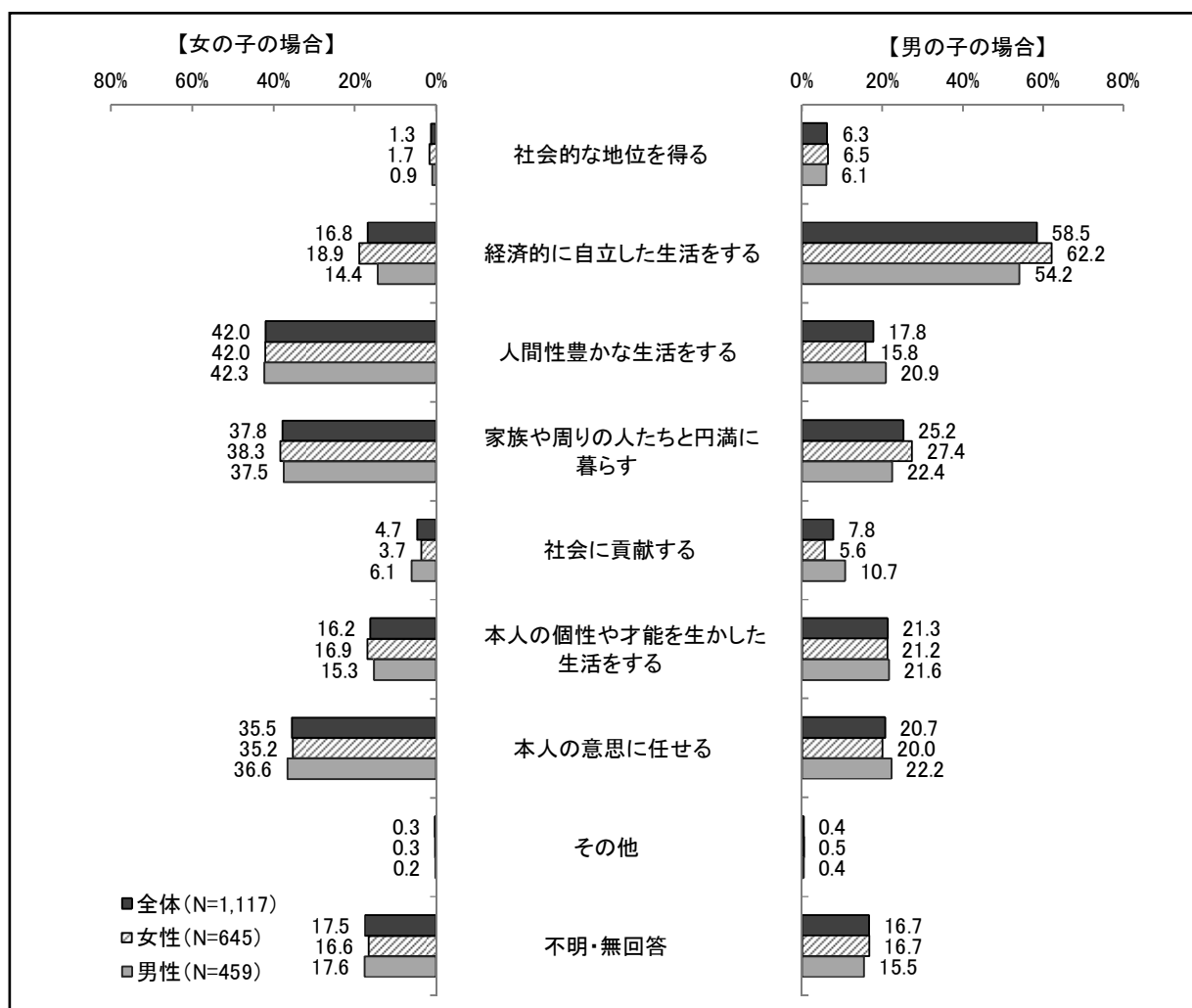
問 23 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれの場合について、() 内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

■女の子には「人間性豊かな生活をする」「家族や周りの人たちと円満に暮らす」ことが望まれている
男の子には「経済的に自立した生活をする」が最も望まれている

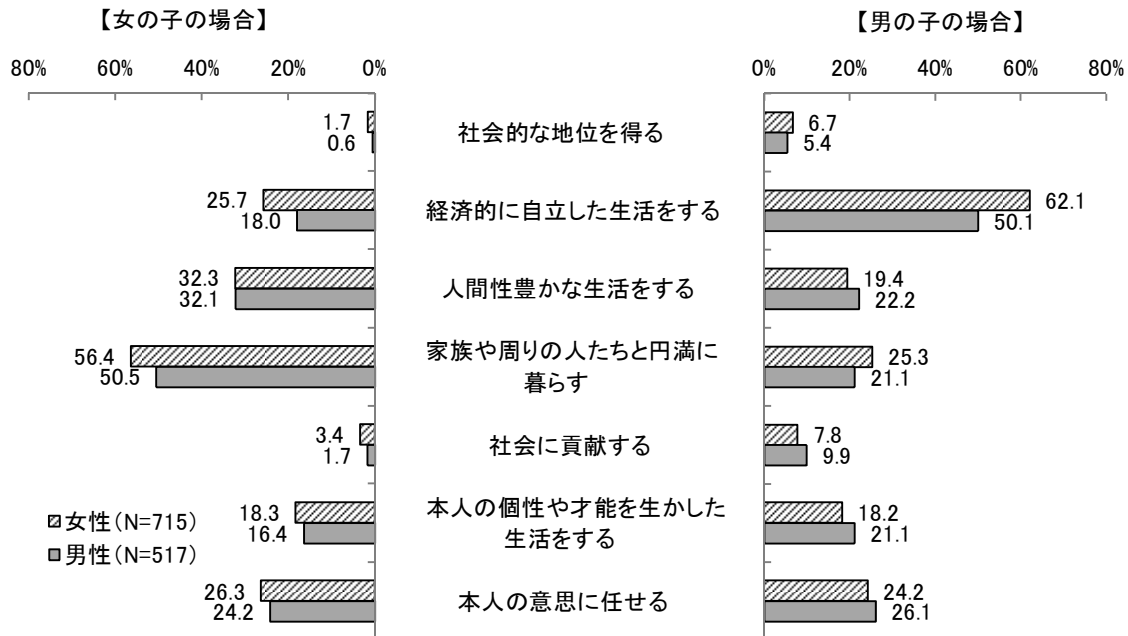
女の子の場合について、全体、男女ともに「人間性豊かな生活をする」に次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「本人の意思に任せる」が高くなっています。一方、男の子の場合について、全体、男女ともに「経済的に自立した生活をする」が5割半ばから6割前半と高く、次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「本人の個性や才能を生かした生活をする」「本人の意思に任せる」が2割から2割後半となっています。男女ともに女の子と男の子では望まれる生き方が異なっています。

前回調査では女の子の場合、「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が男女ともに5割前半から5割後半と最も高くなっていたが、今回調査では男女ともに3割後半と減少しており、「人間性豊かな生活をする」「本人の意思に任せる」は今回調査の方が男女ともに高くなっています。一方、男の子の場合は、おおむね同様の傾向となっています。

性別・年齢別にみると、女の子の場合では男女ともに30歳以上50歳未満では「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が、50歳以上では「人間性豊かな生活をする」が高くなっており、年齢で傾向が異なりますが、男の子の場合では男女ともにすべての年代で「経済的に自立した生活をする」が高くなっています。



前回調査(平成 21 年度)



性別・年齢別

		対象者数(人)		社会的な地位を得る	経済的に自立した生活をする	人間性豊かな生活をする	家族や周りの人々と円満に暮らす	社会に貢献する	本人の個性や才能を生かした生活をする	本人の意思に任せる	その他	不明・無回答
女性	30歳未満	59	「女の子」の場合	3.4	13.6	40.7	52.5	3.4	28.8	44.1	0.0	5.1
			「男の子」の場合	10.2	61.0	10.2	39.0	5.1	20.3	40.7	0.0	5.1
	30～39歳	93	「女の子」の場合	3.2	24.7	46.2	50.5	2.2	24.7	35.5	2.2	3.2
			「男の子」の場合	8.6	62.4	21.5	36.6	6.5	21.5	30.1	1.1	4.3
	40～49歳	108	「女の子」の場合	0.9	24.1	45.4	47.2	5.6	18.5	26.9	0.0	13.9
			「男の子」の場合	5.6	63.0	22.2	32.4	8.3	22.2	17.6	0.9	13.0
	50～59歳	117	「女の子」の場合	0.9	26.5	42.7	41.0	2.6	23.1	30.8	0.0	11.1
			「男の子」の場合	6.0	74.4	16.2	18.8	6.0	23.9	16.2	0.9	14.5
男性	30歳未満	32	「女の子」の場合	0.7	18.1	41.0	28.5	6.3	10.4	41.0	0.0	19.4
			「男の子」の場合	5.6	67.4	12.5	24.3	2.8	23.6	17.4	0.0	17.4
	30～39歳	144	「女の子」の場合	2.4	6.5	37.1	23.4	1.6	5.6	35.5	0.0	36.3
			「男の子」の場合	5.6	44.4	12.1	22.6	5.6	15.3	11.3	0.0	36.3
	40～49歳	76	「女の子」の場合	0.0	21.9	43.8	37.5	3.1	25.0	56.3	0.0	3.1
			「男の子」の場合	3.1	53.1	28.1	21.9	6.3	31.3	50.0	0.0	0.0
	50～59歳	58	「女の子」の場合	1.7	22.4	43.1	46.6	8.6	22.4	39.7	0.0	3.4
			「男の子」の場合	5.2	60.3	24.1	27.6	10.3	20.7	29.3	0.0	5.2
女性	60～69歳	120	「女の子」の場合	1.3	17.1	40.8	51.3	7.9	19.7	34.2	0.0	7.9
			「男の子」の場合	6.6	64.5	22.4	27.6	9.2	22.4	26.3	0.0	7.9
	70歳以上	107	「女の子」の場合	1.6	17.2	42.2	40.6	6.3	21.9	32.8	0.0	15.6
			「男の子」の場合	4.7	60.9	21.9	25.0	12.5	21.9	15.6	0.0	15.6
男性	30歳未満	32	「女の子」の場合	0.8	9.2	39.2	31.7	5.8	15.0	41.7	0.8	20.8
			「男の子」の場合	8.3	49.2	18.3	16.7	15.0	21.7	21.7	1.7	16.7
	30～39歳	58	「女の子」の場合	0.0	10.3	46.7	28.0	4.7	1.9	28.0	0.0	32.7
			「男の子」の場合	5.6	45.8	18.7	21.5	7.5	18.7	11.2	0.0	29.0

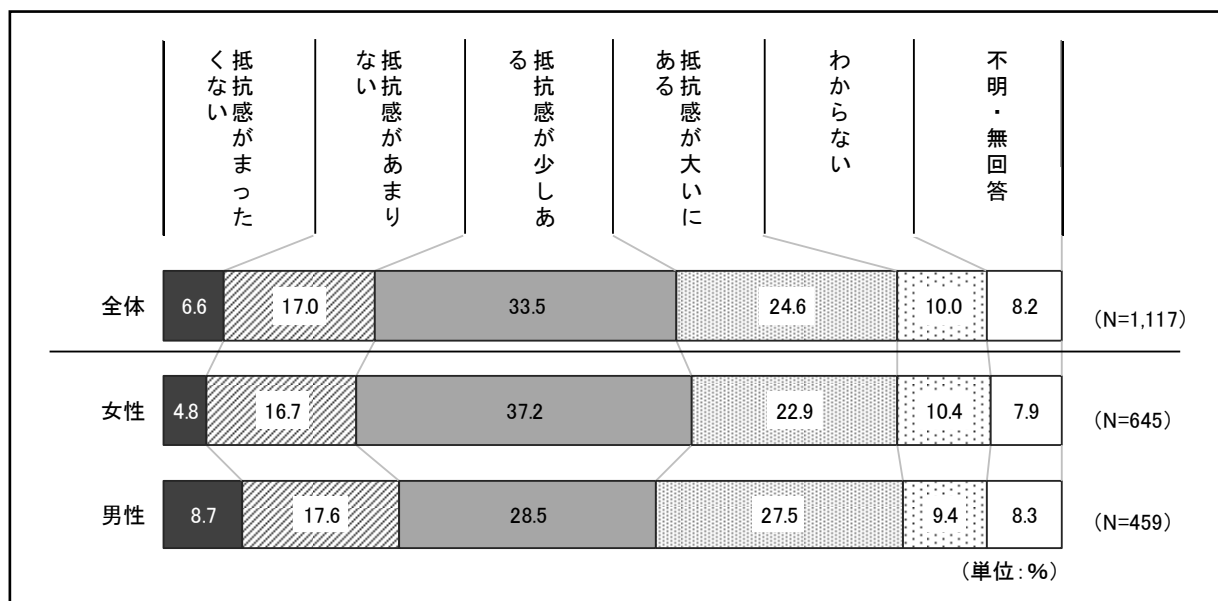
(単位: %)

問 24 あなたは、結婚していないカップルが、子どもを持つことに対して、どのように感じますか。(〇は1つ)

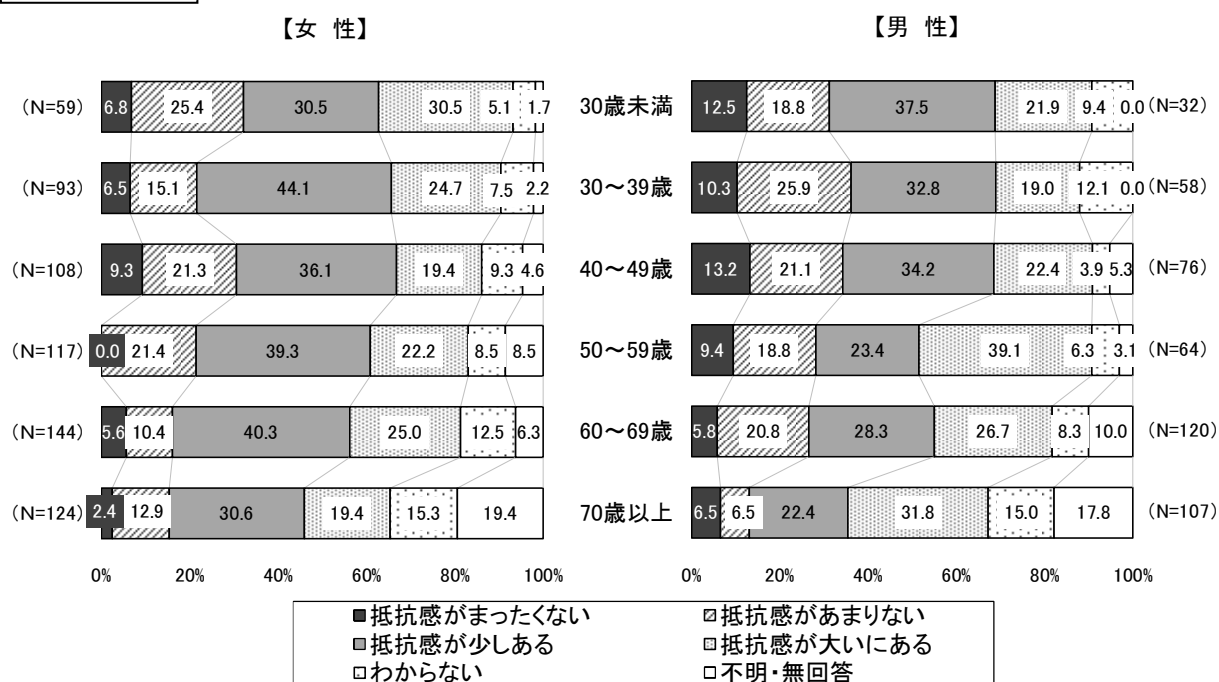
■婚外子に「抵抗がある」人は全体で58.1%。

全体、男女ともに「抵抗感がある」(「抵抗感が少しある」と「抵抗感が大いにある」の合計)の方が「抵抗感がない」(「抵抗感がまったくない」と「抵抗感があまりない」の合計)より高くなっています。

性別・年齢別にみると、すべての年代で全体と同様の傾向となっていますが、60歳以上では「わからない」が他の年代に比べてやや高くなっています。



性別・年齢別

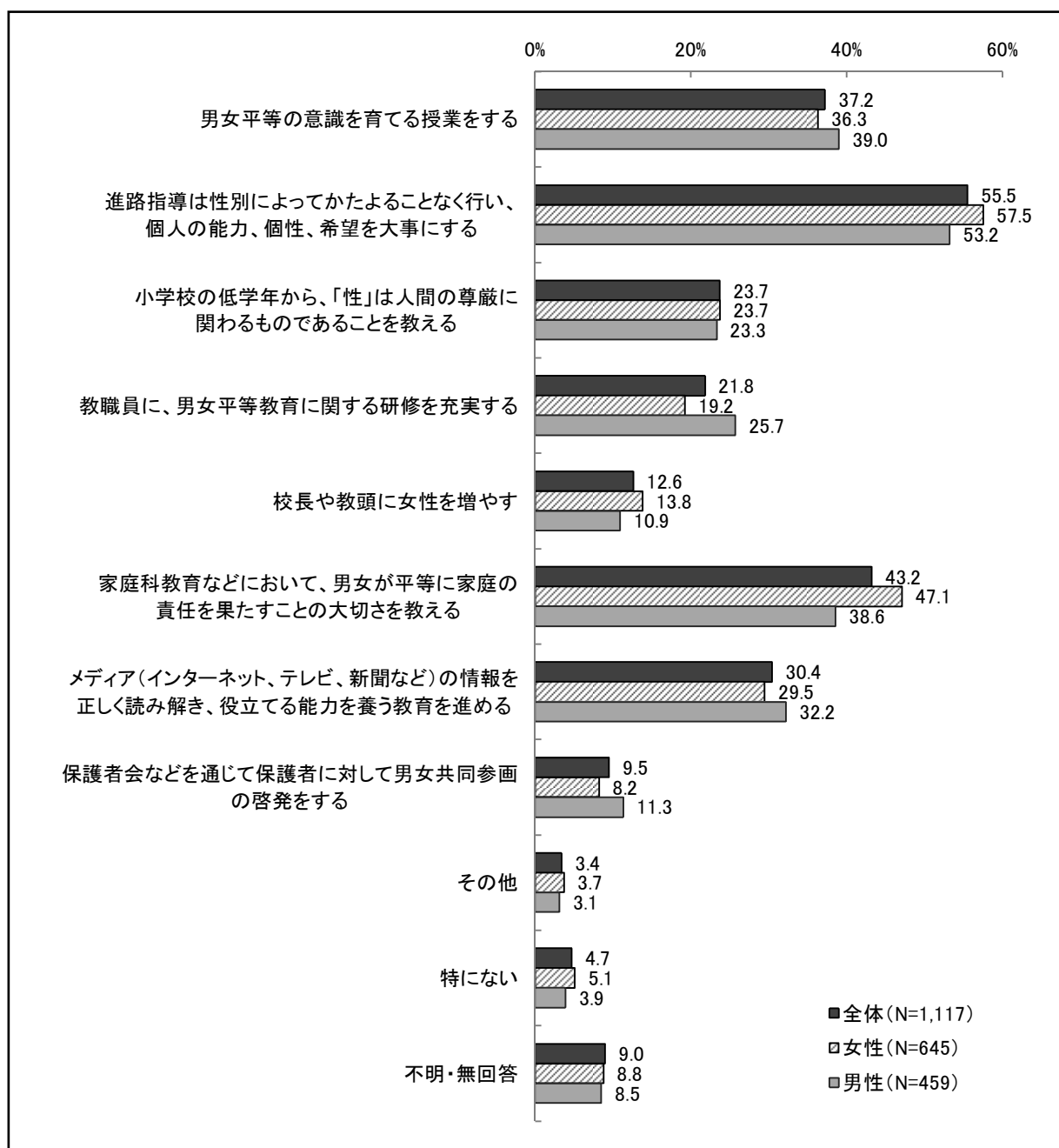


問 25 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

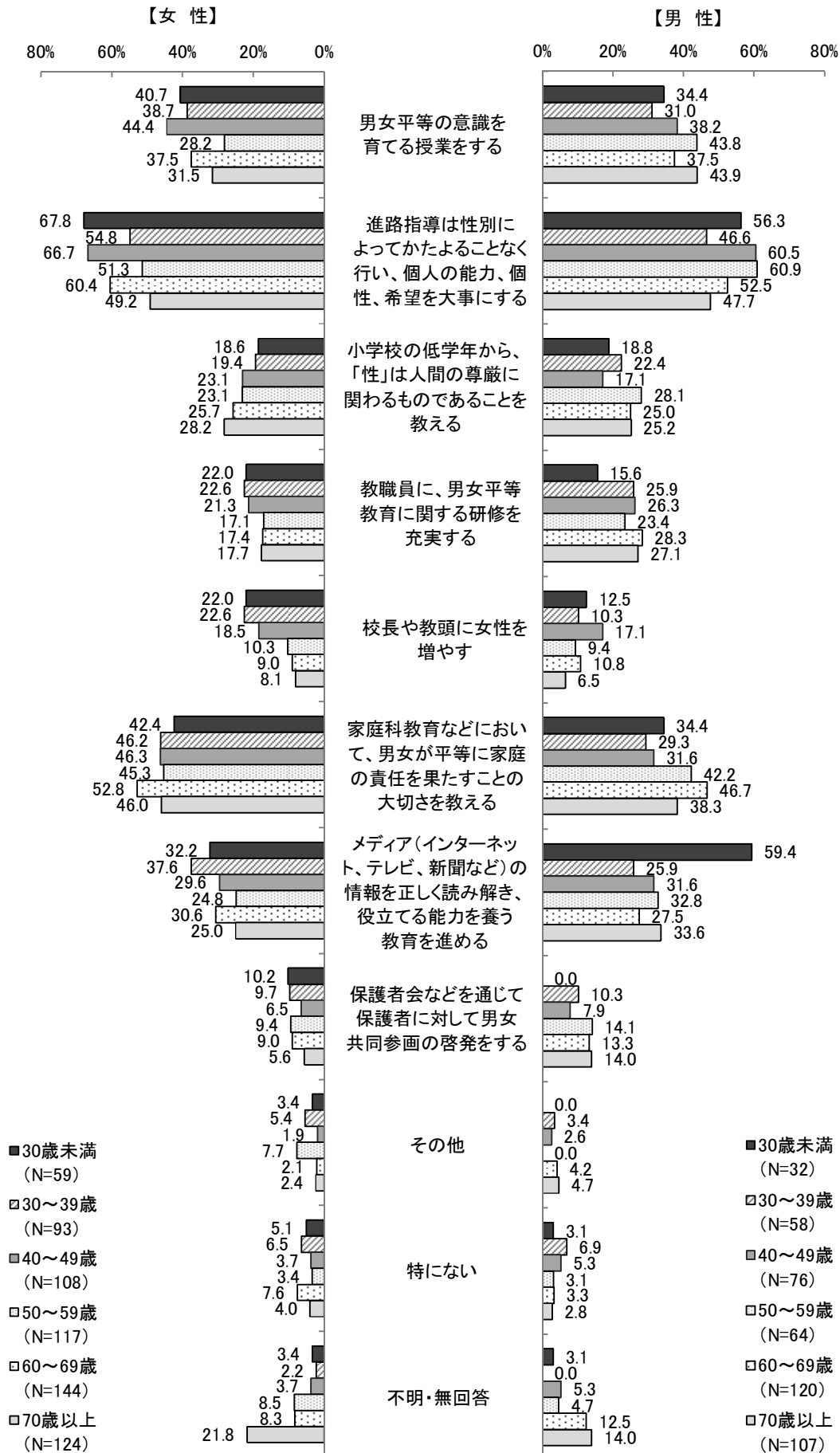
■男女平等を進める小・中学校の取り組みは進路指導を重視している。

全体、男女とも「進路指導は性別によってかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする」が5割前半から5割後半と最も高くなっており、次いで「家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」「男女平等の意識を育てる授業をする」が2位もしくは3位となっています。

性別・年齢別にみると、女性では年代ごとの傾向に大きな差はないものの、男性では30歳未満で「メディア（インターネット、テレビ、新聞など）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める」が59.4%と最も高くなっており、他の年代に比べて特に高くなっています。



性別・年齢別



3. 男女の地位に関する意識について

問 26 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。
(①～⑨の項目ごとに○は1つずつ)

■男女で「平等である」の割合が5割以上なのは『学校教育の場』となっている。

〔男性が優遇〕が最も高いのは『職場（賃金や待遇など）では』となっている。

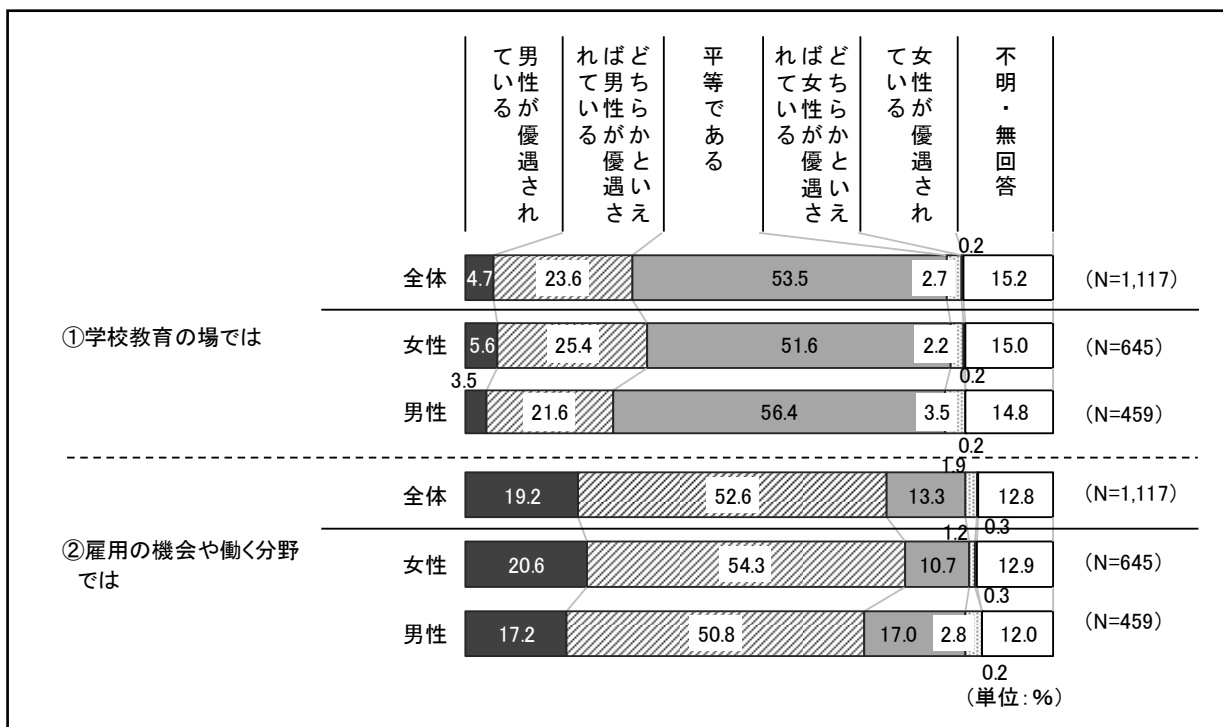
全国と比較して市では『家庭生活の場では』の「平等である」割合が特に下回っている。

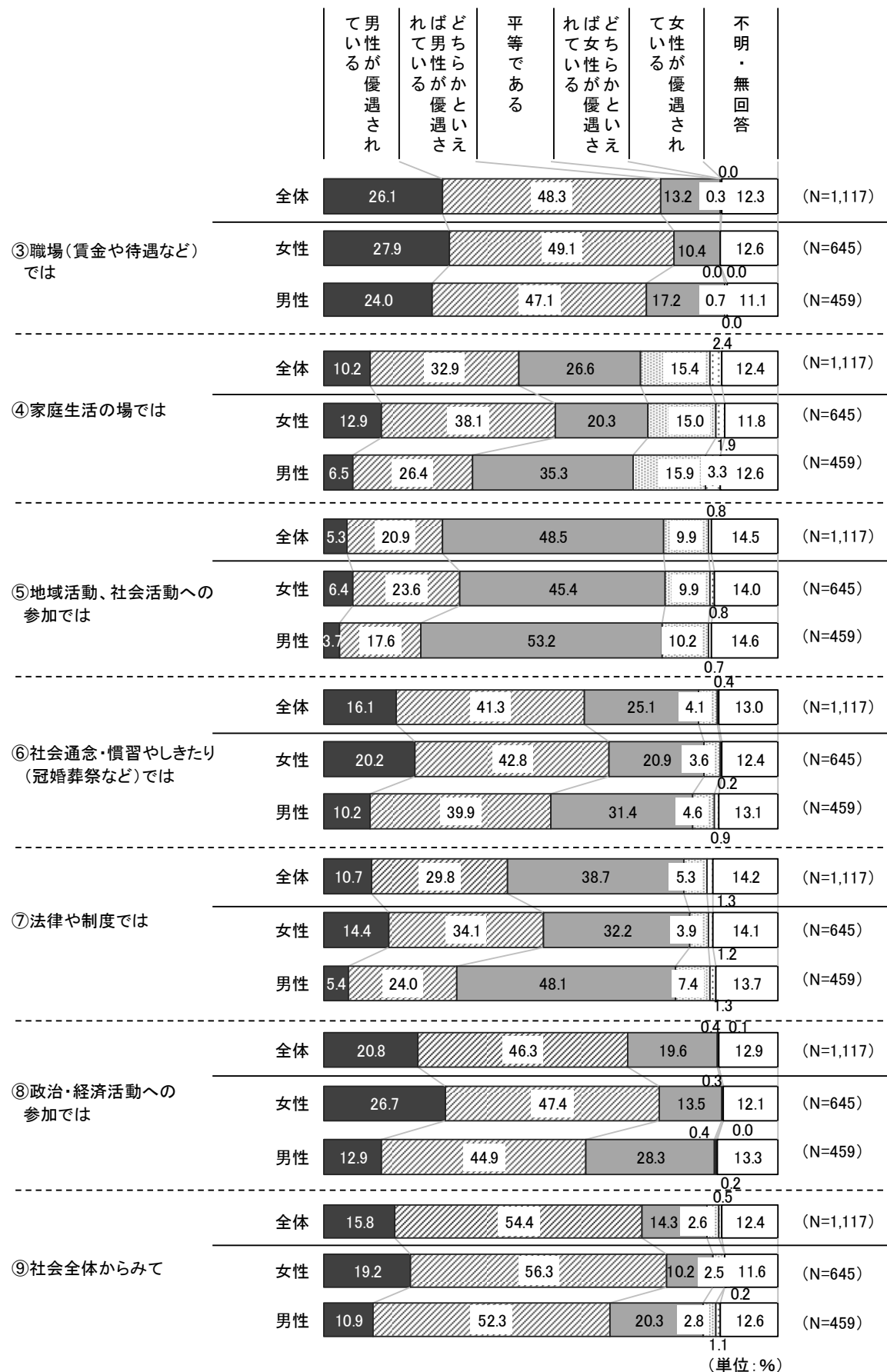
全体、男女ともに「平等である」が最も高い項目は『①学校教育の場では』となっており、次いで『⑤地域活動、社会活動への参加では』『⑦法律や制度では』となっています。また、〔女性が優遇〕（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）より〔男性が優遇〕（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合がすべての項目で高くなっています。特に〔男性が優遇〕は『②雇用の機会や働く分野では』（女性 74.9%、男性 68.0%）、『③職場（賃金や待遇など）では』（女性 77.0%、男性 71.1%）、『⑨社会全体からみて』（女性 75.5%、男性 63.2%）で高くなっています。

前回調査と比べると、おおむね同様の傾向ですが、男性の『⑧政治・経済活動への参加では』では〔男性が優遇〕が増加し、「平等である」が減少しています。

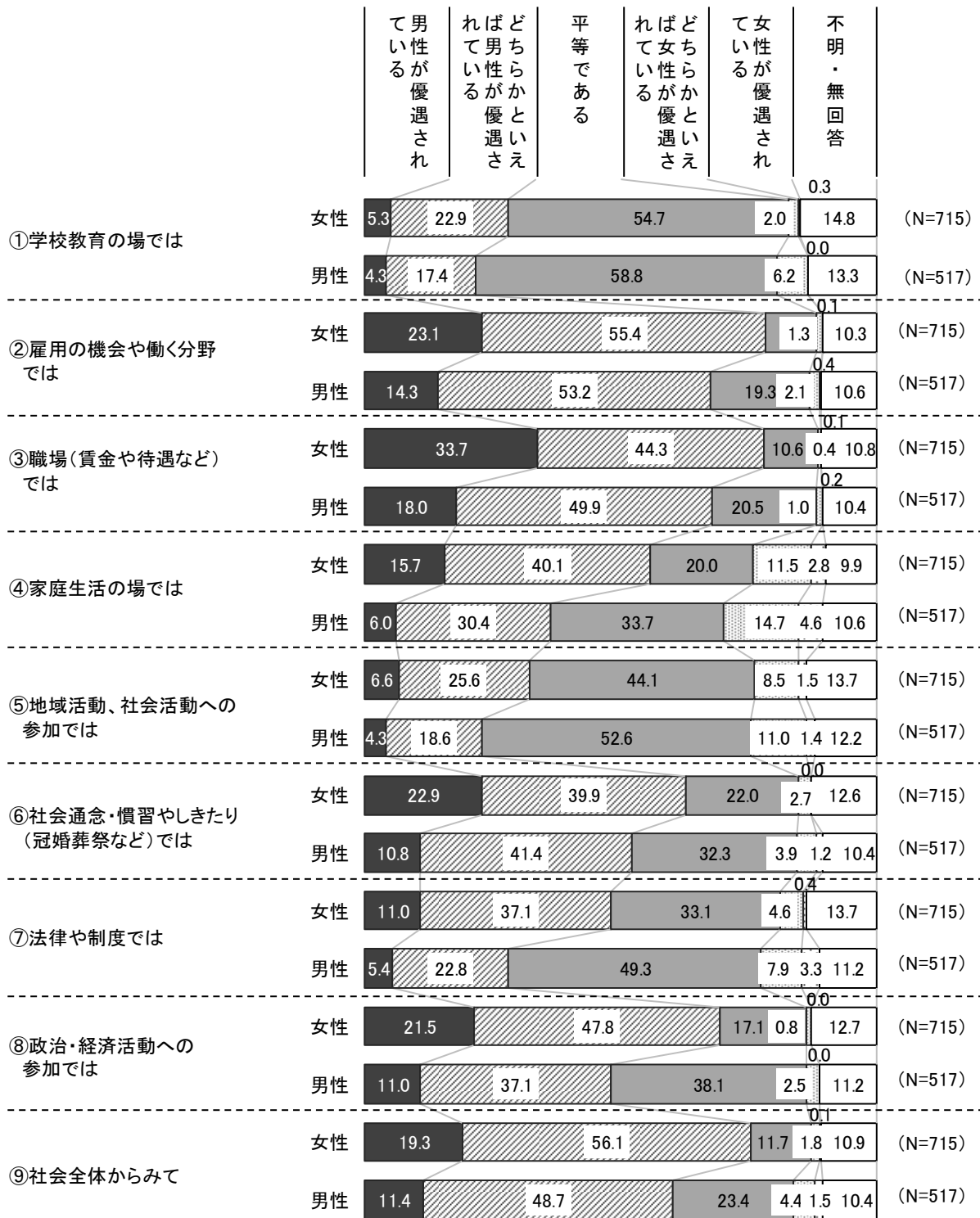
国の調査と比べると、『⑥社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では』『⑧政治・経済活動への参加では』以外のすべての項目で、「平等である」の割合は東大阪市の方が低く、『④家庭生活の場では』の差が大きくなっています。

性別・年齢別に〔男性が優遇〕の状況をみると、30 歳以上では、すべての項目で女性の方が男性より割合が高くなっています。



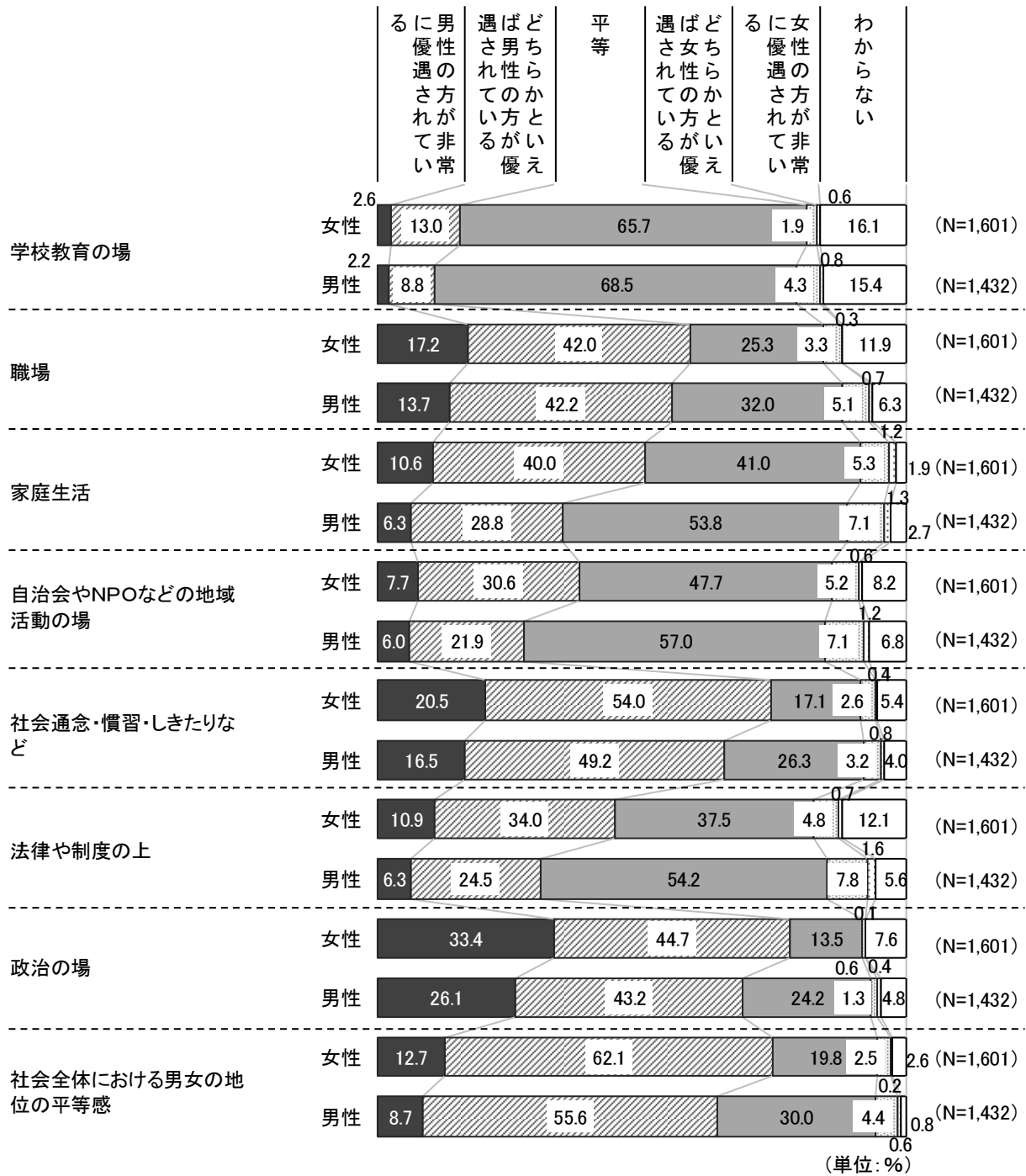


前回調査(平成 21 年度)



(単位: %)

参考 国の調査(平成 24 年)



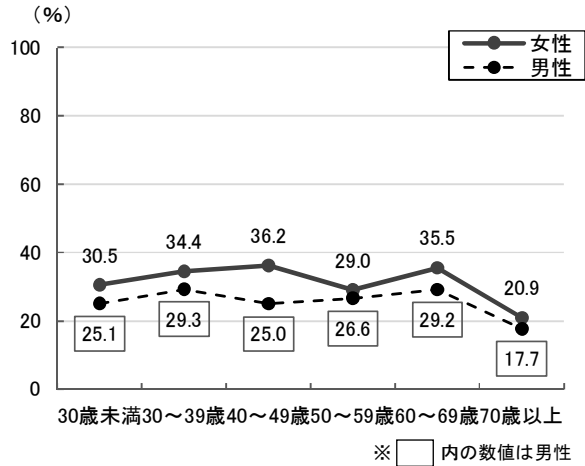
資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 24 年

性別・年齢別

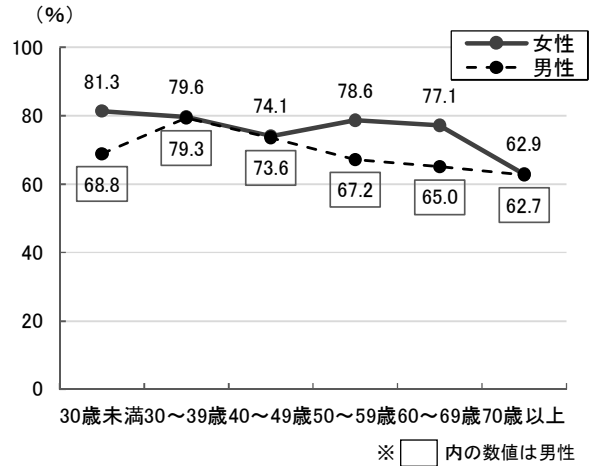
◆ [男性優遇]

(「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計)

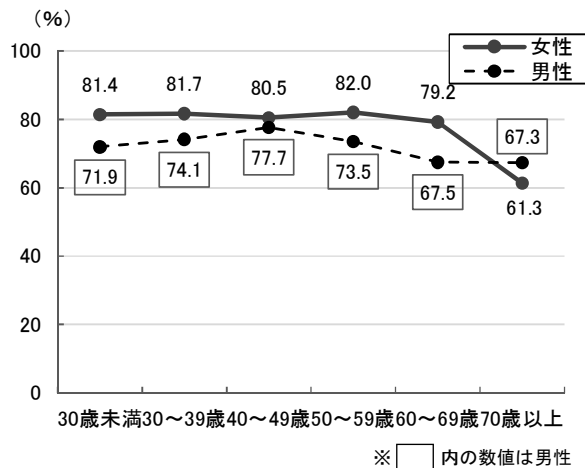
①学校教育の場では



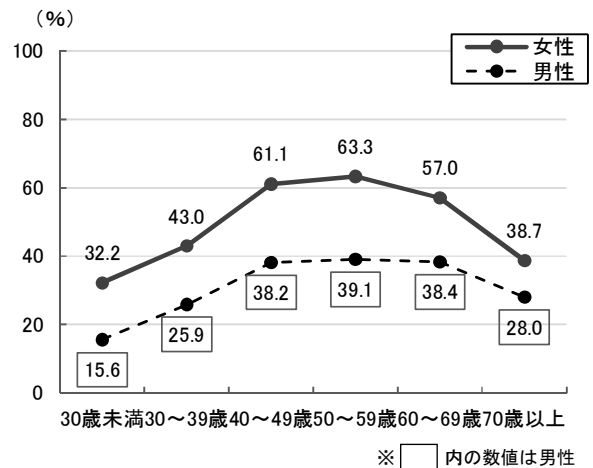
②雇用の機会や働く分野では



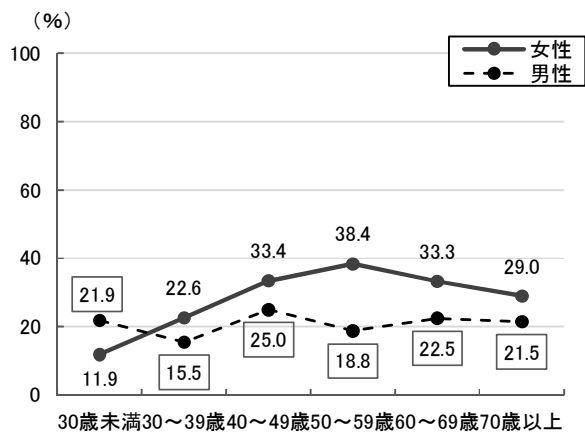
③職場(賃金や待遇など)では



④家庭生活の場では

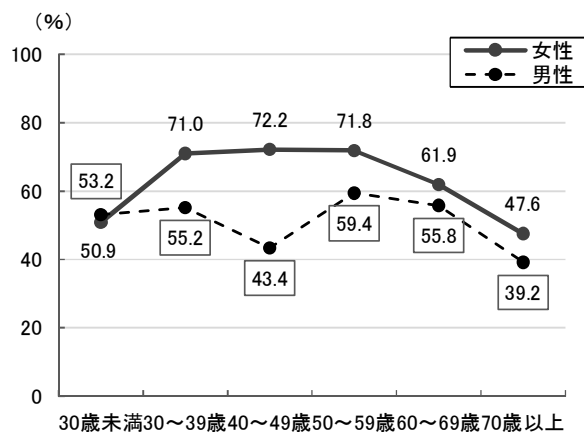


⑤地域活動、社会活動への参加では



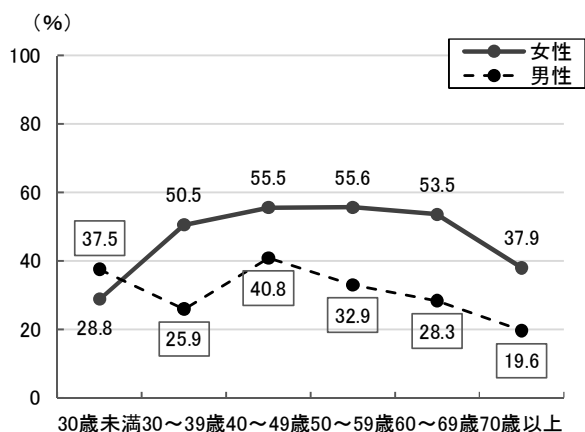
※ □ 内の数値は男性

⑥社会通念・慣習やしきたり(冠婚葬祭など)では



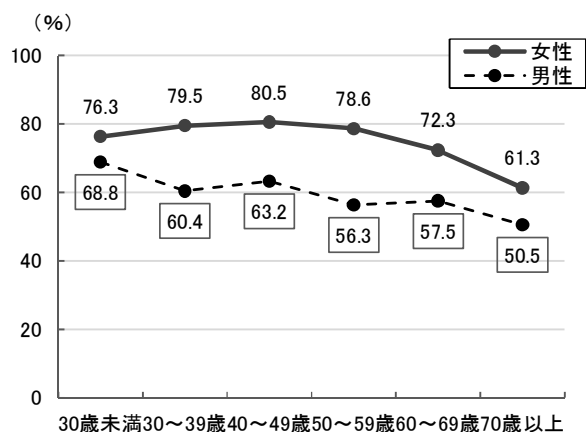
※ □ 内の数値は男性

⑦法律や制度では



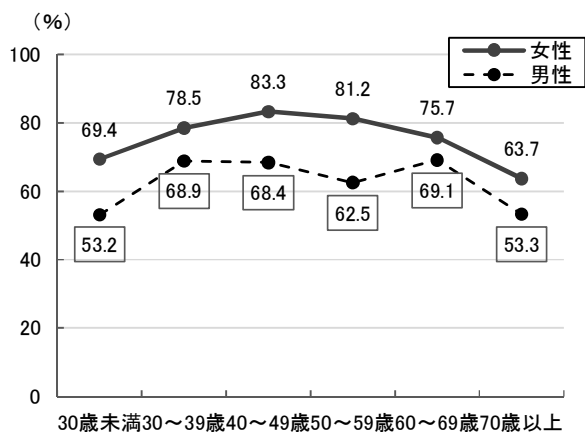
※ □ 内の数値は男性

⑧政治・経済活動への参加では



※ □ 内の数値は男性

⑨社会全体からみて



※ □ 内の数値は男性

問 27 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

■固定的な性別役割分担意識について、[同感する] より [同感しない] ほうが高い。

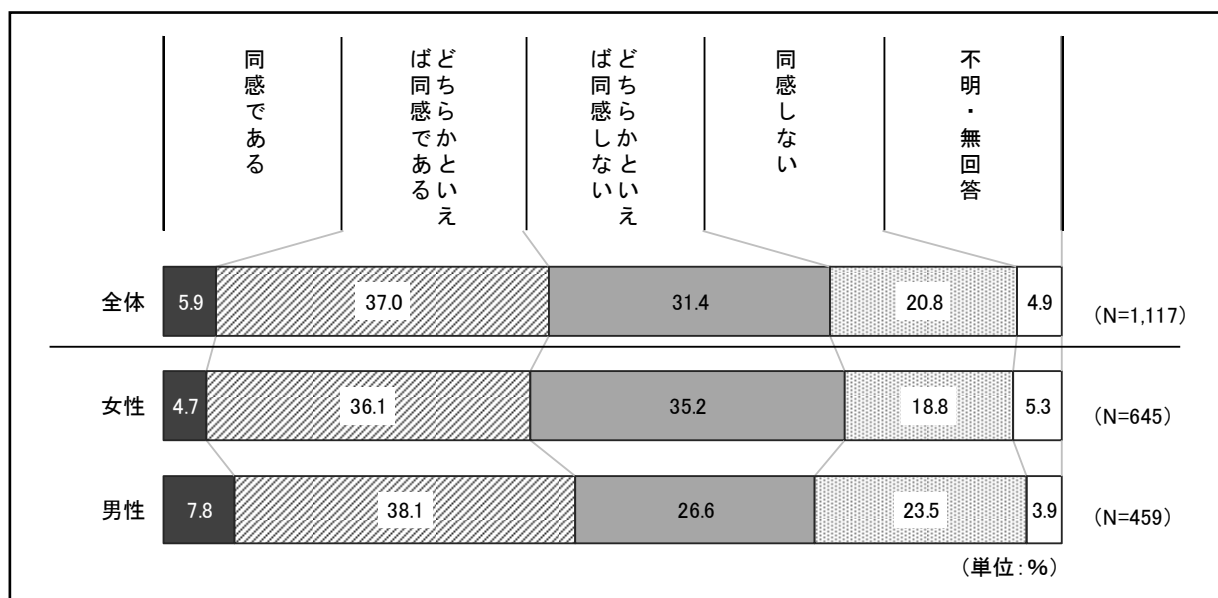
[同感する] 割合は前々回調査以降、減少している。

70 歳以上では [同感しない] より [同感する] ほうが高い。

全体、男女ともに [同感する] (「同感である」と「どちらかといえば同感である」の合計) (全体 42.9%、女性 40.8%、男性 45.9%) より [同感しない] (「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計) (全体 52.2%、女性 54.0%、男性 50.1%) の方が高くなっており、その差は女性で 13.2 ポイント、男性で 4.2 ポイントとなっています。

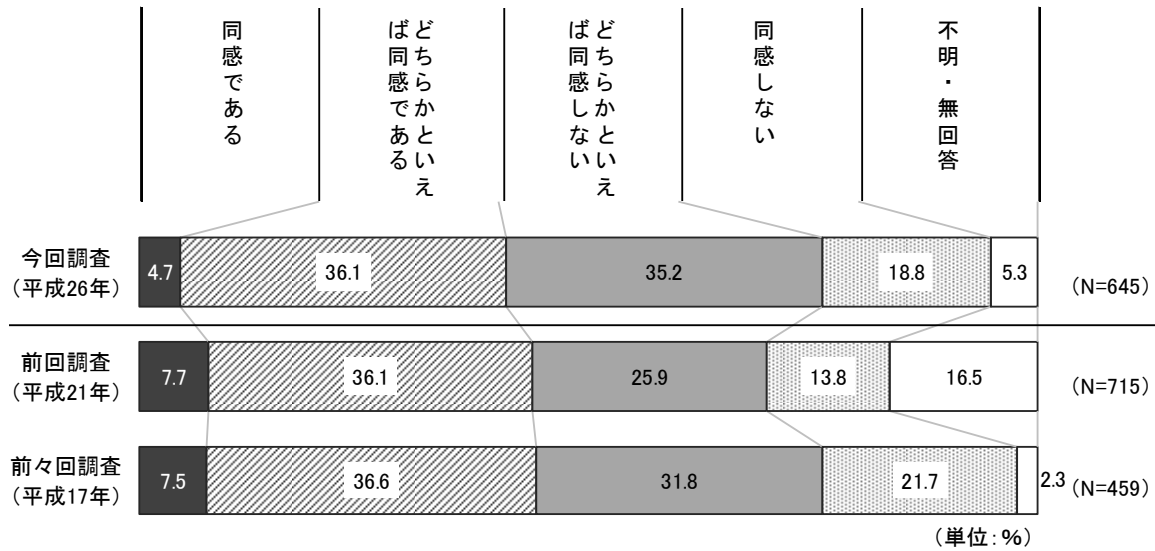
前回調査、前々回調査をみると、[同感する] 割合は男女ともに減少傾向にあります。

性別・年齢別にみると、男女ともにほとんどの年代で [同感しない] ほうが高くなっていますが、女性の 70 歳以上、男性の 50～59 歳、70 歳以上の高齢世代で [同感する] ほうが高くなっていきます。

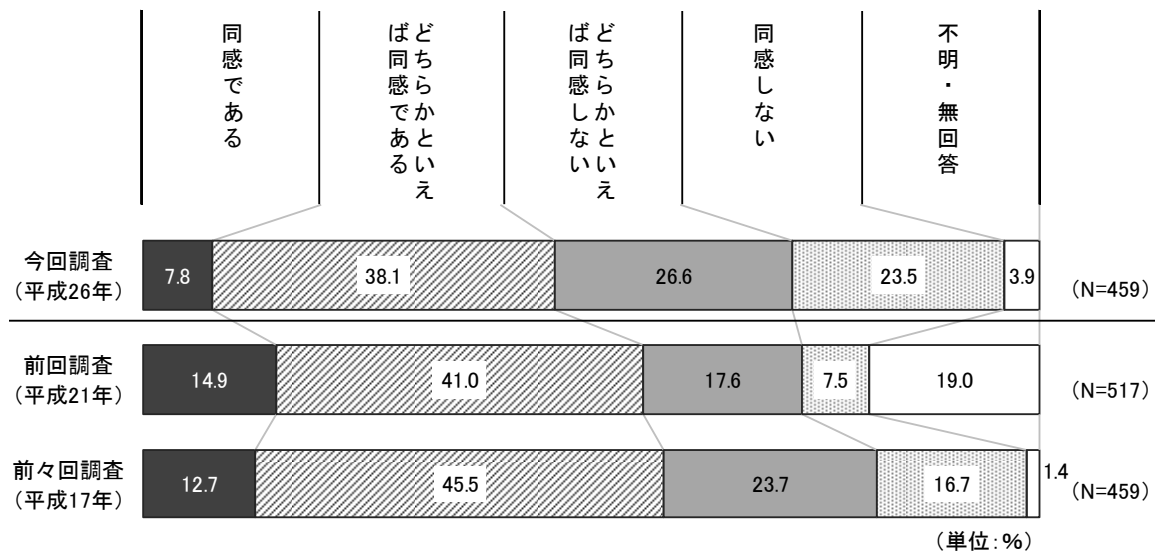


前回調査(平成21年度)、前々回調査(平成17年度)

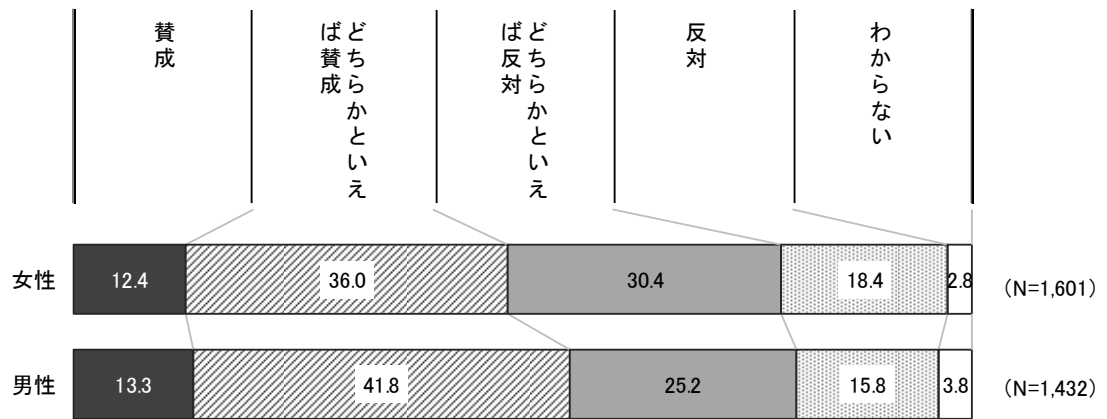
【女 性】



【男 性】



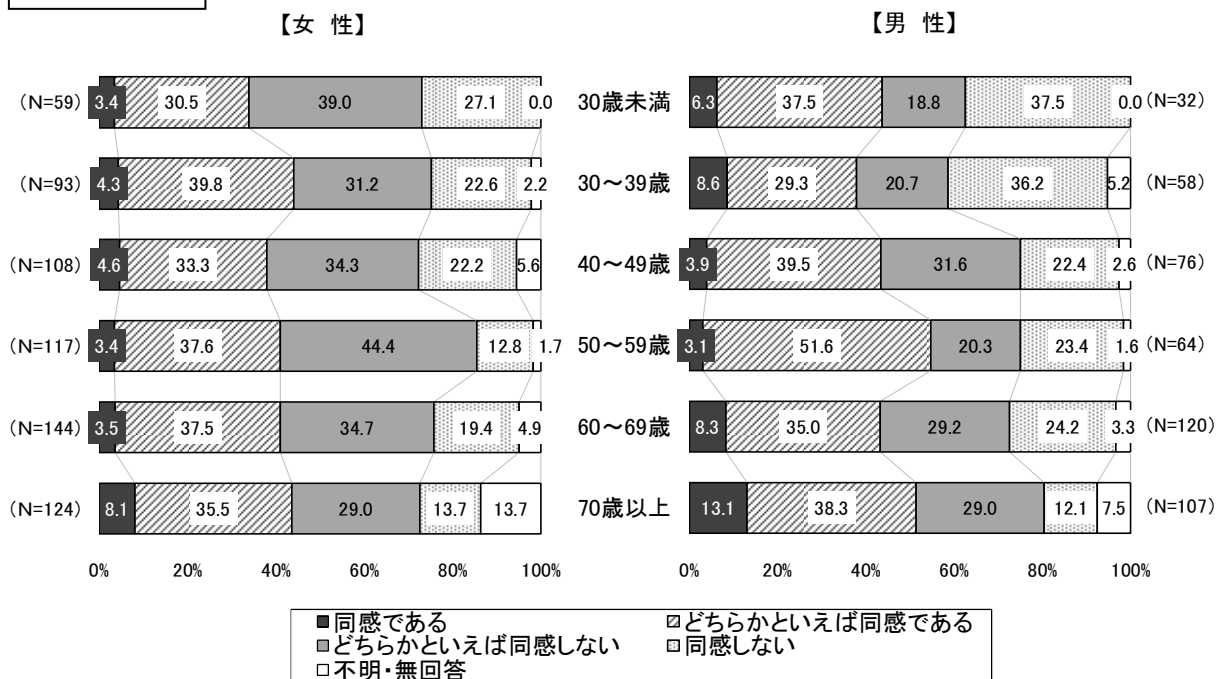
参考 国の調査(平成 24 年)



(単位: %)

資料: 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成 24 年

性別・年齢別

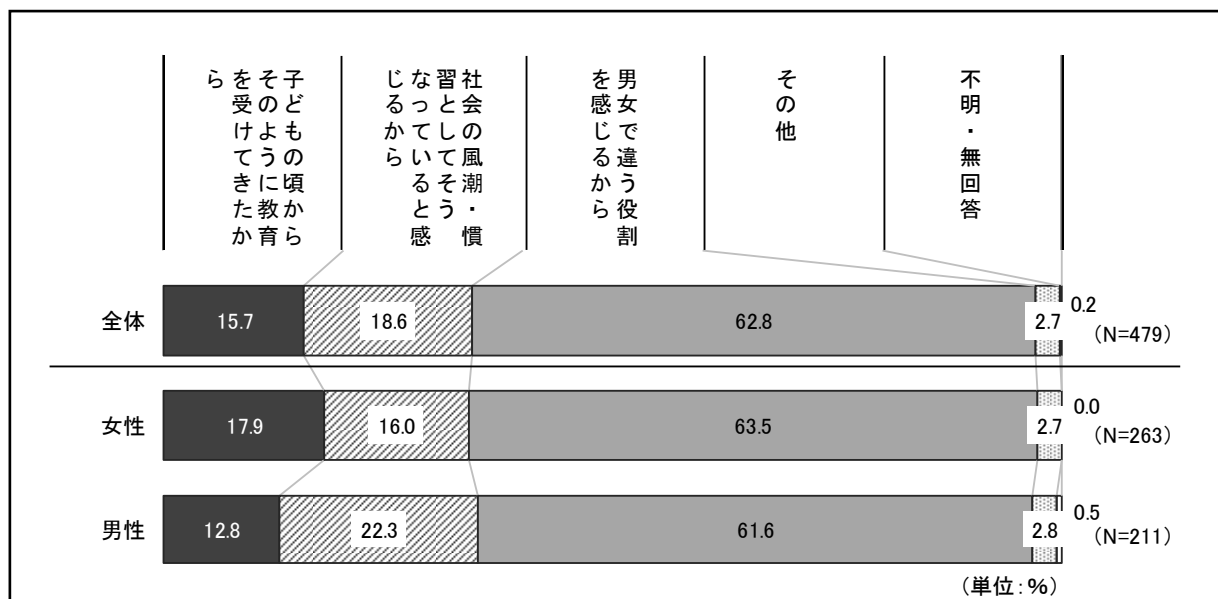


問 27 で「同感である」もしくは「どちらかといえば同感である」と回答された方
問 27-1 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

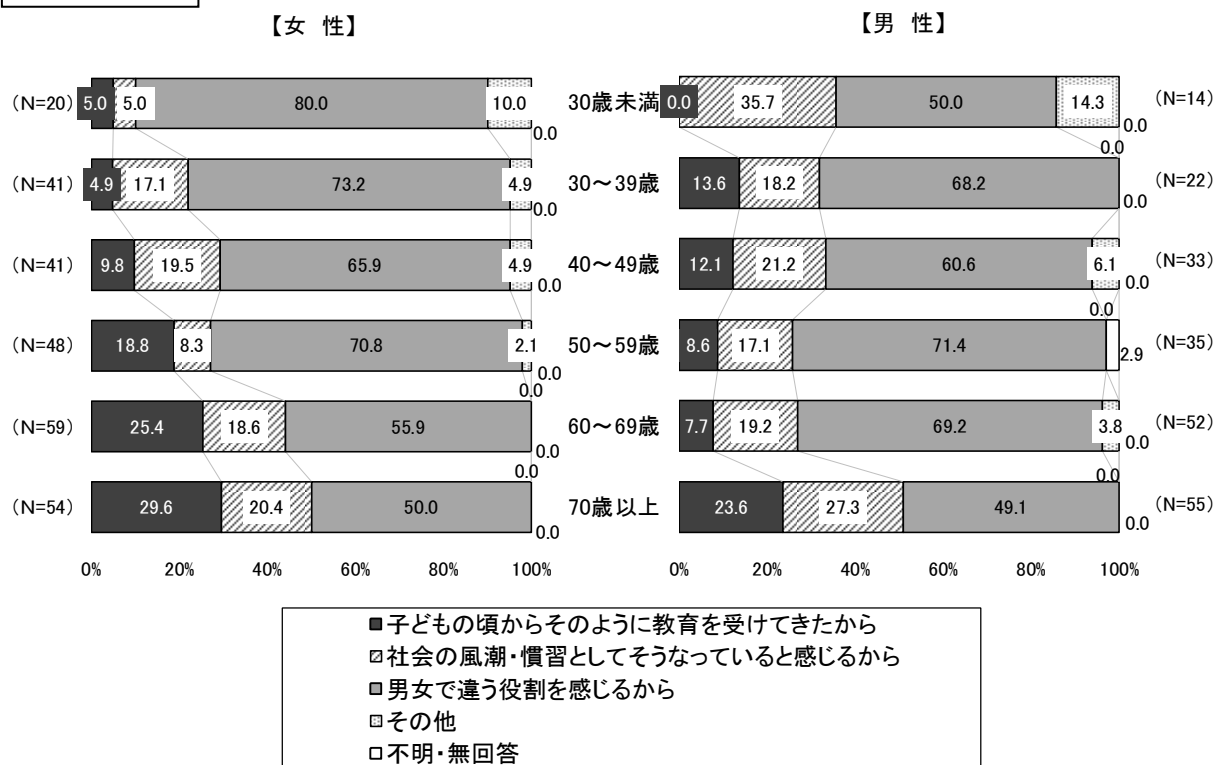
■ 「同感である」と思う理由は「男女で違う役割を感じるから」が最も高い。

「同感である」と思う理由は、全体、男女ともに「男女で違う役割を感じるから」が最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「男女で違う役割を感じるから」が最も高くなっていますが、「子どもの頃からそのように教育を受けてきたから」では女性の年代が上がるほど高くなっています。



性別・年齢別

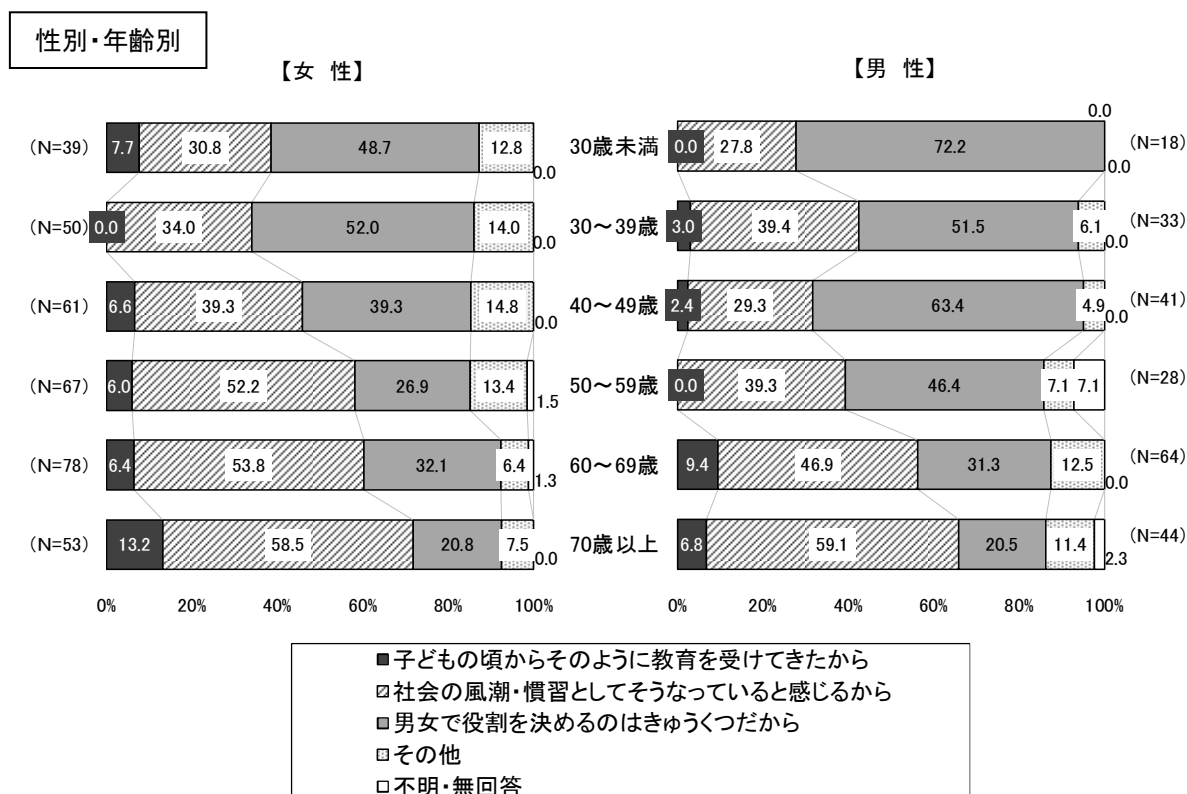
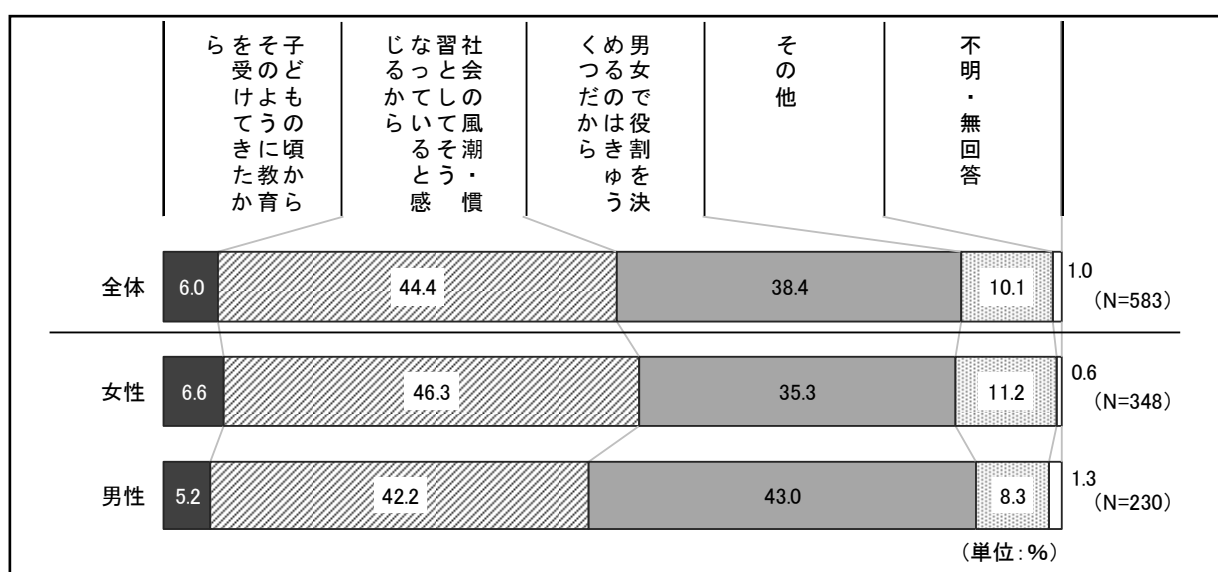


問 27 で「どちらかといえば同感しない」もしくは「同感しない」と回答された方
問 27-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(○は1つ)

■ [同感しない] と思う理由は、全体で「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が 44.4%、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」が 38.4%。

[同感しない] と思う理由は、全体、女性では「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が高く、次いで「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」となっており、男性では「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」がともに4割前半となっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年代が上がるほど「社会の風潮・慣習としてそうなっていると感じるから」が増加する傾向にあり、「男女で役割を決めるのはきゅうくつだから」は年齢が若いほど増加する傾向にあります。



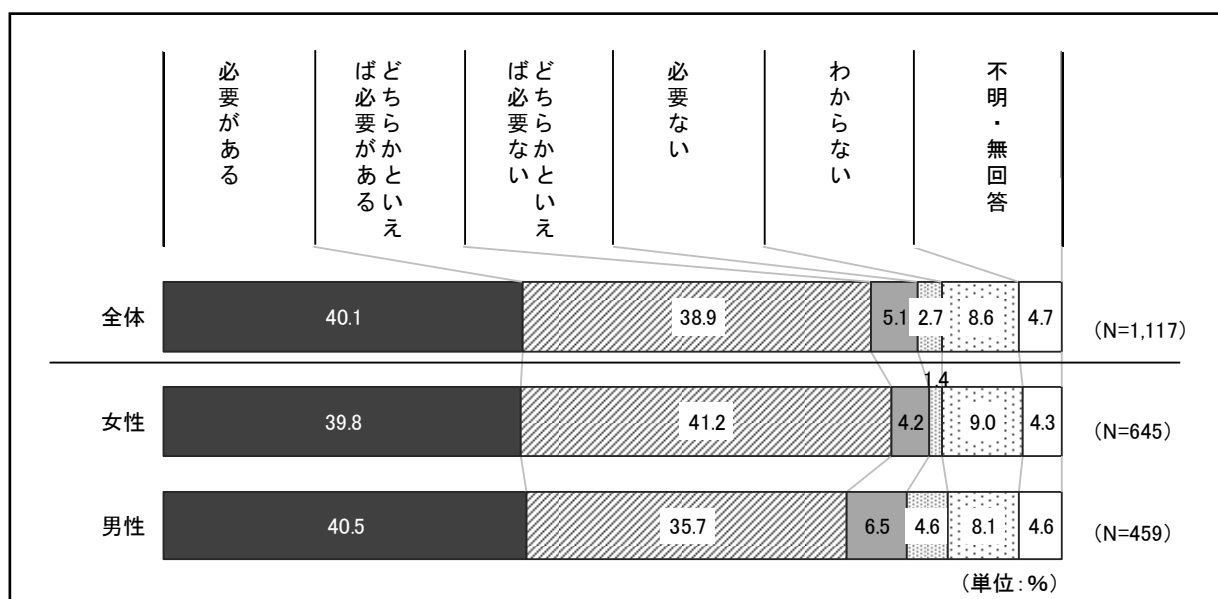
4. 地域活動や健康、老後の暮らしについて

問 28 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。
(○は1つ)

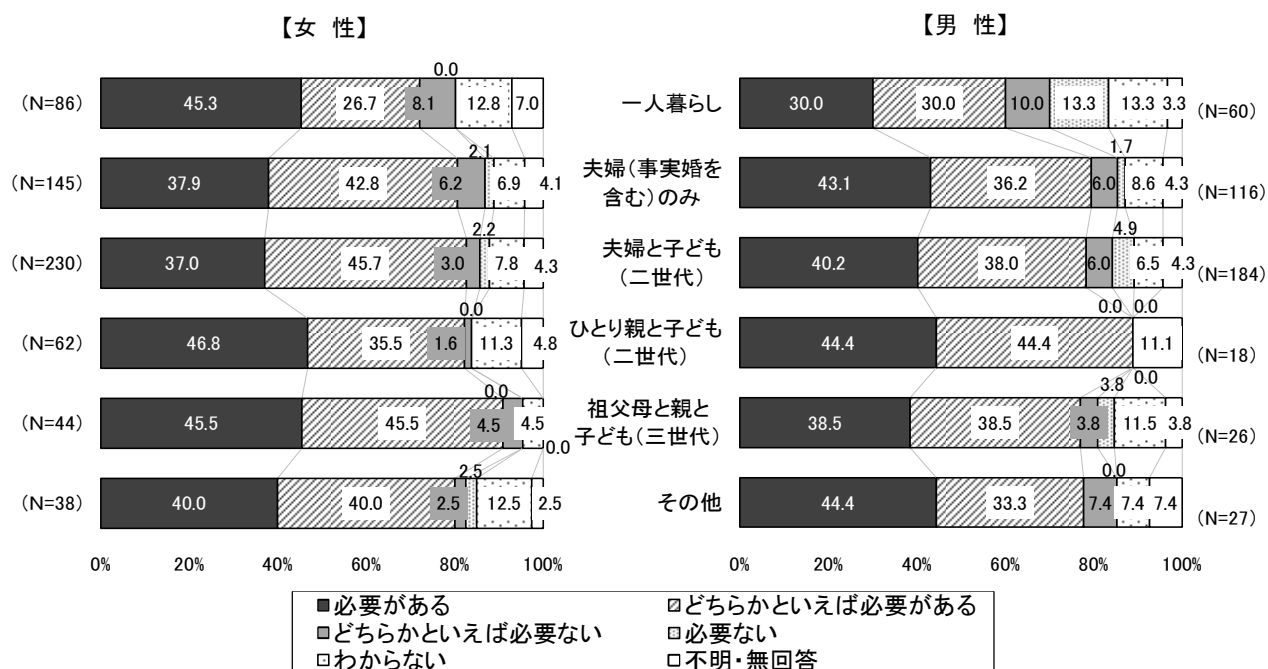
■約8割が性別に配慮した防災・災害復興対策の「必要がある」と考えている。

全体、男女ともに「必要がある」(「必要がある」と「どちらかといえば必要がある」の合計)が7割後半から8割前半を占めています。また、「必要ない」(「必要ない」と「どちらかといえば必要ない」の合計)は女性で5.6%、男性で11.1%と、わずかですが男性の方が高くなっています。

性別・世帯構成別にみると、一人暮らしでは他の世帯構成に比べて「必要ない」と考える割合が高くなっています。



性別・世帯構成別(問5)

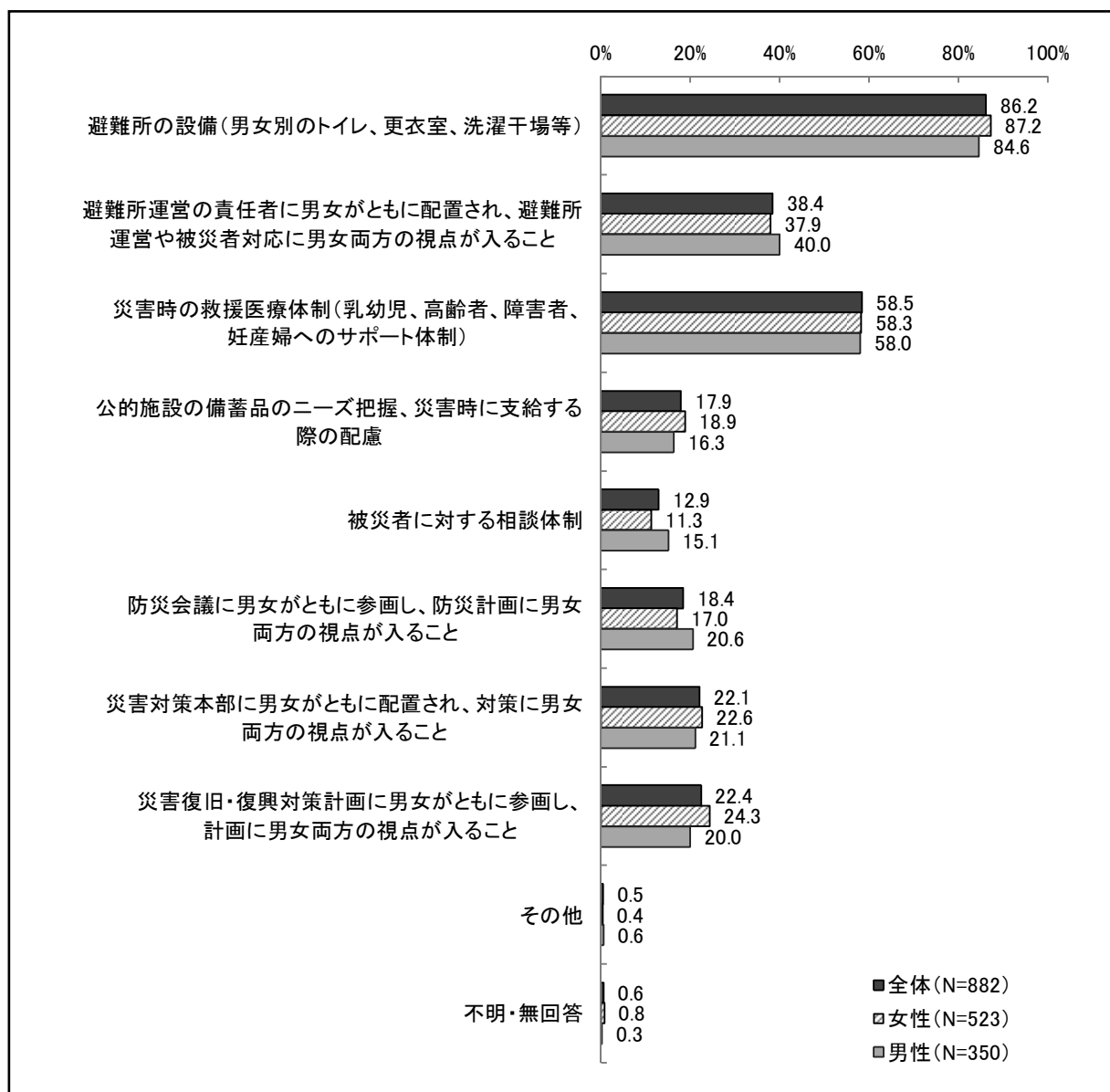


問 28 で「必要がある」もしくは「どちらかといえば必要がある」と回答された方

問 28－1 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)

■避難所の設備や運営、災害時の救援医療体制の必要性が高い。

全体、男女ともに「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等）」が最も高く8割半ばから8割後半となっており、次いで「災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）」「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」となっています。



問 29 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。
 (①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

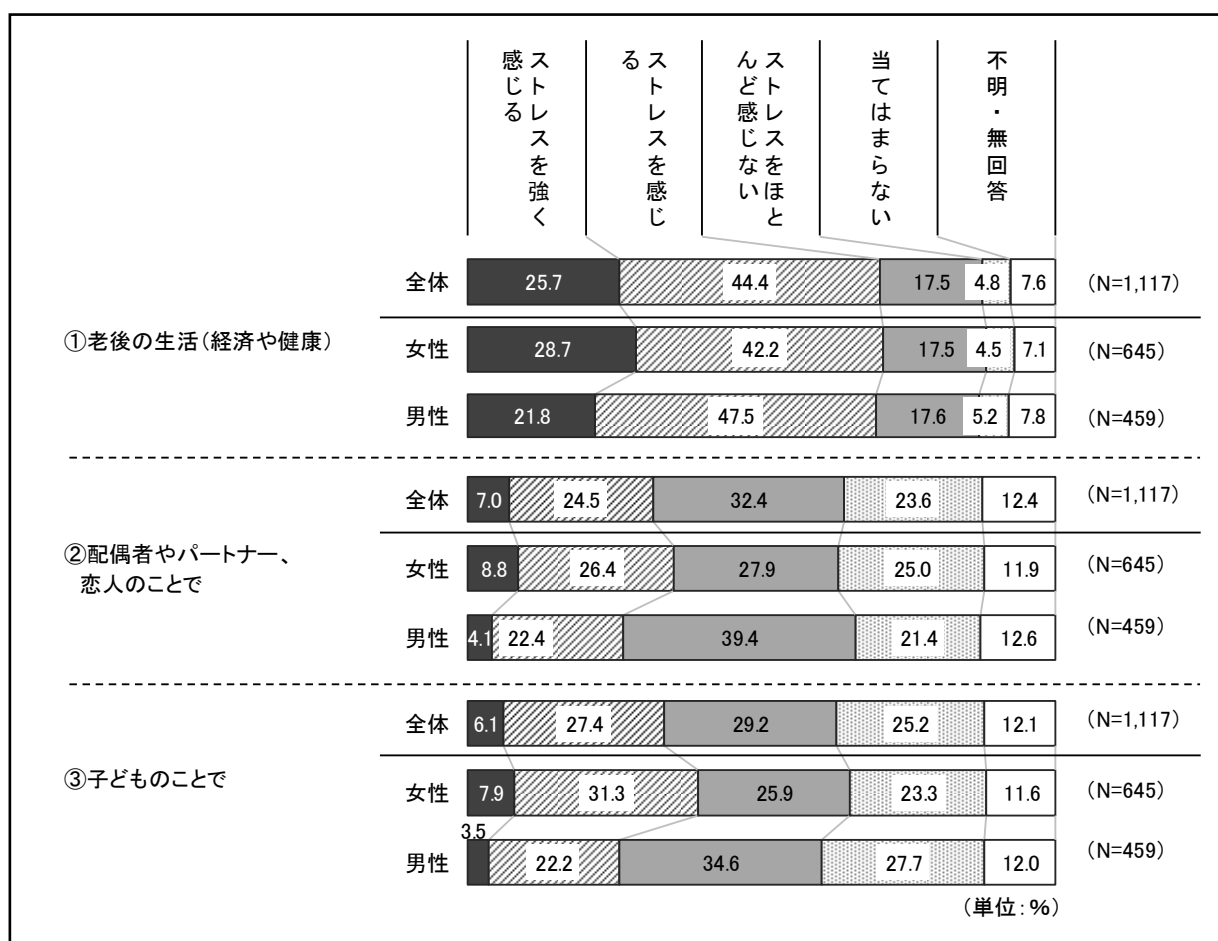
■『老後の生活（経済や健康）』『経済的なことで』に強いストレスを感じている。

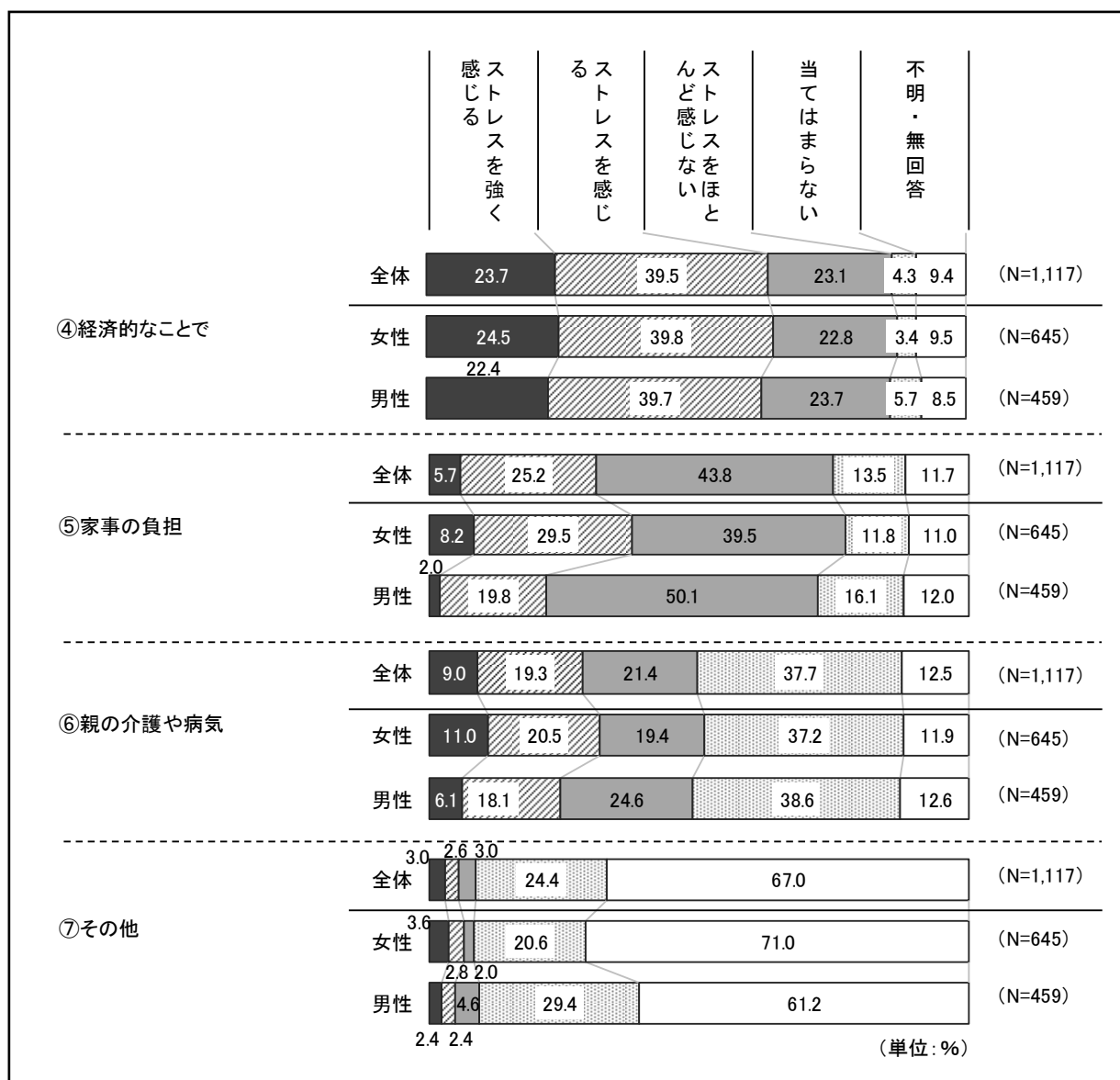
『子どものことで』『家事の負担』はすべての年代で女性の方が強いストレスを感じている。

男女ともに[ストレスを感じる]（「ストレスを強く感じる」と「ストレスを感じる」の合計）が最も高いのは『①老後の生活（経済や健康）』、次いで『④経済的なことで』となっています。また、『⑤家事の負担』で[ストレスを感じる]のは、女性で37.7%、男性で21.8%と女性の方が15.9ポイント高くなっています。

性別・年齢別の状況をストレス強度係数により分析すると、[ストレスを感じる]割合の高い『①老後の生活（経済や健康）』は男女ともに50～59歳で、『④経済的なことで』は男女ともに50～59歳で数値が高くなっています。また、『③子どものことで』『⑤家事の負担』はすべての年代で男性より女性の数値が高くなっています。

性別・就業形態別の状況をストレス強度係数により分析すると、[ストレスを感じる]割合が最も高いのは、男女ともにパート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）の『①老後の生活（経済や健康）』ですべての勤務形態では男性より女性の数値が高くなっています。





性別・年齢別

生活の中で、どのようなことにストレス（不安や悩み）を感じているか、ストレスの強さを属性性別で一覧するために、以下の定義で数値を算出し、レーダーチャートで表示して概観します。

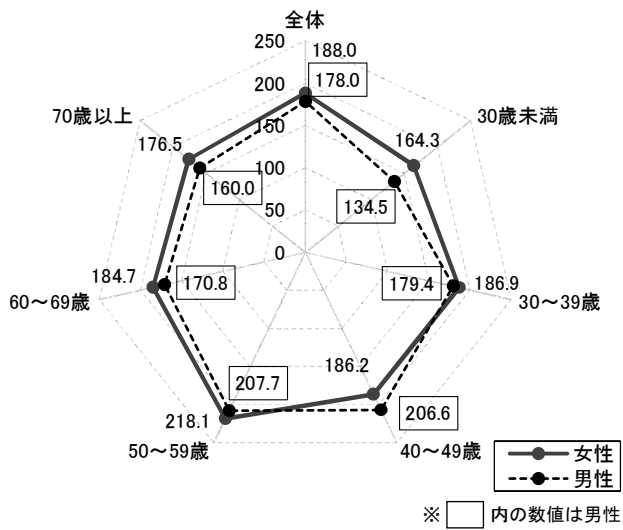
■ストレス強度係数

生活の中で感じているストレスの強さを本報告書では、『ストレス強度係数』で表しています。

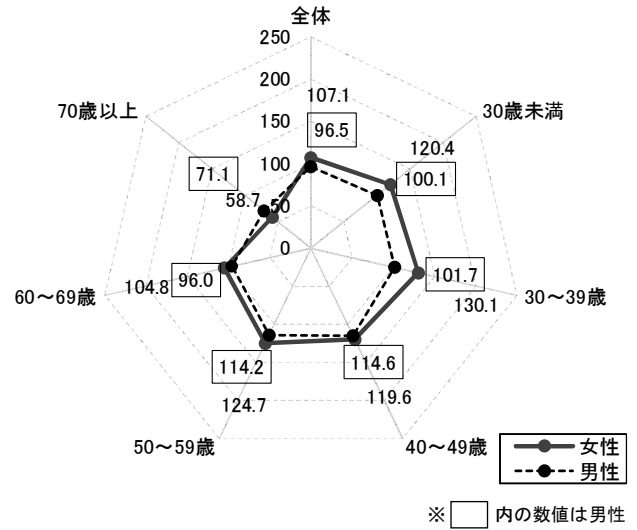
ストレス強度係数の計算方法

「ストレスを強く感じる」割合 (%)	× 3	} 合計値を 『ストレス強度係数』 とする
「ストレスを感じる」割合 (%)	× 2	
「ストレスはほとんど感じない」割合 (%)	× 1	

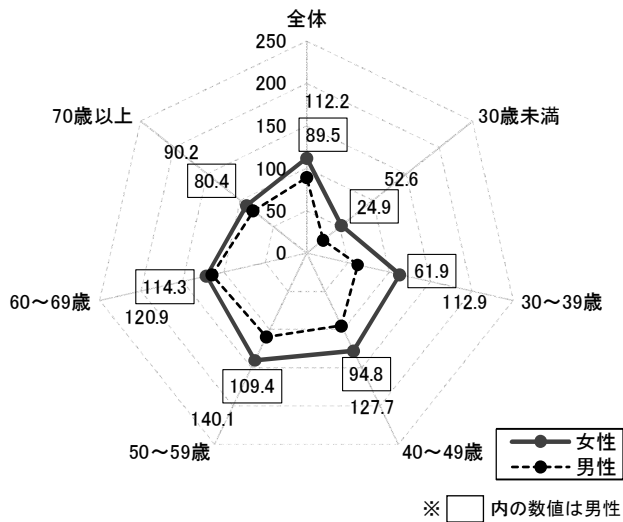
①老後の生活(経済や健康)



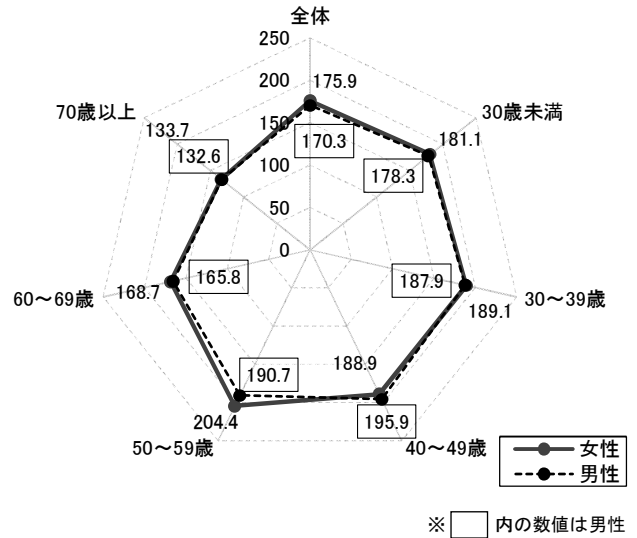
②配偶者やパートナー、恋人のことで



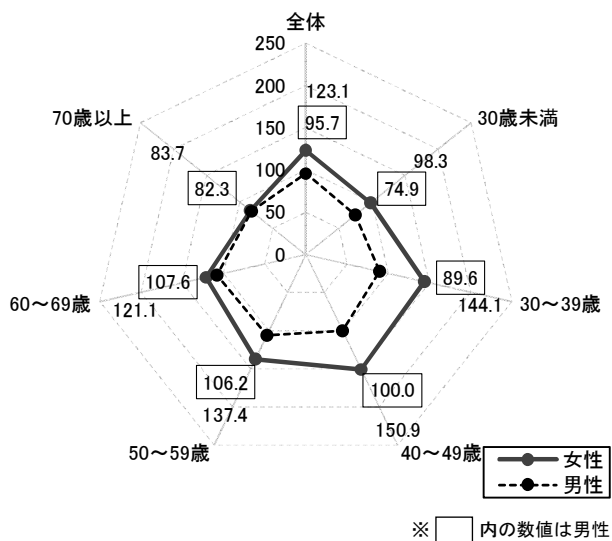
③子どものことで



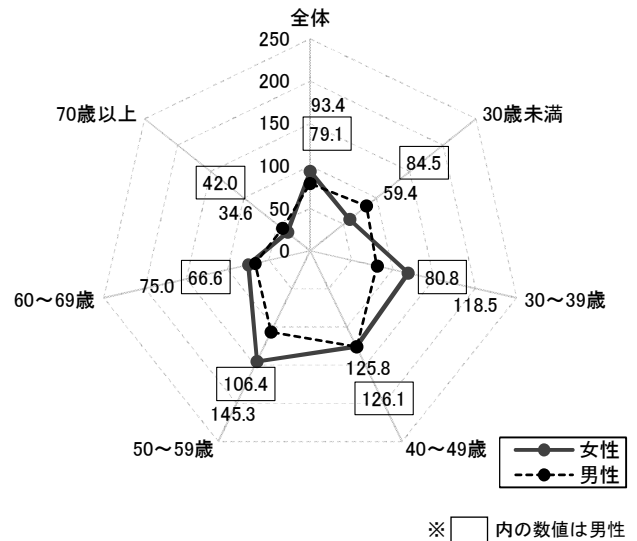
④経済的なことで



⑤家事の負担



⑥親の介護や病気



性別・就業形態別 ストレス強度係数

		対象者数（人）	① 老後の生活（経済や健康）	② 配偶者やパートナー、 恋人のことで	③ 子どものことで	④ 経済的なことで	⑤ 家事的負担	⑥ 親の介護や病気
女性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	96	189.6	121.0	95.0	191.5	136.6	109.6
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	54	220.4	113.0	114.8	203.8	131.5	120.4
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	118	199.9	120.4	128.9	198.2	133.9	116.2
	自営業主・経営者（農林業を含む）	16	187.5	100.0	112.7	168.9	150.3	112.8
	自営業の手伝い、家族従業員	25	184.0	104.0	136.0	160.0	136.0	80.0
男性	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	177	187.6	108.9	90.2	175.2	100.6	106.2
	パート、アルバイトの勤め人（常勤なみ）	20	220.0	95.0	75.0	180.0	75.0	55.0
	パート、アルバイトの勤め人（短時間）	28	185.8	99.9	78.6	171.5	85.7	89.3
	自営業主・経営者（農林業を含む）	57	171.8	105.3	124.4	166.7	105.3	86.1
	自営業の手伝い、家族従業員	6	150.0	100.1	66.7	199.8	66.7	83.4

問 30 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものに○をつけてください。

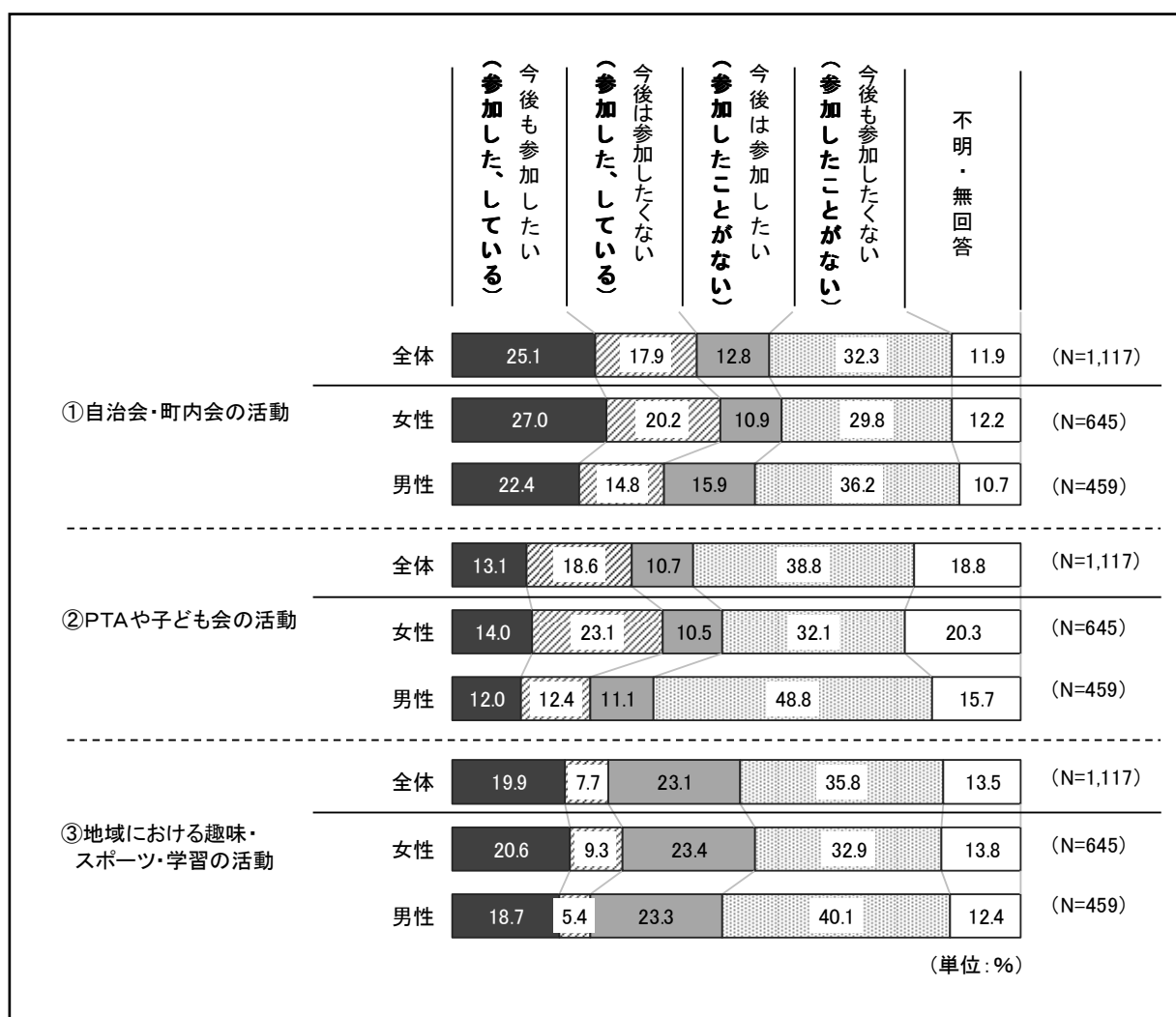
(①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

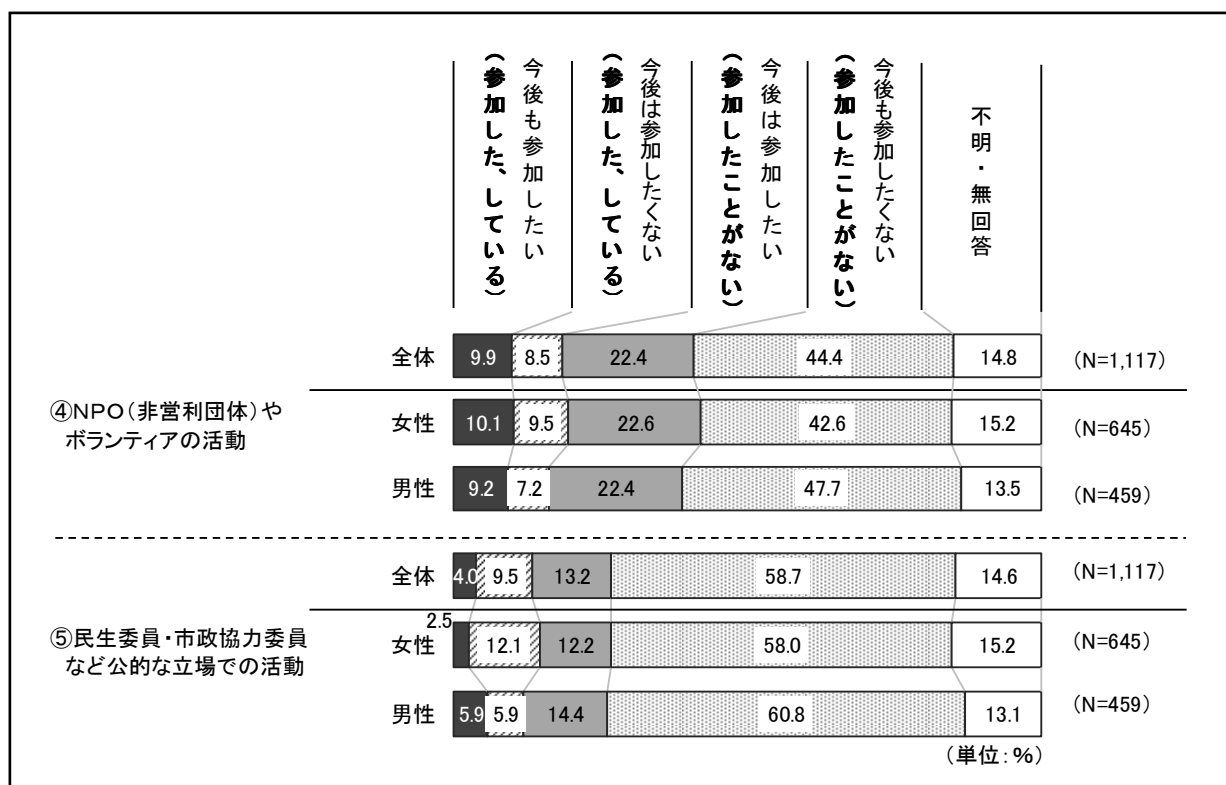
■『地域における趣味・スポーツ・学習の活動』への参加意向が高い。

『民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』への参加意向が低い。

全体、男女ともに「参加した、している」「今後も参加したい(参加した、している)」と「今後は参加したくない(参加した、している)」の合計は『①自治会・町内会の活動』で高くなっています。今後の参加意向について「今後参加したい」「今後も参加したい(参加した、している)」と「今後は参加したい(参加したことがない)」の合計は『③地域における趣味・スポーツ・学習の活動』が、「今後参加したくない」「今後は参加したくない(参加した、している)」と「今後も参加したくない(参加したことがない)」の合計は『⑤民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動』が男女ともに高くなっています。

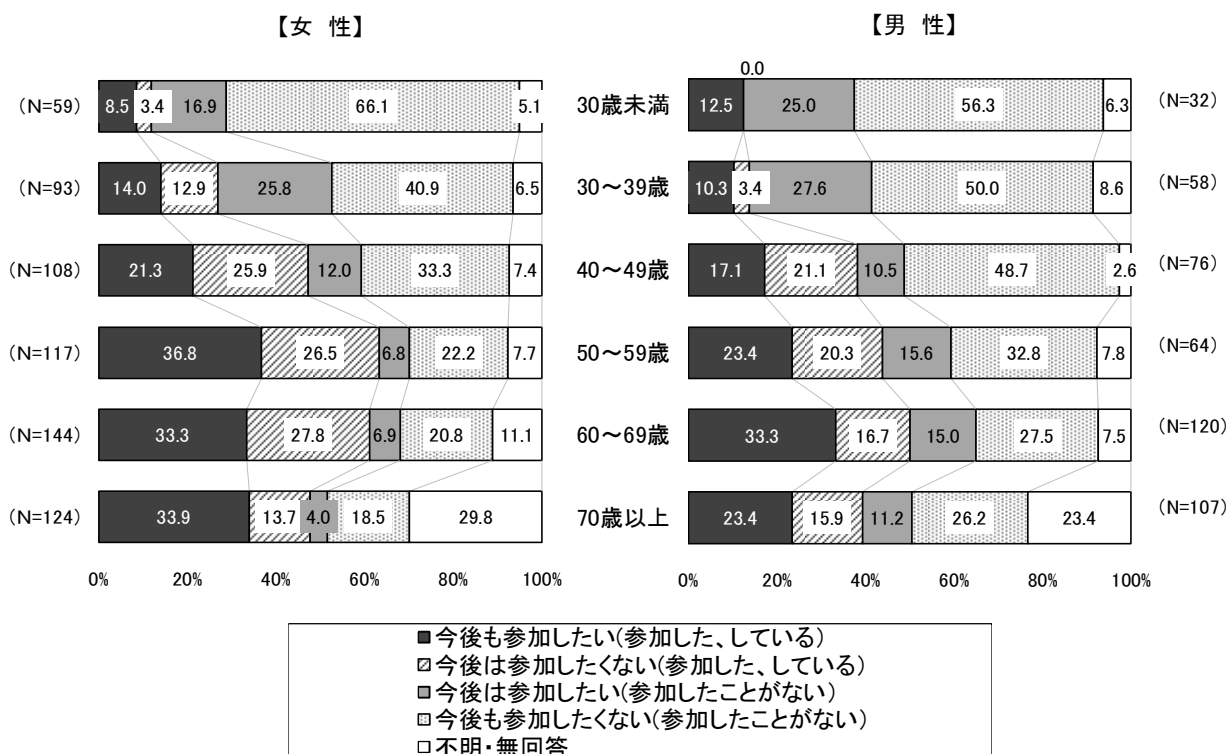
性別・年齢別にみると、『②PTAや子ども会の活動』に「今後参加したい」状況では60歳未満では男性より女性の方が高くなっていますが、60歳以上では男性の方が高くなっています。



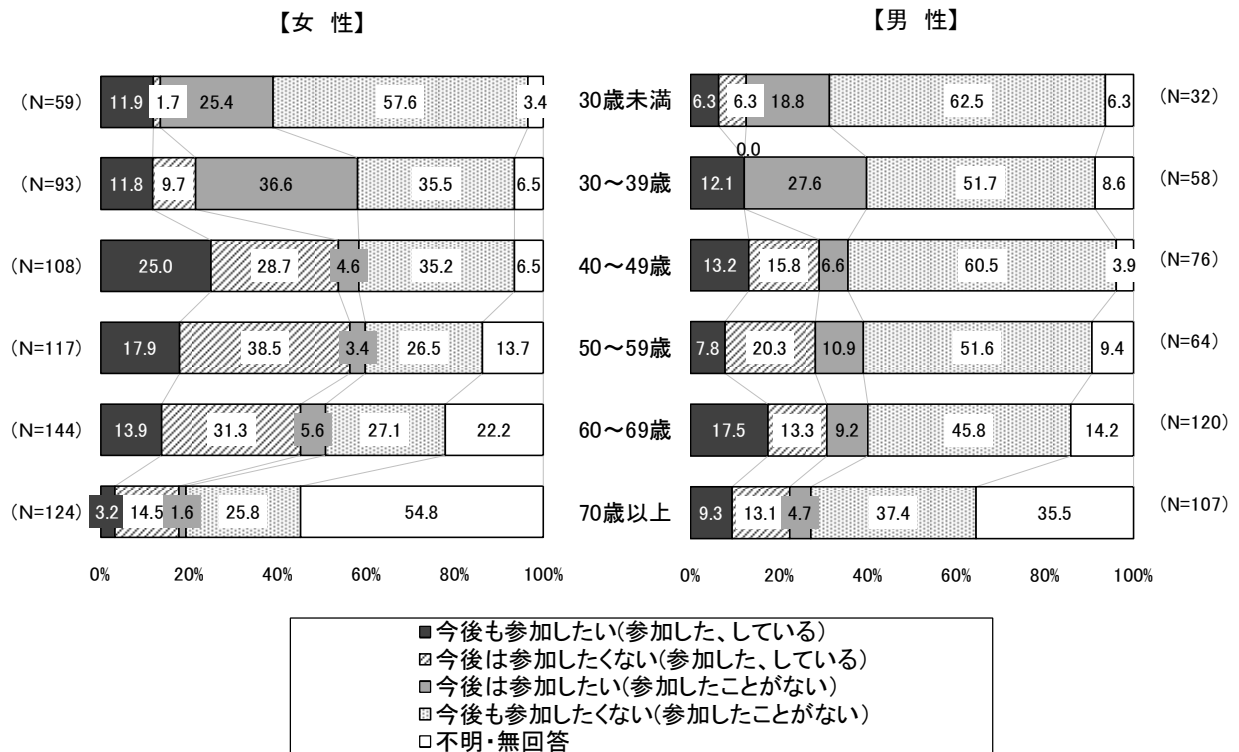


性別・年齢別

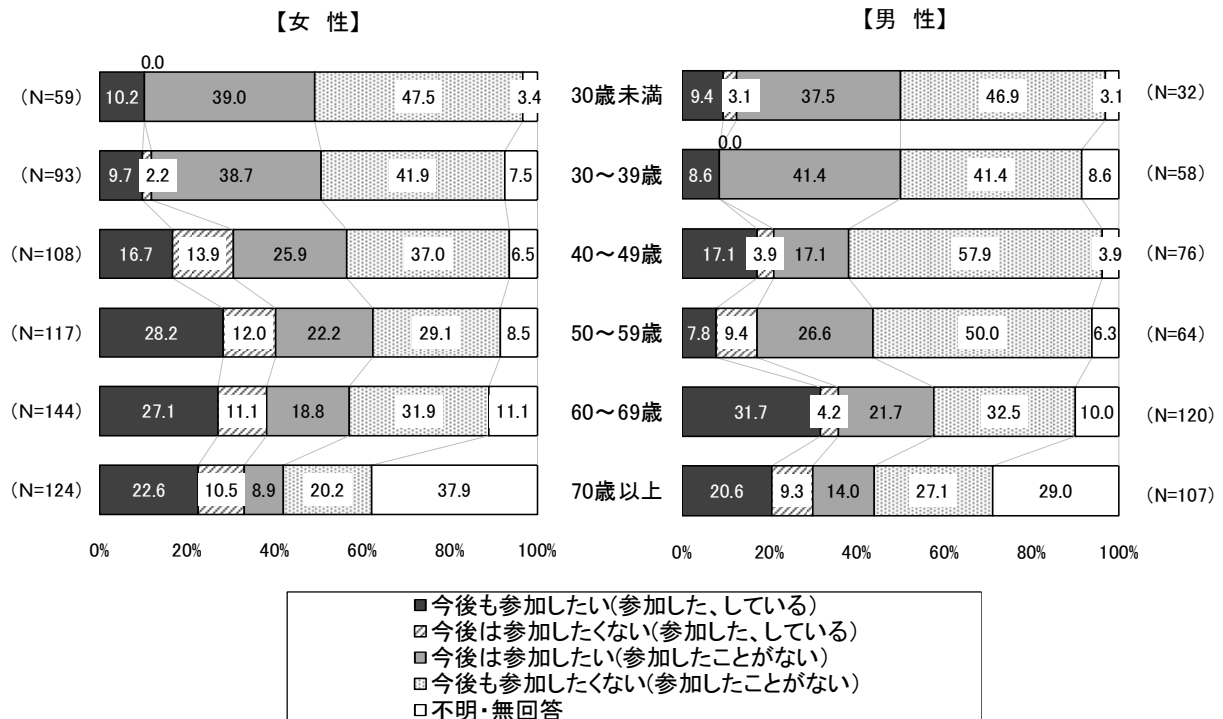
①自治会・町内会の活動



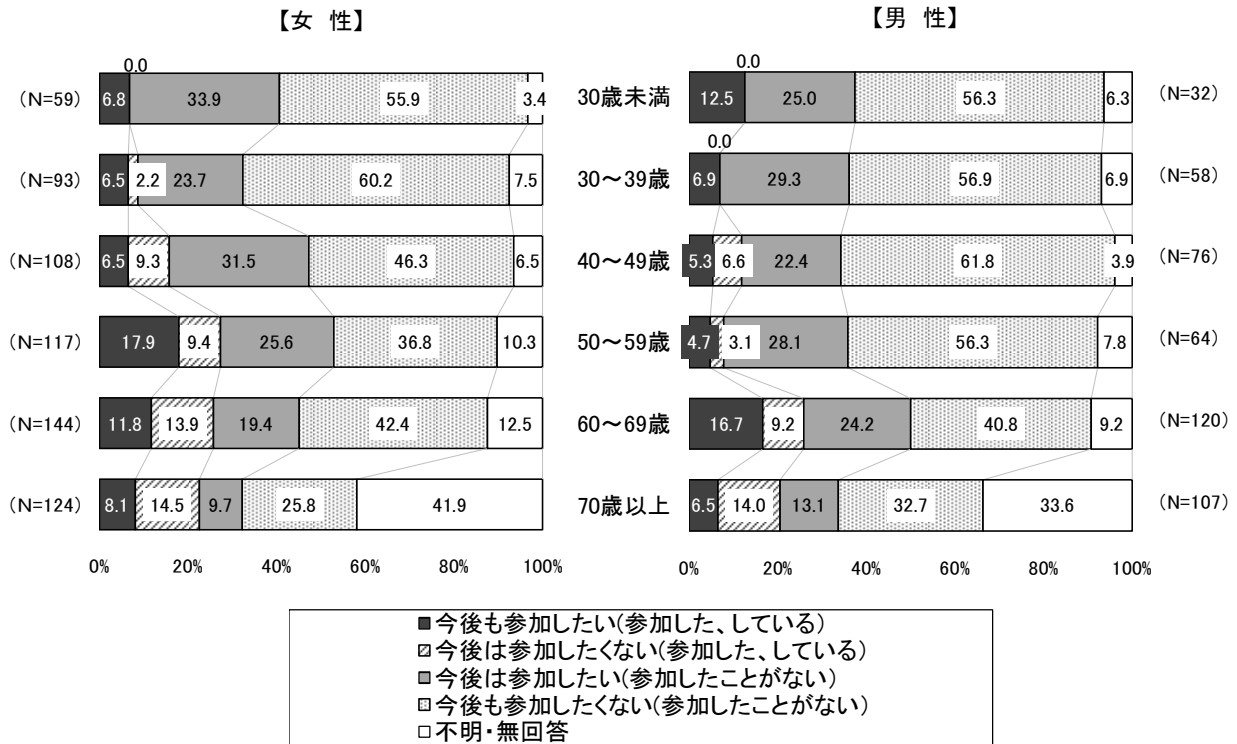
② P T A や子ども会の活動



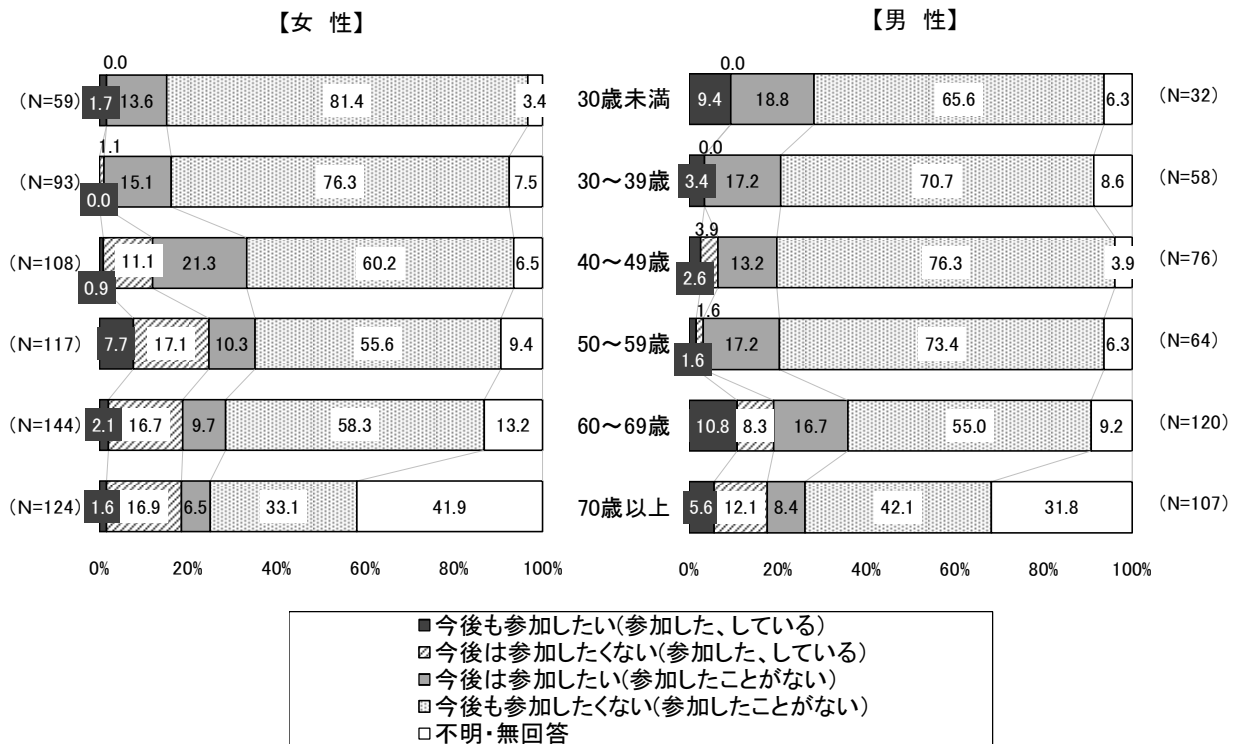
③ 地域における趣味・スポーツ・学習の活動



④NPO（非営利団体）やボランティアの活動



⑤民生委員・市政協力委員など公的な立場での活動



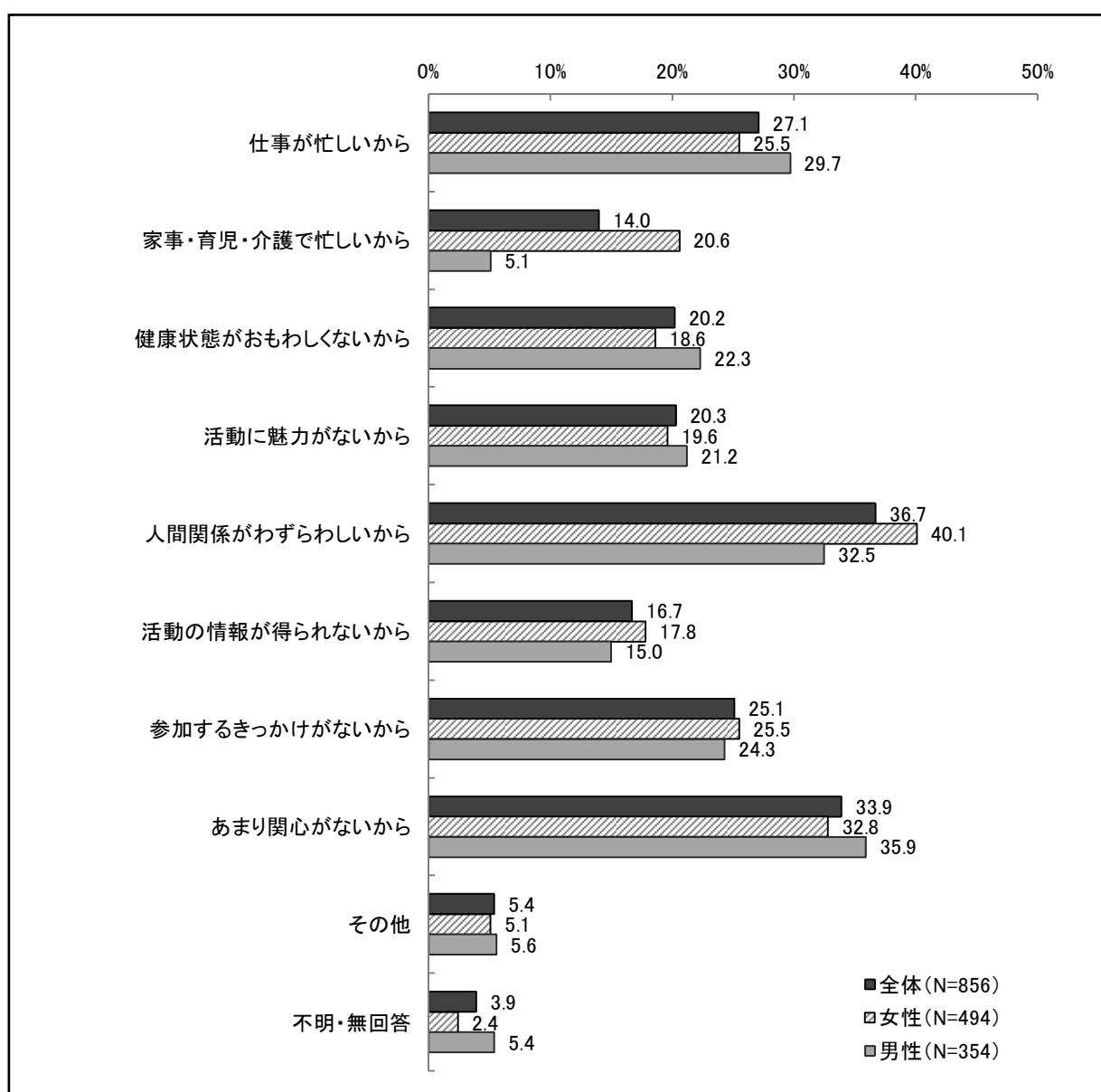
問 30 の①～⑤で「(参加した、している) 今後は参加したくない」もしくは「(参加したことがない) 今後も参加したくない」に1つ以上回答された方

問 30-1 それはどうしてですか。(〇はいくつでも)

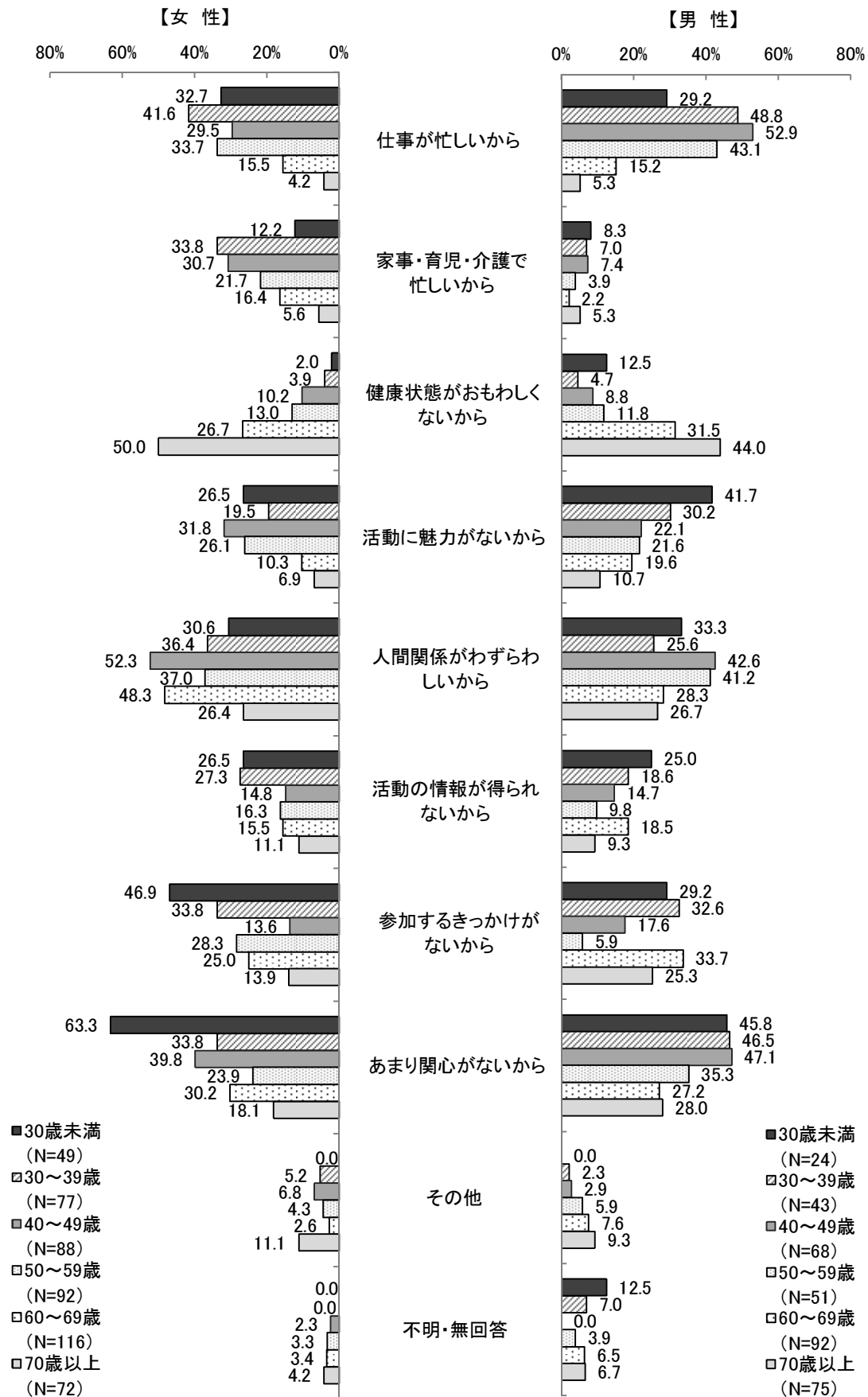
■参加したくない理由は「人間関係がわずらわしいから」「あまり関心がないから」。

女性では「人間関係がわずらわしいから」が高く、次いで「あまり関心がないから」「仕事が忙しいから」「参加するきっかけがないから」、男性では「あまり関心がないから」が高く、次いで「人間関係がわずらわしいから」「仕事が忙しいから」となっており、順位は異なりますが上位項目は同様です。

性別・年齢別にみると、「あまり関心がないから」は女性の30歳未満で特に高く、男性でも50歳未満で他の年代に比べて高くなっています。また、「仕事が忙しいから」は男性の40～49歳にかけて割合が高くなり、60歳以降は減少しています。「家事・育児・介護で忙しいから」は女性の30歳以上50歳未満で3割前半と、他の年代に比べて高くなっています。



性別・年齢別



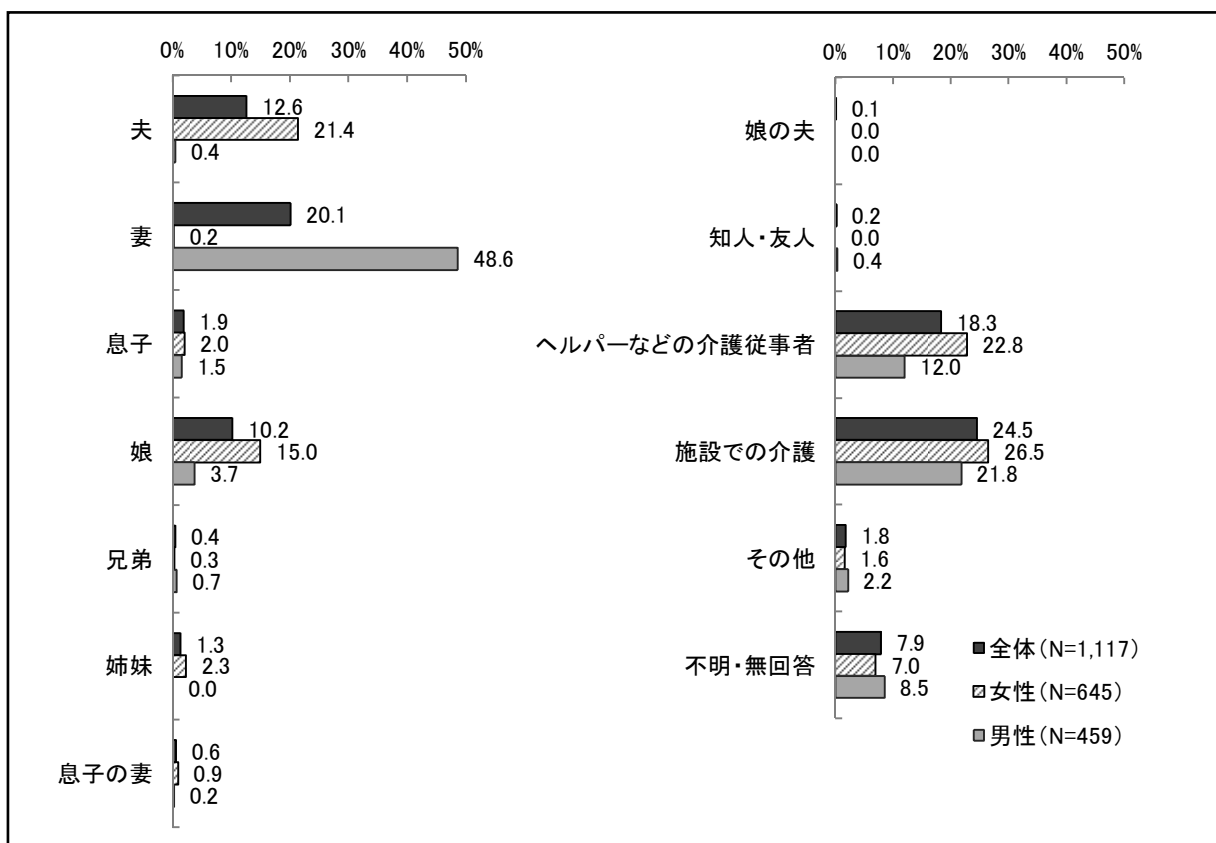
問 31 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。
(○は1つ)

■女性は「施設での介護」「ヘルパーなどの介護従事者」などの専門機関での介護を望んでいる。

男性は約半数が「妻」の介護を望んでいる。

全体、女性では「施設での介護」が高くなっていますが、男性では「妻」が 48.6%と突出して高くなっています。

性別・年齢別に上位3位をみると、男性ではすべての年代で「妻」が1位となっています。



性別・年齢別(上位3位を抜粋)

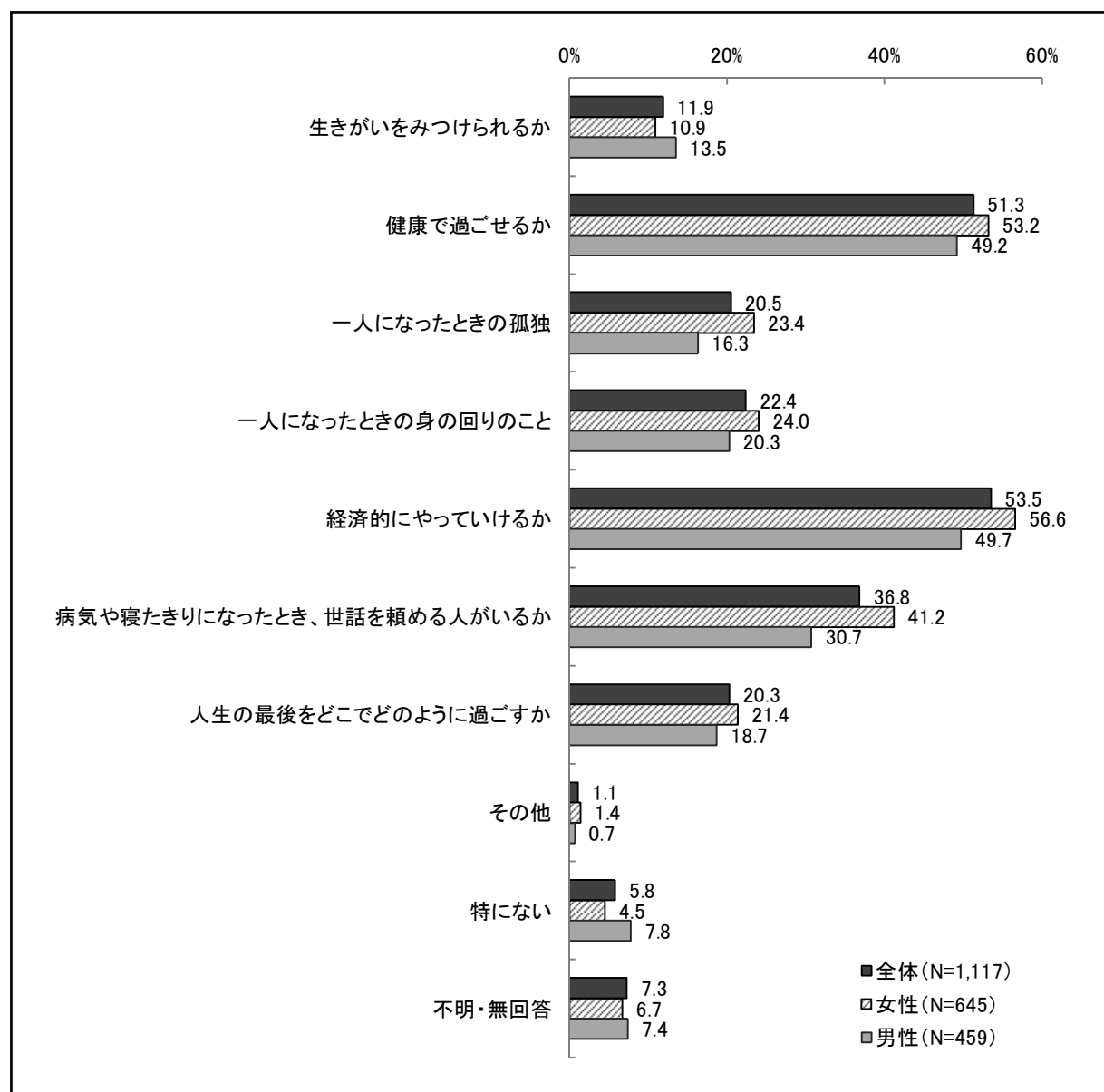
		対象者数 (人)	1位	2位	3位
女性	全体	645	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	30歳未満	59	施設での介護	夫	ヘルパーなどの介護従事者
	30～39歳	93	夫	ヘルパーなどの介護従事者	施設での介護
	40～49歳	108	夫	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	50～59歳	117	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	60～69歳	144	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者	夫
	70歳以上	124	施設での介護	娘	ヘルパーなどの介護従事者
男性	全体	459	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	30歳未満	32	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	30～39歳	58	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	40～49歳	76	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	50～59歳	64	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	60～69歳	120	妻	施設での介護	ヘルパーなどの介護従事者
	70歳以上	107	妻	施設での介護	娘

問 32 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。
(〇はいくつでも)

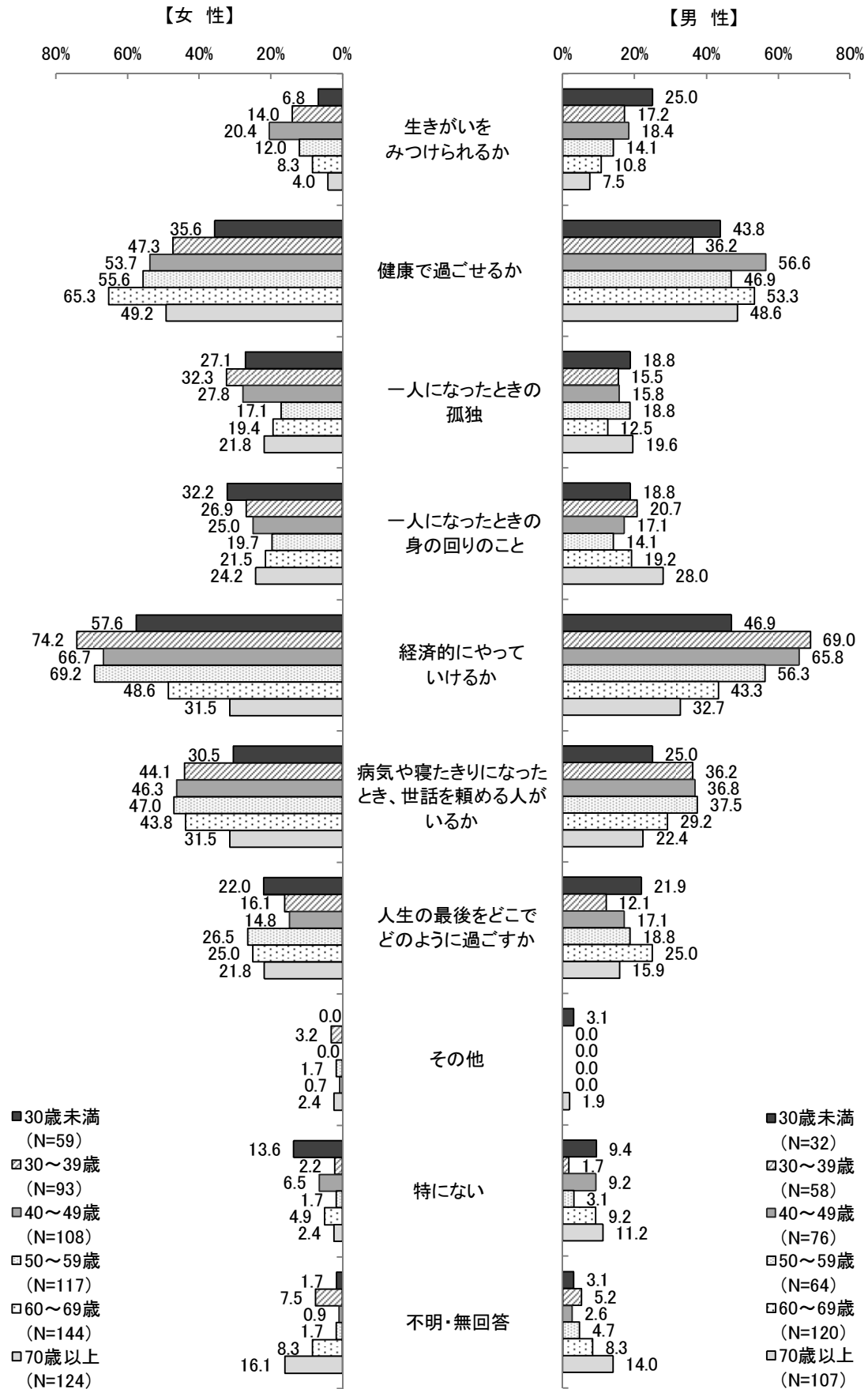
■老後の生活の不安要素は「経済的にやっていけるか」「健康で過ごせるか」となっている。

全体、男女ともに「経済的にやっていけるか」が高く、次いで「健康で過ごせるか」となっています。「病気や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか」では女性 41.2%、男性 30.7% となっており、他の項目に比べて回答に男女差がみられます。

性別・年齢別にみると、「経済的にやっていけるか」は男女ともに 30～39 歳で高く年代が上がるほど減少する傾向にあります。



性別・年齢別

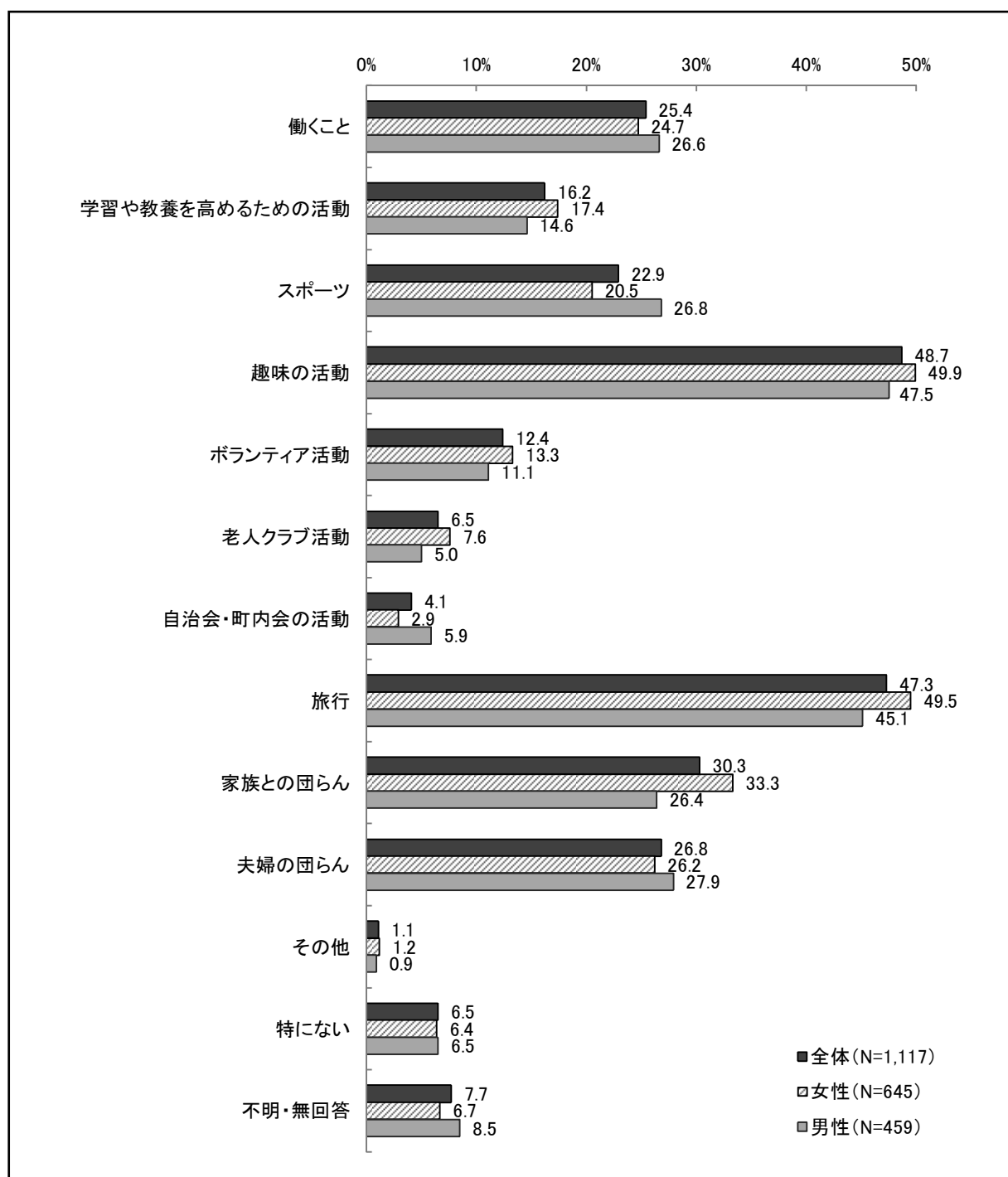


問 33 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。(〇はいくつでも)

■老後にやってみたいことは、男女ともに「趣味の活動」「旅行」となっている。

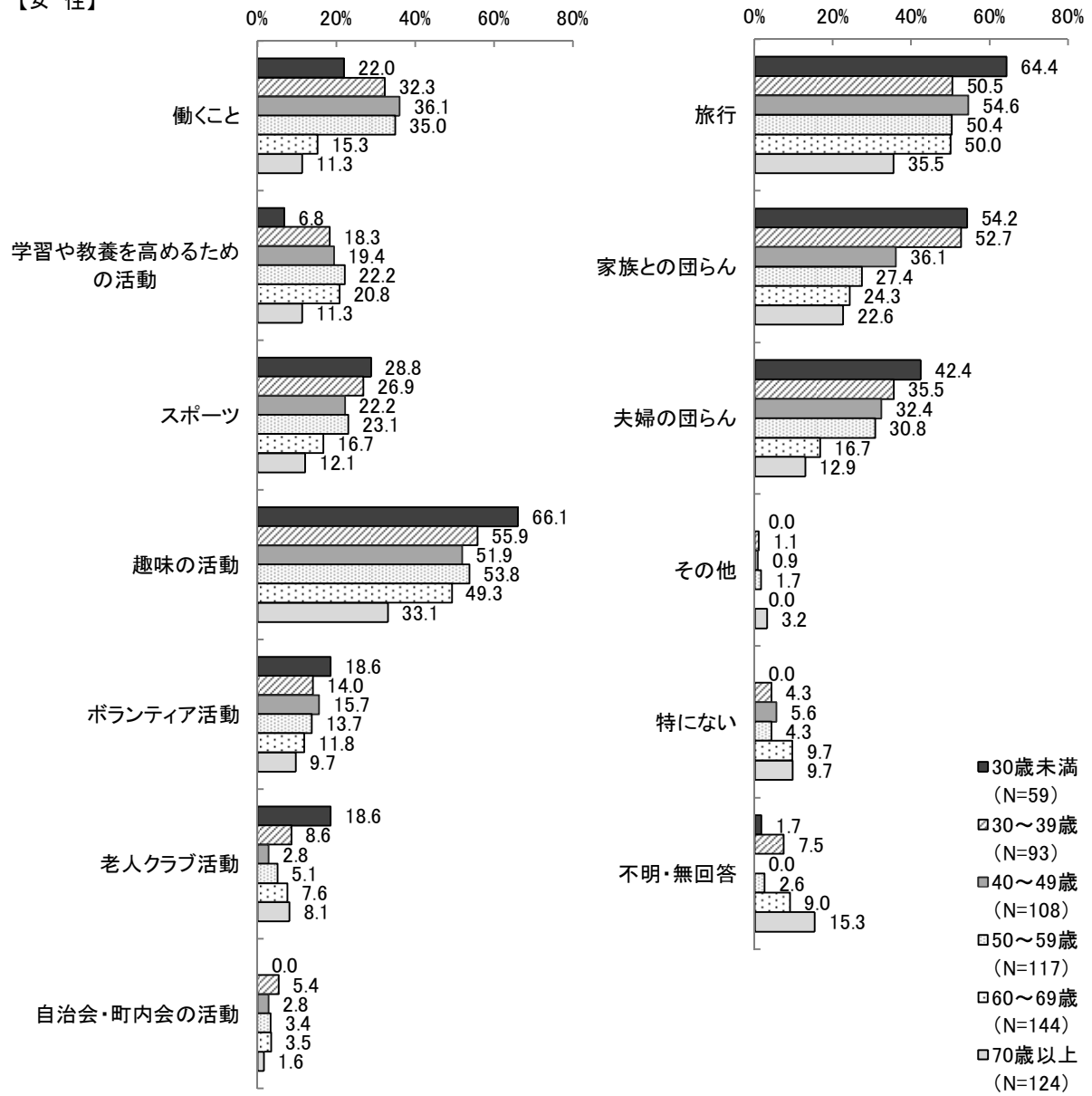
全体、男女ともに「趣味の活動」が高く、次いで「旅行」となっています。「スポーツ」では男性が女性より 6.3 ポイント高く、「家族との団らん」では女性が男性より 6.9 ポイント高くなっており、他の項目より回答に男女差がみられます。

性別・年齢別にみると、「家族との団らん」で 50 歳未満では男性よりも女性の方が高くなっていますが、50 歳以上では男性の方が高くなっています。また、「夫婦の団らん」も 60 歳未満では女性の方が高く、60 歳以上では男性の方が高くなっています。

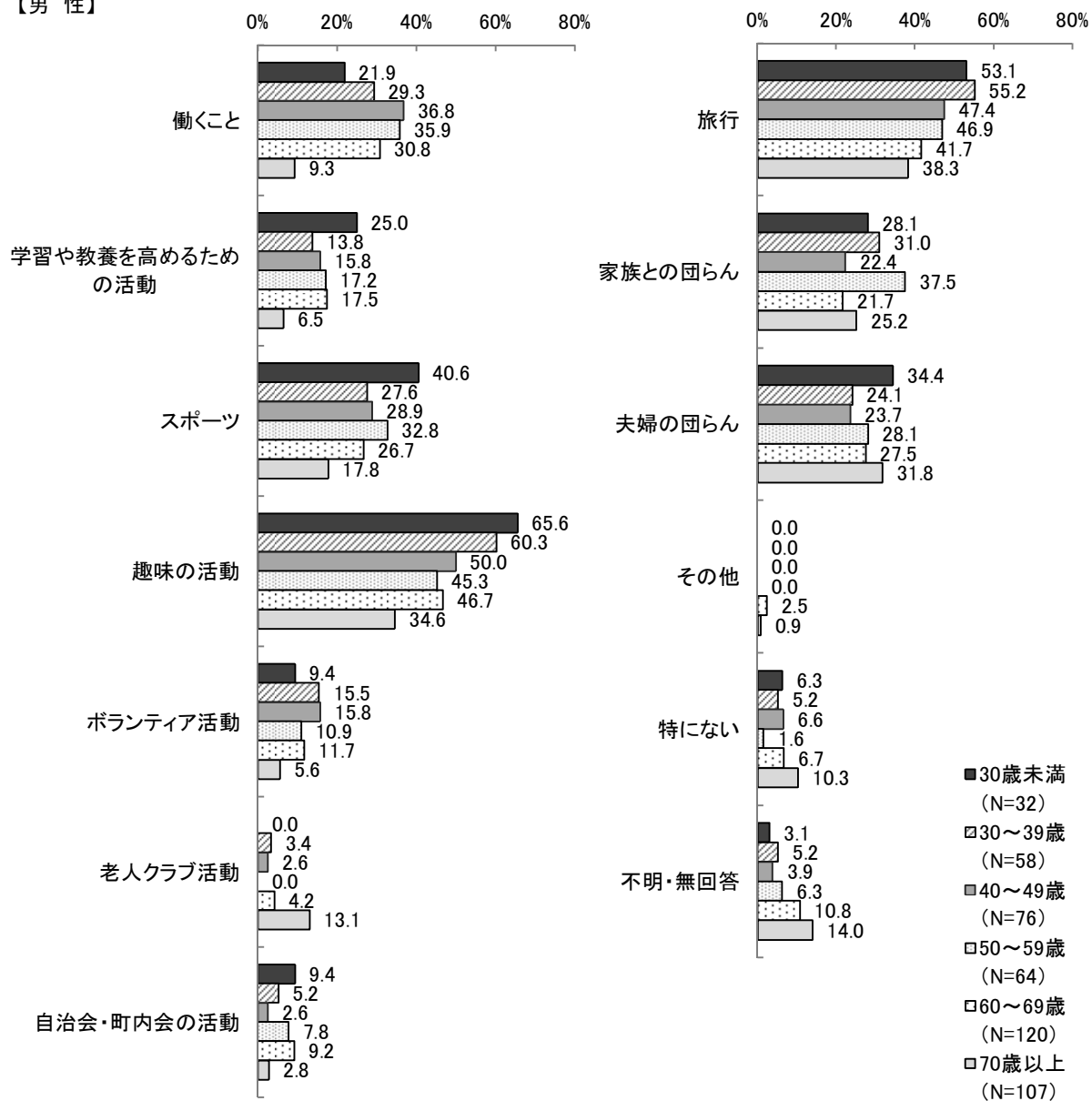


性別・年齢別

【女 性】



【男 性】



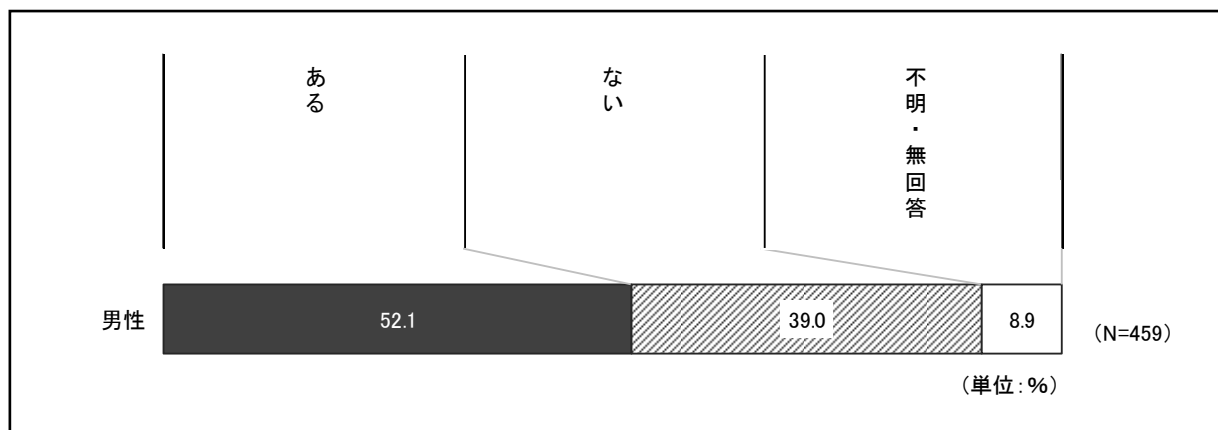
「男性」におたずねします

問 34 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。(○は1つ)

■過半数の男性が「男もつらい」と感じており、他の年代と比較して60歳未満では約7割と増加する。

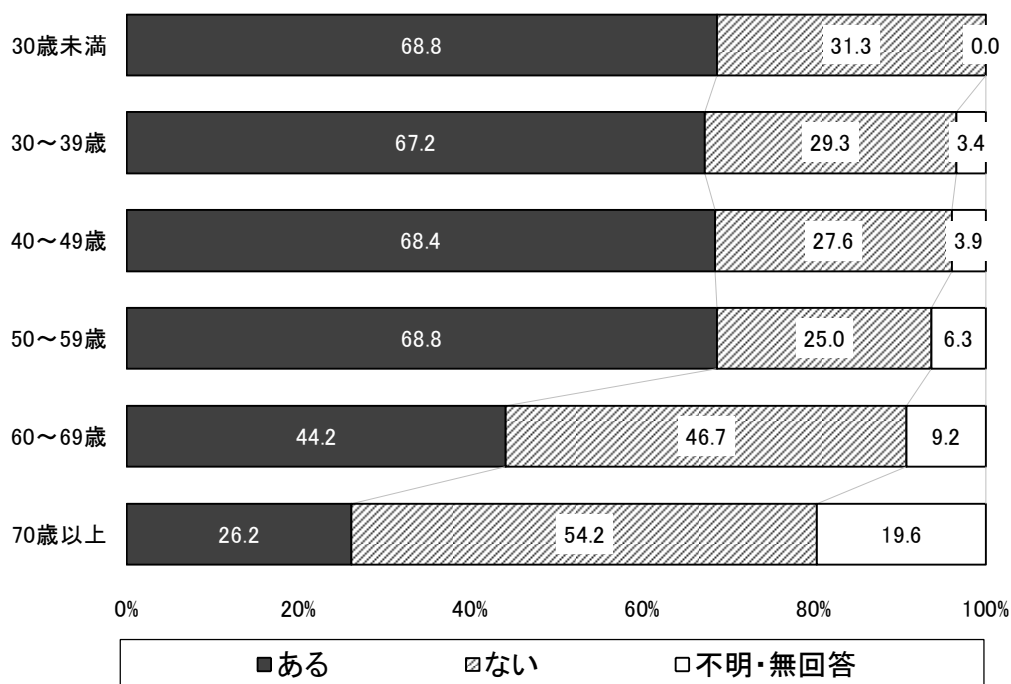
「ある」が52.1%、「ない」が39.0%と「ある」が13.1ポイント高くなっています。

年齢別にみると、60歳未満では「ある」が6割後半と高くなっていますが、60歳以降は「ない」の方が「ある」より高くなっています。



男性・年齢別

【男 性】



問 34 で「ある」と回答された方

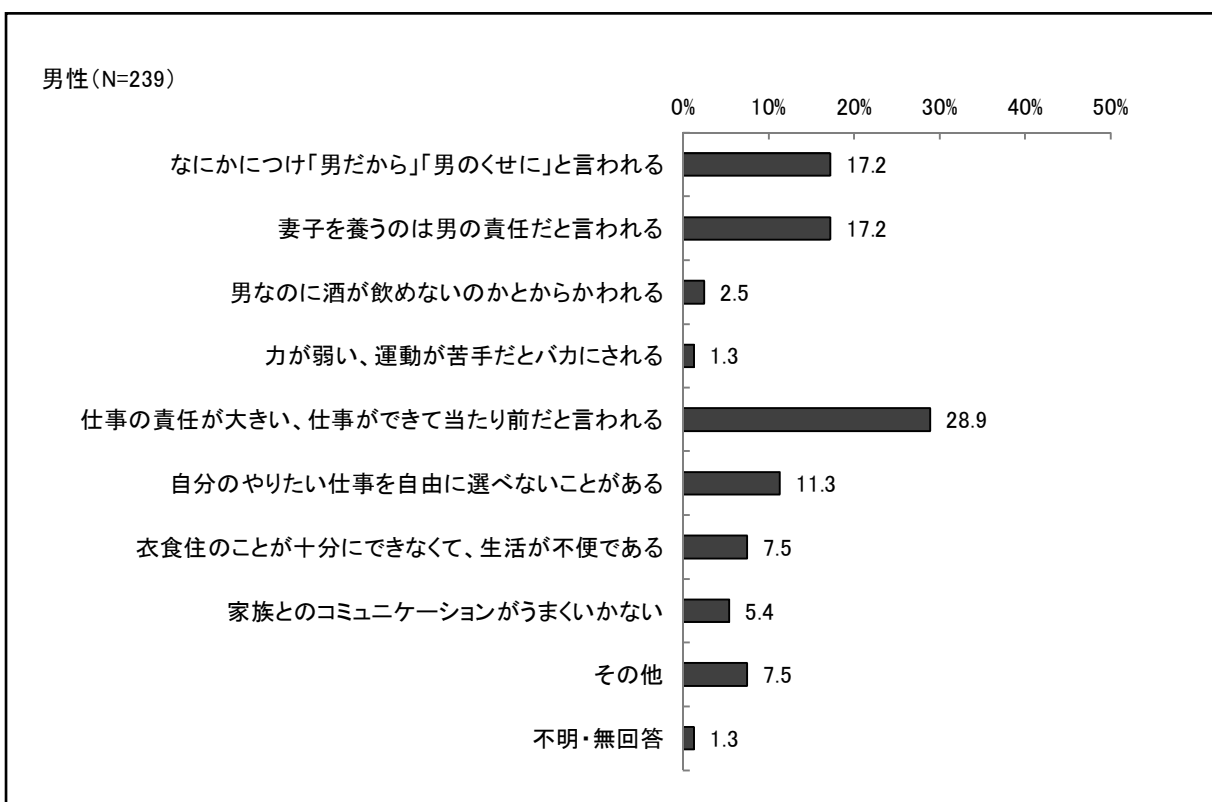
問 34－1 それはどんなことですか。(○は1つ)

■「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」が 28.9%と高く、30 歳以上 60 歳未満で増加している。

30 歳未満では「なににかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が 36.4%と高い。

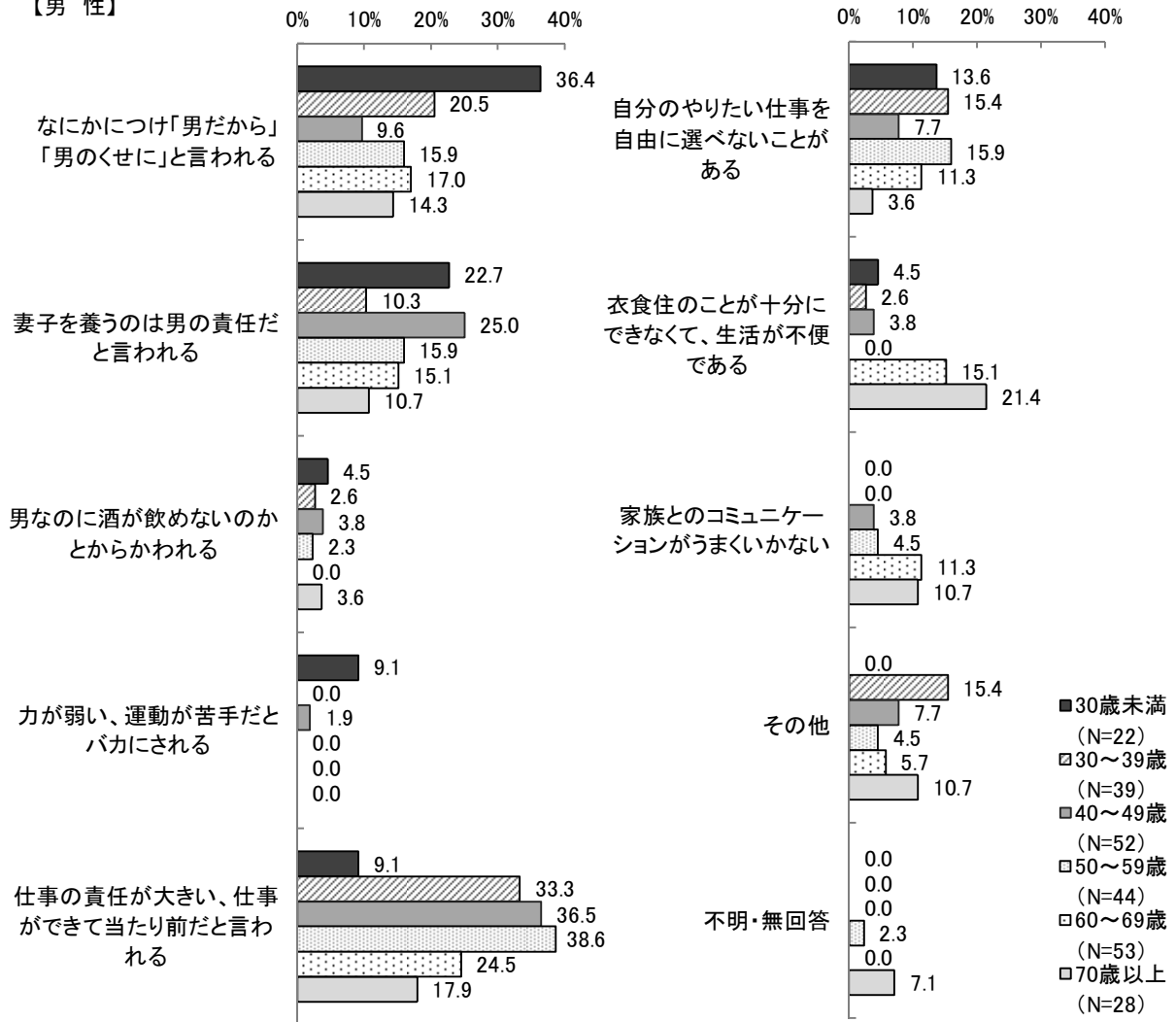
「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」が 28.9%と高く、次いで「なににかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」「妻子を養うのは男の責任だと言われる」となっています。

年齢別にみると、30 歳未満では「なににかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる」が 36.4%と他の年代に比べて高い一方、「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」は 9.1%と低くなっています。「仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前だと言われる」は 30～39 歳から 50～59 歳にかけて割合が高くなっています。また、「衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である」では 60 歳以上で 1 割半ばから 2 割前半と、他の年代に比べて高くなっています。



男性・年齢別

【男 性】

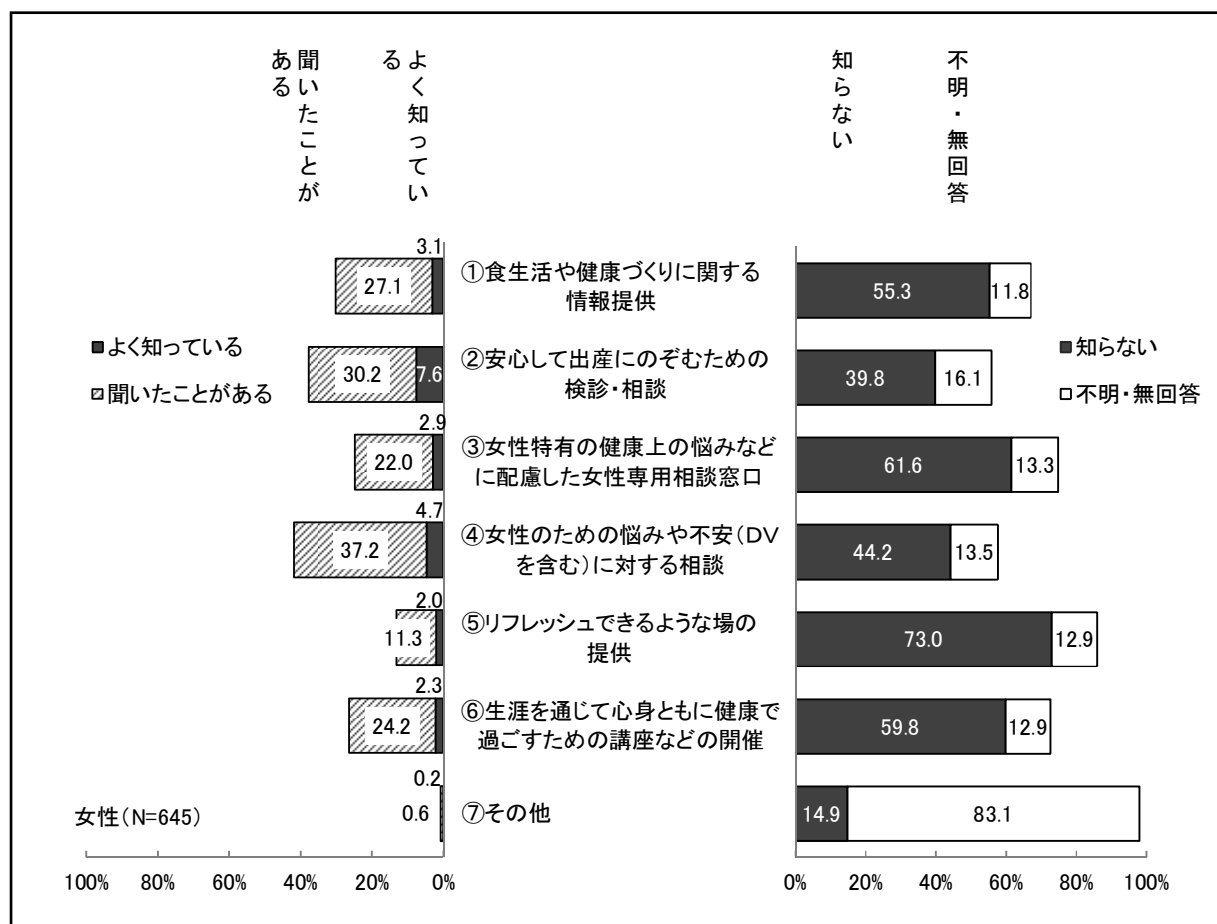


「女性」におたずねします

問 35 東大阪市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。
 あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)
 また、利用したことがあるものには「4. 利用したことがある」にも○をつけてください。

■『女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談』を「よく知っている」のは37.2%。

『④女性のための悩みや不安（DVを含む）に対する相談』は「よく知っている」が37.2%と高くなっており、次いで『②安心して出産にのぞむための検診・相談』『①食生活や健康づくりに関する情報提供』となっています。また、『⑤リフレッシュできるような場の提供』は「知らない」が73.0%と認知度が低くなっています。



◆利用したことがある割合

	①食生活や健康づくりに関する情報提供	②安心して出産にのぞむための検診・相談	③女性特有の健康上の悩みなどに配慮した女性専用相談窓口	④女性のための悩みや不安(DVを含む)に対する相談	⑤リフレッシュできるような場の提供	⑥生涯を通じて心身ともに健康で過ごすための講座などの開催	⑦その他
利用したことがある割合(%)	2.6	6.2	0.2	0.5	0.8	0.8	1.2

5. 人権の尊重について

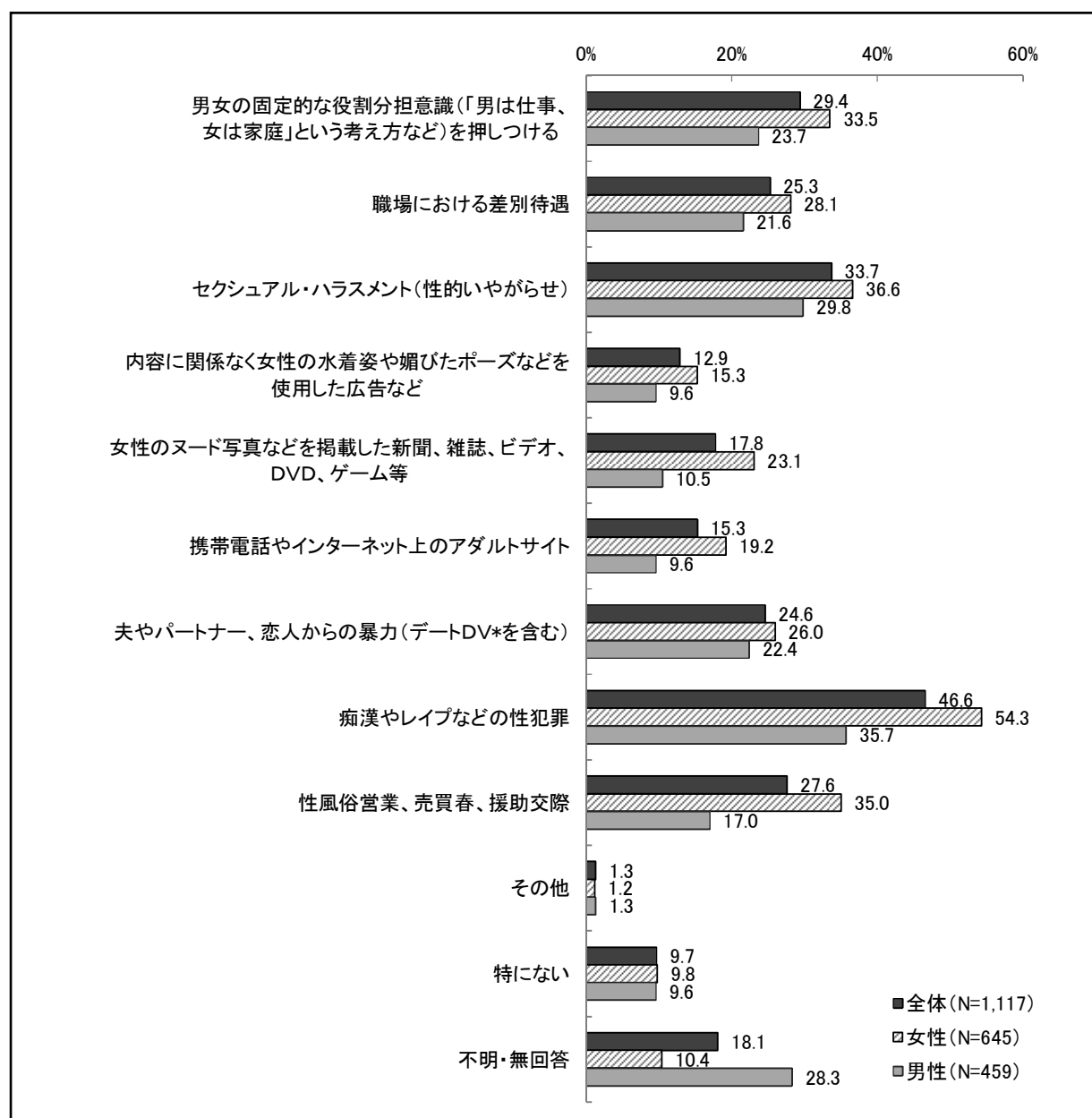
問 36 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。
(○はいくつでも)

■性犯罪やセクシュアル・ハラスメント等の女性の人権に対する認識は高くても半数程度で、「特
ない」と考える人も1割程度おり、認識は高くない。

女性より男性の認識が低い。

全体、男女ともに「痴漢やレイプなどの性犯罪」が高く、次いで「セクシュアル・ハラスメント
(性的いやがらせ)」となっています。すべての項目で男性より女性の割合が高く、「痴漢やレイプ
などの性犯罪」「性風俗営業、売買春、援助交際」で特に男女差が大きくなっています。また、女性
の人権が尊重されていないと感じることは「特にない」との回答は男女ともに1割近くいます。

性別・年齢別では男女ともにすべての年代で「痴漢やレイプなどの性犯罪」が高く、特に女性の
60歳未満、男性の40歳未満で5割以上と高くなっています。



性別・年齢別

		対象者数（人）	男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける	職場における差別待遇	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	内容に関係なく女性の水着姿や媚びたポーズなどを使用した広告など	雑誌、ビデオ、DVD、ゲーム等	女性のヌード写真などを掲載した新聞、雑誌、ビデオ、DVD、ゲーム等	携帯電話やインターネット上のアダルトサイト	夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDVを含む）	痴漢やレイプなどの性犯罪	性風俗営業、売買春、援助交際	その他	特にない	不明・無回答
女性	30歳未満	59	35.6	35.6	52.5	25.4	23.7	20.3	33.9	71.2	28.8	1.7	6.8	1.7	
	30～39歳	93	35.5	24.7	37.6	6.5	10.8	6.5	29.0	57.0	23.7	4.3	12.9	6.5	
	40～49歳	108	41.7	27.8	38.9	16.7	23.1	24.1	30.6	67.6	34.3	0.0	10.2	1.9	
	50～59歳	117	35.9	31.6	43.6	16.2	29.9	24.8	32.5	65.0	49.6	1.7	4.3	1.7	
	60～69歳	144	31.3	31.9	34.0	14.6	25.7	21.5	22.9	46.5	37.5	0.7	10.4	13.2	
	70歳以上	124	24.2	19.4	22.6	16.1	22.6	16.1	13.7	31.5	30.6	0.0	12.9	29.8	
男性	30歳未満	32	28.1	25.0	50.0	9.4	3.1	3.1	37.5	53.1	21.9	0.0	9.4	12.5	
	30～39歳	58	25.9	22.4	37.9	12.1	8.6	8.6	27.6	53.4	12.1	1.7	10.3	13.8	
	40～49歳	76	22.4	28.9	27.6	7.9	9.2	6.6	19.7	32.9	11.8	1.3	7.9	22.4	
	50～59歳	64	26.6	25.0	32.8	7.8	7.8	6.3	20.3	40.6	7.8	3.1	4.7	23.4	
	60～69歳	120	26.7	19.2	30.0	10.0	13.3	12.5	23.3	33.3	24.2	0.8	10.0	30.0	
	70歳以上	107	17.8	15.9	19.6	10.3	13.1	13.1	17.8	23.4	19.6	0.9	13.1	44.9	

（単位：％）

問 37 あなたは配偶者やパートナー、恋人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。(①～⑭の項目ごとにあてはまるものすべてに○)

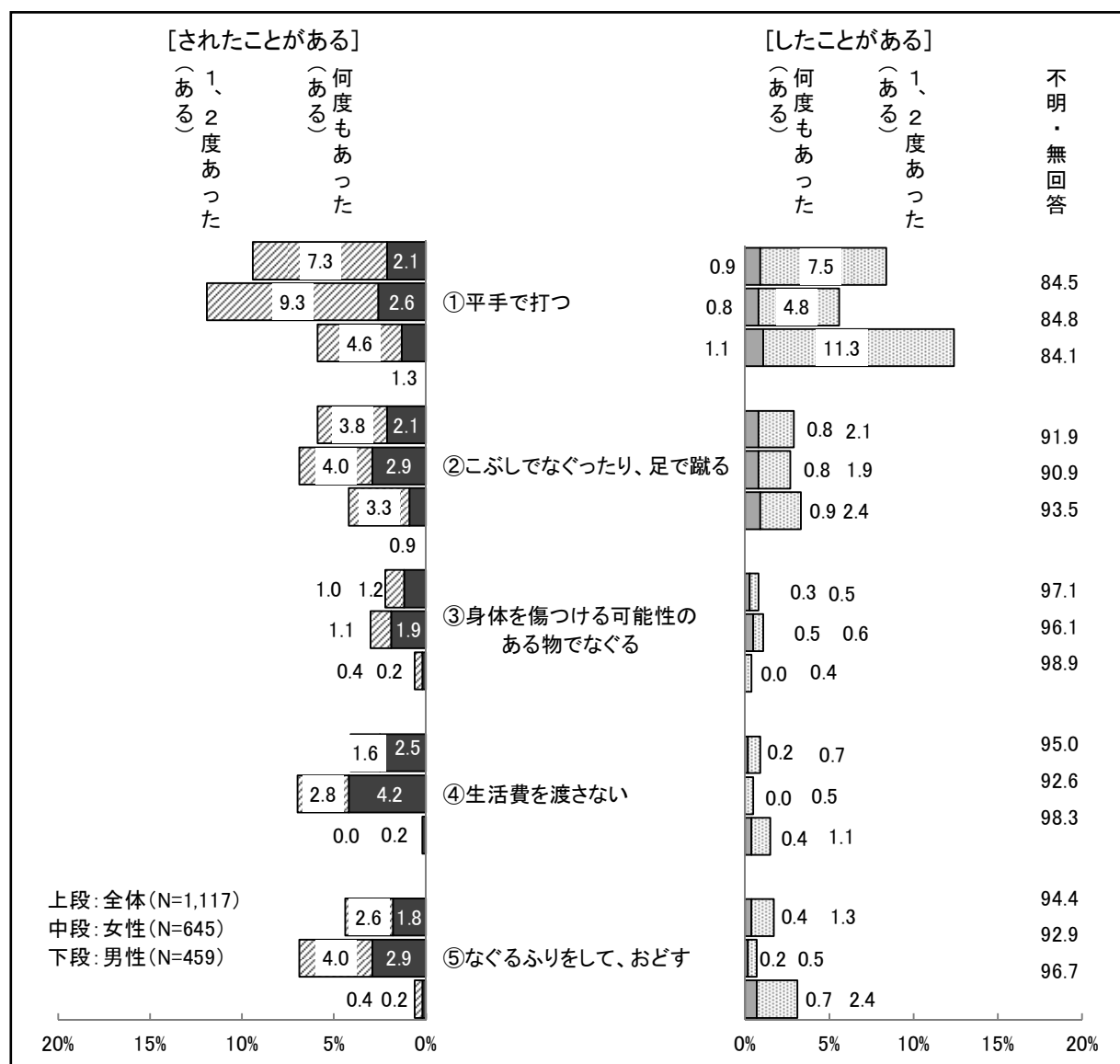
■暴力の被害経験は男性より女性が多い。

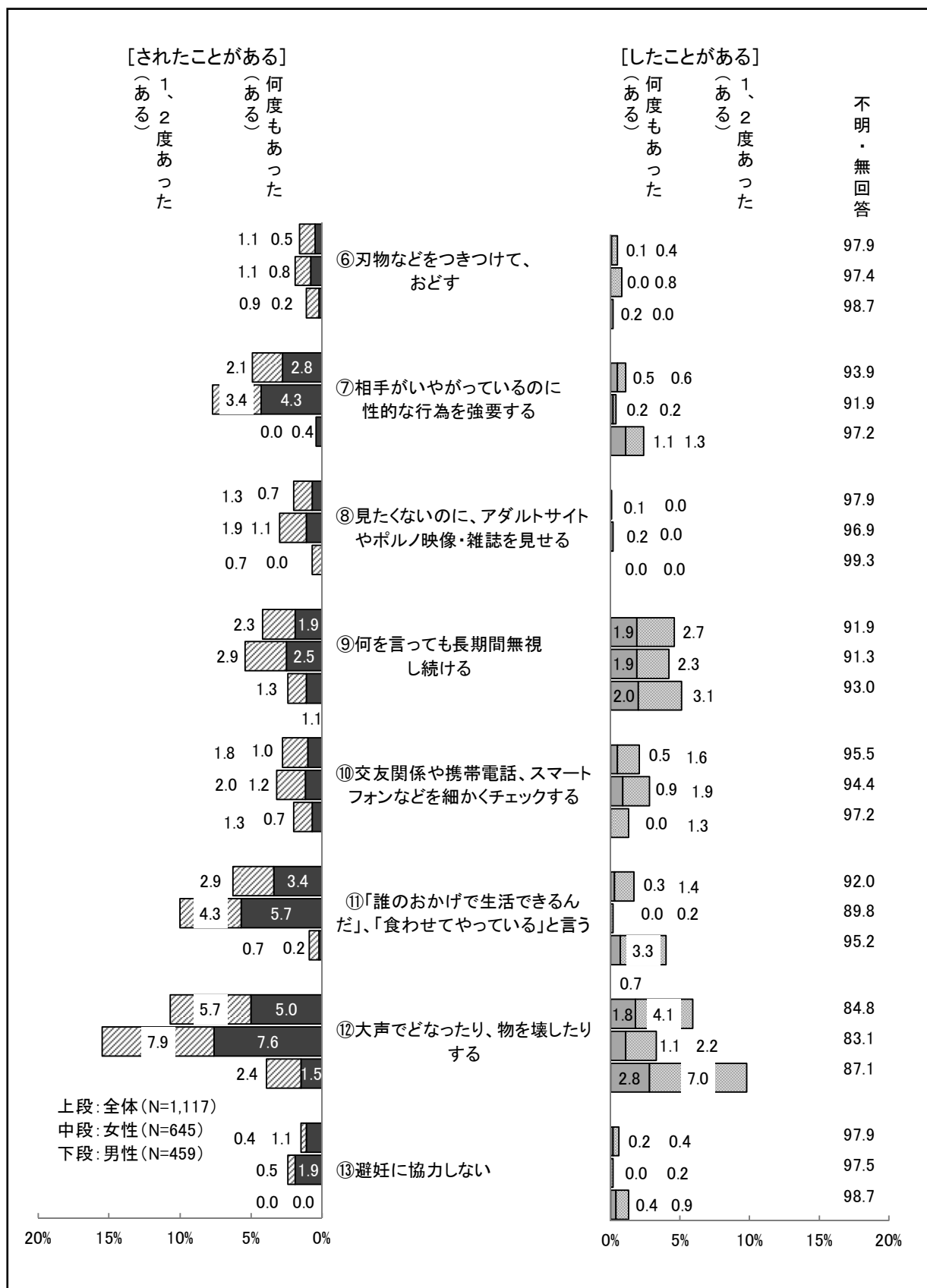
『平手で打つ』などの身体的暴力や『大声でどなったり、物を壊したりする』などの精神的暴力が多い。加害経験者は 40 歳未満では男性より女性、40 歳以上では女性より男性が多い。

〔されたことがある〕(「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」の合計)は、女性では『⑫大声でどなったり、物を壊したりする』が 15.5%、『①平手で打つ』が 11.9%、『⑪「誰のおかげで生活できるんだ」、「食わせてやっている」と言う』が 10.0%と高くなっており、すべての項目で男性より割合が高くなっています。一方、男性で〔されたことがある〕が5%を超えているのは『①平手で打つ』が 5.9%となっています。

〔したことがある〕(「何度もあった(ある)」と「1、2度あった(ある)」の合計)は、男性で『①平手で打つ』が 12.4%、『⑫大声でどなったり、物を壊したりする』が 9.8%と他の項目より高くなっています。

性別・年齢別にみると、各年代ともに〔されたことがある〕のは男性より女性の方が高くなっている一方で、〔したことがある〕のは 40 歳未満では男性より女性の方が高くなっています。





性別・年齢別

【[されたことがある] [したことがある]】の割合

		対象者数 (人)	された ことがある	した ことがある	不明・ 無回答
全体		1,117	22.2	16.0	68.5
女性		645	29.8	12.2	66.7
男性		459	12.2	21.8	73.0
女性	30歳未満	59	28.8	18.6	67.8
	30～39歳	93	29.0	22.6	62.4
	40～49歳	108	31.5	14.8	64.8
	50～59歳	117	30.8	7.7	66.7
	60～69歳	144	34.0	9.0	63.9
	70歳以上	124	23.4	7.3	74.2
男性	30歳未満	32	15.6	12.5	75.0
	30～39歳	58	8.6	13.8	84.5
	40～49歳	76	17.1	25.0	67.1
	50～59歳	64	18.8	29.7	62.5
	60～69歳	120	10.0	27.5	68.3
	70歳以上	107	8.4	15.0	82.2

(単位: %)

問 37 で①～⑬に 1 つ以上回答された方

問 37-1 問 37 のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。

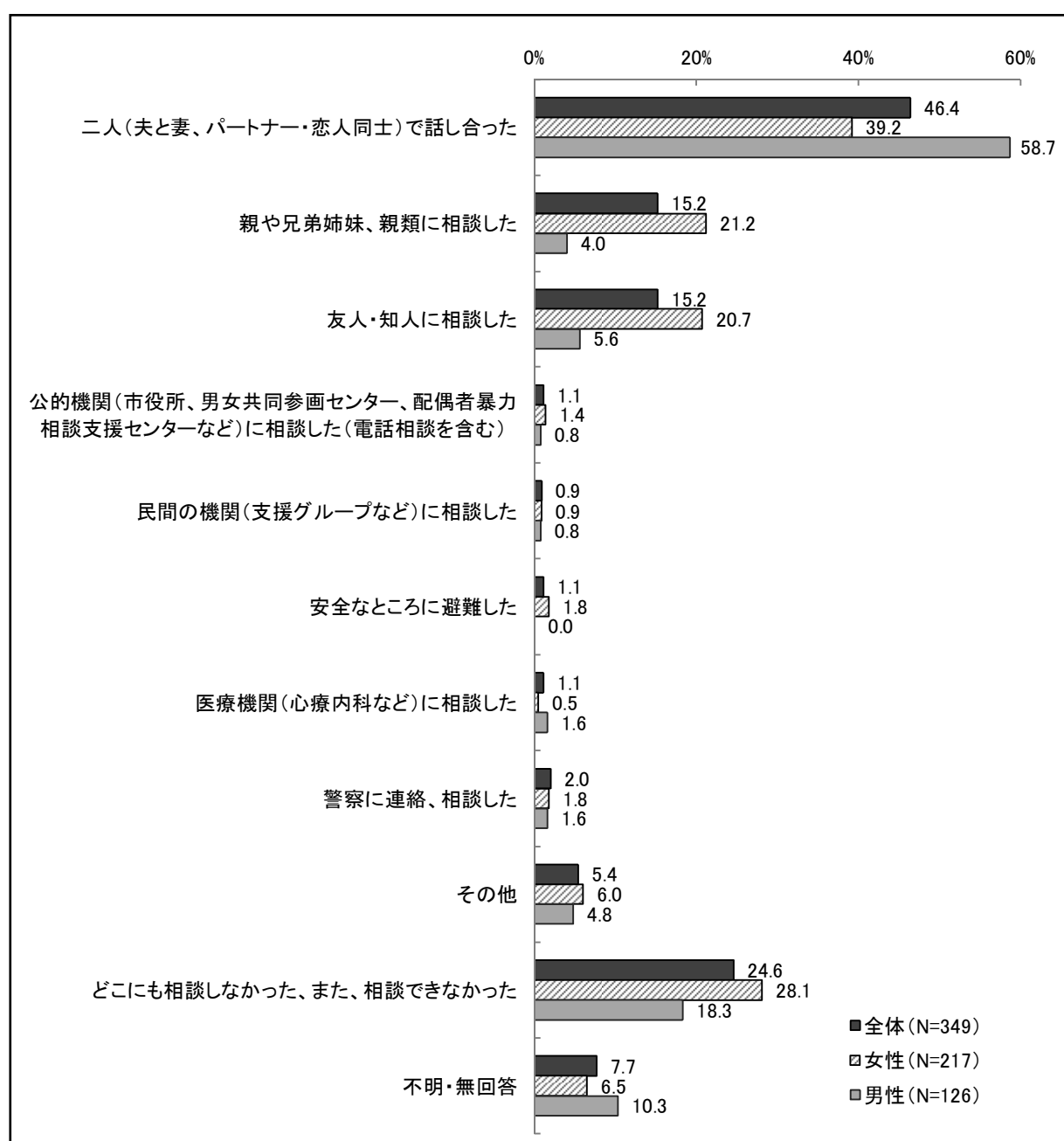
(〇はいくつでも)

■暴力行為後に「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」の割合が男女ともに高い。

「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」割合は男性より女性の方が高い。

全体、男女ともに「二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った」が最も高く、女性で 39.2%、男性で 58.7%となっています。また、「親や兄弟姉妹、親類に相談した」「友人・知人に相談した」は女性では 2 割前半と他の項目に比べて高くなっており、公的機関や警察等、専門機関への相談はわずかとなっています。一方、「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」との回答は女性で 28.1%、男性で 18.3%となっています。

性別・DVの経験別にみると、女性被害者では「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が 28.6%と高くなっています。



性別・DVの経験別

		対象者数（人）	二人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った	親や兄弟姉妹、親類に相談した	友人・知人に相談した	公的機関（市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなど）に相談した（電話相談を含む）	民間の機関（支援グループなど）に相談した	安全なところに避難した	医療機関（心療内科など）に相談した	警察に連絡、相談した	その他	どこにも相談しなかった、また、相談できなかった	不明・無回答
女性	されたことがある	192	36.5	22.9	22.4	1.6	1.0	2.1	0.5	2.1	5.2	28.6	6.8
	したことがある	79	57.0	17.7	25.3	0.0	1.3	2.5	0.0	2.5	7.6	19.0	6.3
男性	されたことがある	56	48.2	7.1	8.9	1.8	1.8	0.0	3.6	3.6	7.1	19.6	10.7
	したことがある	100	62.0	4.0	6.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	5.0	17.0	10.0

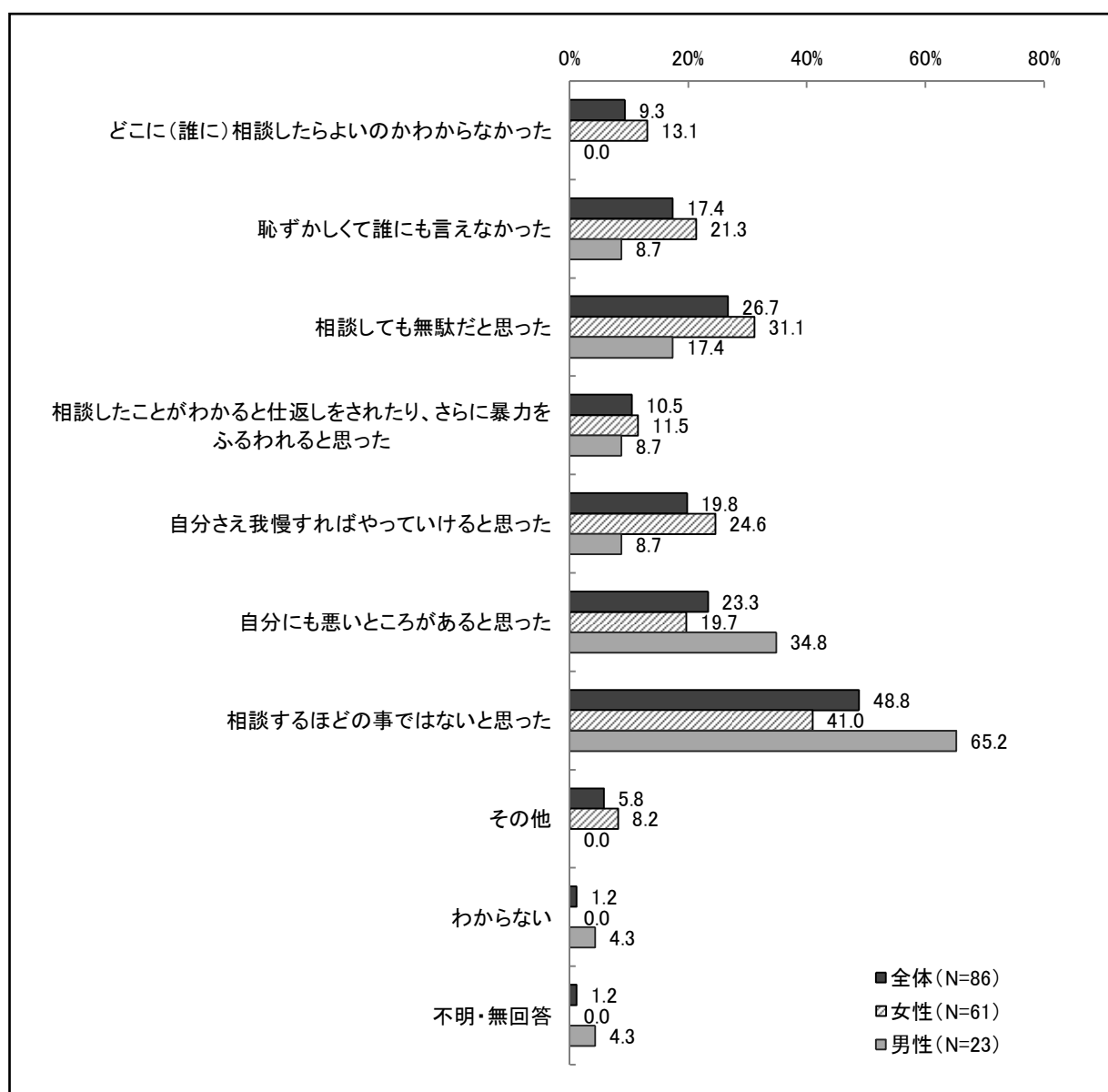
（単位：％）

問 37-1 で「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と回答された方
 問 37-2 どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。
 (〇はいくつでも)

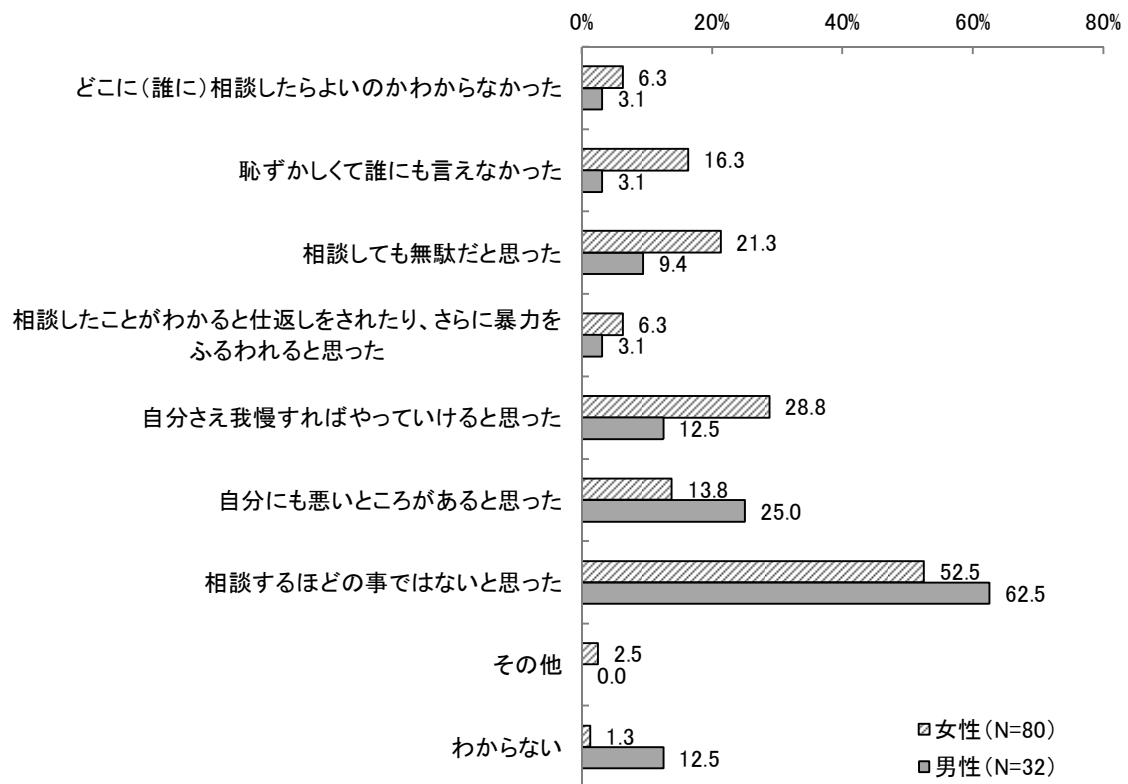
■「相談するほどの事ではないと思った」が男女ともに高くなっているが、女性では、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」の割合が男性より高い。

全体、男女ともに「相談するほどの事ではないと思った」が高く、次いで「相談しても無駄だと思った」もしくは「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が続いています。また、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」は男性の回答が無いのに対し、女性で 13.1%となっています。

前回調査と比べると、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思った」「相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った」「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「自分にも悪いところがあると思った」の各項目で、男女ともに今回調査の割合が高くなっています。



前回調査(平成 21 年度)



6. 男女共同参画社会の形成に関する意識について

問 38 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。（〇はいくつでも）

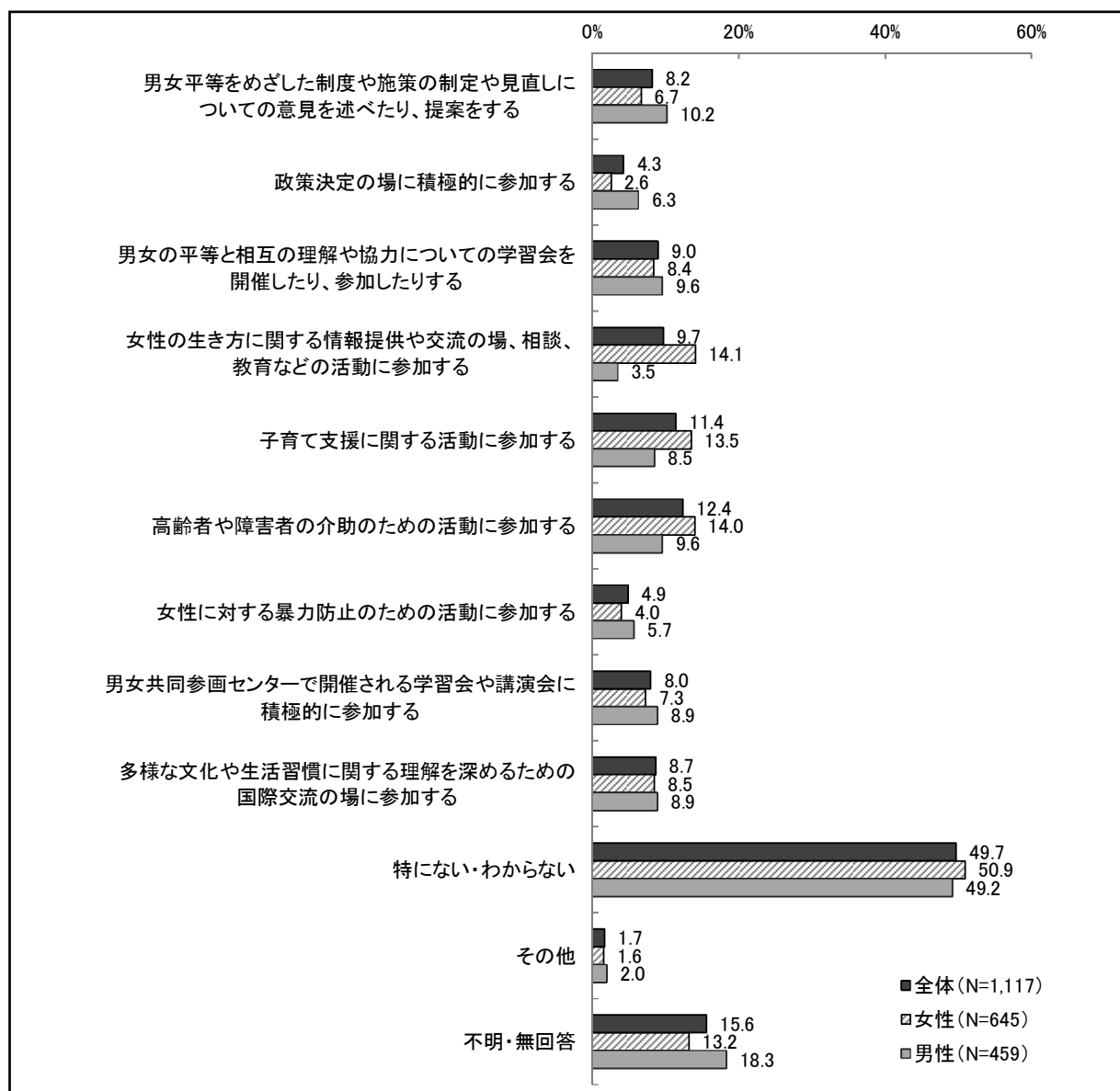
■「男女共同参画」の推進活動への参加について、約半数は「特にない・わからない」となっている。

「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」が1割前半。

全体、男女ともに「特にない・わからない」が4割後半から5割前半と特に高くなっています。

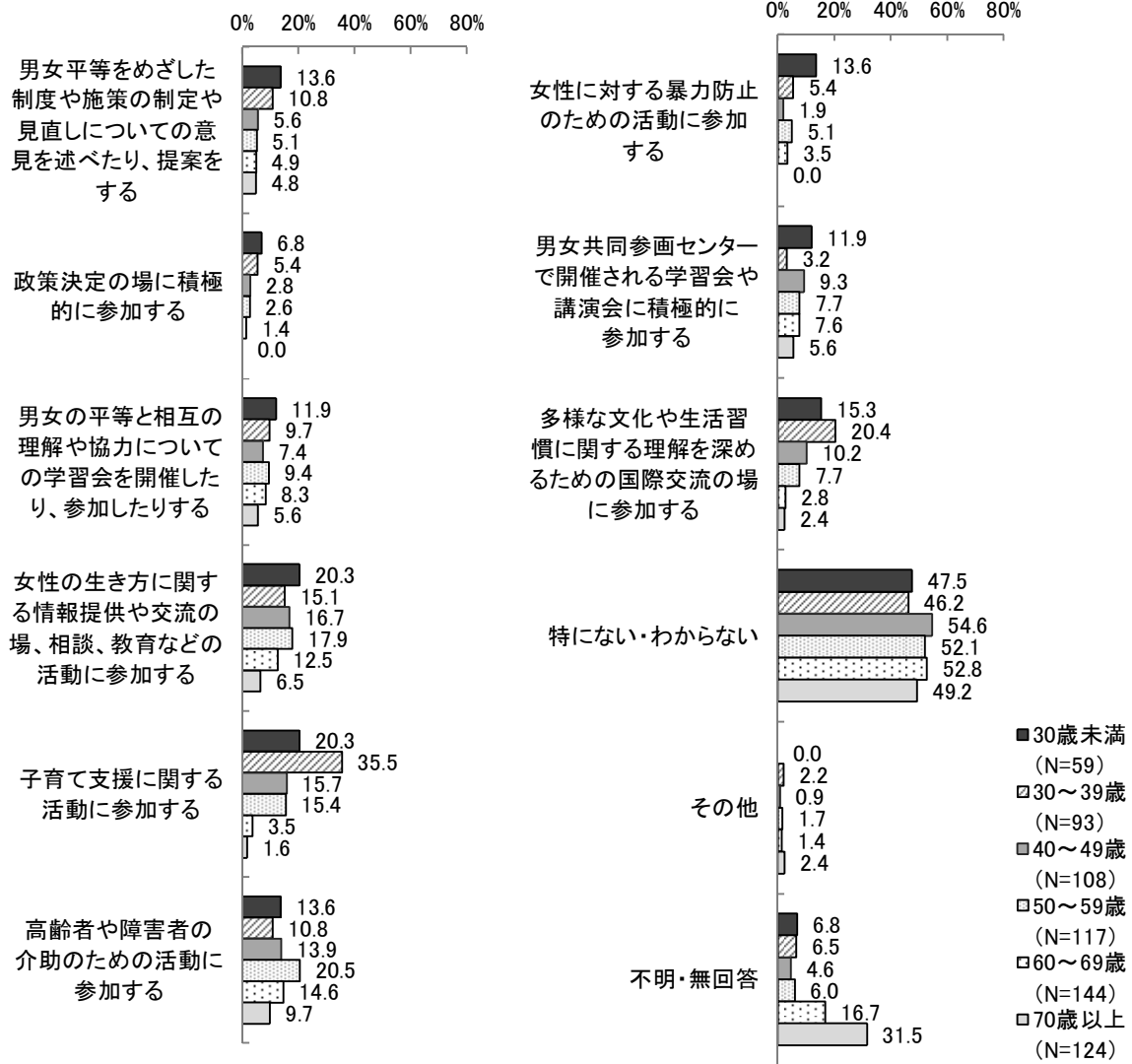
1割を超えているのは、女性で「高齢者や障害者の介助のための活動に参加する」「子育て支援に関する活動に参加する」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する」となっており、男性では「男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする」も比較的高くなっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに40歳未満で「子育て支援に関する活動に参加する」が2割以上と他の年代に比べて高くなっています。

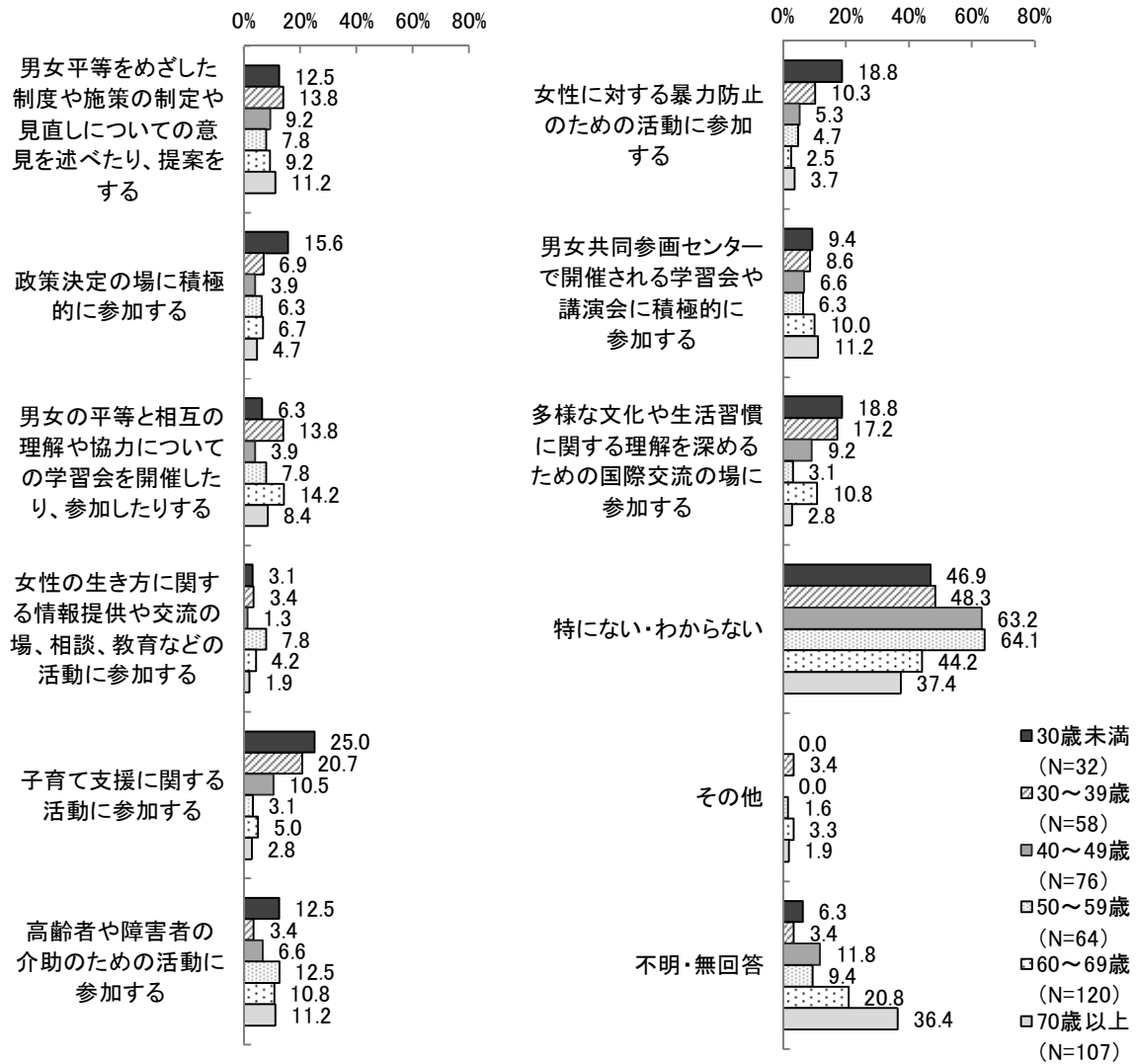


性別・年齢別

【女 性】



【男 性】



問 39 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。

(①～⑫の項目ごとに○は1つつつ)

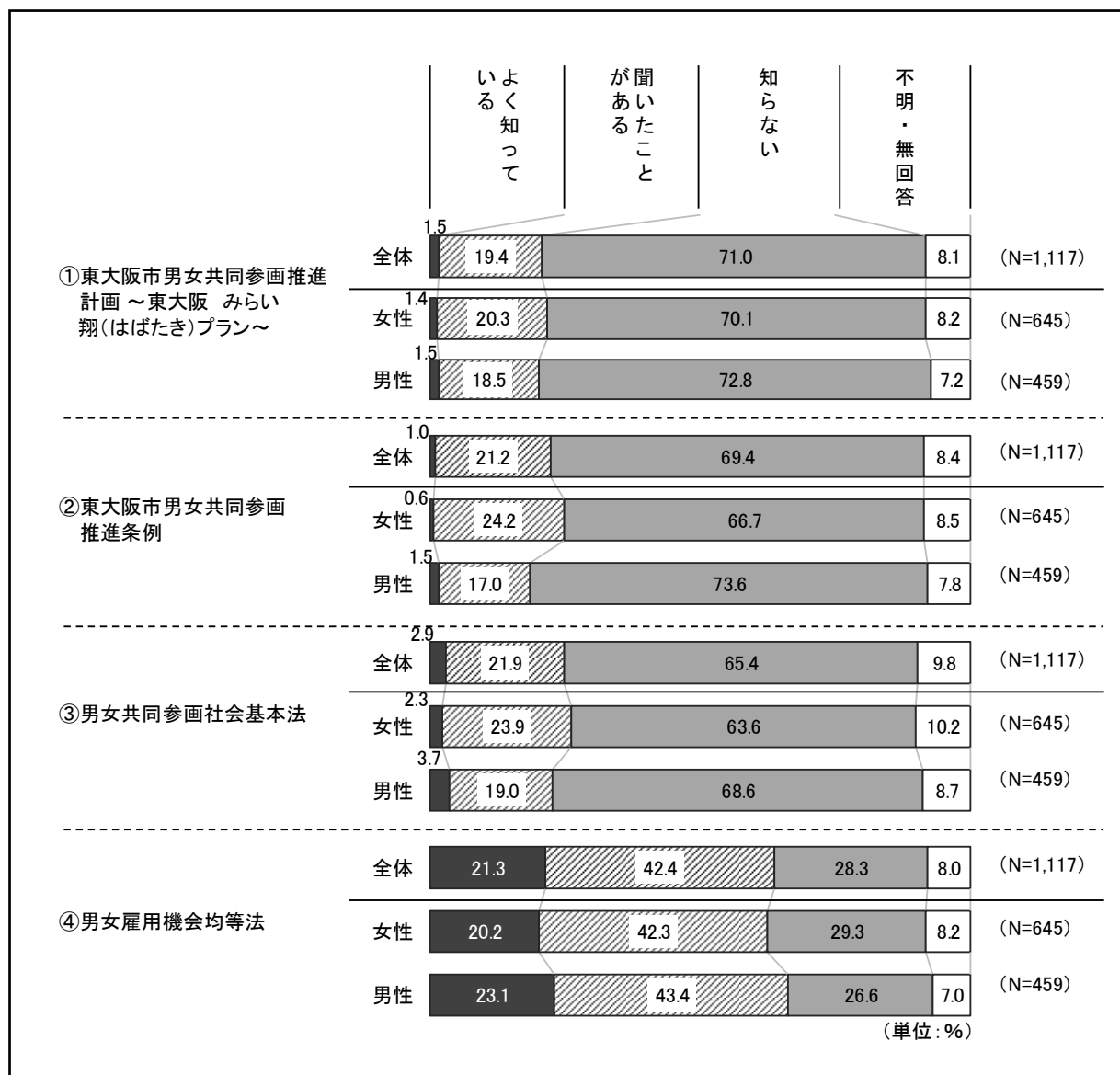
■『ドメスティック・バイオレンス（DV）』『男女雇用機会均等法』『育児・介護休業法』の認識が比較的高い。

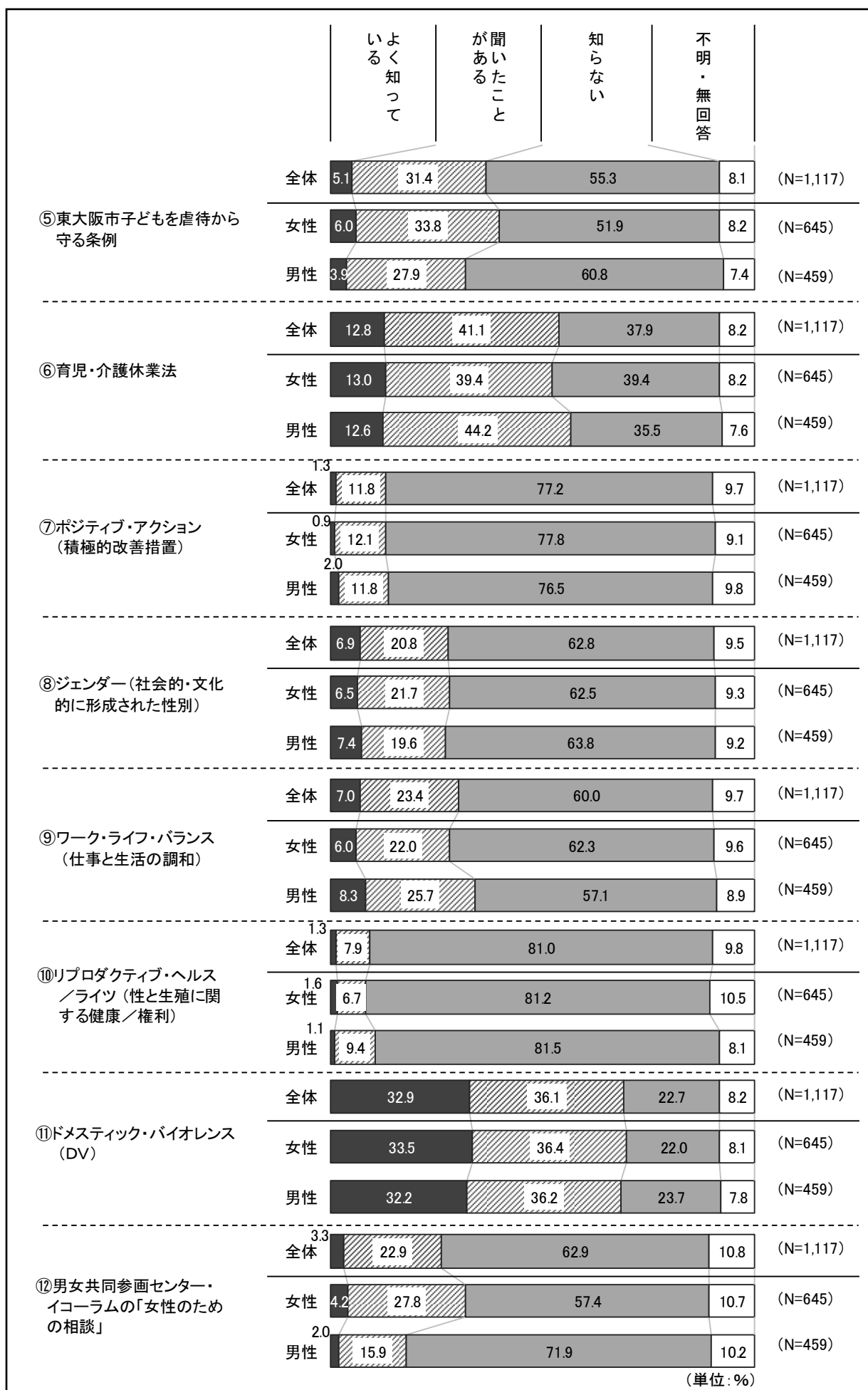
前回調査より男女共同参画に関する法律や言葉、東大阪市の取り組みが浸透しはじめている。

全体、男女ともに「よく知っている」割合が1割を超えているのは『⑪ドメスティック・バイオレンス（DV）』『④男女雇用機会均等法』『⑥育児・介護休業法』となっており、比較的认识度が高くなっています。一方、それ以外の項目は「知らない」割合が男女ともに5割以上となっています。

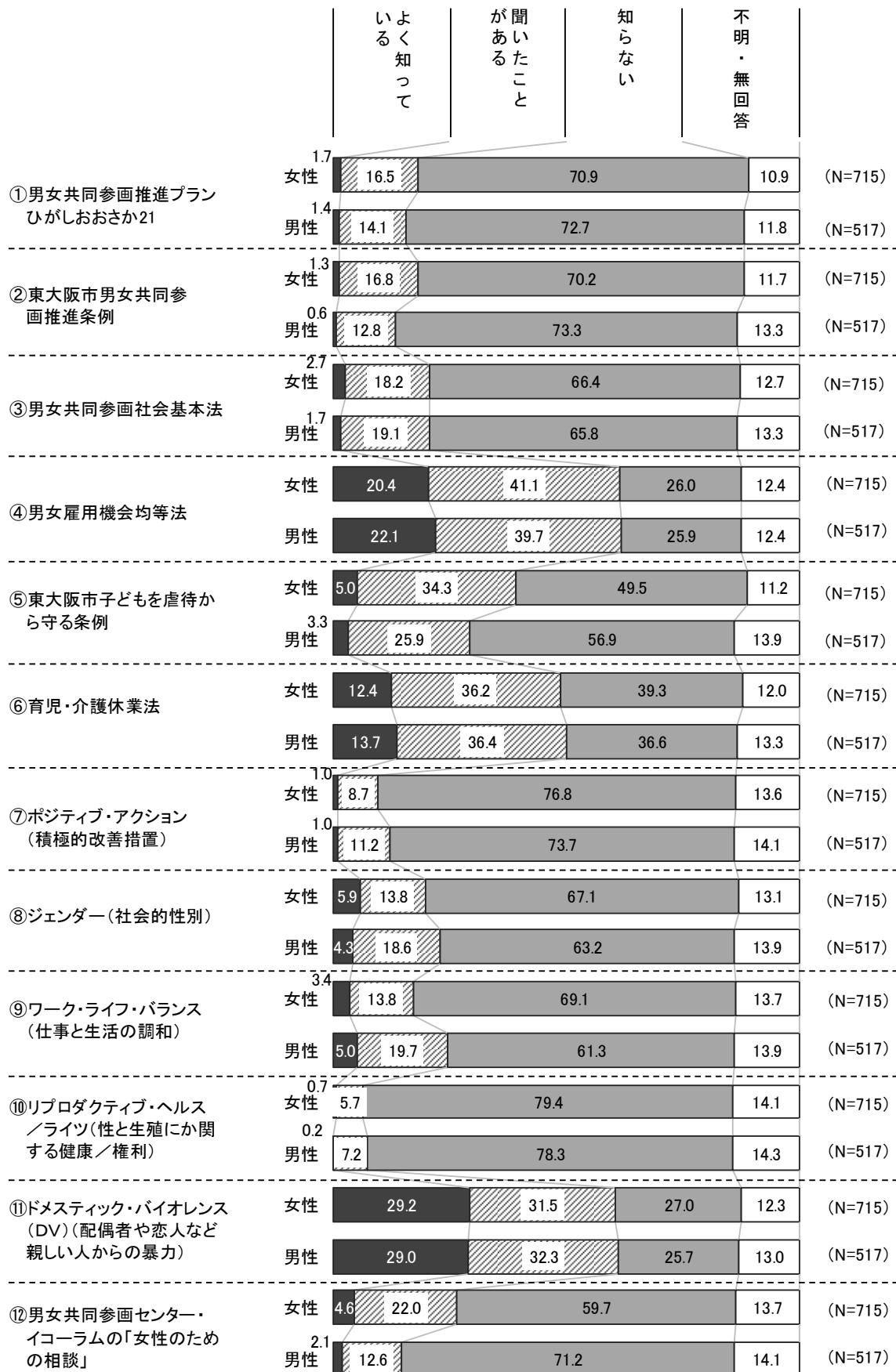
また、東大阪市の取り組みについて、全体の「よく知っている」割合は『①東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい 翔（はばたき）プラン～』で1.5%、『②東大阪市男女共同参画推進条例』で1.0%とわずかとなっており、『⑤東大阪市子どもを虐待から守る条例』では5.1%とやや高くなっています。

前回調査と比べると、「よく知っている」「聞いたことがある」の合計がすべての項目で今回調査の方が高くなっています。





前回調査(平成 21 年度)



(単位: %)

Ⅲ 調査結果からみえてくるもの

1. 男女共同参画に向けた意識形成

■ 固定的な性別役割分担に肯定的な意見を持つ人は減少してきているが、依然として社会のあらゆる場で男性優遇感が強くなっている

固定的な性別役割分担意識に肯定的な意見を持つ人は、前々回調査（平成 17 年）で女性 44.1%、男性 58.2%、前回調査（平成 21 年）で女性 43.8%、男性 55.9%、今回調査（平成 26 年）で女性 40.8%、男性 45.9%と減少してきており、否定的な意見を持つ人との差は小さくなっています。さらに男性では、内閣府の平成 24 年の調査においては否定的な意見の割合より肯定的な意見の割合の方が高くなっていましたが、今回の東大阪市の調査では否定的な意見の割合が肯定的な意見の割合を上回る結果となりました。男性の意識改革に進捗がみられる結果となっています。

固定的な性別役割分担意識に否定的な理由として、「社会の風潮・慣習としてそうになっていると感じる」「男女で役割をきめるのはきゅうくつだから」という意見が多くなっており、「男は仕事、女は家庭」という価値観を持つ人は少なくなってきました。

しかしながら社会全体からみると、男女ともに依然として「男性が優遇されている」と感じている現状があります。特に仕事に関する分野では、年代を問わずに男性優遇感が高くなっています。

■ 学校における平等教育は浸透してきているが、市民が望む子どもの将来像には男女差がみられる

学校教育の場においては、男女平等であると感じている人が過半数いることから、この意識が浸透してきていることがうかがえます。しかしながら、固定的な性別役割分担意識に肯定的な意識が形成される理由として「子どもの頃からの教育」を原因とする意見があることも見過ごせません。男女共同参画を推進するためには、小・中学校の段階から性別に捉われずに個人の能力や希望を重視した進路指導を行い、家庭での役割分担などについて学ぶ機会を提供する必要があります。

また、今回の調査結果を国と比較すると、家庭生活の場において「平等である」と感じている人の割合が大きく下回っていることわかりました。子どもの将来像について、女の子には人間性の豊かさや円満な暮らしを、男の子には経済的な自立をそれぞれ望む人が多く、こうした家庭内の教育方針が子どもの選択を制限してしまう可能性があります。

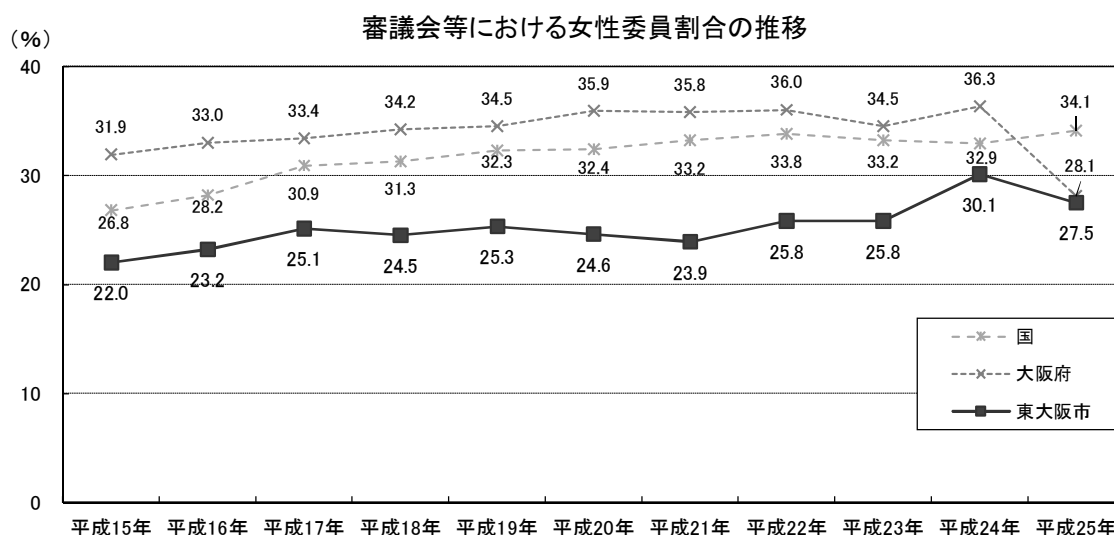
「男女平等を進めるために、小学校、中学校でどのような取り組みが重要だと思いますか。」という問いに対して、30 歳未満の男性の6割近くが「メディア（インターネット、テレビ、新聞など）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める取り組み」が必要であると答えています。インターネットは世界中のさまざまな情報を、簡単な操作で手に入れることができる便利なコミュニケーションツールとして浸透してきました。しかしその一方で、暴力的な表現やアダルト画像など、女性や子どもの人権を侵害するような違法・有害な情報にも触れる可能性が高くなっています。このようなメディアを取り巻く現状に対応するためには、発信者側の自主的な取り組みを促すとともに、情報を主体的に収集・判断し、適切に受信することができるようメディア・リテラシーを高めることが大切です。

2. 男女が共に活躍できる環境づくり

■政策方針決定の場への女性の関心は薄いが、若い世代では比較的参加意向が高い

東大阪市の審議会等における女性委員の割合は緩やかな上昇傾向にあります。男女共同参画の推進に関する活動の参加意向として、男女ともに約半数が「特になし、わからない」と回答しており、特に男女平等をめざした制度や施策の制定・見直しへの提案や政策決定の場への積極的な参加といった社会的な活動については、女性の意向が低くなっています。

しかし、40 歳未満の若い世代では比較的参加意向が高く、世代に応じたアプローチも有効であることがうかがえます。女性のエンパワメントを向上し、政策や方針決定の場への参画を推進するため、身近な環境で意見を述べる機会を多く提供するとともに、若い世代が取り組みやすい内容や体制づくりを進めることが大切です。



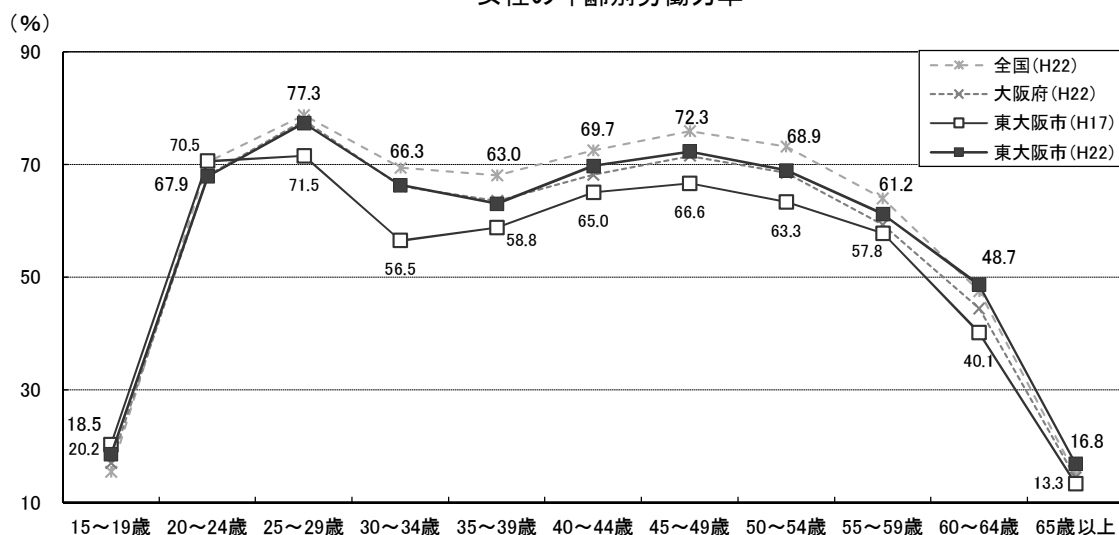
資料：国… 内閣府「国の審議会等における女性委員の参画状況調べ」(各年9月30日現在)

大阪府、東大阪市… 内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」(各年4月1日現在)

■女性の就労は進んできているが、職場における不平等感や管理職への登用、昇進・昇格、賃金等、あらゆる面で生じている

就労は生活の経済的な基盤を形成するものであり、男女共同参画社会を実現する上で重要な意味を持っています。また、少子・高齢化が進む中で、企業においては女性の活用が重要な成長戦略の一つとなっており、その労働力率は、最も低い35～39歳でも63.0%（平成22年）まで上昇してきています。M字カーブの底が平成17年には30～34歳でしたが、平成22年には35～39歳と、国、東大阪市とも晩婚・晩産化による子育て年齢の上昇を反映する曲線を描いています。

女性の年齢別労働力率



資料：総務省「国勢調査」 ※総数には「不詳」を含まない、値は東大阪市

今回調査の就労状況を未婚・既婚別にみると、男性では未婚・既婚に関わらず常勤の勤め人が多くなっていますが、女性の既婚者はパート・アルバイト等の非正規雇用である割合が高くなっています。

また、200万円の低賃金層には女性が60.7%（男性25.6%）と圧倒的に多く、700万円以上の高額賃金層は男性12.1%、女性0.9%となっています。

このような状況の背景としては、正社員に比べて賃金水準が低い短時間労働に女性の就労が多いなど、雇用形態において男女間に違いがあること、また、パートやアルバイト等に従事する女性では、収入が一定範囲を超えないよう調整する人もいることなどが考えられます。さらに、女性では離職・転職経験のある人が男性より多く、非正規雇用では、その割合がより高くなるなど、同じ雇用形態であっても、役職や残業時間、勤続年数の男女差が大きく影響しているものと考えられます。あわせて、管理職への登用や昇進・昇格、賃金等の対応について、特に男性の方が優遇されていると感じている人が多く、職場における不平等感を反映した結果となっています。

その一方で、若年男性では、雇用不安、低賃金といった問題を含んだ非正規雇用が多くなっています。将来にわたって経済的な不安を含んだ非正規雇用が未婚者増加の一因となっていることが考えられます。

このような状況を改善するためには、就労する男女に対して適正な処遇・労働条件が確保されるとともに、働く意欲のある人が働き続けられるように、就業機会の拡大や雇用環境の整備を推進していく必要があります。東大阪市では自営業を含めた中小企業が多く、大企業に比べて職場環境の整備が進みにくい状況にあるため、事業主に対しては男女共同参画社会への意識づくりを進め、ポジティブ・アクションが推進されるよう理解を得ていく必要があります。さらには、女性の職業能力を高めるような学習機会を提供することも重要です。

また、男女共同参画社会の実現をめざす上で不可欠な概念として“ダイバーシティ”があります。今回の調査では、性別、価値観、ライフスタイル、セクシュアル・マイノリティ、障害等の多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする考え方について、回答者の半数以上が肯定的に捉えていることがわかりました。ライフスタイルや価値観が多様化する現代において、企業内でもダイバーシティを推進することが大切です。

■『仕事と家庭生活をともに優先したい』と望みながら、現実には「男は仕事、女は家庭」をそれぞれ優先させている

今回の調査において、仕事と家庭生活を優先することを望む男女が多くなっていますが、現実には「男は仕事、女は家庭」優先となっています。

仕事と生活の調和を図るためには、働く場の確保・再雇用制度の推進・充実、子育て環境や在宅福祉等の整備・充実が求められており、社会全体で取り組む必要があります。

一方で、女性は家族や配偶者の理解・協力を重要視する割合が男性より高くなっています。家族の就労状況やライフスタイルにあわせ、ともに協力し合う意識を持ち、話し合う時間をつくるなど、家族一人ひとりのバランスが保たれるよう世帯ごとに取り組むことも重要です。

また、育児休業や介護休業の取得者は男性より女性の方が多くなっています。介護については、男性の約半数が、自身が介護状態になった場合、妻に介護してほしいと望んでいます。このように、子育てや介護の担い手は女性に求められることが多く、これから女性の就労が進み、高齢化が進展することを考えると、男女がともに子育てや介護に関わりやすい社会の仕組みの構築と、意識改革を進めることが急務です。

さらに、多くの男性が長時間労働をしたり、家事、育児に積極的に関わっていないのは、固定的な性別役割分担意識が大きな要因であると考えられます。女性が多様な分野に参画し、男性にとっても暮らしやすい男女共同参画社会をめざすことが大切です。

■女性の参加が多い地域活動の場においても、男性優遇感が強い

地域に目を向けると、ひとり暮らし高齢者の見守り、子育て支援、災害時における協力体制など、さまざまな課題があり、就労の有無に関わらず男女がともに協力し合って安心・安全なまちづくりを進めていく必要があります。

地域活動への参加状況については、自治会・町内会の活動、PTAや子ども会の活動等、いずれの項目でも男性より女性の参加割合が高くなっていますが、地域活動、社会活動への参加については男性優遇感が強く、男女不平等な状況があることがわかります。

今後は、女性リーダーの養成や地域団体の役員への女性登用の働きかけなどを通じて、地域活動の方針決定過程への女性の参画を促進するとともに、地域社会との結びつきが希薄な男性が参加しやすいテーマや活動を計画し、地域との関わりを持つ人を増加させていくことが大切です。

また、東日本大震災の教訓として、災害対応における男女共同参画の視点が重要であること、多様な主体による円滑な災害対応のためには、国・地方公共団体、男女共同参画センター、学校、地域組織、企業等の日頃からの連携が重要であること、また、防災・復興における政策・方針決定過程への女性の参画が必要不可欠であることが改めて明らかとなりました。今回の調査結果から大半の人が性別に配慮した防災・災害復興対策の必要性を感じており、特に、避難所の設備や運営といった項目についてその意識が高くなっています。

3. 男女が共に自立し、安心して暮らせる生活支援

■男女それぞれの健康上の課題を認識し、その課題に応じた支援の環境づくりが必要

女性も男性も、互いの性を十分に理解し、尊重し合って生きていくことは男女共同参画社会をめざす上で大切なことです。

特に女性の身体には妊娠や出産のための仕組みが備わっていることから、生涯を通じて男性とは異なる健康上の問題に直面します。市では女性の心とからだの健康を保つための相談や情報提供等、さまざまな事業を実施していますが、調査結果からみる女性の認知度はいずれの事業も十分であるとはいえません。事業内容の周知をすすめ、不安や悩みを抱えた人が利用しやすい体制を整備するとともに、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する学習の機会を設け、女性が自ら健康づくりに取り組むための支援が必要です。

男性では、30歳代、40歳代で職場の人間関係や不況・解雇、将来性等についてストレスを抱えており、さらには妻や子どもを養うのは、男性の責任であるという固定的な性別役割分担意識が、プレッシャーになっていることも懸念されます。日本の経済成長は「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担による社会構造によって支えられてきたという考え方がありますが、多くの男性は、家族との十分なコミュニケーションをとる時間も少なく、仕事を中心の生活を送ってきました。過労死の大部分が男性であることは、こうした生活に大きな要因があるといえます。

男性は社会や職場などの場面で、女性に対して優遇感が高くなっていますがその分、固定的な性別役割分担意識に裏付けられた社会構造にしばられている現実があります。職場における責任感や社会状況の変化に伴う不安が男性に与える影響は多大なものです。男性が家庭や地域のつながりを大切に、精神的なゆとりをもって暮らすためには、仕事やさまざまな悩みを相談しやすい環境をつくることが大切です。あわせて、家族との交流や地域の仲間づくりにも積極的に取り組むよう働きかけることが重要です。

■地域の福祉課題への関心が高い

男女共同参画を推進するために参加したい活動として、「高齢者や障害者の介助」や「子育て支援活動への参加」が多く、地域の福祉課題への関心の高さがうかがえます。

「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」（平成23年）が制定され、日常生活圏域において医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の実現が示されており、男女がともに介護を担いながら、社会全体で支えていくための環境整備に取り組む必要があります。

■固定的な性別役割分担意識が根底にある社会の中で母子家庭が貧困に陥りやすくなっている

「第2次東大阪市ひとり親家庭自立促進計画」によると、東大阪市の生活保護を受けている母子世帯数は平成22年3月では1,822世帯となっています。平成16年からの変化を全国や大阪府と比較すると、全国では21.8%の増加、大阪府では6.4%の減少であるのに対し、東大阪市内では25.2%の増加となっています。また、生活保護受給世帯に占める母子世帯の割合は、14.7%

と大阪府平均（14.2％）よりやや高く、全国平均（7.7％）のほぼ倍となっています。

一般的に女性が生活困難に陥る要因として、固定的な性別役割分担意識が十分に解消されていないことや男性優位の雇用環境の問題から、育児や介護などで就業を中断しやすいことや、相対的に低収入であり、不安定な非正規雇用につきやすいことがあるといわれており、今回調査からも、そうした女性の就労状況をうかがうことができます。このような働き方が原因で、女性の年金水準等は低く、高齢期の経済的基盤が弱いという問題も生じています。また、経済的に困難な母子家庭では子どもの進学にも影響を及ぼしており、貧困を次世代に引き継がないためにも切れ目のない支援が必要です。

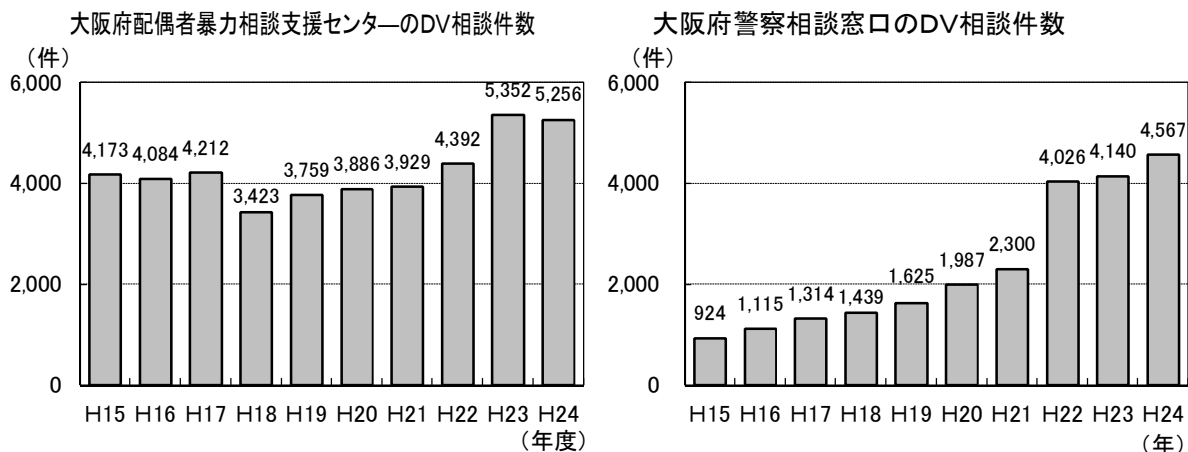
また、結婚していないカップルが子どもを持つこと、いわゆる婚外子について、性別・年齢にかかわらず抵抗がある人は半数以上となっています。日本も批准している「子どもの権利条約」は、出生によるいかなる差別も禁じており、家族形態が多様化する中で、子どもや家族が差別を受けることなく、個人や生き方が尊重される社会をつくることが求められています。

4. あらゆる暴力の根絶

■女性の3割にDVの被害経験があり、そのうち3割はどこにも相談していない

ドメスティック・バイオレンス（DV）やデートDV、ストーカー行為、性犯罪等のあらゆる暴力は潜在化しがちな問題ですが、人権を著しく侵害するものです。これらの暴力は、犯罪となる行為を含み、当事者ばかりではなく、その子どもにも大変な悪影響を及ぼすことがあります。このような状況の改善をめざして「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」（現「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」）が平成 13 年に施行され、これまで3回にわたり改正がなされ、平成 25 年の改正では、生活の本拠をとともにする交際相手からの暴力および被害者も対象となっており、法的にも対策が重ねられています。

大阪府内の配偶者暴力相談支援センターで受けた配偶者等からの暴力に関する相談件数は、平成 23 年度以降は5千件を超えており、大阪府警察相談窓口における相談件数も平成 24 年度で4,567 件と年々増加しています。



資料：大阪府「大阪府の男女共同参画の現状と施策」（平成 25 年度版）

大阪府内の配偶者暴力相談支援センターは、大阪府女性相談センター、大阪府子ども家庭センター6か所（中央、池田、吹田、東大阪、富田林、岸和田）、大阪府配偶者暴力相談支援センター、すいたストップDVステーション、堺市配偶者暴力相談支援センターの計 10 か所

今回調査において、配偶者やパートナー、恋人から暴力を受けた経験があるのは、女性 645 人中 192 人（29.8%、男性は 459 人中 56 人で 12.2%）と、男性の 2 倍以上となっており、身体的暴力や精神的暴力に関する被害が多くなっています。暴力行為後の対応として、「二人で話し合った」人が多いものの、「どこにも相談しなかった・相談できなかった」人が被害女性の約 3 割おり、「自分さえ我慢すればやっていけると思った」「自分にも悪いところがあると思った」人も少なからずいる状況です。一方、男性被害者では、公的な相談機関を利用する割合は女性より低く、「相談するほどの事ではない」と思う人が女性より多い傾向にあります。

また近年、デートDVといわれる婚姻関係にない男女間における暴力（交際相手からの暴力）が問題となっていますが、今回調査でも 30 歳未満の若年女性の被害経験者は 59 人中 17 人（28.8%）おり、若年層における暴力が身近に存在していることが考えられます。

DV、性犯罪やセクシュアル・ハラスメント等の女性の人権に対する認識は高くても 5 割程度でさらなる意識啓発が必要な状況です。女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けて、DVについて理解を深めるとともに、相談窓口の周知や相談体制の充実、被害者の自立支援、加害者に対する更生支援等の対策が必要です。

IV 自由意見のまとめ

○自由意見（抜粋・要約）

男女共同参画社会実現のための意見、要望について寄せられた自由記述（96人）の主な意見を抜粋し要約する。

年代	20歳未満		20歳代		30歳代			40歳代		50歳代		60歳代		70歳以上		合計		
性別	女性	男性	女性	男性	女性	男性	その他	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	その他
(1) 仕事について					5	1			1	2	1	1	1			8	4	0
(2) 日常生活や子育てについて					2			2	1	2		1				7	1	0
(3) 男女の地位に関する意識について				1	1	2		2	2	1		2				6	5	0
(4) 健康や地域活動、老後の暮らしについて								1		1		2		1		5	0	0
(5) 人権の尊重について					3							1	2	1	1	5	3	0
(6) 男女共同参画社会の形成に関する意識について	1		4	2	1			1		3	2		4	3	1	13	9	0
(7) その他				1	1	1	1	2	2	3	2	4	3	6	4	16	13	1
合計	1	0	4	4	13	4	1	8	6	12	5	11	10	11	6	60	35	1

単位：人

ない、わからない	12
年齢性別 未記入	1

（１）仕事について

- ◆男性の育児休暇取得をもっとすすめてほしい。まず、市役所に勤めている人（男性）の育休取得をもっとすすめると良いと思う。その際、嫌味や嫌がらせをしないよう公的機関から取り組みれば良いのではないかと。（女性 30歳代）
- ◆男女共同社会実現のためには、女性の社会進出が重要であり、子育て支援のための保育所の整備が緊急の課題であると考えます。日本では未だに結婚後に退職する職場もあり、子育て中に就職率が下がることが問題であると考えます。（女性 30歳代）
- ◆女性優位な会社でいると、ストレスから精神的病気へとなっていました。男女が協力しあって、補いあって働きたいです。（男性 30歳代）
- ◆機会の平等は求めるべきだが、（男女に限らず）個々人の能力に差があるのだから、報酬や立場に差ができるのは当然である。（男性 40歳代）
- ◆私の仕事は訪問介護ですが、職場では男女共に同等な感じで仕事しています。大阪市からきらめき企業賞もいただきました。育休等も取らせていただき、とても働きやすい会社です。女性の皆さんが子どもを持っても（妊娠）退職しなくてもいいように育児休業はどの会社でも取れるように早くなってほしいです。（女性 30歳代）

- ◆最近女性活用の言葉が飛び交い、会社でも方針として打ち出しているが、意味を取り違えているのではと思うことがある。会社では総合職（ほぼ男）、業務職という分け方があるにも関わらず、同様に女性活用と声高となるが、その具体性を示すべき！男性も育児休暇を1年間とる心構えがあるのか？それが当たり前になり本当の男女共同参画になると思う。（女性 50 歳代）

（2）日常生活や子育てについて

- ◆ストーカー、DV、虐待も心の病気が多く、小さい頃に怒られ過ぎた教育が根本にあると思います。親が感情的になったり、優しく教えればいいものを怒って教え、怒ればいいと思っている。小さい頃から褒める教育や道徳的な事をきちんと身につけさせよう。それには子を持つ親の教育も大事。相手の立場になって考えることのできる教育を!!（女性 50 歳代）
- ◆全ては未来ある子ども達が、安心して育つ世の中になり、もっと祖父母の力も借り、お互い良い方向へ生活できる世の中だと良いと思います。（女性 40 歳代）
- ◆義務教育の中で性別に関わらず対応し、個性が伸ばせればと思います。テレビなどの情報で固定して情報が流れないようになればと思います。（女性 30 歳代）
- ◆賃金をもらうためではなく、主婦（家事）のありがたさを知らせる意味で、全て（洗濯干す、入れる、畳む、アイロン、掃除機、拭き掃除、風呂洗い、トイレ洗い、買い物、食事作り etc）に賃金がいくら発生するかを大よそで出して、世の男性（夫）に意識づけさせたい。（女性 50 歳代）
- ◆男女平等にこだわりすぎないでいいような気もする。男には男の仕事（外に出て働く）があり、女には女の仕事（家庭を守る）がある気がする。ただ、それが決められたこととは言わずに、男の人が家事をしたり、女の人が外に出て働く（男の人が家事）の場合も、何の偏見もなく別に普通だと思う。男の人は男の人の良さがあり、女の方は女の方の良さがあるようにも思う。（女性 30 歳代）

（3）男女の地位に関する意識について

- ◆本当にするつもりがあるなら、お役所の中から変えるべき。学校教育もきれい事ばかり。意識改革を教員にも徹底させねば。あと、夫改革。昭和の男は手遅れ。（女性 30 歳代）
- ◆世の中には男にしかできない仕事、女にしかできない仕事があると思う。それを正しく理解し男女が均等に生きて行ければ良いと思う。（男性 40 歳代）
- ◆男女平等を唱えなくてよい時代になってほしい。許せないのは、男女平等を前に出して、それだけで実力がないのに評価される女性、もしくは女性の引上げ!!実力にそった人が力を付けて進むべき。（女性 60 歳代）
- ◆どんな勉強会やボランティアにしても参加するのは女というイメージがあります。自分の夫が自営業で土日祝日は仕事で参加できないことが多いので、余計にそう思うのですが…。（女性 40 歳代）
- ◆男女共同参画社会実現には、まず男女平等という意識が無意識に変わる。実は男は仕事、女は家庭という考え方もあり（適正な能力が伴っている場合）。賃金・年収の UP：生活の安定が基盤となり男女が共同参画可能となる。女性特有の部分についてはもっとクローズアップし

フォーカスしても良い。逆に女性優遇に傾いてしまうことは問題である。男性か女性の分野（従来という意味で）に逆進出することもなく、いわゆる男性が担っていた分野を共同参画という言葉だけで侵食しては意味がない。あらゆる分野においてドアは開いているという状況をつくらなければならない。（男性 30 歳代）

◆過度な男女平等を目指すことは、男尊女卑になるのでやめてほしい。（男性 20 歳代）

（４）健康や地域活動、老後の暮らしについて

◆自治会・町内会に入っていないので、地域の活動等殆どわかりません。現在は職場での交流のみ。東大阪市での取り組んでおられる事に対し興味があるものもありますが、それに参画するにはどうしたらいいのでしょうか（趣味・ボランティア等）。（女性 60 歳代）

◆1人暮らしで子育てもしていないと肩身が狭い。子育て中の人を対象にしたり、高齢者が読むべき記事はあるように思うが、「東大阪だより」もあてはまらぬものばかりで見にくい。一人参加 OK…とか、健康のためのニュースはもう少しわかりやすく頼みたい。（女性 40 歳代）

◆子どもが成長して家を出るとなれば、老後のことが心配となる。65 歳の年金も無く、相談に行くにしても基本収入があればそれなりの話をさせられ、それなりの生活をアドバイスされて、市役所の答えがマニュアル通りだと、現 70 歳以上のひとり親の方から聞いたと思う。本当に困っていると声を出して友人や知人に嫌がられずに相談できる場所でも他人でも人間らしい生活を送れる日々にしていただきたいです。（女性 50 歳代）

（５）人権の尊重について

◆女性に対する DV や痴漢は許せないことだが、「女性」だからと被害者意識を持ち過ぎるのも良くないと思う。（例えば男性の手がちっと体に触れただけでセクハラや痴漢扱いにする等）。そんなことを言っていたら男性が気の毒だし、きりが無い。（女性 30 歳代）

◆お互い 1 人 1 人が自立すれば実現できるのではないかと思います（しかし非常に難しい）。（男性 60 歳代）

◆男女の役割は違うし、現在ある面では女の人も強くなってきているので、とりたてて大げさに言うことはないと思う。人への思いやりの心を育てれば解決できると思う。（男性 70 歳以上）

◆今は離婚して自由ですが、結婚生活の間自由はなく、家族や職場も含め、必要以上の他人との交流は全て断ち切るしかありませんでした。支配された中で情報を得る機会などなく、今もどこかで同じ様に苦しんでいる人がいると思って助ける術がわかりません。当の本人は自分が被害者である意識がない。力で支配する男性は最低。男女平等を訴えても無駄だと感じた数年間。アダルトチルドレンが溢れ、これからもひどくなる一方だと思う。（女性 30 歳代）

◆全て人間性（1 人の自覚）だと思います。（女性 70 歳以上）

（６）男女共同参画社会の形成に関する意識について

◆男女共同参画社会について学べる場を、大人子ども関係なく作ることが大切だと思います。（女性 20 歳代）

- ◆政治・経済面での問題を放置したままで、「男女～実現」として会議をしたり行政だけでの取り組みをちょろちょろ（表現は悪いですが）やっても何にもならない。政治・経済の仕組みとの連動・連携を行政ができるのなら、前進する「男女～実現」になるはず。（男性 60 歳代）
- ◆女性のためだけでなく相談室は増やすべきだと思います。（女性 20 歳未満）
- ◆男女が平等に生活できるような社会であってほしいです。人それぞれ悩み、相談事があるので、聞いてもらえる人や場所をよりわかりやすく、色々なメディア、媒体で引き続き紹介してくれると助かり、より良く社会で生活していけるのではと思います。（女性 50 歳代）
- ◆今、男女共同参画社会について直接何か活動ができるということはないが、生活の中で男女、国籍関係なく人間として誰とでも接するようにしたいと思いました。（女性 40 歳代）
- ◆市の取り組みを知らない人が多いと思うので、知るきっかけができればと感じる。行政について殆ど知らないの、相談窓口や条例など知らせてくれると助かる。（男性 20 歳代）
- ◆アンケートを受けるまで全く知らないことばかりで、もう少し詳しく知りたいと思った。（女性 20 歳代）
- ◆問 39 について、ことばとしては聞いている、聞いたことがあるが、市政だよりなどで知識をもっと深めること、大切と思った。（女性 70 歳以上）
- ◆政令指定都市を目指すのなら、男女共同参画社会実現のためにも PR 活動が必要!!漠然とした問題なので、市政だよりだけではわかりにくく、啓蒙活動がほしいと思う。（男性 50 歳代）
- ◆社会においては性別の枠を越えた考え方が必要だと思う。男性、女性ではなく、能力によって評価されるべき。でも身体的特徴は性別によって異なるので、そこはお互いに助け合う心を持つべき。しかしながら出産は女性にしかできないことであるので、それに対する理解、協力は社会がしていくべきだと思う。生活の中でも、夫婦2人の子どもであるという意識を持ち、経済力・育児を男女共に責任を持つ社会づくりをしてほしい。（女性 20 歳代）
- ◆男女平等、大いに結構だと思いますが、それを目指す故に女性にがんばってというのは何か違うように感じます。女性が自然体で男性と同じ環境で意見が言える社会が実現したらいいです。（女性 30 歳代）
- ◆男女が生物的に全く平等な仕事（体力的）は困難であり、その特性も生かす社会であってほしい。平等な扱いが人によって不平等と思う人もあります。本人の意思意向を理解した上で男女共同参画社会であってほしいものである。（男性 70 歳以上）
- ◆男女平等にしようと思えば女性が対抗するだけでなく、女性の立場になって支えてくれる男性が必要。肉体的な差（体力の有無、出産の可、不可）がある以上平等にはなれないが、協力は出来、補いあえるはず。どうして女性ばかり子供のことを気にしながら働いたり家事したり、遊びに行かないといけないのか不満。学童保育の延長、中学給食の実施を東大阪に求める。（女性 40 歳代）

V 調査票

ひがしおさか し だんじょきょうどうさんかく かん 東大阪市男女共同参画に関するアンケート調査

ちやうさ しゆし きやうりよく ねが 調査の趣旨とご協力のお願い

市民の皆様には日ごろから市政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
東大阪市では、平成23年3月に「第3次東大阪市男女共同参画推進計画～東大阪 みらい 翔プラン～」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざして様々な施策に取り組んでいます。

今回のアンケート調査は社会情勢に応じてプランを見直すため広く市民の皆様のご意見を聞き取るために実施します。お忙しい中大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますようお願い申し上げます。

※回答はすべて無記名で統計的に処理されます。このアンケート調査によって個人が特定されたり、情報が漏れたりはありません。

※このアンケート調査は、市内在住の満18歳以上の男女を無作為に選んで実施するものです。

平成26年6月

東大阪市長 野田 義和



調査票を記入していただくうえでのお願い



1. 回答は、ご本人のお考えで記入してください。ただし、ご本人が記入できない場合は、ご家族などに代筆していただき、ご本人の意思を尊重して回答してください。

2. 回答は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆で記入してください。

3. 回答は、あてはまる番号を選んで○をつけてください。また、記述を必要とする箇所は、その内容を記入してください。

4. 記入後は、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、7月7日(月)までにお近くの郵便ポストに投函してください。(切手は不要です。)

お問い合わせ>

東大阪市 人権文化部 男女共同参画課
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号

電話：06-4309-3300 (直通) FAX：06-4309-3823

あなたについておたずねします

問1 あなたの性別は。(Oは1つ)

1. 女性 2. 男性 3. その他

問2 あなたの年齢は。(Oは1つ)

1. 20歳未満 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

問3 あなたは結婚(事実婚を含む)していますか。(Oは1つ)

1. 結婚していない 2. 結婚している(事実婚を含む)
3. 離別した 4. 死別した

問4 あなたは、お子さんがいますか。(Oは1つ)

1. 子どもはいない 2. 子どもがいる ⇨ 問4-1へ

問4-1 何人の子供がいますか。(Oは1つ)

1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上

問5 あなたの世帯構成は、次のうちどれですか。(Oは1つ)

1. 一人暮らし 2. 夫婦(事実婚を含む)のみ
3. 夫婦と子ども(二世帯) 4. ひとり親と子ども(二世帯)
5. 祖父母と親と子ども(三世帯) 6. その他(具体的に)

問6 あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(Oは1つ)

1. 仕事をしている ⇨ 問6-1へ 2. 仕事はしていません

問6-1 仕事をしている ⇨ 問6-1へ

問6-1 それは、どのような働き方ですか。(Oは1つ)

1. 会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人 2. パート、アルバイトの勤め人(常勤のみ)
3. パート、アルバイトの勤め人(短時間) 4. 自営業主・経営者(農林業を含む)
5. 自営業の手伝い、家族従業員 6. 内職など家庭でできる仕事
7. その他(具体的に)

問7 あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしていますか。(Oは1つ)

1. 仕事をしている 2. 仕事はしていません 3. 配偶者またはパートナーはいない

⇨ 問7-1へ

問7で「1. 仕事をしている」と回答された方におたずねします。

問7-1 あなたの正務者またはパートナーの働き方は次のどれにあたりますか。(Oは1つ)

1. 会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人

2. パート、アルバイトの勤め人（常勤のみ）

3. パート、アルバイトの勤め人（短時間）

4. 自営業主・経営者（農林業を含む）

5. 自営業の手伝い、家族従業員

6. 内職など家庭でできる仕事

7. その他（具体的に）

現在あなたが自身が「仕事をしていない」場合は、5ページ問13におたずねください

仕事について

問8～問11は問6で、現在あなたが自身が「1. 仕事をしている」と回答された方におたずねします。

問8 あなたは、1週間でおよそ何時間くらい働いていますか。(就業時間も含みます)
(Oは1つ)

1. 20時間未満

2. 20～30時間未満

3. 30～40時間未満

4. 40～50時間未満

5. 50～60時間未満

6. 60時間以上

問9 あなたの昨年1年間の収入（税込み）は、およそいくらでしたか。(Oは1つ)

1. 103万円未満

2. 103～200万円未満

3. 200～300万円未満

4. 300～400万円未満

5. 400～500万円未満

6. 500～700万円未満

7. 700～1,000万円未満

8. 1,000万円以上

問10 あなたは、いまの仕事でストレス（不安や悩み）を感じていますか。
(①～⑨の項目ごとにOは1つずつ)

	ストレスを強く感じる	ストレスを感じる	ストレスはほとんど感じない	当てはまらない
① 上司や部下、同僚との人間関係	1	2	3	4
② 労働時間が長い	1	2	3	4
③ 短時間勤務やフレックスタイム*などの制度がなく、勤務時間に柔軟性がない	1	2	3	4
④ 収入がない	1	2	3	4
⑤ 不況・解雇、将来性が感じられない	1	2	3	4
⑥ 仕事がおもしろくない	1	2	3	4
⑦ 子どもや高齢者の世話などがあるが十分には働けない	1	2	3	4
⑧ 休みが十分とれない	1	2	3	4
⑨ その他（具体的に）	1	2	3	4

*フレックスタイム制度…为使協定に基づき、労働者が自分の始業時刻と終業時刻を一定の範囲で決められる制度

問11 あなたの今の職場では、性別によって、対応や評価に差があると感じますか。
あなたの実感に近いものを選んで番号にOをつけてください。
(①～⑯の項目ごとにOは1つずつ)

	「男性」の方が多い	平等である	「女性」の方が多い	当てはまらない
① 募集・採用の仕方	1	2	3	4
② 採用数	1	2	3	4
③ 配置される職場	1	2	3	4
④ 仕事の内容	1	2	3	4
⑤ 賃金	1	2	3	4
⑥ 昇進・昇格	1	2	3	4
⑦ 能力評価（業績評価・人事考課など）	1	2	3	4
⑧ 管理職への登用	1	2	3	4
⑨ 研修の頻度や内容	1	2	3	4
⑩ 定年まで働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4
⑪ 育児・介護休業などの取得に関して	1	2	3	4
⑫ その他（具体的に）	1	2	3	4

問12 これまでに離職もしくは転職をしたことがありますか。(Oは1つ)

1. ある

2. ない

問12で「1. ある」と回答された方におたずねします。

問12-1 離職・転職をしたのは、どのような理由からですか。
(あてはまるもの3つまでにO)

1. 経営方針の相違、将来性への不安

2. 社内の人間関係の不和

3. 給与や昇進への不満

4. 雇用形態への不満

5. 他にやりたいこと・職業がある

6. 結婚

7. 出産

9. 定年や早期・希望退職優遇制度による

10. 体調不良

11. 職種が自分に向いていない

12. 契約期間満了

13. 倒産、廃業、移転

14. 解雇

15. その他（具体的に）

135

問6で、現在あなたが自身が「2. 仕事はしていない」と回答された方におたずねします。

問13 あなたが仕事をしていないのはどうですか。(Oは1つ)

1. やりたい仕事がない
2. 求職中である
3. 家事や子育てをしている
4. 介護・看護をしている
5. 定年退職した
6. 健康上の問題がある
7. 学生である
8. 働く必要がない
9. 働きたくない
10. その他(具体的に)

問14 あなたは、今後、収入を得る仕事にしたいと思いませんか。(Oは1つ)

1. ぜひ、仕事にしたい
2. できれば、仕事にしたい
3. 仕事にしたいと思わない
4. わからない

問14で「1. ぜひ、仕事にしたい」もしくは「2. できれば仕事にしたい」と回答された方におたずねします。

問14-1 あなたは、今後、仕事につく上で何が困ったことや不安がありますか。(Oはいくつでも)

1. 自分のしたい仕事につけるか
2. 自分の資格や能力が通用するか
3. 職場の人間関係がうまくいくか
4. 賃金など、望む労働条件が得られるか
5. 自分の健康状態や体力
6. 家族の理解が得られるか
7. 家事、子育て、介護との両立ができるか
8. 年齢制限
9. 保育所(園)、学童保育を利用できるか
10. その他(具体的に)
11. 特になし

問15 今後、男女がともに仕事と生活の調和を図るためには、どのようなことが必要だと思っていますか。(あてはまるもの3つまでにO)

1. 働く場の確保・再雇用制度の推進・充実
2. 育児・介護休業制度の普及や取得の促進
3. 労働条件の整備(労働時間短縮、フレックスタイムの普及等)
4. ワーク・ライフ・バランスを大切にする意識啓発
5. 結婚退職、出産退職の慣行をなくす
6. 「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識をなくす
7. 家族や配偶者(パートナー)の理解・協力
8. 昇進や賃金、教育訓練など職場における男女平等の徹底
9. 保育所(園)、学童保育など子育て環境や在宅福祉・施設福祉の整備・充実
10. 地域活動・ボランティアへの参加に対する上司や同僚などの理解
11. その他(具体的に)

*ワーク・ライフ・バランス…誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで取り組むことができる状態のこと

問16 雇用において性別、価値観、ライフスタイル、セクシュアル・マイノリティ、障害等の多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする考え方をダイバーシティといいます。あなたはこの考え方を推進することをどう思いますか。(Oは1つ)



1. 積極的に進めたほうがよい
2. 進めたほうがよい
3. どちらともいえない
4. 進めなくてもよい
5. わからない

日常生活や子育てについて

問17 あなたは、次の①～⑤の項目についてどのように思いますか。感じたままでお答えください。(①～⑤の項目ごとにOは1つずつ)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも いえない と思う	どちらか といえば そう思う	そう 思わない
① 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい	1	2	3	4	5
② 妻や子どもを養うのは、男性の責任である	1	2	3	4	5
③ 育児や介護、病人の世話、男性より女性がする方がよい	1	2	3	4	5
④ 子どもが3歳くらいまでは母親のもとで育てる方がよい	1	2	3	4	5
⑤ 男性の方が女性より、管理職としての資質がある	1	2	3	4	5

問18 あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。①～⑥の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。

	睡眠	食事、入浴など	仕事・通勤あるいは学業・通学	家事・育児・介護など	余暇、自由時間	その他(具体的に)	合計
① 睡眠							
② 食事、入浴など							
③ 仕事・通勤あるいは学業・通学							
④ 家事・育児・介護など							
⑤ 余暇、自由時間							
⑥ その他(具体的に)							
							24時間 00分

問19 20 における言葉の意味は次のとおりです。
「家庭生活」………家族と過ごすこと、家事（食事のしたく、かたづけ、そうじ、洗濯、買物など）、育児、介護、看護など
「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動、社会参加活動）、交際・つきあひなど、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど

問19 あなたは、希望としては、どのような暮らし方をしたいと思いますか。あなたの希望に最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい

問20 それでは、あなたの実際の生活に最も近いものはどれでしょうか。最も近いものを下から選んで○をつけてください。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

問21 あなたは、育児休業・介護休業を取得されましたか。また、今後取得する予定がありますか。(①、②の項目ごとに○は1つずつ)

	取得した・ 取得する予定	制度はあるが 取得したこと はない	制度について 知らない	その他	該当しない (子ども、介護必要 経緯など)	
① 育児休業	1	2	3	4	5	6
② 介護休業	1	2	3	4	5	6

問22 あなたは、女性の生き方について、(1)どのような生き方が望ましいと思われますか。(男性もお答えください)
また、(2)あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください) (1) (2) それぞれに○は1つずつ

女性の生き方について		
(1) 望ましいと思う生き方	(2) 実際の生き方	
1	1	① 結婚しないで、働き続ける
2	2	② 結婚し、子どもを持つ、持たないにかかわらず働き続ける
3	3	③ 結婚し、出産したら育児休業した後、職場に復帰する
4	4	④ 結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に余裕ができたなら再度就職する
5	5	⑤ 結婚し、出産を機に退職し、家事・育児に専念する
6	6	⑥ 結婚し、出産をし、家事・育児に余裕ができてから初めて就職する
7	7	⑦ 就職せず、結婚・出産し、家事・育児に専念する
8	8	⑧ その他(具体的に)
	9	⑨ 該当しない(配偶者はいない)

問23 あなたは、自分の子どもには将来「どのような生き方」をしてほしいと思いますか。女の子、男の子それぞれの場合について、()内にあなたの考えに近い項目の番号を記入してください。子どもがいない方も、仮にいた場合を想定してお答えください。

(1) 女の子の場合 () ()	(2) 男の子の場合 () ()
--------------------	--------------------

1. 社会的な地位を得る
2. 経済的に自立した生活をする
3. 人間性豊かな生活をする
4. 家族や周りの人たちと円満に暮らす
5. 社会に貢献する
6. 本人の個性や才能を生かした生活をする
7. 本人の意思に任せる
8. その他(具体的に)

問24 あなたは、結婚していないカップルが、子どもを持つことに対して、どのように感じますか。(○は1つ)

1. 抵抗感がまったくない
2. 抵抗感があまりない
3. 抵抗感が少しある
4. 抵抗感が大きい
5. わからない

問25 男女平等を進めるために、小学校・中学校でどのような取り組みが必要だと思いますか。(Oはいくつでも)

1. 男女平等の意識を育てる授業をする
2. 進路指導は性別によつてかたよることなく行い、個人の能力、個性、希望を大事にする
3. 小学校の低学年から、「性」は人間の尊厳に関わるものであることを教える
4. 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する
5. 校長や教頭に女性を増やす
6. 家庭科教育などにおいて、男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
7. メディア（インターネット、テレビ、新聞など）の情報を正しく読み解き、役立てる能力を養う教育を進める
8. 保護者会などを通じて保護者に対して男女共同参画の啓発をする
9. その他（具体的に）
10. 特になし

男女の地位に関する意識について

問26 あなたは、社会における次の分野において、男女が平等になっていると思いますか。(①～⑨の項目ごとにOは1つずつ)

	男性が優遇 されている	どちらか といえば 男性が優遇 されている	平等 である	どちらか といえば 女性が優遇 されている	女性が優遇 されている
① 学校教育の場では	1	2	3	4	5
② 雇用の機会や働く分野では	1	2	3	4	5
③ 職場（賃金や待遇など）では	1	2	3	4	5
④ 家庭生活の場では	1	2	3	4	5
⑤ 地域活動、社会活動への参加では	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習やしきたり（冠婚葬祭など）では	1	2	3	4	5
⑦ 法律や制度では	1	2	3	4	5
⑧ 政治・経済活動への参加では	1	2	3	4	5
⑨ 社会全体からみて	1	2	3	4	5

問27 「男は仕事、女は家庭」という男女で役割を固定した考え方について、あなたはどう思いますか。(Oは1つ)

1. 同感である
2. どちらかといえば同感である
3. どちらかといえば同感しない
4. 同感しない

問27で「1. 同感である」もしくは「2. どちらかといえば同感である」と回答された方におたずねします。

問27-1 その理由は次のうちどれに近いですか。(Oは1つ)

1. 子どもの頃からそのように教育を受けてきたから
2. 社会の風潮・慣習としてそうになっていると感ずるから
3. 男女で違う役割を感ずるから
4. その他（具体的に）

問27で「3. どちらかといえば同感しない」もしくは「4. 同感しない」と回答された方におたずねします。

問27-2 その理由は次のうちどれに近いですか。(Oは1つ)

1. 子どもの頃からそのように教育を受けてきたから
2. 社会の風潮・慣習としてそうになっていると感ずるから
3. 男女で役割を決めるのはきゅうくつだから
4. その他（具体的に）

地域活動や健康、老後の暮らしについて

問28 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか。(Oは1つ)

1. 必要がある
2. どちらかといえば必要がある
3. どちらかといえば必要ない
4. 必要ない
5. わからない

問28で「1. 必要がある」もしくは「2. どちらかといえば必要がある」と回答された方におたずねします。

問28-1 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なのは何か。(あてはまるものを3つまでにO)

1. 避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯場等）
2. 避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること
3. 災害時の救援医療体制（乳幼児、高齢者、障害者、妊産婦へのサポート体制）
4. 公的施設の備品（ニーズ把握、災害時に支給する際の配慮）
5. 被災者に対する相談体制
6. 防災会議に男女がともに参画し、防災計画に男女両方の視点が入ること
7. 災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること
8. 災害復旧・復興対策計画に男女がともに参画し、計画に男女両方の視点が入ること
9. その他（具体的に）

問29 あなたは、生活の中でどのようなことでストレス（不安や悩み）を感じていますか。
 (①～⑦の項目ごとに○は1つずつ)

	ストレスを 強く感じる	ストレスを 感じる	ストレスを ほとんど 感じない	当て はまらない
① 老後の生活（経済や健康）	1	2	3	4
② 配偶者やパートナー、恋人のことで	1	2	3	4
③ 子どものことで	1	2	3	4
④ 経済的なことで	1	2	3	4
⑤ 家事の負担	1	2	3	4
⑥ 親の介護や病氣	1	2	3	4
⑦ その他（具体的に）	1	2	3	4

問30 次の地域活動について、あなたの参加状況に近しいものに○をつけてください。
 (①～⑤の項目ごとに○は1つずつ)

	参加した、している		参加したことがない	
	今後は参加 したい	今後は参加 したくない	今後は参加 したい	今後は参加 したくない
① 自治会・町内会の活動	1	2	3	4
② P・T・Aや子どもの活動	1	2	3	4
③ 地域における趣味・ スポーツ・学習の活動	1	2	3	4
④ NPO（非営利団体）や ボランティアの活動	1	2	3	4
⑤ 民生委員・市政協 力委員 など公的な立場での活動	1	2	3	4

問30の①～⑤で「2.（参加した、している）今後は参加したくない」もしくは「4.（参加したことがない）今後は参加したくない」に1つ以上回答された方におたずねします。

問30-1 それはどうしてですか。（○はいくつでも）

1. 仕事が多忙だから
2. 家事・育児・介護で忙しいから
3. 健康状態が悪くおもしろくないから
4. 活動に魅力がないから
5. 人間関係がわずらわしいから
6. 活動の情報が得られないから
7. 参加するきっかけがないから
8. あまり関心がないから

問31 あなた自身に介護が必要となった場合、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。
 (○は1つ)

1. 夫
2. 妻
3. 息子
4. 娘
5. 兄弟
6. 姉妹
7. 息子の妻
8. 娘の夫
9. 知人・友人
10. ヘルパーなどの介護従事者
11. 施設での介護
12. その他（具体的に）

問32 あなたは、老後の生活について、特に不安に思っていることがありますか。
 (○はいくつでも)

1. 生きがいを見つけれられるか
2. 健康で過ごせるか
3. 一人になったときの孤独
4. 一人になったときの身の回りのこと
5. 経済的にやっつけていけるか
6. 病氣や寝たきりになったとき、世話を頼める人がいるか
7. 人生の最後をどこでどのように過ごすか
8. その他（具体的に）
9. 特にない

問33 老後をいきいきと暮らすためにやってみたいことがありますか。（○はいくつでも）

1. 働くこと
2. 学習や教養を高めるための活動
3. スポーツ
4. 趣味の活動
5. ボランティア活動
6. 老人クラブ活動
7. 自治会・町内会の活動
8. 旅行
9. 家族との団らん
10. 夫婦の団らん
11. その他（具体的に）
12. 特にない

「男性」におたずねします。

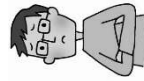
問34 あなたは「男もつらい」と感じることはありますか。（○は1つ）

1. ある
2. ない

問34で「1. ある」と回答された方におたずねします。

問34-1 それはどんなことですか。（○は1つ）

1. なにかにつけ「男だから」「男のくせに」と言われる
2. 妻子を養うのは男の責任だと言われる
3. 男なのに酒が飲めないのかとからかわれる
4. 力が弱い、運動が苦手だとバカにされる
5. 仕事の責任が大きい、仕事ができで当たり前と言われる
6. 自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある
7. 衣食住のことが十分にできなくて、生活が不便である
8. 家族とのコミュニケーションがうまくいかない
9. その他（具体的に）



「女性」におたずねします。

問35 貴大版市では、女性の心とからだの健康を保つために以下の取り組みを行っています。

あなたがご存じのものはどれですか。(①～⑦の項目ごとに①は1つずつ)

また、利用したことがあるものは「4. 利用したことがある」にも○をつけてください。

	よく 知っている	聞いたこと がある	知らない	利用した ことがある
① 食生活や健康づくりに関する情報提供	1	2	3	4
② 安心して出産にのぞむための検診・相談	1	2	3	4
③ 女性特有の健康上の悩みなどに配慮した 女性専用相談窓口	1	2	3	4
④ 女性のための悩みや不安（DV*を含む） に対する相談	1	2	3	4
⑤ リフレッシュできるような場の提供	1	2	3	4
⑥ 生涯を通じて心身ともに健康で過ごす ための講座などの開催	1	2	3	4
⑦ その他（具体的に）	1	2	3	4

*DV… 配偶者や恋人など親しい人からの暴力

人権の尊重について

問36 あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことですか。

(○はいくつでも)

1. 男女の固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）を押しつける
2. 職場における差別待遇
3. セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）
4. 内容に関係なく女性の水着姿や煙草などを使用した広告など
5. 女性のスマートフォン写真などを掲載した新聞、雑誌、ビデオ、DVD、ゲーム等
6. 携帯電話やインターネット上のアダルトサイト
7. 夫やパートナー、恋人からの暴力（デートDV*を含む）
8. 痴漢やレイプなどの性犯罪
9. 性風俗営業、売買春、援助交際
10. その他（具体的に）
11. 特にない

問37 あなたは配偶者やパートナー、家人に、次のようなことをしたり、されたことがありますか。(①～⑩の項目ごとにあてはまるものすべてに○)

	されたことがある	したことがある	1、2度 あった (ある)	1、2度 あった (ある)
① 平手で打つ	1	2	3	4
② こぶしでなぐったり、足で蹴る	1	2	3	4
③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3	4
④ 生活費を渡さない	1	2	3	4
⑤ なぐるふりをして、おどす	1	2	3	4
⑥ 刃物などをつきつけて、おどす	1	2	3	4
⑦ 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
⑧ 見たくないのに、アダルトサイトやポルノ映像・雑誌を見せる	1	2	3	4
⑨ 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3	4
⑩ 交友関係や携帯電話、スマートフォンなどを細かく チェックする	1	2	3	4
⑪ 「誰のおかげで生活できるんだ」「食わせてやっている」と言う	1	2	3	4
⑫ 大声でどなったり、物を壊したりする	1	2	3	4
⑬ 避妊に協力しない	1	2	3	4
⑭ したり、されたりしたことがない			1	

問37で①～⑬に1以上回答された方におたずねします。

問37-1 問37のようなことをしたり、されたとき、その後どうしましたか。(○はいくつでも)

1. 2人（夫と妻、パートナー・恋人同士）で話し合った
2. 親や兄弟姉妹、親類に相談した
3. 友人・知人に相談した
4. 公的機関（市役所、男女共同参画センター、配偶者暴力相談支援センターなど）
に相談した（電話相談を含む）
5. 民間の機関（支援グループなど）に相談した
6. 安全なところに避難した
7. 医療機関（心療内科など）に相談した
8. 警察に連絡、相談した
9. その他（具体的に）
10. どこにも相談しなかった、また、相談できなかった



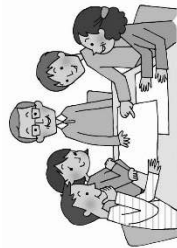
問37-1で「0.どこにも相談できなかった、また、相談できなかった」と回答された方におたずねします。
問37-2 どこにも相談できなかった、また、相談できなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

1. どこに(誰に)相談したらよいかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しをされたり、さらに暴力をふるわれると思った
5. 自分さえ我慢すればやっていけると思った
6. 自分にも悪いところがあると思った
7. 相談するほどの事ではないと思った
8. その他(具体的に)
9. わからない

男女共同参画社会の形成に関する意識について

問38 「男女共同参画社会」とは、男女が、互いの人権を尊重しつつ、職場や家庭、地域活動など、社会のあらゆる場に対等に参画し、共に責任と喜びを分かち合う社会のことです。あなたは、「男女共同参画」を推進するために、どのような活動に参加したいと思いますか。(○はいくつでも)

1. 男女平等をめざした制度や施策の制定や見直しについての意見を述べたり、提案をする
2. 政策決定の場に積極的に参加する
3. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習会を開催したり、参加したりする
4. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などの活動に参加する
5. 子育て支援に関する活動に参加する
6. 高齢者や障害者の介助のための活動に参加する
7. 女性に対する暴力防止のための活動に参加する
8. 男女共同参画センターで開催される学習会や講演会に積極的に参加する
9. 多様な文化や生活習慣に関する理解を深めるための国際交流の場に参加する
10. 特にない・わからない
11. その他(具体的に)



問39 あなたは、次の法律や言葉、東大阪市の取り組みをご存じですか。
(①～⑩の項目ごとに○は1つずつ)

	よく知って いる	聞いたこと がある	知らない
① 第3次東大阪市男女共同参画推進計画 ～東大阪 みらい 翔プラン～	1	2	3
② 東大阪市男女共同参画推進条例	1	2	3
③ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
④ 男女雇用機会均等法	1	2	3
⑤ 東大阪子どもを虐待から守る条例	1	2	3
⑥ 育児・介護休業法	1	2	3
⑦ ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	1	2	3
⑧ ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	1	2	3
⑨ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
⑩ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康/権利)	1	2	3
⑪ ドメスティック・バイオレンス(DV) (配偶者や恋人など親しい人からの暴力)	1	2	3
⑫ 男女共同参画センター・イコラムの「女性のための相談」 電話相談 072-960-9206 面接相談予約 072-960-9205	1	2	3

問40 男女共同参画社会実現のためのご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ご多忙の中、誠に恐縮ですが、この調査票を同封の返信用封筒に入れ、7月7日(月)までに
お近くの郵便ポストに投函してください。(切手は不要です。)

東大阪市男女共同参画に関するアンケート調査 【結果報告書】

発行年月：平成 26 年(2014 年)9月

発 行：東大阪市人権文化部男女共同参画課

〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号

TEL： 06-4309-3300(直通) FAX： 06-4309-3823